

日本女子体育大学 | 2016年度 |

シラバス



Japan Women's College of Physical Education

| 科目名 | 日本国憲法 | | | 担当者 | 中村安菜 | |
|---|--------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Constitutional Law | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 |
| 【目的とねらい】 日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定とも出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 なぜ憲法を学ぶのか？ 【到達目標】 (1) 体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。 【授業時間外学習】 教科書第1話・第2話を熟読する。 | | | 第9回 社会権 【到達目標】 (1) 社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。 (2) 生存権等の社会権の具体的内容を理解する。 【授業時間外学習】 教科書第9話を熟読する。生活保護制度について調べる。 | | | |
| 第2回 憲法とはどのような法か？ 【到達目標】 (1) 憲法は権力濫用の防止を目的とする法であることを理解する。 (2) 憲法は国内の最高法規であることを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第3話を熟読する。 | | | 第10回 天皇と国民 【到達目標】 (1) 憲法上の天皇に関する規定について理解する。 (2) 天皇の存在と国民主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 天皇の職務について調べる。 | | | |
| 第3回 基本的人権総論 【到達目標】 (1) 基本的人権が保障されることの意味を理解する。 (2) 基本的人権は誰に、どの範囲で保障されるのかを理解する。 【授業時間外学習】 人権が保障される範囲について、自らで具体例を発見する。 | | | 第11回 平和主義 【到達目標】 (1) 日本国憲法が規定している平和主義について理解する。 (2) 平和主義の意義と問題点について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第11話を熟読する。 | | | |
| 第4回 法の下での平等 【到達目標】 (1) 法の下での平等とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第4話を熟読する。2014年9月4日最高裁大法廷判決に関する新聞記事をコピーする。 | | | 第12回 国会の役割 【到達目標】 (1) 国会の地位と構成・役割について理解する。 (2) 国会と国民主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第12話を熟読する。国会・各議院の権限について調べる。 | | | |
| 第5回 精神的自由権① 【到達目標】 (1) 思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第5話を熟読する。君が代起立斉唱事件に関する新聞記事をコピーする。 | | | 第13回 内閣の役割 【到達目標】 (1) 内閣の地位と構成・役割について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第13話を熟読する。 | | | |
| 第6回 精神的自由権② 【到達目標】 (1) 学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第5話・第6話を熟読する。表現の自由が抑圧された事例を考える。 | | | 第14回 裁判所の役割 【到達目標】 (1) 裁判所の地位と構成・役割について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第14話を熟読する。 | | | |
| 第7回 経済的自由権 【到達目標】 (1) 職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 財産権とはどのようなものであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第7話を熟読する。 | | | 第15回 憲法の役割と現実 【到達目標】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 この授業を通して自分が関心をもった事柄について簡単にまとめる。 | | | |
| 第8回 人身の自由 【到達目標】 (1) 人身の自由が保障されている意味を理解する。 (2) 人身の自由の内容と刑事手続の流れを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第8話を熟読する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「教職教養憲法15話 改訂版」加藤一彦 著、北樹出版、2012 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。 試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | |

| 科目名 | 国語表現Ⅰ | | | 担当者 | 稲井 達也・影山 陽子 松崎 史周 | |
|--|-------------------------------------|-------------------|---|-------|----------------------|---------|
| 英文名 | Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 |
| 【目的とねらい】 ・ 言語力やコミュニケーション能力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。 ・ 新聞や本の読み方を学ぶ中で、自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に生きて働く基本的なリテラシーを養う。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定) 【 到達目標 】 この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 新聞記事を探す。 | | | 第9回 読書生活③ 【 到達目標 】 教科書として指定された新書を読み、要約したり感想や意見を持てるようになる。 【授業時間外学習】 教科書として指定された新書を最後まで読み通し、意見文等にまとめる。 | | | |
| 第2回 新聞に親しむ① 【 到達目標 】 ・ 新聞の読み方を知り、新聞に親しむ。 ・ 全国紙と地方紙、一般紙と専門紙の違いを知る。 ・ 紙面構成と記事構成を学ぶ。 【授業時間外学習】 興味・関心のある新聞記事を探し、要約する。 | | | 第10回 聞き書き① 【 到達目標 】 ・ 新書の手法に学び、インタビューの質問項目を考える。 ・ インタビューをする。 ・ インタビューの記録をとる。 【授業時間外学習】 インタビューの記録を整理する。 | | | |
| 第3回 新聞に親しむ② 【 到達目標 】 ・ 新聞をもとに、意見を交流する。 ・ 新聞をもとに、自分の意見を組み立てる。 ・ 批判的なものの見方・考え方について理解する。 【授業時間外学習】 新聞記事を参考にして意見文を書く。 | | | 第11回 聞き書き② 【 到達目標 】 ・ インタビューを行い、情報を整理する。 【授業時間外学習】 インタビューの記録を完成させる。 | | | |
| 第4回 手紙① 【 到達目標 】 手紙のマナーや書き方について理解を深める。 【授業時間外学習】 模擬の手紙を書く。 | | | 第12回 聞き書き③ 【 到達目標 】 ・ インタビューの情報を整理し、構成を考えて、文章として組み立てる。 【授業時間外学習】 インタビューの文章をストーリーを考えて完成させる。 | | | |
| 第5回 手紙② 【 到達目標 】 手紙の書き方について一層の理解を深める。 【授業時間外学習】 模擬の手紙を書く。 | | | 第13回 日本語の表現技術① 【 到達目標 】 ・ 聞き書きの文章を活用し、表現技術について理解する。 ・ 相互に聞き書きの文章を推敲する。 ・ 推敲を参考にして、加筆修正する。 【授業時間外学習】 聞き書きの文章を加筆修正し、完成させる。 | | | |
| 第6回 メール 【 到達目標 】 PCのeメールとケータイメールの使い分けについて理解するとともに、eメールのマナーと書き方の知識を深める。 【授業時間外学習】 模擬のeメールを書く。 | | | 第14回 日本語の表現技術② 【 到達目標 】 ・ 聞き書きの文章の完成版を相互に読み合う。 ・ 聞き書きの文章の完成版を相互評価する。 【授業時間外学習】 聞き書きの文章を自己評価する。 | | | |
| 第7回 読書生活① 【 到達目標 】 ・ 読書を生活の中に取り入れることができるようになる。 ・ 本の選び方と読み方を知る。 ・ 読書ノートのつけ方を学ぶ。 【授業時間外学習】 教科書として指定された新書を読む。 | | | 第15回 目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。 | | | |
| 第8回 読書生活② 【 到達目標 】 ・ 書誌情報を知る。 ・ 新書の読み方を知る。 【授業時間外学習】 教科書として指定された新書を読む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ・ 毎授業の始めに、日本語検定試験の問題を使って解説の時間を設けるとともに、適宜、確認テストを行う。 ・ 本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・ 新聞や読書等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組みが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・ 不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書 : 『なぜあの時あきらめなかったのか』小松成美(PHP新書) 参考書1 : 『日本語検定公式練習問題集改訂版 3級』日本語検定委員会(東京書籍) 参考書2 : 『聞く力』阿川佐和子(文春新書) | | | | | | |
| 【関連科目】 国語表現Ⅱ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の提出物40%・レポート課題30%・発表20%・日本語検定確認テスト10% | | | | | | |

| 科目名 | 英語 I (基礎) | | | 担当者 | 加賀 岳彦・大和久吏恵 山田 七恵 | |
|--|------------------------|---------|--|-------|----------------------|---------|
| 英文名 | English I (Elementary) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 |
| 【目的とねらい】 この講座では、英語の基礎を確認・再学習する。要点は、1) 基本語彙を覚える、2) 文法・発音の基礎を習得する、3) 短く平易な英文・対話文が理解できるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて、英語の学習法や英語になじむための活動も取り入れる。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。 | | | 第9回 英語基礎総合演習⑨ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第2回 英語学習上のポイント等の説明・英語基礎総合演習① 【 到達目標 】 プレイズメントテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。 | | | 第10回 英語基礎総合演習⑩ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第3回 英語基礎総合演習② 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | 第11回 英語基礎総合演習⑪ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第4回 英語基礎総合演習③ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。 | | | 第12回 英語基礎総合演習⑫ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第5回 英語基礎総合演習④ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。 | | | 第13回 英語基礎総合演習⑬ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第6回 英語基礎総合演習⑤ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。 | | | 第14回 英語基礎総合演習⑭ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第7回 英語基礎総合演習⑥ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。 | | | 第15回 英語基礎総合演習⑮ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第8回 英語基礎総合演習⑦ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 英語 I (初級) | | | | 担当者 | 大和久吏恵・町田 晶子 | |
|--|--------------------------------|-------------------|----------|---|-----------|-------------|--|
| 英文名 | English I (Lower-Intermediate) | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | |
| 【目的とねらい】 この講座では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を行えるよう学習指導にも言及する。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【到達目標】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどういった技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。 | | | | 第9回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑧ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第2回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得① 【到達目標】 授業時間外学習の方法を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第10回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑨ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第3回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得② 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第11回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑩ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第4回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得③ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第12回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑪ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第5回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得④ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第13回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑫ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第6回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑤ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第14回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑬ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第7回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑥ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第15回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑭ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | |
| 第8回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑦ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 英語 I (中級) | | | 担当者 | 大和久吏恵・山田 七恵 | |
|--|--------------------------|-------------------|---|-------|-------------|---------|
| 英文名 | English I (Intermediate) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 |
| 【目的とねらい】 この講座では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、実践・応用・学術研究に発展していきけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどうような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。 | | | 第9回 リスニングを含む英語表現演習⑧ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第2回 Introduction リスニングを含む英語表現演習① 【 到達目標 】 受講にあたっての留意点・学習の進め方を理解する。 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | 第10回 リスニングを含む英語表現演習⑨ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第3回 リスニングを含む英語表現演習② 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | 第11回 リスニングを含む英語表現演習⑩ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第4回 リスニングを含む英語表現演習③ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | 第12回 リスニングを含む英語表現演習⑪ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第5回 リスニングを含む英語表現演習④ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | 第13回 リスニングを含む英語表現演習⑫ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第6回 リスニングを含む英語表現演習⑤ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | 第14回 リスニングを含む英語表現演習⑬ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第7回 リスニングを含む英語表現演習⑥ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | 第15回 リスニングを含む英語表現演習⑭ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。 | | | |
| 第8回 リスニングを含む英語表現演習⑦ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること(電子辞書可)。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、試験の結果を60%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 英語Ⅱ（基礎） | | | 担当者 | 加賀 岳彦・大和久吏恵 山田 七恵 | |
|---|------------------------|-------------------|---|-------|----------------------|---------|
| 英文名 | English Ⅱ (Elementary) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 |
| 【目的とねらい】 この講座では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習していく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業説明および英語総合演習① 【到達目標】 授業の目標・内容・計画を確認する。 受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。 | | | 第9回 英語総合演習⑨ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第2回 英語総合演習② 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | 第10回 英語総合演習⑩ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第3回 英語総合演習③ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | 第11回 英語総合演習⑪ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第4回 英語総合演習④ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | 第12回 英語総合演習⑫ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第5回 英語総合演習⑤ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | 第13回 英語総合演習⑬ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第6回 英語総合演習⑥ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | 第14回 英語総合演習⑭ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | |
| 第7回 英語総合演習⑦ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | 第15回 英語総合演習⑮ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項の復習を行う。 | | | |
| 第8回 英語総合演習⑧ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力と表現力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 英語Ⅰ（基礎） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|---------------------------------|-------------------|--|-------|-------------|---------|
| 科目名 | 英語Ⅱ（初級） | | | 担当者 | 大和久吏恵・町田 晶子 | |
| 英文名 | English II (Lower-Intermediate) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 |
| 【目的とねらい】 この講座では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を継続できるよう、引き続き学習指導にも言及する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 イントロダクション・英語運用能力の習得、読解力の向上① 【到達目標】 受講における留意点・授業の進み方を確認する。 授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | 第9回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑨ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第2回 英語運用能力の習得、読解力の向上② 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | 第10回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑩ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第3回 英語運用能力の習得、読解力の向上③ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | 第11回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑪ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第4回 英語運用能力の習得、読解力の向上④ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | 第12回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑫ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第5回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑤ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | 第13回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑬ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第6回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑥ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | 第14回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑭ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第7回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑦ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | 第15回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑮ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。 | | | |
| 第8回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑧ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 英語Ⅰ（初級） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 英語Ⅱ（中級） | | | | 担当者 | 大和久吏恵・山田 七恵 | |
|---|------------------------|-------------------|----------|---|-----------|-------------|--|
| 英文名 | EnglishⅡ（Intermediate） | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | |
| 【目的とねらい】 この講座では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、実践・応用・学術研究に発展していきけるようになるための英語力の養成を図る。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 Introduction 英語精読演習① 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | | 第9回 英語精読演習⑨ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第2回 英語精読演習② 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | | 第10回 英語精読演習⑩ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第3回 英語精読演習③ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | | 第11回 英語精読演習⑪ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第4回 英語精読演習④ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | | 第12回 英語精読演習⑫ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第5回 英語精読演習⑤ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | | 第13回 英語精読演習⑬ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第6回 英語精読演習⑥ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | | 第14回 英語精読演習⑭ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第7回 英語精読演習⑦ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | | 第15回 英語精読演習⑮ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。 | | | |
| 第8回 英語精読演習⑧ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 英語Ⅰ（中級） | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 教養演習 | | | | 担当者 | | |
|---|-----------------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|--|
| 英文名 | Preparations for Academic Studies | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | |
| 【目的とねらい】 この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の4点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学習・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため、授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップの内容も実施する。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 アイスブレイク 【 到達目標 】 クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを考える。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。 | | | 第9回 データをまとめる技術 【 到達目標 】 集めたデータを、考察・分析・判断の有効な資料に整理・統合していくための「まとめる」技術を習得する。 【授業時間外学習】 授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。 | | | | |
| 第2回 私の学生生活 【 到達目標 】 これまでの学生生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。 【授業時間外学習】 授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るのかについて各自の自覚を深める。 | | | 第10回 レポート・論文作成の技術 【 到達目標 】 レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法等を理解し、作成の手順等を、内容と形式両面から習得する。 【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。 | | | | |
| 第3回 日本女子体育大学を知る① 【 到達目標 】 日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解する。 【授業時間外学習】 創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。 | | | 第11回 プレゼンテーションの技術 【 到達目標 】 プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。 【授業時間外学習】 学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。 | | | | |
| 第4回 日本女子体育大学を知る② 【 到達目標 】 日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。 【授業時間外学習】 本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。 | | | 第12回 専門への架け橋 【 到達目標 】 「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちへのアンケート結果等を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考えてみる。 【授業時間外学習】 学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。 | | | | |
| 第5回 話し合いの技術① 【 到達目標 】 集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。 | | | 第13回 レポート・プレゼンテーション① 【 到達目標 】 担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンの準備を行う。 | | | | |
| 第6回 話し合いの技術② 【 到達目標 】 議論(ディスカッション)を有効で建設的なものにするための準備・思考法等を学び、小グループで実践する。 【授業時間外学習】 授業で行った話し合いの技術を、今後のクラス・部活動・諸活動の場で実践してみる。 | | | 第14回 レポート・プレゼンテーション② 【 到達目標 】 前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンの準備を行う。 | | | | |
| 第7回 ノートテイクの技術 【 到達目標 】 大学の授業の特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認し、担当教員の指示に従って実践してみる。 【授業時間外学習】 ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。 | | | 第15回 レポート・プレゼンテーション③ 【 到達目標 】 担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。 【授業時間外学習】 受講生各自がレポート・プレゼンの反省点・改善点を確認する。 | | | | |
| 第8回 データを読む技術 【 到達目標 】 データ解釈の際の技術・留意点を理解し、その初歩的な実践練習を行う。 【授業時間外学習】 データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べたことを報告する、といった「活動」が中心となる。積極的に授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 配布した『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。(良好な出席状況は、当然の前提である。) | | | | | | | |

| 科目名 | 情報処理（情報機器の操作を含む） | | | 担当者 | 鈴木 信夫・五月女仁子 牧 琢弥 | |
|---|----------------------|-------------------|--|-------|---------------------|---------|
| 英文名 | Information Literacy | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 |
| 【目的とねらい】 ICT（Information & Communication Technology）の基礎を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメールの活用法を学ぶ。さらに、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 インターネットについての理解と利用1 【 到達目標 】 (1)LANについての基礎知識を理解する。 (2)メール設定・パスワード変更・ネット検索について習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | 第9回 インターネットについての理解と利用2 【 到達目標 】 (1)ネット上のマナーと著作権およびコンピュータウイルスの知識を得る。 (2)メールによるファイル添付、ネット上の図等の利用について習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第2回 文書作成法の理解 【 到達目標 】 (1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。 (2)テキストデータ作成と編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | 第10回 周辺機器とメディアについての理解と利用 【 到達目標 】 (1)PC周辺機器についての知識を得る。 (2)プリンタ等の実用的な利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第3回 文書作成の方法 【 到達目標 】 (1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。 (2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | 第11回 プレゼンテーション法の理解 【 到達目標 】 (1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。 (2)PowerPointによるスライド作成を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第4回 ビジュアル表現法の理解 【 到達目標 】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | 第12回 プレゼンテーションの方法1 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第5回 ビジュアル表現の方法1 【 到達目標 】 (1)文書上の罫線・表の作成・編集について習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | 第13回 プレゼンテーションの方法2 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第6回 ビジュアル表現の方法2 【 到達目標 】 (1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。 (2)文書の印刷方法について理解し、習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | 第14回 OSとアプリケーションとファイルについての理解 【 到達目標 】 (1)OSとアプリケーションについての知識を得る。 (2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第7回 数値分析・データ加工法の理解 【 到達目標 】 (1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。 (2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | 第15回 ファイルについての知識および管理の方法 【 到達目標 】 (1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。 (2)様々な保存形式について理解する。 (3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第8回 数値分析・データ加工の方法 【 到達目標 】 (1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。 (2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の提出課題を100%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 女性と仕事 | | | | 担当者 | 齊藤 隆志・影山 陽子 | |
|--|---|---------|----------|--|-----------|-------------|--|
| 英文名 | Career Development Studies (Women and Work) | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | |
| 【目的とねらい】 本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。働く環境がめまぐるしく変化する社会において、「働くこと」の意味や「仕事」について明確な意識を持って4年間の学生生活に取り組む姿勢を確認する。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーションおよび講演 【 到達目標 】 本講義の目的と狙いを理解し、また本学卒業生による講演を通して、現在の自分についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。 | | | | 第9回 自分を知る(2) 自分を知る② 【 到達目標 】 社会人入門として「社会人基礎力」を学び、社会人に必要な力について考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。社会人基礎力について調べる。 | | | |
| 第2回 社会を知る(1) 社会状況とライフスタイル① 【 到達目標 】 女性の社会進出と現在の社会状況について学び、自分の考えを整理しまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。二階堂トクヨ・人見絹枝について学ぶ。 | | | | 第10回 自分を知る(3) 知識基盤社会とスポーツちから① 【 到達目標 】 知識基盤社会と、その社会で求められる生活技術としてのスポーツちからについて理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。自身のスポーツちからについて考える。 | | | |
| 第3回 社会を知る(2) 社会状況とライフスタイル② 【 到達目標 】 女性を取り巻く就業環境とライフスタイルについて学び考え、自分の意見をまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。身近な女性(家族など)に就業状況について話を聴く。 | | | | 第11回 自分を知る(4) 自分を知る③ 【 到達目標 】 日女生のキャリア形成の現状を知り、自分の可能性について考える。 【授業時間外学習】 自分が目指す職業領域について調べる。 | | | |
| 第4回 自分を知る(1) 自分を知る① 【 到達目標 】 パーソナルヒストリー作成や自己分析を通して、自分自身を客観的に見る方法を知る。 【授業時間外学習】 パーソナルヒストリーについて内省を深める。自己啓発について学ぶ。 | | | | 第12回 自分を知る(5) 知識基盤社会とスポーツちから② 【 到達目標 】 知識基盤社会と、その社会で求められる生活技術としてのスポーツちからについて理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。社会の変化について調べる。 | | | |
| 第5回 社会を知る(3) 講演① 【 到達目標 】 社会人による講演を通して、いろいろな仕事や生き方を学び、自分の意見や考えをまとめる。 【授業時間外学習】 ワーキングマザーの現状について調べる。 | | | | 第13回 自分らしく生きるために 【 到達目標 】 自分のキャリアデザインやアクションプランを作成し、プレゼンの準備を通して、大学生活と将来についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。 | | | |
| 第6回 社会を知る(4) 雇用とキャリア形成① 【 到達目標 】 現代の若者や女性の就業環境と雇用形態の現実を学び、自分の働く姿勢や仕事の価値観についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 キャリアセンターを訪問する。センターの実施講座について知る。 | | | | 第14回 プレゼンテーション(1) 【 到達目標 】 「大学での学びと私のキャリアプラン」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションの練習をする。また多様な考えに触れ他者への理解を深める。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。 | | | |
| 第7回 社会を知る(5) 雇用とキャリア形成② 【 到達目標 】 女性の生き方とワークライフバランスについて学び、女性と仕事のあり方や自分の働き方について考えまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。ワークライフバランスについて考える。 | | | | 第15回 プレゼンテーション(2) 【 到達目標 】 「大学での学びと私のキャリアプラン」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションの練習をする。また多様な考えに触れ他者への理解を深める。 【授業時間外学習】 期末レポートを完成させる。 | | | |
| 第8回 社会を知る(6) 講演② ブラック企業について 【 到達目標 】 現代の社会問題について専門家から話を聴き、ブラック企業の実情を理解し、当事者としての対処法を学ぶ。 【授業時間外学習】 ブラック企業やブラックバイトといった社会現象について調べる。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 各担当者の授業方針を理解し授業を受ける。社会人になるための準備として、講義を受けるときのマナーに留意する。毎時ワークシートを提出するが、誤字脱字に注意し効率的にメモを取り、書く内容を整理し作成する。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 テキスト「女性と仕事」 参考資料(各担当による) | | | | | | | |
| 【関連科目】 社会のしくみとキャリア形成 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各回のワークシート50%、プレゼンテーション20%、プレゼンテーションの要旨レポート30%で評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 栄養学入門 | | | | 担当者 | 古泉 佳代・山田 直子 | |
|---|-------------------|-------------------|----------|---|-----------|-------------|--|
| 英文名 | Primary Nutrition | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | |
| 【目的とねらい】 食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。 本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス・栄養と食生活の意義 【 到達目標 】 (1)自分の食生活を振り返り、栄養と食生活の関わりを理解する。 【授業時間外学習】 一日の食事を振り返る。 | | | | 第9回 栄養素の基礎知識⑤(たんぱく質) 【 到達目標 】 (1)たんぱく質の種類、体内での働き及び代謝を理解する。 (2)「必須アミノ酸」について説明できる。 【授業時間外学習】 主菜を選ぶときにたんぱく質の量を考慮して、食生活を実践する。 | | | |
| 第2回 食を取り巻く問題点①食糧自給率 【 到達目標 】 (1)現代の食の問題に気づき、解決策を考えることができる。 【授業時間外学習】 食に関するニュースを新聞やインターネットを利用して検索する。 | | | | 第10回 年代別栄養素 【 到達目標 】 (1)乳幼児から高齢者までの年齢階級別に必要とされる栄養素について理解する。 【授業時間外学習】 家族の食生活を振り返る。 | | | |
| 第3回 食を取り巻く問題点②肥満と摂食行動 【 到達目標 】 (1)現代の食の問題に気づき、解決策を考えることができる。 【授業時間外学習】 食と健康に関するニュースを新聞やインターネットを利用して検索する。 | | | | 第11回 栄養素の基礎知識⑥(ビタミン) 【 到達目標 】 (1)ビタミンの種類、体内での働き及び代謝を理解する。 【授業時間外学習】 ビタミンB群を考慮して献立を作成し、食生活を実践する。 | | | |
| 第4回 活動と栄養 【 到達目標 】 (1)身体活動とエネルギーの関係について理解する。 (2)「基礎代謝量」について説明できる。 (3)「食事摂取基準」について説明できる。 【授業時間外学習】 様々な年代、性別の「基礎代謝量」を算出する。 | | | | 第12回 機能性成分の働き 【 到達目標 】 (1)食品に含まれる機能性成分の特徴と働きを理解する。 【授業時間外学習】 食品の機能性成分を考えた食生活を実践する。 | | | |
| 第5回 栄養素の基礎知識⑦(糖質・食物繊維 1) 【 到達目標 】 (1)糖質及び食物繊維の種類を理解する。 (2)「糖質エネルギー比」について説明できる。 【授業時間外学習】 糖質の多い献立を考え、食生活を実践する。 | | | | 第13回 栄養素の基礎知識⑦(ミネラル) 【 到達目標 】 (1)ミネラルの種類、体内での働き及び代謝を理解する。 【授業時間外学習】 ミネラルを考慮して献立を作成し、食生活を実践する。 | | | |
| 第6回 栄養素の基礎知識⑧(糖質・食物繊維 2) 【 到達目標 】 (1)糖質及び食物繊維の体内での働き及び代謝を理解する。 (2)自分自身に適した主食の食べ方を考える。 【授業時間外学習】 糖質の多い献立を考え、食生活を実践する。 | | | | 第14回 症状別栄養(高血圧・骨粗鬆症) 【 到達目標 】 (1)食生活が健康に及ぼす影響について理解する。 (2)特定保健用食品について理解する。 【授業時間外学習】 健康を意識した食生活を実践する。 | | | |
| 第7回 栄養素の基礎知識⑨(脂質 1) 【 到達目標 】 (1)脂質の種類、体内での働きを理解する。 (2)「必須脂肪酸」について説明できる。 【授業時間外学習】 脂質の質を考慮して献立を作成し、食生活を実践する。 | | | | 第15回 食育の重要性 【 到達目標 】 (1)食育の目的と重要性について理解する。 【授業時間外学習】 大学生に対する食育の実践方法を具体的に考える。 | | | |
| 第8回 栄養素の基礎知識⑩(脂質 2) 【 到達目標 】 (1)脂質の代謝を理解する。 (2)「脂質エネルギー比」について説明できる。 【授業時間外学習】 エネルギー産生栄養バランスを意識した献立を作成し、食生活を実践する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業時にプリントを配布するので、自分で書き入れながら丁寧に読み、教科書とあわせて理解を深めるようにする。 やむを得ず欠席をしたものは、次回の授業までに配付資料を取りにくること。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問すること。栄養に関する本、雑誌、気になる話題があれば日頃からチェックする習慣を身につけること。授業中の飲食・携帯・私語は厳禁とする。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「栄養の基本がわかる図解事典」中村丁次監修（成美堂出版） 参考書として授業内で指定した食品成分表を使用する場合がある。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ栄養学、スポーツコンディショニング演習B（スポーツ選手の栄養学）、生理・生化学入門 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として期末テストの結果（100％）で評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。 出席を重視するため、良好な出席状況は当然である。 | | | | | | | |

| 科目名 | 生理・生化学入門 | | | | 担当者 | 佐藤 耕平 | |
|--|---|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Introduction to Human Physiology and Biochemistry | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | |
| 【目的とねらい】 健康科学およびスポーツ科学を学ぶために最低限必要と思われる生体生化学的な基礎知識を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生体的な適応およびそのメカニズムを理解する。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション・概論 【 到達目標 】 授業の進め方の説明・生体生化学の学問領域を理解する。 日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答について考え、その機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答を記述しておく。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | | 第9回 呼吸機能 (1) 【 到達目標 】 呼吸器系の構造・機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「呼吸機能 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | |
| 第2回 骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム 【 到達目標 】 骨格筋の種類・微細構造の説明・筋収縮のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | | 第10回 呼吸機能 (2) 【 到達目標 】 ガス交換システムと酸素輸送を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「呼吸機能 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | |
| 第9回 神経系による運動の制御 【 到達目標 】 中枢神経系・末梢神経系の理解・運動制御のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「神経系による運動の制御」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | | 第11回 内分泌系 【 到達目標 】 内分泌系による調節作用・各種ストレスに対する体液反応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「内分泌系」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | |
| 第4回 エネルギー代謝 (1) 【 到達目標 】 ATP産生システム・TCAサイクルを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「エネルギー代謝 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | | 第12回 体温調節 【 到達目標 】 暑熱・寒冷ストレスに対する体温調節機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「体温調節」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | |
| 第5回 エネルギー代謝 (2) 【 到達目標 】 糖・脂質・蛋白質によるエネルギー産生のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「エネルギー代謝 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | | 第13回 環境生理 【 到達目標 】 低酸素・低圧・無重力環境に対する身体の適応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「環境生理」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | |
| 第6回 栄養素と消化・吸収 【 到達目標 】 栄養素の吸収過程と物質の輸送・変換を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「栄養素と消化・吸収」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | | 第14回 一過性の運動に対する生理応答 【 到達目標 】 一過性の運動に対する身体の適応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「一過性の運動に対する生理応答」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | |
| 第7回 循環機能 (1) 【 到達目標 】 心臓・血管系の構造と機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「循環機能 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | | 第15回 慢性的な運動トレーニングに対する身体の適応 【 到達目標 】 慢性的な運動の実施に対する生体的な適応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「慢性的な運動トレーニングに対する身体の適応」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | |
| 第8回 循環機能 (2) 【 到達目標 】 自律神経系による循環機能の調節・ストレスに対する応答を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「循環機能 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業資料は適宜配布する。授業はPC (パワーポイント) によるスライドをもとに進める。また、各単元の終了時には小テストを行い、知識の習得状況・理解度を把握する。レポート課題を課す。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に購入の必要はないが、図書館などで「生理学」「生化学」「解剖学」などのテキストを借り参考にとすること。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ生理学、運動処方論 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業内小テストおよびレポートを20%、テストの結果 (試験は試験期間中に別途実施) を80%として総合的に評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 国語表現Ⅱ | | | | 担当者 | 稲井 達也・影山 陽子 松崎 史周 | |
|---|-------------------------------------|---------|----------|---|-----------|----------------------|--|
| 英文名 | Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | 教養・必修 | |
| 【目的とねらい】 国語表現Ⅰで培った言語力やコミュニケーション能力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。 新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。さらには、新書を読む読書力を養い、質的研究法で用いられるインタビューや就職活動で必要とされる自己PR文など、自身が体験したことの言語化に取り組む。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定) 【 到達目標 】 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 興味や関心のある新聞記事を探す。 | | | | 第9回 本から学ぶ② 【 到達目標 】 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをまとめる。 | | | |
| 第2回 新聞を活用した意見の構築① 【 到達目標 】 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。 【授業時間外学習】 記事を要約する。 | | | | 第10回 本から学ぶ③ 【 到達目標 】 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをまとめる。 | | | |
| 第3回 新聞を活用した意見の構築② 【 到達目標 】 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。 【授業時間外学習】 討議の内容を整理し、要約する。 | | | | 第11回 本から学ぶ④ 【 到達目標 】 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをまとめる。 | | | |
| 第4回 新聞を活用した意見の構築③ 【 到達目標 】 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。 【授業時間外学習】 記事をもとにして、意見文を書く。 | | | | 第12回 自己PR文を書く① 【 到達目標 】 自己PR文の書き方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、自己PR文に適切にまとめる。 【授業時間外学習】 自己PR文を完成させる。 | | | |
| 第5回 意見文の基礎① 【 到達目標 】 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。 【授業時間外学習】 意見文を書く。 | | | | 第13回 自己PR文を書く② 【 到達目標 】 自己PR文の書き方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、自己PR文に適切にまとめる。 【授業時間外学習】 自己PR文を完成させる。 | | | |
| 第6回 意見文の基礎② 【 到達目標 】 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。 【授業時間外学習】 意見文を書く。 | | | | 第14回 自己PR文を書く③ 【 到達目標 】 自己PR文の書き方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、自己PR文に適切にまとめる。 【授業時間外学習】 自己PR文を完成させる。 | | | |
| 第7回 意見文の基礎③ 【 到達目標 】 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをする。 | | | | 第15回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活について考える。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。 | | | |
| 第8回 本から学ぶ① 【 到達目標 】 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。 【授業時間外学習】 新書を読み、要約などをする。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ・本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・新聞や読書等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書：『チーム・ブライアン』ブライアン・オーサー著、樋口豊監修、野口美恵翻訳（講談社） | | | | | | | |
| 【関連科目】 国語表現Ⅰ | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の提出物40％・発表20％・課題40％(2種類) | | | | | | | |

| 科目名 | ドイツの言語と文化 I | | | | 担当者 | 藤 由 順 子 | |
|---|-------------------------------|-------------------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | German Language and Culture I | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象に、発音および日常会話の基本表現の習得と、生活文化の背景について学習することをめざす。ドイツ語圏、ひいてはヨーロッパ圏に興味・関心をもって自らその情報を調べることにつながるようになる。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 授業概要の説明 【 到達目標 】 ドイツ語の文字と音声（発音とリズム）を習得する。 【授業時間外学習】 アルファベットの発音を復習する。 | | | | 第9回 日常生活の表現 1 【 到達目標 】 名詞について学習し、名詞に性があることを知る。単数形か複数形かを意識する癖をつける。 【授業時間外学習】 日常使う物の名前を覚える。 | | | |
| 第2回 アルファベットの歴史と発音 【 到達目標 】 ドイツ語の文化的背景を理解する。アルファベットと単語の読み方との関係性に気づき、その法則性を意識する。 【授業時間外学習】 単語の発音を復習する。 | | | | 第10回 日常生活の表現 2 【 到達目標 】 冠詞について学習し、冠詞が果たす役割を理解する。格という文法用語を知り、これに慣れる。 【授業時間外学習】 定冠詞を暗記する。 | | | |
| 第3回 ドイツ語とドイツ文化 【 到達目標 】 英語とは決定的に異なるドイツ語の文構造を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った文を暗記する。 | | | | 第11回 日常生活の表現 3 【 到達目標 】 家族や友人関係の表現を学習する。不定冠詞類を学ぶことで、私の、彼の、君たちの等を使った名詞の表現ができるようになる。 【授業時間外学習】 家族について紹介してみよう。 | | | |
| 第4回 あいさつ表現 【 到達目標 】 日常生活に欠かせないあいさつ表現が使えるようになる。 【授業時間外学習】 あいさつ表現を暗記する。 | | | | 第12回 日常生活の表現 4 【 到達目標 】 数字を覚えて、20までの規則性を捉える。24時間制で時刻の表現ができるようになる。 【授業時間外学習】 数字を暗記する。 | | | |
| 第5回 自己紹介 1 【 到達目標 】 主語として使う代名詞（私は、彼は、私たちは…等）を使って簡単な自己紹介ができる。 【授業時間外学習】 自分の名前と出身地を表現する。 | | | | 第13回 日常生活の表現 5 【 到達目標 】 買物をするための表現を学習する。ユーロという通貨を使って、買い物のやり取りができるようになる。 【授業時間外学習】 買物の値段を表現をする。 | | | |
| 第6回 自己紹介 2 【 到達目標 】 大学で何を専攻しているのかを表現したり、相手に専攻を尋ねたりできるようになる。 【授業時間外学習】 少しずつでも自己紹介をする内容を増やす。 | | | | 第14回 日常生活の表現 6 【 到達目標 】 月名、曜日、自然現象の表現を学習する。今、何時なのかを尋ねたり、答えたりできるようになる。 【授業時間外学習】 日付と天気をドイツ語で日記に表現する。 | | | |
| 第7回 人物の紹介 1 【 到達目標 】 動詞について学習して、主語に合わせて動詞が変化することに慣れる。 【授業時間外学習】 家族や友人を紹介する。 | | | | 第15回 理解度の確認 【 到達目標 】 自分のこと、身の回りのことなどを、実際に文章や口頭で表現できる。「気温が暑い」、「気分が悪い」等、天候や心理現象などを表現できる。 【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。 | | | |
| 第8回 人物の紹介 2 【 到達目標 】 様々な言語やスポーツの表現を学習して、使える言語を示し、得意なスポーツを説明できる。 【授業時間外学習】 自分の好きなスポーツを表現する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 特に発音練習と復習を継続し、言語的、文化的特性を理解すること。付録の音声CDを聞く機会を自分で設けて、ドイツ語の音やリズムに慣れることは語学習への近道です。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『一歩ずつ楽しいドイツ語』小川さくえ・片岡律子著 同公社 | | | | | | | |
| 【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅱ | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各回の授業中での発表や課題提出を30%、理解度確認のためのテスト結果を70%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。 | | | | | | | |

| 科目名 | ドイツの言語と文化Ⅱ | | | | 担当者 | 藤 由 順 子 | |
|--|-------------------------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | German Language and Culture Ⅱ | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 「ドイツの言語と文化Ⅰ」と同様、発音および日常会話の基本表現の習得と文化的背景の学習をめざす。基礎力をさらに養い、基本表現のいっそうの習得と定着を図り、異文化理解の能力を高める。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 授業概要の説明、テキスト等の紹介 【 到達目標 】 音声的基礎を踏まえた発音を改めて習得し、自学自習に役立てる。 【授業時間外学習】 文字と単語の発音練習をする。 | | | | 第9回 日常生活の表現:気持ちを伝える 【 到達目標 】 話法の助動詞について学習する。 ～したい、～しなければならない等の、感情により即した表現ができる。 【授業時間外学習】 自分のできることや願望を具体的に表現する。 | | | |
| 第2回 基礎知識の確認:発音、あいさつ 【 到達目標 】 基礎的文法を理解し、ドイツ語の文の特徴を踏まえて、文章を読んでその内容を理解する。 【授業時間外学習】 挨拶の表現を復習する。 | | | | 第10回 日常生活の表現:将来について 【 到達目標 】 近い未来を表現できるようになる。 その際、ドイツ語の時制について触れて、現在形が多用される特徴を理解する。 【授業時間外学習】 自分の将来を想像し、これを文章にしてみる。 | | | |
| 第3回 ドイツの都市(州と州都) 【 到達目標 】 日常生活の表現とその文化的背景を理解する。 【授業時間外学習】 ドイツの主な都市を地図で確認する。 | | | | 第11回 日常生活の表現:夢 【 到達目標 】 zu不定詞について学習することで、「～すること」を表現できるようになる。 【授業時間外学習】 自分の夢を表現する。 | | | |
| 第4回 日常生活の表現:場所を尋ねる表現について 【 到達目標 】 前置詞について学習する。 英語では意識することのなかった、名詞・代名詞との「相性」つまり格支配を理解する。 【授業時間外学習】 場所を尋ね、教える表現を覚える。 | | | | 第12回 日常生活の表現:週末の予定 【 到達目標 】 分離動詞について学習する。 ドイツ語の辞書を正しく引けるようになる。 【授業時間外学習】 自分の週末の予定を書く。 | | | |
| 第5回 日常生活の表現:1日の行動を表現する 【 到達目標 】 日時を表す前置詞について学習して、「いつ」が表せるようになる。 ～時に・～時ごろに、～曜日に、～曜日までに、など。 【授業時間外学習】 1日の日記を書く。 | | | | 第13回 日常生活の表現:結婚式 【 到達目標 】 接続詞について学習して、文と文をつなげた少し長い文章を理解できるようになる。 【授業時間外学習】 接続詞を覚える。 | | | |
| 第6回 日常生活の表現:色彩、形容詞について 【 到達目標 】 形容詞について学習する。 形容詞が使用方法によっては形を変えることを理解する。 【授業時間外学習】 色彩の表現を覚える。 | | | | 第14回 日常生活の表現:古都 【 到達目標 】 従属の接続詞と副文について学習する。 主文と副文という分類を、動詞の位置で示すというドイツ語の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 接続詞を用いた文を作成する。 | | | |
| 第7回 日常生活の表現:年齢、身長 【 到達目標 】 形容詞、副詞について学習する。 辞書での表示方法を理解し、正しく和訳・独訳できるようになる。 【授業時間外学習】 自分の年齢と身長を書く。 | | | | 第15回 理解度の確認 【 到達目標 】 近い将来の目標を表し、そのために何を行ってきたかを具体的な文章で表現できる。 【授業時間外学習】 表現しきれなかったこと、難しかったことを確認する。 | | | |
| 第8回 日常生活の表現:比較表現、序教 【 到達目標 】 原級、比較級、最高級について学習して、同じくらい～だ/もっと～だ等が表せる。 【授業時間外学習】 比較表現を練習する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 発音練習と復習に重点を置くこと。課題にしっかり取り組むこと。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『一歩ずつー楽しいドイツ語』小川さくえ・片岡律子著 同学社 | | | | | | | |
| 【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅰ | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業時の課題30%、理解度確認のためのテスト結果を70%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。 | | | | | | | |

| 科目名 | 世界の民族音楽 | | | | 担当者 | 櫻田素子 | |
|--|-------------|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | World Music | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 世界のさまざまな地域・民族に見られる音楽文化の多様性を、主として視聴覚資料をもちいて学ぶ。各音楽文化は、それぞれの歴史的背景、社会的背景、価値観によって、独自の音楽を形成してきた。こうした音楽文化のあり様を知り、また、グローバルな知の交流や人々の移動が進むなか、音楽文化がどのように変化してきたのか、現在とはどのような姿であるのかなど、知ることを目的とする。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 世界の様々な音楽、芸能を学ぶということ 【 到達目標 】 「民族音楽」と呼ばれてきた音楽とは何かを考察し、それらを学ぶ意味、意義について考えられるようにする。 【授業時間外学習】 メディア等、身の周りにある音楽に注意を向け、どのような音楽であるかを考察する。 | | | | 第9回 東アジアの音楽文化 【 到達目標 】 東アジア(中国とその周辺、中国文化の影響を受けた地域)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 東アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | |
| 第2回 楽器の特徴を知るために-楽器分類法 【 到達目標 】 各地の音楽、芸能に利用される楽器群について理解を深めるために、楽器の理解方法＝楽器分類方法を知る。 【授業時間外学習】 身の周りの音の出るものに注目し、その音の出る仕組みを考察する。 | | | | 第10回 日本の音楽文化(1) 【 到達目標 】 日本の「伝統音楽・古典音楽」の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本の歴史について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | |
| 第3回 アフリカの音楽文化 【 到達目標 】 サハラ砂漠以南のアフリカにおける音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 アフリカの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | | 第11回 日本の音楽文化(2) 【 到達目標 】 日本の「民俗芸能」の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本各地の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | |
| 第4回 ヨーロッパの音楽文化(1) 【 到達目標 】 主として西ヨーロッパを中心とした音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 西ヨーロッパの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | | 第12回 オセアニアの音楽文化 【 到達目標 】 オセアニア(環太平洋地域)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 オセアニアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | |
| 第5回 ヨーロッパの音楽文化(2) 【 到達目標 】 主として東ヨーロッパを中心とした音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 東ヨーロッパの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | | 第13回 北米の音楽文化 【 到達目標 】 北米の音楽文化に見られる音楽文化の代表的なもの、特に、ポピュラー音楽を中心に学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 北米の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | |
| 第6回 西アジア・中央アジアの音楽文化 【 到達目標 】 西アジア(アラブ文化圏)の音楽とそれに類似する音楽文化をもつ中央アジアの音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 西アジア・中央アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | | 第14回 中南米の音楽文化(1) 【 到達目標 】 中南米(カリブ海地域)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 カリブ海地域の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | |
| 第7回 南アジアの音楽文化 【 到達目標 】 インド亜大陸を中心とする地域に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 南アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | | 第15回 中南米の音楽文化(2) 【 到達目標 】 中南米(南米)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 南米の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | |
| 第8回 東南アジアの音楽文化 【 到達目標 】 東南アジア(大陸部、島嶼部)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 東南アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 視聴覚資料を多用する授業だが、積極的に参加すること。特に各地の文化を紹介する際、パワーポイントを利用してその特徴を説明するので、自分で適宜メモをとり、その音楽、芸能の特徴をとらえる努力をすること。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 授業内にて参考文献等を適宜指示する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 西洋音楽 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、学期末レポート(50%)で評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 日常生活の社会学 | | | 担当者 | 井上芳保 | | |
|---|------------------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Introductory Sociology | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 グローバル化（アメリカ標準の資本主義の世界中への広がり）が進み、私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。特に医療化の様々な弊害と背景にあるものを捉えていく。そしてこのような動きが医療だけの問題ではないことも理解してもらいたい。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみる。社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的な武器として有効なことを実感していただければと思う。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)「日常生活の社会学」を学ぶことの意義を「役割」「感情労働」などの概念を通して知る。(2)「グローバリゼーション」のインパクトを自分たちの日常生活と結びつけて理解する。 参考書：リズ『遺伝子組換え食品の真実』（白水社）、辛酸なめ子『女子の国はいつも内戦』（河出書房新社） 【授業時間外学習】 予習課題：昨日自分が食べた物の来歴とモンサントという企業のしていることを調べておく。 | | | | 第9回 近代化の強迫性を理論モデルで考える 【 到達目標 】 (1)ウェーバーによる資本主義の担い手についての見解、「合理化」の帰結を学ぶ。(2)フーコーによるパノプティコン（一望監視装置）の効果についての考察を学ぶ。 教科書：第4章2節、参考書：ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）、フーコー『監獄の誕生』（新潮社） 【授業時間外学習】 予習課題：教科書の第4章2節を読み、いわゆる「よい子」の陥り易い病理について考えておく。 | | | |
| 第2回 社会学はどのような考え方をするのか(1) 【 到達目標 】 (1)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。(2)領域を超えて横断的に物事を捉える習慣、そこで何しか語られないかと考える習慣を身につける。 教科書：第2章1節参照、参考書：市野川容孝『ヒューマニティーズ社会学』（岩波書店） 【授業時間外学習】 予習課題：ホームズ物語の「赤毛連盟」「唇の曲がった男」「まだらの紐」の粗筋を調べておく。 | | | | 第10回 戦時における「健康」の強調と昨今のレジリエンスの強調の意味を考える 【 到達目標 】 (1)戦時と「敗戦後」の現在とのある種の類似性から戦時動員体制の継続性について学ぶ。(2)厳しい選抜をくり抜けた健康優良児の多くが早々と戦死を遂げたことの意味について学ぶ。 教科書：第2章3、4節参照、参考書：若菜みどり『戦争がつくる女性像』（ちくま学芸文庫） 【授業時間外学習】 予習課題：レジリエンス、エンハンスメントとは何かについて調べておく。 | | | |
| 第3回 社会学はどのような考え方をするのか(2) 【 到達目標 】 (1)デュルケム『自殺論』の考えから社会的要因の重要性を学ぶ。(2)健康不安を煽る力が強く働く社会になっていく我々も巻き込まれていることを理解する。 教科書：プロローグ、第1章参照、参考書：デュルケム『自殺論』（中公文庫） 【授業時間外学習】 予習課題：実際に自殺した人の事例、身内に自殺された人の手記をネットなどで調べておく。 | | | | 第11回 社会調査の方法とライフヒストリー研究 【 到達目標 】 (1)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。(2)質的調査の方法としてインタビュー調査、戦争体験のライフヒストリー研究の実例を学ぶ。 参考書：松井久子編『何を怖れる』（岩波書店）、谷富夫『ライフヒストリーを学ぶ人のために』（世界思想社） 【授業時間外学習】 予習課題：返還前の沖縄から甲子園にやってきた高校球児について調べておく。 | | | |
| 第4回 人はなぜついに自殺を選んでしまうのか 【 到達目標 】 (1)「疎外された労働」、搾取、格差社会について理解する。(2)福祉の現場で起きている事例から追い詰められた人の生きづらさを理解する。 参考書：マルクス『経済学・哲学草稿』（岩波文庫）、鈴木大介『最低困シングルマザー』（朝日文庫） 【授業時間外学習】 予習課題：児童虐待をした親の生活構造、シングルマザーの労働実態について事例を調べておく。 | | | | 第12回 日本社会の近代化と出世主義者の問題 【 到達目標 】 (1)明治期以降の日本の急速な近代化を支えた諸要因と身体感覚、性愛感覚の変容について学ぶ。(2)森鴎外がドイツから帰国した後に記した文書から日本社会の構造的問題を考えてみる。 教科書：第4章3節参照、参考書：佐伯順子『「色」と「愛」の比較文化史』（岩波書店） 【授業時間外学習】 予習課題：森鴎外とはどんな人なのか、江戸元禄期の大坂の様子について調べておく。 | | | |
| 第5回 日常生活の中で働く匿名の権力を考える 【 到達目標 】 (1)心理主義化および医療化によって何が達成されているのかを学ぶ。(2)見えない形で行使される「やさしげな顔をした」権力の怖さを理解する。 教科書：第1章1節参照、参考書：小沢牧子『心の専門家はいらない』（洋泉社新書） 【授業時間外学習】 予習課題：血圧計が街中のどこにあり、誰が使っていたかを観察しておく。 | | | | 第13回 人はなぜ「精神の病」に陥るのか、精神科病院はなぜつくられたのか 【 到達目標 】 (1)ウェーバーが「精神の病」に罹った真因について学ぶ。(2)イタリアの精神医療改革ではなぜ精神科病院をなくせたのかについて学ぶ。 教科書：第5章1、2節参照、参考書：松嶋健『プシコ ナウティカ』（世界思想社） 【授業時間外学習】 予習課題：日本の精神科病院で長期入院が多い理由について調べておく。 | | | |
| 第6回 マクドナルド化、動物化、生活世界の植民地化 【 到達目標 】 (1)効率性、数量化、予測可能性、テクノロジーによる制御によって何が達成されていくかを学ぶ。(2)「灰色の男たち」の正体、モモがそれと闘うことの意味、時間の価値について理解する。 参考書：エンデ『モモ』（岩波書店）、リッツァー『マクドナルド化する世界』（早大出版部） 【授業時間外学習】 予習課題：エンデの『モモ』を読み、時間貯蓄銀行に預けた時間の行方を考えておく。 | | | | 第14回 新しい社会運動と「地域」の変革を探る 【 到達目標 】 (1)「地域」の人間関係を取り戻すいくつかの試みを学ぶ。(2)新しい社会運動が従来型の労働運動とどう違うかを理解する。 教科書：第5章3節、エピソード参照、参考書：メルッチ『現在に生きる遊牧民』（岩波書店） 【授業時間外学習】 予習課題：過激な女装で性差をざざ笑うレインボーマーチ、LGBTの運動について調べておく。 | | | |
| 第7回 死のなくなった社会で人はどう生きるか 【 到達目標 】 (1)すぐれた近未来SF作品の有する問題提起力、構想力について学ぶ。(2)アメリカで統社会が長く続いている経緯について学ぶ。 教科書：第3章4節参照、参考書：ハックスリ『すばらしき新世界』（講談社文庫） 【授業時間外学習】 予習課題：教科書の第3章4節を読み、映画『TIME』にかかわる五つの論点について考えておく。 | | | | 第15回 全体のまとめと補論 【 到達目標 】 (1)これまで14回かけて学んできたこと全体の復習をする。(2)「正常病」とは何であり、どのようにしたらそれから自由になれるかを検討する。 教科書：エピソード参照、参考書：加藤典洋『村上春樹は、むずかしい』（岩波新書） 【授業時間外学習】 予習課題：村上春樹『海辺のカフカ』の粗筋について調べておく。 | | | |
| 第8回 「世界が巨大な病院になる」とはどのような事態か 【 到達目標 】 (1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。(2)フランス革命以降の「人権」のある社会の功罪について学ぶ。 教科書：第3章3節参照、参考書：堀田善衛『ゴヤ』（朝日文庫）、パーク『フランス革命の省察』（PHP研究所） 【授業時間外学習】 予習課題：ゲーテとはどんな人なのか、フランス革命とは何だったのかを調べておく。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。それに加えて社会調査入門も兼ねている。学んだことを活かした実習課題も出す。ほぼ毎回何らかの予習課題が用意されている。世の中の動きに目を配るなど授業への主体的な参加が求められる。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書として、井上芳保『つくりられる病 過剰医療社会と「正常病」』（ちくま新書）を使用。参考書は随時指示。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 現代文化論、女性と仕事 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート課題と学期末のテストとの総合点で評価する。（試験は試験期間中に別途実施する） | | | | | | | |

| 科目名 | 人間心理の理解 | | | | 担当者 | 酒井久実代 | |
|---|------------------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Personality Psychology | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 本講義は、人の心理的側面の特徴を多面的に捉えるためのパーソナリティ（性格）心理学の知見を理解することを目的とする。代表的な理論として特性論、類型論、相互作用論、精神分析理論について理解し、パーソナリティの遺伝、時間的安定性と変化について理解する。また、パーソナリティと身近な人間関係との関わり、パーソナリティと健康、パーソナリティと自己意識的感情について理解を深める。これらにより、人の心理的側面の多様性を理解すると共に自己理解を深めることを目的としている。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 パーソナリティ（性格）の定義 【 到達目標 】 (1) パーソナリティの定義について理解する。 (2) 日常的な意味の性格と心理学での性格の違いについて理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティの定義の理解に関する課題を行う。 | | | | 第9回 パーソナリティと遺伝 【 到達目標 】 (1) 人間行動遺伝学の考え方について理解する。 (2) 遺伝と環境の交互作用について理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと遺伝の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第2回 特性論1 【 到達目標 】 (1) アイゼンクの理論について理解する。 (2) 5因子モデルについて理解する。 【授業時間外学習】 特性論の理解に関する課題を行う。 | | | | 第10回 パーソナリティの時間的安定性と変化 【 到達目標 】 (1) 集団の平均水準の加齢変化について理解する。 (2) 長寿者のパーソナリティについて理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティの安定性と変化の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第3回 特性論2 【 到達目標 】 (1) 5因子性格検査を実施する。 (2) 5因子性格検査の結果を自己分析する。 【授業時間外学習】 5因子性格検査による自己分析に関する課題を行う。 | | | | 第11回 パーソナリティと友人関係 【 到達目標 】 (1) 現代青年の友人関係のタイプについて理解する。 (2) 友人から嫌われるパーソナリティについて理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと友人関係の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第4回 類型論1 【 到達目標 】 (1) シェルドンの類型論について理解する。 (2) 血液型性格診断に関する心理学的見解について理解する。 【授業時間外学習】 類型論の理解に関する課題を行う。 | | | | 第12回 パーソナリティと親密な関係 【 到達目標 】 (1) パーソナリティと親密な関係のタイプについて理解する。 (2) パーソナリティと親密な関係の維持・悪化について理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと親密な関係の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第5回 類型論2 【 到達目標 】 (1) ユングの類型論について理解する。 (2) ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析する。 【授業時間外学習】 ユングの類型論、タイプ分けテストによる自己分析に関する課題を行う。 | | | | 第13回 パーソナリティと家族関係 【 到達目標 】 (1) 親の養育態度の影響について理解する。 (2) 夫婦の関係性の影響について理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと家族関係の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第6回 相互作用論 【 到達目標 】 (1) 行動における状況の重要性について理解する。 (2) 通状況の一貫性と首尾一貫性の違いについて理解する。 【授業時間外学習】 相互作用論の理解に関する課題を行う。 | | | | 第14回 パーソナリティと健康 【 到達目標 】 (1) パーソナリティと身体疾患のリスクについて理解する。 (2) パーソナリティと精神的健康について理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと健康の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第7回 精神分析と交流分析 【 到達目標 】 (1) フロイトの心的構造論について理解する。 (2) 交流分析について理解する。 【授業時間外学習】 交流分析の理解に関する課題を行う。 | | | | 第15回 パーソナリティと自己意識的感情 【 到達目標 】 (1) 自己意識的感情の種類について理解する。 (2) 自己意識的感情の感じやすさと適応について理解する。 【授業時間外学習】 自己意識的感情の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第8回 エゴグラムによる自己理解 【 到達目標 】 (1) TEG IIの結果に基づきエゴグラムを作成する。 (2) エゴグラムによる自己分析と低い自我状態を高める方法について理解する。 【授業時間外学習】 エゴグラムによる自己分析に関する課題を行う。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。授業の中で、心理テストを行うことがある。自己理解に役立てるためにも積極的に取り組むことが望まれる。授業の最後に、講義についての質問、感想、意見などをミニッツペーパーに記入し、提出する。毎回の授業を振り返り、分かったこと、分からなかったことを明確にし、自分なりの感想や考えを言葉にすることが必要である。また、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。 | | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|-----------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 科目名 | ボランティア活動論 | | | 担当者 | 雨宮由紀枝 | |
| 英文名 | Citizenship Education | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 ボランティア活動を行っている先輩や活動家から現場の生の声を聞き、実際にボランティア活動を体験しながら、現代社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。 授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの専門性や力量を市民参加や社会貢献に結び付けていくことが、本講義の最終的なねらいである。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション（趣旨、学習の進め方） 【到達目標】 (1)「ボランティア活動論」の全体の流れを把握する。 (2)自分の学習目標を決める。 【授業時間外学習】 自分の学習目標を決める。 | | | 第9回 日本におけるボランティア活動 【到達目標】 (1)日本におけるボランティア活動の現状と課題を知る。 (2)自分の学校生活におけるボランティア学習を振り返り検証する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | |
| 第2回 ボランティア活動事例の紹介（1） 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | 第10回 ボランティアセンター 【到達目標】 (1)ボランティアセンターの役割を理解する。 (2)ボランティアセンターを、自分の活動に有効に利用できる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | |
| 第3回 ボランティア活動の留意点 【到達目標】 (1)ボランティア活動を始める際に必要なプロセスを理解する。 (2)ボランティア活動実践に必要な態度やルールを理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | 第11回 大学の地域貢献 【到達目標】 (1)大学で学ぶ専門性を地域のために活かす方策を考える。 (2)自らの市民参加や社会貢献に結び付けて考察する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | |
| 第4回 サービスラーニング 【到達目標】 (1)サービスラーニングの考え方を理解する。 (2)サービスラーニングを意識したボランティア活動計画を立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | 第12回 ボランティア活動体験と報告（1） 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。 | | | |
| 第5回 ボランティア活動事例の紹介（2）（講話） 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)現場で活躍している方の講話からボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | 第13回 ボランティア活動体験と報告（2） 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。 | | | |
| 第6回 ボランティア活動の役割と背景 【到達目標】 (1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。 (2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | 第14回 ボランティア活動体験と報告（3） 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。 | | | |
| 第7回 ボランティア活動の歴史 【到達目標】 (1)世界におけるボランティア活動の歴史を理解する。 (2)ボランティア思想の発展史を理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | 第15回 ボランティア活動レポートの作成・提出 【到達目標】 (1)授業内容とボランティア活動体験をふまえ、ボランティア活動レポートを作成する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動レポートを作成する。 | | | |
| 第8回 ボランティア活動事例の紹介（3）（講話） 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)現場で活躍している方の講話からボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ボランティアセンターの協力を得て学習を進め、ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験、プレゼンテーション、活動レポートの作成（2400字以上）を行う。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 英語EAP I | | | 担当者 | 山田七恵 | |
|--|---------------------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | English for Academic Purposes I | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 この講座 (English for Academic Purposes I) では、語彙・語法・文法に十分留意しながら、文学作品 (フィクション・短編小説) の精読を進め、単語リストを並行して作成することで「自分で使える」「見ただけですぐに理解できる」表現を増やしていきます。主なねらいは以下の4つです。①文の構造 (品詞や句・節の区別) を正確に把握する ②高校で既習の文法事項の確認 ③語彙数を増やす ④作品の面白さを発見する。予習を前提としている授業なので、受講生は十分に準備した上で授業に臨んでください。ただ英文を読むのではなく、言葉の背景にある文化や作者の意図などを読み取るレベルまで到達できるようにします。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 Introduction 英文解釈の方法について 【到達目標】 この授業での学習の進め方・評価方法の説明・受講上の注意点をきちんと把握する。精読する際の注意点 (文法・語法・語彙に関して) を理解する。 【授業時間外学習】 精読する際の注意点を復習し、文学作品の予習を進める。 | | | 第9回 フィクション (文学作品) の精読⑥ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | |
| 第2回 英語の文構造を学ぶ① 【到達目標】 各品詞の働き、句・節の区別を理解する。 【授業時間外学習】 文構造について復習をし、文学作品の予習を進める。 | | | 第10回 フィクション (文学作品) の精読⑦ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | |
| 第3回 英語の文構造を学ぶ② 【到達目標】 自動詞・他動詞の区別と5文型を理解する。 【授業時間外学習】 5文型について復習をし、文学作品の予習を進める。 | | | 第11回 フィクション (文学作品) の精読⑧ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | |
| 第4回 フィクション (文学作品) の精読① 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | 第12回 フィクション (文学作品) の精読⑨ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | |
| 第5回 フィクション (文学作品) の精読② 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | 第13回 フィクション (文学作品) の精読⑩ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | |
| 第6回 フィクション (文学作品) の精読③ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | 第14回 フィクション (文学作品) の精読⑪ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | |
| 第7回 フィクション (文学作品) の精読④ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | 第15回 フィクション (文学作品) の精読⑫ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。読み終えた文学作品の要約を作る。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、作品のあらすじをもう一度確認する。 | | | |
| 第8回 フィクション (文学作品) の精読⑤ 【到達目標】 単語リストを作成することで重要単語をチェックし、作品の内容を解釈・理解する。 【授業時間外学習】 重要単語の暗記、文学作品の解釈に取り組む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ・ 丹念な予習を確実に行ってください。「自立的学習力」の養成も大事な目標です。 ・ 毎回の小テストにしっかりと取り組み、常に語彙力の向上を図るようにしてください。 ・ 原則として授業内では辞書を使用してください。携帯電話の使用は認めません。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 プリントを配布します。その他、参考書等は授業内で指示します。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎授業ごとに小テストを行います。原則として、小テストの成績60%、学期末レポート40%で評価します。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|-------------------------------------|-------------------|---|-------|----------------|---------|
| 科目名 | 英語EGCI | | | 担当者 | Mensto Flaming | |
| 英文名 | English for General Communication I | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 | | | | | | |
| This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics. | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 Introductions 【到達目標】 Previewing contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus | | | 第9回 Regular and Current Activities 【到達目標】 Practising present tenses 【授業時間外学習】 Review present tense usage | | | |
| 第2回 Asking / Answering Questions 【到達目標】 Practising question / answer format 【授業時間外学習】 Review question sentence grammar | | | 第10回 Presentations: Invitations 【到達目標】 Discussing schedules 【授業時間外学習】 Prepare presentation | | | |
| 第3回 Likes and Dislikes 【到達目標】 Practising preference vocabulary/grammar 【授業時間外学習】 Preview preference vocabulary / grammar | | | 第11回 Part-time Work 【到達目標】 Previewing work-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview work-related vocabulary | | | |
| 第4回 Presentations: Likes and Dislikes 【到達目標】 Discussing preferences 【授業時間外学習】 Prepare presentation | | | 第12回 Duties and Working Conditions 【到達目標】 Previewing additional work-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview additional vocabulary | | | |
| 第5回 Family 【到達目標】 Practising family vocabulary 【授業時間外学習】 Preview family vocabulary | | | 第13回 Presentations: Part-time Work 【到達目標】 Discussing part-time work 【授業時間外学習】 Prepare presentation | | | |
| 第6回 People 【到達目標】 Practising descriptive vocabulary 【授業時間外学習】 Preview descriptive vocabulary | | | 第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation | | | |
| 第7回 Preparations for Presentations: Family 【到達目標】 Gathering and organising information 【授業時間外学習】 Prepare presentation | | | 第15回 Mid-term Presentations 【到達目標】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation | | | |
| 第8回 Presentations: Family 【到達目標】 Discussing family 【授業時間外学習】 Prepare presentation | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 | | | | | | |
| Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English. | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | |
| Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | |
| Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30% | | | | | | |

| 科目名 | 英語EAPⅡ | | | | 担当者 | 大和久吏恵 | |
|---|---------------------------------|-------------------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | English for Academic Purposes Ⅱ | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 この講座では、英語による論理的な文章を正確に読み、内容に関して意見を述べる技術の習得を目指します。またプレゼンテーション原稿やエッセイの読解を通して、英語で多様性を受容する素地を作ります。受講生は担当箇所のみならず課題全体を予習・復習する必要があります。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 英文読解演習（1） 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進め方を理解する。 時間外学習の方法を把握する。 論理的な文章を正確に読むために必要なポイントを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第9回 英文読解演習（9） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第2回 英文読解演習（2） 【 到達目標 】 パラグラフの構造を確認する。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第10回 英文読解演習（10） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 課題文の内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第3回 英文読解演習（3） 【 到達目標 】 パラグラフ間の関係を理解する。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第11回 英文読解演習（11） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 エッセイの構造を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第4回 英文読解演習（4） 【 到達目標 】 演習を通して課題文の内容を把握する。 課題文の内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第12回 英文読解演習（12） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 エッセイの内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第5回 英文読解演習（5） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む技術を習得する。 プレゼンテーションの構造を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第13回 英文読解演習（13） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 エッセイの内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第6回 英文読解演習（6） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第14回 英文読解演習（14） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 論説文・プレゼンテーション・エッセイの内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | |
| 第7回 英文読解演習（7） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | 第15回 英文読解演習（15） 【 到達目標 】 論説文・プレゼンテーション・エッセイに関して意見を発表する。 今後の学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。 | | | |
| 第8回 英文読解演習（8） 【 到達目標 】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 担当箇所のみならず、課題全体の予習・復習を行うこと。 復習効果を確認できるよう、小テストにしっかりと取り組むこと。 論説文・プレゼンテーション・エッセイに関して意見を持ち、発言・レポートを通して表現すること。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 プリントを配布します。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めません。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として、平常点(小テスト等)40%、期末試験60%で評価します。 | | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|-------------------------------------|-------------------|--|-------|----------------|---------|
| 科目名 | 英語EGCⅡ | | | 担当者 | Mensto Flaming | |
| 英文名 | English for General Communication Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 | | | | | | |
| This course (English for General Communication Ⅱ) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics. | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 Introductions 【到達目標】 Previewing the contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus | | | 第9回 The City 【到達目標】 Practising giving / receiving directions 【授業時間外学習】 Preview directions vocabulary | | | |
| 第2回 Questions about Past Experiences 【到達目標】 Practising past tense questions / answers 【授業時間外学習】 Review past tense | | | 第10回 Presentations: My Home 【到達目標】 Discussing living space 【授業時間外学習】 Prepare presentation | | | |
| 第3回 A Holiday in Florida 【到達目標】 Listening in Context 【授業時間外学習】 Preview holiday vocabulary | | | 第11回 School 【到達目標】 Previewing school-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview school-related vocabulary | | | |
| 第4回 Presentations: Holidays 【到達目標】 Discussing a past experience 【授業時間外学習】 Prepare presentation | | | 第12回 Presentations: School 【到達目標】 Discussing School 【授業時間外学習】 Prepare presentation | | | |
| 第5回 Countries and Their Kitchens 【到達目標】 Practising food-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview food-related vocabulary | | | 第13回 Reading a Story 【到達目標】 Reading comprehension 【授業時間外学習】 Reading Preparation | | | |
| 第6回 Locations 【到達目標】 Practising location vocabulary 【授業時間外学習】 Preview location vocabulary | | | 第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation | | | |
| 第7回 Presentations: A Country and its Kitchen 【到達目標】 Discussing Foreign Countries 【授業時間外学習】 Prepare presentation | | | 第15回 Mid-term Presentations 【到達目標】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation | | | |
| 第8回 The Home 【到達目標】 Practising home-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview home-related vocabulary | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 | | | | | | |
| Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English. | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | |
| Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | |
| Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30% | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--------------------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 科目名 | 教養としてのドイツ言語論 | | | 担当者 | 藤 由 順 子 | |
| 英文名 | German Language as General Education | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 初級レベルの基礎知識を確かなものにし、これを高め、応用力を養うことに備える。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業内容の説明、テキスト等の紹介 【 到達目標 】 音声的基礎を踏まえ、さらなるコミュニケーション能力を高める。 【授業時間外学習】 文字と単語の発音練習をする。 | | | 第9回 前置詞の格支配 【 到達目標 】 状況を説明するフレーズを表現できる。 ～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で、等と言える。 【授業時間外学習】 例文を覚える。 | | | |
| 第2回 発音、基本表現、基礎的文法事項の確認 【 到達目標 】 日常生活レベルから教養的レベルの語彙を理解する。 あいさつやとっさの一言を身につける。 【授業時間外学習】 語彙の発音と意味を確認する。 | | | 第10回 助動詞 【 到達目標 】 語法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。 【授業時間外学習】 自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。 | | | |
| 第3回 ドイツ語の文構造 【 到達目標 】 「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。 規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、ドイツ語で表現する。 【授業時間外学習】 基本的な文を覚える。 | | | 第11回 従属接続詞 【 到達目標 】 接続詞と複雑な文章を学習する。 【授業時間外学習】 動詞の位置を確認する癖をつけて、文構造を理解する。 | | | |
| 第4回 ドイツ語の名詞を知る 【 到達目標 】 名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。 【授業時間外学習】 格変化の表の見方に慣れる。 | | | 第12回 分離動詞 【 到達目標 】 文中に登場する分離動詞を見つけ出し、見出し語の形に戻せるようになる。 分離動詞を使って日常生活を表現できる。 【授業時間外学習】 例文を覚える。辞書を引いて、分離動詞の表記を確認する。 | | | |
| 第5回 冠詞の役割 【 到達目標 】 英語と異なり、「ひとつの」とか「その」という意味を持つだけでないことを再確認する。 【授業時間外学習】 辞書を引いて、格変化表を作成してみる。 | | | 第13回 再帰代名詞と再帰動詞 【 到達目標 】 主語と同じものを示す目的語の代名詞と、それを用いた熟語的表現（再帰動詞）を学習する。 【授業時間外学習】 辞書で再帰動詞を引いて、項目や表記を確認する。 | | | |
| 第6回 複数形 【 到達目標 】 sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを学ぶ。 【授業時間外学習】 辞書の見出し語である単数形に戻す練習を重ねる。 | | | 第14回 形容詞 【 到達目標 】 形容詞の名詞化を知り、これに慣れる。 【授業時間外学習】 形容詞の格変化表を作成する。 | | | |
| 第7回 所有冠詞 【 到達目標 】 「私の～が」・「彼女の～を」・「君の～に」等の表現を身につける。 【授業時間外学習】 所有冠詞を覚えて自分の持ち物を表現する。 | | | 第15回 理解度の確認と補足説明 【 到達目標 】 習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。 【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。 | | | |
| 第8回 人称代名詞 【 到達目標 】 主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。 「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。 【授業時間外学習】 自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現練習する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 発音練習を繰り返すこと。復習をしっかり行うこと。ドイツ文化と言語への関心を大事にすること。半期でドイツ語の文法基礎をしっかりおさえましょう。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は決定次第、指示します。独和辞典は用意してください。初回時に説明しますが、小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。 | | | | | | |
| 【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅰ、ドイツの言語と文化Ⅱ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業時の課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。 | | | | | | |

| 科目名 | 現代の倫理 | | | | 担当者 | 宇多村俊介 | |
|--|-----------------------|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Ethics in Modern Life | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいにしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション：倫理的な問い 【 到達目標 】 倫理的な問いのもつ特質を理解し、倫理的思索の事例を通して問題の所在とその拡がりの輪郭をつかむ。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第9回 自然と文明 【 到達目標 】 自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道徳的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第2回 「幸福」「善」とは何か 【 到達目標 】 倫理的な脈絡での「善・よい」を把握し、善の定義を試み、開かれた(未決の)間であることを理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第10回 環境倫理：未来に対する責任 【 到達目標 】 現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第3回 普遍化可能性1：社会契約 【 到達目標 】 道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第11回 情報化社会の倫理：情報時代と監視社会 【 到達目標 】 メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第4回 普遍化可能性2：自由意志 【 到達目標 】 自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請とその問題点を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第12回 科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任 【 到達目標 】 科学者の社会的責任論の類型の批判的吟味を通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的内涵を考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第5回 普遍化可能性3：功利の原理(1) 【 到達目標 】 現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的内涵を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第13回 生命倫理：人間の尊厳とは何か 【 到達目標 】 安楽死、人工中絶などの現代医療で生じる諸論題とその倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第6回 功利の原理(2) 【 到達目標 】 功利の原理が下敷きにする自由主義のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第14回 倫理的相対主義 【 到達目標 】 倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第7回 正義1：自由と平等 【 到達目標 】 自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、その両立可能性について考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第15回 規範なき時代とニヒリズム 【 到達目標 】 残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第8回 正義2：格差原理 【 到達目標 】 格差の是正と公平の実現へ向けた論点を、格差社会の具体的事例を通して理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に7～8回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。原理的に考えることを要しますが、具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには、知見を要する場合もあります。できるだけ歴史的・社会的背景の吸収・収集にも努めてください。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 | | | | | | | |

| 科目名 | レクリエーションミュージック・合奏 | | | 担当者 | 今 角 夏 織 | |
|---|----------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Music 101 (Ensemble) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 楽譜の基礎知識① 【 到達目標 】 基本的な楽譜の読み方を理解する。 【授業時間外学習】 楽譜の読み方を復習する。 | | | 第9回 トーンチャイム① 【 到達目標 】 トーンチャイムという楽器の発音の仕組みを理解する。正しい持ち方、鳴らし方を学ぶ。 【授業時間外学習】 トーンチャイム用の楽譜の読み方を習得する。 | | | |
| 第2回 音楽の形式①/声のアンサンブル① 【 到達目標 】 校歌の音楽の特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。 【授業時間外学習】 校歌のメロディーを確認する。 | | | 第10回 トーンチャイム② 【 到達目標 】 自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。 【授業時間外学習】 楽曲の正しいリズムを習得する。 | | | |
| 第3回 楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル① 【 到達目標 】 プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 楽曲の正しいリズムを習得する。 | | | 第11回 トーンチャイム③ 【 到達目標 】 他の演奏者と呼吸を合わせて、正確なリズムで演奏し、美しい和音を味わう。 【授業時間外学習】 第10回で扱った楽曲の復習をする。 | | | |
| 第4回 楽譜の基礎知識③/身近なものを使ったアンサンブル② 【 到達目標 】 前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。 【授業時間外学習】 第3回の授業内容を復習する。 | | | 第12回 ソプラノリコーダー① 【 到達目標 】 リコーダーの歴史を学ぶ。演奏の姿勢、基本的な指使い、タンギングなどの奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 リコーダーの運指を確認する。 | | | |
| 第5回 音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ① 【 到達目標 】 カスタネットの奏法を学び、正確なリズムで演奏する。 【授業時間外学習】 打楽器の基本的な取扱いを習得する。 | | | 第13回 ソプラノリコーダー② 【 到達目標 】 高音や低音の出し方を学び、よりきれいな音で演奏する。 【授業時間外学習】 サミングを習得する。 | | | |
| 第6回 音楽の形式③/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ② 【 到達目標 】 カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 第5回で扱った楽曲の復習をする。 | | | 第14回 リコーダー&トーンチャイム① 【 到達目標 】 リコーダーのチューニングについて学ぶ。正しい音程・相手とのバランスを考えた演奏を心がける。 【授業時間外学習】 担当するパートの復習をする。 | | | |
| 第7回 ボディーパーカッション① 【 到達目標 】 楽譜に書かれたリズムを理解し、正確に叩く。身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。 【授業時間外学習】 ボディーパーカッションの新しいアイデアを考える。 | | | 第15回 リコーダー&トーンチャイム② 【 到達目標 】 今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。 【授業時間外学習】 第14回の授業内容を復習する。 | | | |
| 第8回 ボディーパーカッション② 【 到達目標 】 グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションで1曲演奏をする。 【授業時間外学習】 第7回で創作したリズムを復習する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。 またソプラノリコーダーは授業の際、必携。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 適宜楽譜を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 日常生活の法律 | | | | 担当者 | 中村安菜 | |
|---|----------------------|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Law in Everyday Life | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに關係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法をも身につけたい。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 私たちの日常生活に関わる様々なルールについて 【 到達目標 】 (1) 私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。 (2) 様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。 【授業時間外学習】 日本に存在している法律の数を調べる。 | | | | 第9回 犯罪と法律① 【 到達目標 】 (1) 刑事責任と民事責任の違いについて理解する。 (2) ある行為が犯罪とされるのはどのような場合かについて理解する。 【授業時間外学習】 自分の知っている犯罪の種類を箇条書きでまとめる。 | | | |
| 第2回 道路交通と法律① 【 到達目標 】 (1) 道路交通に関する法律に使われている様々な用語について理解する。 (2) 道路交通法における歩行者、自転車運転者の位置づけを理解する。 【授業時間外学習】 日常生活の中で自分が常に守っている交通ルールなどを箇条書きで挙げる。 | | | | 第10回 犯罪と法律② 【 到達目標 】 (1) 犯罪に対して科される様々な刑罰について理解する。 (2) 未成年者の犯罪とその取扱いについて理解する。 【授業時間外学習】 自分の知っている刑罰の種類を箇条書きでまとめる。 | | | |
| 第3回 道路交通と法律② 【 到達目標 】 (1) 歩行者、自転車運転者に関わる様々な規定について理解する。 (2) 交通事故における法的責任について理解する。 【授業時間外学習】 世田谷区内で発生した交通事故数(昨年)を調べる。 | | | | 第11回 市民社会と法律 【 到達目標 】 (1) 市民としての様々な権利義務について理解する。 (2) 身近な届出義務や納税の義務等について理解する。 【授業時間外学習】 届出が必要な身行為について調べる。 | | | |
| 第4回 生命の始まり・終わりとは法律① 【 到達目標 】 (1) 生殖医療の技術進歩に伴う法的問題、法制度の現状について理解する。 (2) 人工妊娠中絶に関する法的規制と権利主張について理解する。 【授業時間外学習】 生殖医療に関して、女性としてどう考えるのかをまとめる。 | | | | 第12回 高齢化社会と法律 【 到達目標 】 (1) 年金・介護保険制度の意義と問題点について理解する。 (2) 相続の仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 相続に関連する法律の条文を見つけてコピーする。 | | | |
| 第5回 生命の始まり・終わりとは法律② 【 到達目標 】 (1) 末期医療と法制度について理解する。 (2) 安楽死についての議論、外国における法制度について理解する。 【授業時間外学習】 安楽死が問題となった判例を調べてくる。 | | | | 第13回 女性の地位と法律 【 到達目標 】 (1) 女性に対する差別と法律の役割について理解する。 (2) セクシュアルハラスメントについて理解する。 【授業時間外学習】 セクシュアルハラスメントに関する自分の考えをまとめる。 | | | |
| 第6回 家族と法律① 【 到達目標 】 (1) 婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。 (2) 家庭生活及び婚姻の解消に関する法制度について理解する。 【授業時間外学習】 結婚するために必要な手続について調べる。 | | | | 第14回 契約と法律 【 到達目標 】 (1) 現代社会における契約の意義について理解する。 (2) 身近な契約と消費者等の保護に関する法制度について理解する。 【授業時間外学習】 契約にはどのような種類があるのかを調べ、箇条書きでまとめる。 | | | |
| 第7回 家族と法律② 【 到達目標 】 (1) 親子関係の発生及び親子間の権利義務に関する法制度について理解する。 (2) 養子に関する法制度について理解する。 【授業時間外学習】 親子関係不存確認訴訟(2014年7月17日)に関する新聞記事をコピーする。 | | | | 第15回 日々の暮らしと法律 【 到達目標 】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。 | | | |
| 第8回 二十歳と法律 【 到達目標 】 (1) 成人することの法制度上の意味を理解する。 (2) 成人することによる具体的な権利の発生、保護の消滅について理解する。 【授業時間外学習】 成人することによって発生する権利について、箇条書きでまとめる。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 開講時に指示する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する(良好な出席状況は、当然の前提である)。試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | | |

| 科目名 | 教養としての経済学 | | | 担当者 | 高橋 信勝 | |
|---|------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Introductory Economics | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 目的：経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を習得し、併せて経済学的思考の涵養を図る。 ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 経済学への誘い（1） 【 到達目標 】 経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。 経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。 経済学の学問的特質を理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケネー）。 | | | 第9回 有効需要論（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳入）。 | | | |
| 第2回 経済学への誘い（2） 【 到達目標 】 希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。 経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（スミス）。 | | | 第10回 IS-LM分析（1） 【 到達目標 】 財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。 IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。 市場経済への公的介入についての理解を深める。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳出）。 | | | |
| 第3回 企業と経済 【 到達目標 】 企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。 企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。 | | | 第11回 IS-LM分析（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。 | | | |
| 第4回 GDPと三面等価の原則 【 到達目標 】 GNPとGDP、三面等価の原則、ストックとフロー、経済成長、景気循環について学ぶ。 国民経済の数量的把握について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケインズ）。 | | | 第12回 国際収支と為替レート（1） 【 到達目標 】 国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。 変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。 世界経済と日本経済とのかかわりを理解する。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リカードウの比較生産費説）。 | | | |
| 第5回 中央銀行の機能と金融政策（1） 【 到達目標 】 貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。 中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。 金融政策の枠組みについて理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。 | | | 第13回 国際収支と為替レート（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。 | | | |
| 第6回 中央銀行の機能と金融政策（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。 | | | 第14回 戦後の日本経済 【 到達目標 】 高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。 戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。 | | | |
| 第7回 インフレとデフレ 【 到達目標 】 インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。 | | | 第15回 授業の総復習と問題演習 【 到達目標 】 授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。 問題演習に取り組み、知識の定着を図る。 【授業時間外学習】 経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。 | | | |
| 第8回 有効需要論（1） 【 到達目標 】 有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。 経済のマクロ分析について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 経済学は体系的な学問なので、継続的な出席が望まれる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は指定しない。参考文献等は、適宜、紹介する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 小テスト（30%）と試験（70%）により、評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 | | | | | | |

| 科目名 | 数と論理 | | | | 担当者 | 五月女仁子 | |
|---|----------------------|-------------------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Arithmetic and Logic | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎、いろいろな進法を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている流水算、旅人算、年齢算などの手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 計算の基礎1、1次方程式と連立1次方程式、特殊な計算1 【 到達目標 】 (1)四則算、計算の順序について復習する。 (2)1次方程式と連立1次方程式の解法を理解する。 (3)鶴亀算について学ぶ。 【授業時間外学習】 腕試し問題の復習。 | | | | 第9回 計算の基礎9、順列と組み合わせ 【 到達目標 】 (1)連立方程式の計算について復習する。 (2)順列とは何かを理解し、解き方を学ぶ。 (3)組み合わせとは何かを理解し、解き方を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第2回 計算の基礎2、特殊な計算2 【 到達目標 】 (1)小数点の計算について復習する。 (2)年齢算、仕事算、植木算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第10回 計算の基礎10、確率 【 到達目標 】 (1)不等式の計算について学習する。 (2)確率について学習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第3回 計算の基礎3、単位の換算、特殊な計算3 【 到達目標 】 (1)分数の計算について復習する。 (2)単位の換算について復習する。 (3)速度算、流水算、通過算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第11回 計算の基礎11、数列 【 到達目標 】 (1)複素数の概念と複素数の計算について学習する。 (2)等差数列と等比数列を理解する。 (3)特殊な数列について理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第4回 計算の基礎4、特殊な計算4 【 到達目標 】 (1)小数、分数を含む計算について復習する。 (2)時計算、損益算、濃度について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第12回 計算の基礎12、n進法 【 到達目標 】 (1)対数の概念と対数の計算について学習する。 (2)普段使っている10進数を理解して、2進数、その他の進数について学習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第5回 計算の基礎5、数の計算 【 到達目標 】 (1)指数について、指数の計算について理解する。 (2)公約数と公倍数について学ぶ。 (3)比の計算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第13回 集合 【 到達目標 】 (1)集合とは何か、要素、部分集合とは何かを学ぶ。 (2)ベン図の作成と集合算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第6回 計算の基礎6、1次関数、不等式 【 到達目標 】 (1)負の数、負の数の計算について理解する。 (2)グラフを利用することによって、1次関数の基礎を学習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第14回 命題と推論 【 到達目標 】 (1)命題とは何かを理解する。 (2)命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第7回 計算の基礎7、2次関数 【 到達目標 】 (1)負の数を含む計算について理解する。 (2)2次関数について理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第15回 論理パズル 【 到達目標 】 (1)論理的な思考を必要とする実践的な問題を学習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第8回 計算の基礎8、2次方程式 【 到達目標 】 (1)1次方程式の計算問題について復習する。 (2)2次方程式の公式と解法について理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 知識を固めるためには、実際に解いてみるのが一番です。講義時間の後半10分から15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 講義中に指示します。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回行うミニ課題36%、期末試験64%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。ミニ課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出（翌週に出すことや、研究室に持ってくることは、いかなる理由であっても認めません。 | | | | | | | |

| 科目名 | 社会のしくみとキャリア形成 | | | | 担当者 | 影山 陽子・杉村 鉄 | |
|--|--|-------------------|----------|---|-----------|------------|--|
| 英文名 | Social System and Basic Career Development | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 現代社会の特徴を理解し、各人が幸福に生きるためには社会とどのように関わっていくのか、自分のキャリアデザインにおける様々な可能性について考える。また、それらの可能性を実現可能なものとするために、社会人としての基本、社会の仕組みや会社の仕組み・形態を学び、実践体験を通してキャリアデザインについて考え、キャリア形成に関わる実践的スキルを学ぶ。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス・現代社会の特徴について 【 到達目標 】 授業受講のためのガイダンス（必要があれば選抜試験を行う）。現代社会の特徴について知る。 【授業時間外学習】 自分自身の受講目的を明確にする。 | | | | 第9回 社会の動きとキャリア（2） 【 到達目標 】 社会背景を踏まえ、働く際に求められている資質・能力・考え方について学ぶ。 【授業時間外学習】 学生と社会人との価値観の違いや社会において大切な考え方について復習する。 | | | |
| 第2回 大学と社会、生涯学習について 【 到達目標 】 大学と社会とのつながり、生涯学習について考える。 【授業時間外学習】 「女性と仕事」で学んだ現代社会の特徴について復習とまとめをする。 | | | | 第10回 社会の動きとキャリア（3） 【 到達目標 】 夢と現実を踏まえ、自分のキャリアを考える。 【授業時間外学習】 自らの希望とそれに向けての準備・努力の確認をする。 | | | |
| 第3回 幸福とキャリア（1） 【 到達目標 】 キャリアデザインにおける幸福について考え、幸福に生きるためのスキルについて知る。 【授業時間外学習】 「キャリアをデザインするとは？」主体的な自己について内省する。 | | | | 第11回 雇用形態と働き方（1） 【 到達目標 】 仕事の種類と具体的な内容を学ぶ。 【授業時間外学習】 具体的な仕事や働き方について復習する。 | | | |
| 第4回 幸福とキャリア（2） 【 到達目標 】 選択に迷った時、挫折を経験した時の対処について考える。 【授業時間外学習】 「危機的状況に陥った時にどうするのか？」リスクについて考える。 | | | | 第12回 雇用形態と働き方（2） 【 到達目標 】 大学で学んだ事をどう活かすか、またどう活かせるかについて、実際の仕事に照らし合わせ幅広い視野に立って考える。 【授業時間外学習】 体育大学で学んだことを活かす視点で自らの強みを考える。 | | | |
| 第5回 社会のしくみ・会社の仕組み（1） 【 到達目標 】 法律の変遷と雇用をめぐる変化を通して、働き方について考える。 【授業時間外学習】 自分の卒業後の進路・生き方・働き方について考える。 | | | | 第13回 実践研究（1） 【 到達目標 】 学生と社会人の違いについて実践研究する。 【授業時間外学習】 新聞を活用し、授業で取り上げたテーマに照らし合わせて再読する。 | | | |
| 第6回 社会のしくみ・会社の仕組み（2） 【 到達目標 】 学歴と雇用（形態）について考える。 【授業時間外学習】 大学と専門学校の違いについて再考し、大学で学ぶ目的を確認する。 | | | | 第14回 実践研究（2） 【 到達目標 】 企業・社会の価値観について実践研究する。 【授業時間外学習】 新聞を活用し、取り上げられている出来事の背景を考える。 | | | |
| 第7回 社会のしくみ・会社の仕組み（3） 【 到達目標 】 大学卒業後の生き方・働き方について、ケーススタディを通して考える。 【授業時間外学習】 これまでの自分の歩みをふり振り返り、現在の学生生活を考える。 | | | | 第15回 体育大学で学んだことを社会で活かす 【 到達目標 】 体育大学で学んだことと企業が求める人材像、自分の描くキャリアデザインの接点や予測について考える。 【授業時間外学習】 授業全体を通して学んだことを復習し、自身を内省する。 | | | |
| 第8回 社会の動きとキャリア（1） 【 到達目標 】 社会の変化と雇用のあり方について学ぶ。 【授業時間外学習】 現代社会の実態について復習する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 科目の性格上、1クラスの受講者数を60名程度に限定することを予定している。人数が多い場合、抽選とする。なお、通常の授業の他に、学内外における 授業時間外の課外での実践体験活動（職場・会社などの観察・見学等、評価対象外課題）を実施する場合もある。（その場合、時期については社会や企業の動向を考慮し、最適なタイミングを選定する） | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『就活準備』杉村鉄（文芸社） 現代社会の動き（主として経済活動）を知るために、新聞を補助教材として使用する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 女性と仕事 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、提出レポート(50%)で評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 現代文化論 | | | | 担当者 | 井上芳保 | |
|--|----------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Modern Culture | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 グローバル化（アメリカ標準の資本主義の世界中への広がり）の渦に私たちも知らず知らずのうちに巻き込まれている。文化や学問の領域も例外ではない。このトレンドに対抗するには人間とはそもそもどのような存在であるかを知る必要がある。また「敗戦後」の継続という歴史認識に基づいて現代日本社会を根幹で支えている対米従属構造を知る必要がある。それらの知見を基に「文化」の多様性を理解し、よりよい自分の生き方の展望が開けてくることを本講義は目的としている。複雑な時代を知性的に生き抜くためにこそ、人間のきれいな部分と逃げずに向き合う強さが求められていると担当教員は考えている。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 「文化」の定義を知る。特にゆとりや遊びの精神がないと「文化」は成立しないことを知る。その上で、ある社会の「現代文化」を学ぶ上での政治・経済的な背景を押さえることの重要性を理解する。 参考書：辛酸なめ子『辛酸なめ子の現代社会学』（幻冬舎）、ホイジンガ『ホモルーデンス』（中公文庫）など。 【授業時間外学習】 予習課題：辛酸なめ子について調べておく。できれば作品を読んでおく。 | | | | 第9回 精神分析はどのような考え方をするのか 【 到達目標 】 言い間違い、物忘れ、夢の世界などを手がかりに無意識の存在の大きさについて理解する。 参考書：フロイト『精神分析入門』（新潮文庫）、同『自我論集』『エロス論集』（ちくま学芸文庫）、同『人はなぜ戦争をするのか』（光文社文庫）、フロム『自由からの逃走』（東京創元社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：「去勢不安」「ペニス羨望」「エディプスコンプレックス」等の語について調べておく。 | | | |
| 第2回 沖縄の基地問題と観光文化を再考する 【 到達目標 】 沖縄を事例として「敗戦後」という視点から現代日本社会を捉えることの重要性を理解する。 参考書：矢部宏治『日本はなぜ、「基地」と「原発」をやめられないのか』（集英社）、白井聡『永続敗戦論』（太田出版）、孫崎亨『戦後史の正体』（創元社）、同『日本の国境問題』（ちくま新書）など。 【授業時間外学習】 予習課題：NHKドラマ「ちゅらさん」のストーリー、日米地位協定について調べておく。 | | | | 第10回 精神分析を応用すると母娘関係はどう解説できるのか 【 到達目標 】 サディズムが「自己」という幻想の維持に必要な事情を知り、母親と娘の関係の難しさを理解する。 参考書：斎藤環『母は娘の人生を支配する』（NHKブックス）、片岡珠美『母に縛られた娘たち』（宝島社）、磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか』（春秋社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：摂食障害の事例についてネットなどで調べておく。SMとは何かについて調べておく。 | | | |
| 第3回 戦争時の健康増進文化を考える 【 到達目標 】 「健康」や「清潔」を過度なまでに強制する社会の抑圧性について歴史的視点から理解する。 参考書：プロイユル『ナチ・ドイツ 清潔な帝国』（人文書院）、藤野豊『強制された健康』（吉川弘文館）、武田徹『「隔離」という病』（講談社メチエ）など。 【授業時間外学習】 予習課題：ハンセン病の歴史、ナチスの優生思想、健康優良児表彰の歴史について調べておく。 | | | | 第11回 ジェンダー論の視点から女性の生き方を再考する 【 到達目標 】 女性兵士問題を糸口に戦時動員体制および業績主義社会との関連について理解する。 参考書：若菜みどり『戦争とジェンダー』（大月書店）、佐藤文香『軍事組織とジェンダー』（慶応大学出版会）、上野千鶴子『ナショナリズムとジェンダー』（青土社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：映画「G. I. ジェーン」のストーリーについて調べておく。できれば鑑賞しておく。 | | | |
| 第4回 現代日本の健康増進文化を考える 【 到達目標 】 健康不安が煽られ、「病」がつくられている現状について医療社会学などの知見を得て理解する。 参考書：美馬達哉『リスク化される身体』（青土社）、母里啓子『もうワクチンはやめなさい』（双葉社）、鳥集徹『新薬の罣』（文藝春秋）、斎藤貴男『子宮頸がんワクチン事件』（集英社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：子宮頸がんワクチン被害の実態についてネットで調べておく。 | | | | 第12回 ジェンダー論の視点から結婚と近代家族を再考する 【 到達目標 】 「母性」の強調が近代社会のつくりと関係することを知り、それに縛られない家族の形を考える。 参考書：バダンテール『母性という神話』（ちくま学芸文庫）、牟田和恵『家族を超える社会学』（新曜社）、岡田斗司夫『フロン』（幻冬社文庫）、森崎和江『第三の性』（河出書房文庫）など。 【授業時間外学習】 予習課題：シェアハウスなど新しい共住の形や家族に代わる新しい親密圏について調べておく。 | | | |
| 第5回 「恥」の分析を糸口に「日本文化論」とされているものを読み解く 【 到達目標 】 「甘え」、「恥」の文化、世間体などの視点から日本人の行動原理とその問題点を理解する。 参考書：土居健郎『「甘え」の構造』（弘文堂）、中根千枝『タテ社会の人間関係』（講談社現代新書）、井上忠司『「世間体」の構造』（講談社学術文庫）、内田義彦『形の発見』（藤原書店）など。 【授業時間外学習】 予習課題：どんなときに思わず赤面してしまうのか、自分の日常生活から事例を考えておく。 | | | | 第13回 自律した身体を取り戻す試みを探る 【 到達目標 】 制度化され、記号と化した「健康」とは異なる自律的な身体感覚に基づく健康の可能性を探る。 参考書：三木成夫『内臓とこころ』（河出書房文庫）、野口三千三『原初生命体としての人間』（岩波同時代ライブラリ）、影山健/岡崎勝『みんなでトロブス』（風媒社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：ヘルシズム、野口体操、自然治癒力思想、進化医学について調べておく。 | | | |
| 第6回 「私」という現象と存在証明の欲望を考える 【 到達目標 】 自分も他人も知る「私」の他にも三つの「私」があることとマイノリティの生きづらさに気づく。 参考書：石川准『アイデンティティ・ゲーム』（新評論）、デイ多佳子『大きい女の存在証明』（彰流社）、ゴッマン『スティグマの社会学』（せりか書房）、石井政之『顔面漂流記』（かもがわ出版）など。 【授業時間外学習】 予習課題：「障害」とは何か、ボランティアとは何か、24時間テレビの功罪について考えておく。 | | | | 第14回 前衛的アート作品の文化的価値と自文化中心主義を考える 【 到達目標 】 会田誠のある作品の展示は、表現の自由か「猥褻」か、自文化中心主義の落とし穴を考えてみる。 参考書：『現代アートの本当の学び方』（フィルムアート社）、伴野準一『イルカ漁は残酷か』（平凡社新書）など。カンギレム『正常と病理』（法政大学出版局）など。 【授業時間外学習】 予習課題：会田誠のアート作品とそれへの多様な評価、シーシェパードの行動について調べておく。 | | | |
| 第7回 差別と向き合う対抗的文化の可能性を考える 【 到達目標 】 被差別者の解放運動を再考し、アイデンティティ管理の新しい方向性と文化構築について理解する。 参考書：北島行徳『無敵のハンディキャップ』（文春文庫）、伏見憲明『（性）のミステリー』（講談社現代新書）、田中美津『かけがえのない、大したことはない私』（インパクト出版会）など。 【授業時間外学習】 予習課題：1970年代の「青い芝の会」、障害者プロレス「ドッグレッグス」について調べておく。 | | | | 第15回 全体のまとめと補論 【 到達目標 】 これまで14回かけて学んできたこと全体を復習をする。活動能力を高める人生の選択を考える。文化の価値にはユーモアと風刺と諧謔の精神も含まれていることを理解する。 参考書：ニーチェ『ツァラトゥストラ』（ちくま学芸文庫）、スピノザ『エチカ』（岩波文庫）など。 【授業時間外学習】 予習課題：イタリアの精神医療改革について調べ、なぜ精神科病院をなくせたのかを考えておく。 | | | |
| 第8回 暴力・憎悪・差別からの脱出を考える 【 到達目標 】 人には「他人が苦しむのを見て快感を覚える」部分があることを知り、それを前提に対処策を考える。 参考書：酒井隆史『暴力の哲学』（河出書房新社）、中島敦『山月記』（新潮文庫）、ニーチェ『道徳の系譜』（岩波文庫）、朴裕河『和解のために』（平凡社ライブラリー）など。 【授業時間外学習】 予習課題：アメリカの1960年代における黒人差別、キング牧師、マルコムXについて調べておく。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 社会学関連用語を1年次の「日常生活の社会学」で学んだことを前提とする。多少順番が入り替わることもある。マクドナルド化の基本原則の一つ「予測可能性」に反してシラバス通りではなくなる場合もある。なお、履修登録にあたっては、暴力や差別、怨念、憎悪というおぞましい情動、それらの検討にかかわるフロイト以来の精神分析系の知やニーチェ哲学の紹介など「人間の高尚ではない諸問題」にも触れる機会がある点に留意されたい。「正常病」気味の人には向かないかもしれない。大学の価値は異質なものに直面して驚くことにありと理解している人にはおすすめの講義である。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使わない。全体の参考書として井上芳保『つくられる病ー過剰医療社会と「正常病」』（ちくま新書）。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 日常生活の社会学、スポーツ社会学、女性と仕事 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート課題と学期末のテストの総合点で評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 西洋音楽 | | | | 担当者 | 森 立 子 | |
|--|---------------|-------------------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Western Music | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 「クラシック音楽」という言葉に包括される、グレゴリオ聖歌から現代音楽に至るヨーロッパを源とする音楽を、さまざまな楽器の仕組みと奏法、編成と演奏形態、楽曲の形式、作曲家の生涯、社会背景等、一般的な知識を得ることによって、より深い楽しみ方が出来るようになることを目指す。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 インTRODクシヨン 【 到達目標 】 西洋音楽史における時代区分について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | | 第9回 20世紀（1） 【 到達目標 】 19世紀末から第一次世界大戦にかけて現れた音楽の諸潮流、およびこれを代表する作曲家について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | |
| 第2回 中世・ルネサンス時代 【 到達目標 】 中世からルネサンスにかけての音楽を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | | 第10回 20世紀（2） 【 到達目標 】 両大戦間に現れた音楽の諸潮流、およびこれを代表する作曲家について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | |
| 第3回 バロック時代（1） 【 到達目標 】 バロック時代の音楽、作曲家、それをとりまく社会について理解する。対象はイタリア、およびフランス。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | | 第11回 オペラ（1） 【 到達目標 】 オペラの歴史と作品を知る。対象はイタリア。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | |
| 第4回 バロック時代（2） 【 到達目標 】 バロック時代の音楽、作曲家、それをとりまく社会について理解する。対象はドイツ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | | 第12回 オペラ（2） 【 到達目標 】 オペラの歴史と作品を知る。対象はドイツ、およびフランス。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | |
| 第5回 古典派の時代 【 到達目標 】 古典派の時代の音楽、作曲家、それをとりまく社会について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | | 第13回 鍵盤音楽 【 到達目標 】 鍵盤音楽の歴史と作品を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | |
| 第6回 ロマン派の時代（1） 【 到達目標 】 ロマン派（特に前期ロマン派）の時代の音楽、作曲家、それをとりまく社会について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | | 第14回 歌曲 【 到達目標 】 歌曲の歴史と作品を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | |
| 第7回 ロマン派の時代（2） 【 到達目標 】 ロマン派（特に後期ロマン派）の時代の音楽、作曲家、それをとりまく社会について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | | 第15回 管弦楽曲 【 到達目標 】 管弦楽曲の歴史と作品を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | |
| 第8回 ロマン派の時代（3） 【 到達目標 】 ロマン派の時代に生まれた「国民楽派」の音楽、作曲家、それをとりまく社会について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。毎回、授業の終わりにコメントカードを書いてもらう予定。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 授業の際に随時紹介する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 コメントカード30%、学期末レポート70%の割合で評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | フランス語の世界 | | | | 担当者 | 山下利枝 | |
|--|--------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | World French | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらふ。そのため、フランス語の生まれてきた文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、フランス語を使う人々の日常的な表現世界を理解し共有することを目指す。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション：挨拶（アルファベ、綴りと発音）、フランスとフランス文化 【 到達目標 】 (1)挨拶（アルファベ、綴りと発音）に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「サッカーは世界の共通語」を読む。 | | | | 第9回 日常の表現：好き、嫌い、意思、願望 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。好悪や意志や願望についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「エコ・ライフには自転車」を読む。 | | | |
| 第2回 フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力 【 到達目標 】 (1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。 【授業時間外学習】 プリント「ロワール河の北と南」を読む。 | | | | 第10回 日常の表現：非人称構文、天候、時間、義務 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。天候や時間や義務についての表現を学び、日本語と違う非人称の表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「文化を生み出すカフェ」を読む。 | | | |
| 第3回 日常の表現：挨拶（アルファベ、綴りと発音の関係の復習） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。コミュニケーションの基礎としての挨拶を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「個性競うセーヌの橋」を読む。 | | | | 第11回 まとめと復習② 【 到達目標 】 (1)7～10回のまとめと復習を実施する。 【授業時間外学習】 プリント「海洋環境復元にむけて（モン・サン・ミシェル）」を読む。 | | | |
| 第4回 日常の表現：自分のことを言う 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。自分を説明できる。 【授業時間外学習】 プリント「魅力あふれる小国モナコ」を読む。 | | | | 第12回 日常の表現：過去形、未来形の基本 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。過去・未来について表現の規則を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「ツール・ド・フランスの勝者」を読む。 | | | |
| 第5回 日常の表現：相手・第三者のことを言う 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。相手・他人について説明できる。 【授業時間外学習】 プリント「カンヌ映画祭開幕」を読む。 | | | | 第13回 フランスの映画鑑賞 【 到達目標 】 (1)映画鑑賞を通して、フランス語の世界を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 プリント「7月14日は革命記念日」を読む。 | | | |
| 第6回 まとめと復習① 【 到達目標 】 (1)4・5回のまとめと復習を実施する。 【授業時間外学習】 プリント「日仏マンガ交流」を読む。 | | | | 第14回 フランス語の世界を理解するための注目点 【 到達目標 】 (1)フランス語の世界を理解するために、特に注目すべき点を把握する。 【授業時間外学習】 プリント「ミシュランの三ツ星」を読む。 | | | |
| 第7回 日常の表現：数、時間、お金 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての数、時間、お金についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「ストライキ大国フランス」を読む。 | | | | 第15回 総復習 【 到達目標 】 (1)総復習をして、フランス語の世界への理解を深める。 【授業時間外学習】 プリント「空飛ぶ作家サン＝テグジュペリ」を読む。 | | | |
| 第8回 日常の表現：位置、方向（道を教える・聞く） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての位置方向についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「フランスワインの内憂外患」を読む。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 予習は必要ありません。しっかり復習し、日常的にフランス語に触れること（映画・歌等）。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「だいじょうぶ！フランス語」（太田浩一・明石伸子著）（白水社） | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。（試験は試験期間中に別途実施する。） | | | | | | | |

| 科目名 | 中国語の世界 | | | 担当者 | 道上峰史 | |
|--|---------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | World Chinese | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 本講座は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語独特の発音や簡体字に慣れてもらうため、受講生には発音、発声の練習や、基礎的な作文を課します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション：中国語について 【 到達目標 】 (1) 言語としての中国語の特性を理解する。 【授業時間外学習】 身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。 | | | 第9回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。 | | | |
| 第2回 発音の基礎：発音記号と四声 【 到達目標 】 (1) 言語としての中国語の音声（発音・リズム）を習得する。 【授業時間外学習】 授業で習った発音を、繰り返し発声する。 | | | 第10回 基礎構文(Ⅳ)：過去形 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。 | | | |
| 第3回 文字について：中国の簡体字と日本の漢字 【 到達目標 】 (1) 中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。 【授業時間外学習】 実際に簡体字を自分で書いてみる。 | | | 第11回 基礎構文(Ⅳ)：過去形の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。 | | | |
| 第4回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。 | | | 第12回 作文：自己紹介 【 到達目標 】 (1) 自分について紹介する文章を作る。 【授業時間外学習】 自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。 | | | |
| 第5回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。 | | | 第13回 作文：日常の表現 【 到達目標 】 (1) 日常表現をするための語彙を増やす。 【授業時間外学習】 普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。 | | | |
| 第6回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。 | | | 第14回 中国の文化(Ⅰ)：中国文化と中国語Ⅰ 【 到達目標 】 (1) 中国語の成り立ちと中国文化を理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。 【授業時間外学習】 授業でふれた中国の文化について、自分でまとめなおす。 | | | |
| 第7回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。 | | | 第15回 中国の文化(Ⅱ)：中国文化と中国語Ⅱ 【 到達目標 】 (1) 中国文化の中で成長した中国語について理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。 【授業時間外学習】 授業でふれた中国の文化について、自分でまとめなおす。 | | | |
| 第8回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『《最新2訂版》中国語はじめの一步』竹島金吾監修/尹景春、竹島毅著(白水社)。その他、授業内にプリントを配布します。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業時の課題が40%、課題レポートが60%です。全講義終了後にレポートを課します。 | | | | | | |

| 科目名 | ハングルの世界 | | | 担当者 | 李 貞 暎 | |
|--|---------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | World Hangeul | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。正確な生活や文化の理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か 【 到達目標 】 (1) 言語としての韓国語の特性を理解する。 (2) 文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3) ハングル文字の仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。 | | | 第9回 日常生活の表現：疑問表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 【授業時間外学習】 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。 | | | |
| 第2回 ハングルの発音：基本母音字 【 到達目標 】 (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 基本母音を習得する。 【授業時間外学習】 ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。 | | | 第10回 日常生活の表現：否定表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。 | | | |
| 第3回 ハングルの発音：子音字（1） 【 到達目標 】 (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 子音（平音・激音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。 | | | 第11回 日常生活の表現：用言の表現（1） 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その1：ハムニダ体）を学習する。 | | | |
| 第4回 ハングルの発音：子音字（2） 【 到達目標 】 (1) ハングルの子音（濃音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。 | | | 第12回 日常生活の表現：用言の表現（2） 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その2：ヘヨ体）を学習する。 | | | |
| 第5回 ハングルの発音：合成母音字 【 到達目標 】 (1) 合成母音を習得する。 【授業時間外学習】 子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。 | | | 第13回 日常生活の表現と韓国文化：過去形 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 【授業時間外学習】 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。 | | | |
| 第6回 ハングルの発音：パッチム、換抄 【 到達目標 】 (1) 文字としてのパッチムを習得する。 【授業時間外学習】 パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な換抄を学習する。 | | | 第14回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（1） 【 到達目標 】 (1) 韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。 | | | |
| 第7回 日本語のハングルの表記 【 到達目標 】 (1) 日本語のハングル表記を習得する。 (2) 辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 【授業時間外学習】 日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。 | | | 第15回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（2） 【 到達目標 】 (1) 韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。 | | | |
| 第8回 日常生活の表現：肯定表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や換抄の表現を学習する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れること（ドラマ・映画・歌等）。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞暎）著（白水社） | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | |

| 科目名 | 知の哲学 | | | | 担当者 | 宇多村俊介 | |
|---|-------------------------|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Philosophy of Knowledge | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 「知(知識)」のもつ性質について立ち止まって考えてみると、恐らくふだんは当然視しているであろうことにいくつかの疑問が生じます。この講義の目的は、主として西洋哲学上のいくつかの局面から、「知」を批判的に吟味するための視角を学ぶとともに、それに必要な思考の技能を身につけることです。眼前の身近な素材や具体的論証を通して、知の成立条件や根拠、知に到る過程を検討しつつ、現代の知の諸相とその提起する問題について考察します。個々の論証を通して、各受講生が自ら生活を哲学する端緒としてほしい。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ 【 到達目標 】 哲学的な問いのもつ特性を理解するとともに、自分の現状の思想傾向を把握する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の<検討課題>に取り組む。 | | | | 第9回 行為1：言語と行為 【 到達目標 】 言語がもつ行為論的な側面を理解し、自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第2回 知の成立条件と知の定義 【 到達目標 】 知識の正当性に疑義が生じる場合を把握し、古典的な知の定義の構成と充たす必要要件を理解することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第10回 行為2：プラグマティックな意味基準 【 到達目標 】 プラグマティックな意味基準を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第3回 知の源泉と認識の手段・能力1 【 到達目標 】 知の四つの源泉を把握し、認識の手段・能力として感覚・知覚、表象のもつ諸特性と限界、問題点を理解することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第11回 社会的自我：コミュニケーションの哲学 【 到達目標 】 「個」のパーソナリティが成立するプロセスを理解し、自我の社会性および主体性を自覚するとともに、コミュニケーションの可能性を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第4回 知の源泉と認識の手段・能力2 【 到達目標 】 認識の手段・能力として理性・概念のもつ諸特性とその限界、問題点を理解することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第12回 現代の知の諸相1：情報化時代の知 【 到達目標 】 活字文化からメディア文化へ、さらに電子ネットワーク文化への移行と知識との関係、および問題点を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第5回 哲学的思考1：推論の2類型 【 到達目標 】 立論(論証)の構造と推論の2つの類型を理解し、立論の健全さを評価することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第13回 現代の知の諸相2：科学技術時代の知 【 到達目標 】 科学技術のもつ秘匿的性格の起源について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第6回 哲学的思考2：歪んだ思考 【 到達目標 】 歪んだ思考の類型を理解し、具体的な(哲学的)論証を追って、その欺瞞性を批判的に吟味することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第14回 現代の知の諸相3：俗悪なもの形而上学 【 到達目標 】 形而上学的な観点が日常の暮らしに及ぼす影響について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第7回 意識：心身問題 【 到達目標 】 認識における心と身体との関係の問題構造を理解し、その難点を考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | 第15回 知の主體的責任と知的誠実性 【 到達目標 】 授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | |
| 第8回 身体化された知 【 到達目標 】 身体論的観点から知の成立過程を理解することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題> | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、授業時に5～6回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。なお、理解が上滑りにならないためには、とこところでいくつかの<思考の技能>への一定の習熟を要します。予備知識は要りませんが、集中して理解し、実地に適用する心構えでいて下さい。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 美の理論 | | | | 担当者 | 高橋 進 | |
|--|------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Aesthetics | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 この授業は、美を好き嫌いや趣味として捉えるのではなく、美とはどういうものか、美はいかに成立するか、ということを理論的・客観的に把握することを目的とする。そのために、現代にいたるまでの西洋絵画を中心とする典型的な芸術作品を紹介しながら、美の基準を考察する。また、美についての代表的な理論を紹介し、美が成立する根拠を探る。授業では、画像や映像を多用して視覚的理解も図る。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション：美はどこにあるか 【 到達目標 】 美を考えるに当たり、美のありかが主観/客観、どちらにあるか、問題の所在を理解できる。 【授業時間外学習】 美に触れた体験を想起し自覚しておく。オリエンテーション後、問題の所在を振り返る。 | | | | 第9回 色彩の科学：印象派 【 到達目標 】 絵画が世界を開く窓ではなく、色と形で表現する平面であることを理解し、色彩の科学としての印象派を考えることができる。 【授業時間外学習】 印象派の代表的な作品を調べる。プリントで光と色との違いを理解し、絵画芸術を確認する。 | | | |
| 第2回 美の様相：自然美・機能美・芸術美 【 到達目標 】 美の様相：美のあり方として自然美・機能美・芸術美を理解し、共通する美の本質について考えることができる。 【授業時間外学習】 配布プリントを予め読む。美のあり方に共通する本質を確認する。 | | | | 第10回 芸術の精神性の表現 【 到達目標 】 20世紀の変動する世界を表現する精神としての芸術の役割について理解できる。 【授業時間外学習】 20世紀の歴史的変動の特徴を調べる。プリントから、変動を表現する作品を確認する。 | | | |
| 第3回 美の形式の自覚：古代ギリシア・ローマの美、黄金比 【 到達目標 】 美の形式の自覚として、対象に備わる古代ギリシア・ローマの美の秩序、黄金比が理解できる。 【授業時間外学習】 人体美の理想としての八頭身を調べる。プリントから黄金比を確認する。 | | | | 第11回 感情移入と抽象衝動 【 到達目標 】 感情移入の芸術に対し、抽象絵画の成立を原理的に理解することができる。 【授業時間外学習】 抽象絵画の代表的な作品を調べる。感情移入と抽象との違いを確認する。 | | | |
| 第4回 美の象徴性の自覚：中世キリスト教の美 【 到達目標 】 美の表現形式としての象徴という方法を理解する。典型であるキリスト教美術の特徴を把握することができる。 【授業時間外学習】 サイン(記号)とシンボル(象徴)の違いを調べる。キリスト教美術の特徴を確認する。 | | | | 第12回 平面と立体性：キュビズム 【 到達目標 】 芸術におけるキュビズムの革命性を把握し、現代芸術の立脚点の理解ができる。 【授業時間外学習】 ピカソの作品を調べる。プリントからピカソのキュビズム(立体主義)の革命性を確認する。 | | | |
| 第5回 美の意識の自覚：美意識、美的判断 【 到達目標 】 美が成立する主観の構造を理解する。固有の領域をもつ美的判断の特性を把握し、美意識がいかなるものか、自覚できる。 【授業時間外学習】 美しいと感じるのはなぜか、予め考える。プリントで授業内容を確認する。 | | | | 第13回 ●・▲・■ 【 到達目標 】 ●・▲・■の幾何学的形象による純粋絵画の意義について理解ができる。 【授業時間外学習】 モンドリアンの作品を調べる。幾何学的形象の意義を確認する。 | | | |
| 第6回 美の芸術性の自覚：芸術作品の構造、美的範疇 【 到達目標 】 芸術作品の構造と美的範疇を理解し、芸術美の特性が把握できる。 【授業時間外学習】 プリントを読み、風景や人物を描いた絵が芸術作品として成立する根拠を確認する。 | | | | 第14回 非具象絵画：美の純粋形式性 【 到達目標 】 現代の非具象絵画の見方を把握し、なぜ具象でないのかを考える。 【授業時間外学習】 現代の非具象絵画の作品を調べる。なぜ、具体的な物を描かないか、確認する。 | | | |
| 第7回 視覚の科学：遠近法の象徴性 【 到達目標 】 ルネサンス期に成立した視覚の科学としての遠近法を理解し、その成立の背景となる近代の世界観を考察することができる。 【授業時間外学習】 近代の歴史の流れを調べる。ルネサンス期の絵画等から遠近法の描法を確認する。 | | | | 第15回 美の現在：多様な美 【 到達目標 】 現在の多様な美の世界について理解することができる。 【授業時間外学習】 プリント等から授業内容を振り返り、芸術の美と、具象から抽象への美の転換を確認する。 | | | |
| 第8回 光と影：陰影の科学 【 到達目標 】 光の研究による陰影の科学として、近代美術を理解することができる。 【授業時間外学習】 ニュートン等の光学について調べる。プリントで光と影の関係を確認する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 西欧を中心とした視覚芸術(特に絵画)を講義対象とする。授業内容のレジュメを用意するが、西洋美術に関心を深めることが理解につながる。映像や画像を使って、ビジュアルな理解も図る。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 テキストなし。授業内容のレジュメと資料(プリント)を配布する。参考文献は授業時に紹介する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業時における課題レポート30%、学期末の課題レポート70%で評価する。 | | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|---------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 科目名 | ジェンダー論 | | | 担当者 | 藤山新 | |
| 英文名 | Gender Issues | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、気づきと理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 イントロダクション 【 到達目標 】 (1)セックス、ジェンダー、セクシュアリティの概念を理解する。 (2)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題とされているのか、大まかに把握する。 【授業時間外学習】 あらかじめ、自らがどのような事柄を「男らしい」「女らしい」と感じるのか、また、なぜそう感じるのかを考察し、授業に臨む。 | | | 第9回 近代スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1)「近代スポーツ」の概念を理解する。 (2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、「ブライトン宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。 | | | |
| 第2回 フェミニズムの歴史 【 到達目標 】 (1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。 (2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、特に現代のフェミニズムのありかたについて復習し、理解を定着させる。 | | | 第10回 学校体育とジェンダー 【 到達目標 】 (1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。 (2)学校体育における「隠れたカリキュラム」について理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、これまでの自身の体験から、体育の授業においてどのような「隠れたカリキュラム」があり、それがあなたにどのような影響を与えたか検討する。 | | | |
| 第3回 男女共同参画社会ってなんですか 【 到達目標 】 (1)男女共同参画社会の理念を理解する。 (2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、男女共同参画センターに実際に足を運び、どのような事業が行われているか、どのような人が利用しているのか観察する。 | | | 第11回 セクシュアル・マイノリティと学校・スポーツ 【 到達目標 】 (1)セクシュアル・マイノリティ当事者が学校やスポーツの場で体験してきたことを知る。 (2)教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接する上で必要な知識を理解する。 【授業時間外学習】 第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、ジェンダー論の視点から、体育の教員として注意しなければならないことを考察する。 | | | |
| 第4回 セクシュアル・マイノリティの基礎知識 【 到達目標 】 (1)人間の「性」の多様性について理解する。 (2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。 (3)「マジョリティ=正常」「マイノリティ=異常」ではないことを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように扱われているかを調べる。 | | | 第12回 スポーツと身体 【 到達目標 】 (1)身体的性差とスポーツとの関係を理解する。 (2)性別確認検査の経緯と性別二元論の限界について知る。 【授業時間外学習】 授業内容を参考に、近代スポーツにおいて、記録や競技成績に男女差をもたらしている要因を考察する。 | | | |
| 第5回 「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方 【 到達目標 】 (1)「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」の概念を理解する。 (2)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、「性と生殖に関する自己決定権」と社会との関係について復習し、理解を定着させる。 | | | 第13回 メディアとスポーツとジェンダーと 【 到達目標 】 (1)スポーツとそれを取り巻く環境がジェンダーを増幅する装置として作用していることを理解する。 (2)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ新聞に目を通し、そこで取り上げられている競技を男女別に分け、報道量の差異を検証する。 | | | |
| 第6回 実は身近なデートDV 【 到達目標 】 (1)デートDVの構造と実態を理解する。 (2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。 (3)「ピア・サポート」の意味と重要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。 | | | 第14回 スポーツと人権 【 到達目標 】 (1)スポーツ界におけるセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。 (2)セクシュアル・マイノリティ当事者のスポーツ参加に伴う課題を知る。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、スポーツ場面におけるセクシュアル・ハラスメントの特徴について復習し、理解を定着させる。 | | | |
| 第7回 スポーツ・ジェンダー学という世界 【 到達目標 】 (1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。 (2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。 【授業時間外学習】 あらかじめ、飯田貴子・井谷恵子編著(2004)『スポーツ・ジェンダー学への招待』の中から任意の1章を選び、自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。 | | | 第15回 日常生活世界に見るジェンダー 【 到達目標 】 (1)家族、就業、政治など、日常生活の場面で現れるジェンダー・バイアスについて理解する。 (2)ジェンダー・ギャップ指数(GGI)を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。 【授業時間外学習】 授業内で指示する男女共同参画白書平成27年版(Web版)の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。 | | | |
| 第8回 女子ボクシングの昨日・今日・明日 【 到達目標 】 (1)女子ボクシングの現状を知る。 (2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 毎時間配布するハンドアウトは、講義を聞いたうえで必要な事項を書き込むことで、資料として完成するように作成しています。ただし、授業内容を理解するためには、単なる穴埋めにとどまらず、積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書 特に指定しない。 参考書は、木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江(2013)『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房、飯田貴子・井谷恵子(2004)『スポーツ・ジェンダー学への招待』明石書店、加藤秀一(2006)『知らないこと恥ずかしい ジェンダー入門』朝日新聞社 | | | | | | |
| 【関連科目】 女性と仕事、女性のライフステージと運動、スポーツ社会学、スポーツ心理学 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 随時実施する小テスト・小レポート30%、期末試験70%で評価する。 ※試験は試験期間中に別途実施 | | | | | | |

| 科目名 | データ分析と統計学 | | | | 担当者 | 五月女 仁子 | |
|---|------------------------------|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Data Analysis and Statistics | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学の基本的な考え方や統計手法を、実際のデータを通して学び分析する能力を身につけます。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 代表値とは 【 到達目標 】 (1) データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第9回 カイ二乗検定 【 到達目標 】 (1) 仮説検定の考え方を理解する。 (2) カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第2回 度数分布表とヒストグラム 【 到達目標 】 (1) データの特徴にはばらつきも考えられる。ばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第10回 t検定 【 到達目標 】 (1) 実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第3回 データのばらつきを数値に表すには 【 到達目標 】 (1) ばらつきの度合いを数値として表すものには何かがあるかを学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第11回 分散分析 【 到達目標 】 (1) 実際の例をとらえながら、分散分析を理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | |
| 第4回 散布図と相関、相関係数、回帰直線 【 到達目標 】 (1) 散布図を作成し、パターンを理解する。 (2) 相関係数の求め方を学ぶ。 (3) 回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第12回 分析の実践1 【 到達目標 】 (1) 第5回で実施したアンケート結果を集計することで、生のデータを使つての集計方法を学ぶ。更に、データ分析を行い、データの特徴や、関連性を分析することを学習する。 【授業時間外学習】 集計方法や分析方法について復習する。 | | | |
| 第5回 アンケート作成 【 到達目標 】 (1) アンケート作成の基本を学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考えアンケートを作成する。 | | | | 第13回 分析の実践2 【 到達目標 】 (1) 第12回で分析した結果をグラフや表にまとめることで、結果を伝える能力を身につける。 【授業時間外学習】 まとめた結果を再度確認する。 | | | |
| 第6回 確率について 【 到達目標 】 (1) 確率の意味を復習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第14回 課題の発表1 【 到達目標 】 (1) 第13回で作成した結果を発表することを通して、発表方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 各グループで反省点、良かった点をまとめる。 | | | |
| 第7回 正規分布とその他の分布 【 到達目標 】 (1) どのような分布があるかを学ぶ。 (2) 一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 (3) 標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | 第15回 課題の発表2 【 到達目標 】 (1) 第14回での課題発表の反省を通して、分析方法やグラフや表の表し方などを学ぶ。 【授業時間外学習】 分析方法と表やグラフについて復習する。 | | | |
| 第8回 平均と分散の推定と区間推定 【 到達目標 】 (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解できるように工夫します。 また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半10分から15分はOUTPUTする時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。 課題はグループになって行うことが多いので、数学やコンピュータが苦手な人でも取り組むことができます。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 講義中に指示します。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 数と論理、コンピュータ実践演習、情報処理（情報機器の操作を含む） | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 ミニ課題（講義中に出すもの）30%、大きな課題（第14回での発表）40%、期末試験（試験は試験期間中に別途実施）30%として評価します。欠席した場合は、総得点から減点します。 | | | | | | | |

| 科目名 | 教養総合科目 | | | | 担当者 | 鈴木 信夫・牧 琢弥 | |
|--|-----------------------------|---------|----------|---|-----------|------------|--|
| 英文名 | General Educational Studies | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 体育・スポーツの主要分野の中には、生理学や栄養学、バイオメカニクス等の自然科学系の科目が含まれ、それらの科目を充分理解するためにも、自然科学に関する基礎知識をもつことは重要である。本講義を履修し、自然科学に位置づけられる、各学問分野の代表的なトピックスの概要を学ぶことにより、自然科学という学問を総合的に把握し、理解することを目的とする。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 自然科学にはどのような分野の学問があるか、また、それらが文明の発展にもなつて発達してきた概要を理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。 | | | | 第9回 地球科学(1) 【 到達目標 】 地球がどのようにして誕生したか、さらにプレートテクトニクスについて理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | |
| 第2回 天文学(1) 【 到達目標 】 古代の人々の地球観・宇宙観を理解し、それらがどのように私たちが知る地球観・宇宙観に発展していったかを理解する。 【授業時間外学習】 ネットなどで古代ローマ時代の地球観・宇宙観について調べる。 | | | | 第10回 地球科学(2) 【 到達目標 】 火山噴火や地震発生のメカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | |
| 第3回 天文学(2) 【 到達目標 】 宇宙の誕生について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | | 第11回 地球科学(3) 【 到達目標 】 大気・海流の特徴や、地球に刻まれた変動の歴史について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | |
| 第4回 天文学(3) 【 到達目標 】 恒星の一生について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | | 第12回 生物学(1) 【 到達目標 】 生命誕生のシナリオと生命の基本単位である細胞の完成について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | |
| 第5回 物理学(1) 【 到達目標 】 物質を構成する最小の単位、素粒子について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | | 第13回 生物学(2) 【 到達目標 】 進化論について、ラマルク以前の考え方、ラマルク、ダーウィンやウォーレスの進化論、中立説等について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | |
| 第6回 物理学(2) 【 到達目標 】 古典力学における運動の法則、光の性質、運動の相対性について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | | 第14回 生物学(3) 【 到達目標 】 生物の形態や生態を比較することで、それらの生物の系統を推定したり、DNAの塩基配列から進化を推定する方法を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | |
| 第7回 物理学(3) 【 到達目標 】 アインシュタインの特殊相対性理論を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | | 第15回 生物学(4) および理解度の確認 【 到達目標 】 現在の地球において、生物多様性を維持することがなぜ、必要なかを理解する。第9回～第15回までの理解度の確認をおこなう。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | |
| 第8回 物理学(4) および理解度の確認 【 到達目標 】 仕事とエネルギーについて理解する。第2回～第8回までの理解度の確認をおこなう。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。第1回目は鈴木・牧が、第2回～8回目は牧が、第9回～15回目は鈴木が担当する。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、毎回プリントを配布する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 人間生活と地球環境 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 第8回および第15回で実施する理解度確認テストの成績を総合して評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 英語E P P | | | | 担当者 | 加 賀 岳 彦 | |
|---|-----------------------------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英 文 名 | English for Professional Purposes | | | | | | |
| 単 位 数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 この授業では、これまで学校で学んできた「学習英語」をベースに、さらに実社会(政治・経済等)、職場、ビジネス等を想定した「社会人になるための英語」を学ぶ。ねらいは次の3点である。1) 学校とは多少異なる使われ方をする社会人向け重要語彙を新たに学ぶ、2) 実社会(および国際社会)で「常識」となっている表現等を学び、それに関連する実用英文・解説英文等を正確に読めるようになる、3) 大人の学習者すなわち「自立的学習者」になるべく、辞書や参考書、その他必要な手段を利用して「自力で」学んでいけるようになる。受講者は毎回入念に準備した上で授業に臨むことになる。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 授業説明・学習のポイント 【 到達目標 】 この授業の目的とねらいを理解し、どのように学習していくかを把握する。「社会人になるための英語」とはどういうものか、予行演習を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を振り返り、今後自分に必要な学習の内容と方向性を意識すること。予習すること。 | | | | 第9回 Law and Order 【 到達目標 】 「法・治安・犯罪」等に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、法に関する実用英文および英文解説記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | |
| 第2回 Job Application & Job Interview 【 到達目標 】 「求職・求人・面接」等に関する必須語彙・表現を習得し、それに関する実用英文を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | | 第10回 Consumer Society 【 到達目標 】 「消費および消費社会」に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、それに関する英文解説記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | |
| 第3回 Hiring and Training 【 到達目標 】 「雇用・研修」に関する必須語彙・表現を習得し、それに関する実用英文を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | | 第11回 Advertising 【 到達目標 】 現代生活の「広告・宣伝」に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、それに関する実用英文および英文解説記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | |
| 第4回 Communication at Workplaces ① Small Talk 【 到達目標 】 「集会や社交におけるコミュニケーションのあり方」をテーマ(この回はsmall talk)にして、それに関する必須語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | | 第12回 Health Matters 【 到達目標 】 「健康」に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、それに関する実用英文および英文解説記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | |
| 第5回 Communication at Workplaces ② Team 【 到達目標 】 「職場におけるコミュニケーションのあり方」をテーマ(この回は team)にして、それに関する必須語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | | 第13回 Controversies 【 到達目標 】 社会や職場には、賛否両論を引き起こす様々な難しい「問題」が多く発生する。これらに関する必須基本語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | |
| 第6回 Policy, Rules, and Strategies 【 到達目標 】 団体や職場における「やり方」(ポリシー、規則、戦略)を巡る必須語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | | 第14回 Review 1 【 到達目標 】 これまでの学習内容を復習し、小テストでその習得度・定着度を測り、重要語彙等をもう一度確認する。 【授業時間外学習】 これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。 | | | |
| 第7回 Social Welfare 【 到達目標 】 「社会福祉・福利厚生」を巡る必須基本語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | | 第15回 Review 2 【 到達目標 】 今学期の習得内容を総チェックし、各自の今後の課題と努力点を明らかにする。 【授業時間外学習】 これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。 | | | |
| 第8回 Economy Matters 【 到達目標 】 「経済」に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、経済問題に関する英文解説記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 丹念な予習を確実に行うこと。「自立的学習力」の養成も大事な目標とする。 ・ 小テストにしっかりと取り組み、常に語彙力・表現力の向上に努めること。 ・ 授業期間内にTOEICもしくは英検を受験することを強く要請する。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 テキスト・参考書・辞書等は随時授業内で指示する。もしくはハンドアウトを配布する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業での課題(宿題、小テスト、授業での応答等)50%、テスト50%で評価する。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|-------------------|--|-------|-----------|---------|--|
| 科目名 | コンピュータ実践演習 | | | | 担当者 | 五月女 仁子 | |
| 英文名 | Lecture and Practice in Information and Communication Technology | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、データ分析やデータベース操作を身に付けます。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 情報技術について 【 到達目標 】 (1) 情報技術とは何かを理解する。 (2) 電子商取引の例を見ながら理解を深める。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | 第9回 データベースについて 【 到達目標 】 (1) データベースとは何かについて学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | | |
| 第2回 レポート作成と論文作成の基礎 【 到達目標 】 (1) レポート作成に必要なWordの技術を学ぶ。 (2) 長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | 第10回 データベースの基本操作 【 到達目標 】 (1) フィルタについて学ぶ。 (2) ピボットの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | | |
| 第3回 プレゼンテーション資料の作成 【 到達目標 】 (1) プレゼンテーションについての技法を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | 第11回 データベース関数について 【 到達目標 】 (1) データベース関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | | |
| 第4回 クラウドについて 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考える。 | | | 第12回 Excelを利用したデータ分析の基礎 【 到達目標 】 (1) Excelの分析ツールを利用して、基本的統計量やヒストグラムの作成を学ぶ。 (2) Excelの分析ツールを利用して、回帰分析を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | | |
| 第5回 グループにおけるコミュニケーション実践1 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveを利用したアンケートの作成方法、集計技術を理解する。 【授業時間外学習】 アンケートフォームからアンケートを体験する。 | | | 第13回 Excelを利用したデータ分析の応用 【 到達目標 】 (1) 実際のデータを使いながら、第9回と第10回で学んだデータ分析方法を使い、どのようなことがいえるのかを理解する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | | |
| 第6回 インターネットの仕組みと現状、情報倫理について 【 到達目標 】 (1) インターネットの仕組みを理解する。 (2) インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。 (3) 情報についてのマナー、セキュリティ、プライバシー、知的財産権について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | 第14回 グループにおけるコミュニケーション実践3 【 到達目標 】 (1) 第5回と第7回で行ったコミュニケーション実践1と2についての発表を行い、実践を通してプレゼンテーション方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | | |
| 第7回 グループにおけるコミュニケーション実践2 【 到達目標 】 (1) 実践を通して、情報コミュニケーションの技術を理解する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | 第15回 Excelの総復習 【 到達目標 】 (1) 第8回から第13回まで学習した内容を総合的に学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | | |
| 第8回 Excelの応用 【 到達目標 】 (1) Excelの応用関数(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。 (2) シートの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 1年生前期に行った情報処理の知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半10分から15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 資料を配付します。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 情報処理（情報機器の操作を含む） | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回行われるミニ課題（講義中に出すもの）30%、グループ課題（第5回、第7回、第14回）35%、総復習問題（第15回）35%として評価します。欠席した場合は、総得点から減点します。 | | | | | | | |

| 科目名 | カウンセリング論 | | | | 担当者 | 角田和也 | |
|---|------------------|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Basic Counseling | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 本来カウンセリングは、「心の専門家」と呼ばれる人が行うが、その基本や技法には日常生活において人とかかわる際にも活かせる有用な知見が少なからず含まれている。本講義では、こうした知識や技術を学習する。 本講義は教職科目にもなっているため、学校現場で教員が生徒への指導や相談を行う際に生じる問題についても学習し、さらにスクール・カウンセリングの実際にも触れていきたい。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション／カウンセリングとは何？ 【 到達目標 】 (1)自分の理解している「カウンセリング」とは何かを説明できる。 | | | | 第9回 「きく」ことについて② 【 到達目標 】 (1)「きく」ということを体験的に理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第2回 カウンセリングの実際 【 到達目標 】 (1) カウンセリングの正しい認識をもつことができる。 | | | | 第10回 「きく」ことについて③ 【 到達目標 】 (1)前回の授業をうけて、さらにきく際に注意するポイントについての理解を深める。 | | | |
| 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第3回 教員がカウンセリングを学ぶ意義 【 到達目標 】 (1)教員を目指す学生がなぜカウンセリングを学ぶのか、その意義を理解する。 | | | | 第11回 「話す」ことについて① 【 到達目標 】 (1)カウンセリングの「話す」ということを理解する。 (2)話す際に注意するポイントを理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第4回 スクール・カウンセリングの実際① 学校教育相談を中心に 【 到達目標 】 (1)スクール・カウンセリングの現状のうち、主に学校内での教育相談の実際について理解する。 | | | | 第12回 「話す」ことについて② 【 到達目標 】 (1)不快に思われない話し方について理解を深める。 | | | |
| 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第5回 スクール・カウンセリングの実際② 教育相談の難しさについて 【 到達目標 】 (1)教員の立場で実際に教育相談（カウンセリング）を行う際の課題について理解する。 | | | | 第13回 「みる」ことについて① 【 到達目標 】 (1)カウンセリングの「みる」ということを理解する。 (2)「みる」ということを体験的にも理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第6回 スクール・カウンセリングの実際③ 連携を中心に 【 到達目標 】 (1)スクール・カウンセリングの現状のうち、主に学校内・外における連携の実際について理解する。 | | | | 第14回 「みる」ことについて② 【 到達目標 】 (1)引き続き「みる」ということを体験し、さらに理解を深める。 | | | |
| 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第7回 スクール・カウンセリングの課題と今後について 【 到達目標 】 (1)（前回までの授業を受けて）スクール・カウンセリングが抱えている課題と今後の方向性について理解する。 | | | | 第15回 「みる」ことについて③ 【 到達目標 】 (1)みられている側の気持ちを理解する。 (2)みる際に注意するポイントを理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。 | | | |
| 第8回 「きく」ことについて① 【 到達目標 】 (1)カウンセリングの「きく」ということを理解する。 (2)きく際に注意するポイントを理解する。 | | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 ・1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらを参考にしてください。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。 | | | | | | | |

| 科目名 | スポーツとドイツ語 | | | 担当者 | 都 筑 真 | |
|---|---------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Sports Culture and German | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 スポーツの文化的側面を概観し、スポーツ文化に関する教養を高めるために、スポーツ先進国といわれるドイツ語圏のスポーツ文化およびスポーツに関する専門的ドイツ語を理解する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 ドイツのスポーツ文化に関する資料を図書館などで調べる。 | | | 第9回 ドイツのスポーツ事情 2 【 到達目標 】 ドイツのスポーツ政策とシステムについて理解する。 【授業時間外学習】 ドイツのスポーツ政策とシステムについて復習する。 | | | |
| 第2回 文字と発音、あいさつ表現 【 到達目標 】 ドイツ語の文字と発音を習得する。 【授業時間外学習】 文字の発音とあいさつ表現を復習する。 | | | 第10回 スポーツ観戦ミニ会話 1 (施設について) 【 到達目標 】 スポーツ観戦のための表現を理解する。 【授業時間外学習】 授業で学習したドイツ語表現を復習する。 | | | |
| 第3回 スポーツの基本語彙 【 到達目標 】 スポーツに関するドイツ語の基本語彙を学習する。 【授業時間外学習】 基本語彙を復習する。 | | | 第11回 スポーツ観戦ミニ会話 2 (試合について) 【 到達目標 】 スポーツ観戦のための表現を理解する。 【授業時間外学習】 授業で学習したドイツ語表現を復習する。 | | | |
| 第4回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 1 【 到達目標 】 ドイツ語の名詞、代名詞、動詞についての基本的文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 名詞、代名詞、動詞の文法を復習する。 | | | 第12回 スポーツ観戦ミニ会話 3 (試合後の感想) 【 到達目標 】 スポーツ観戦のための表現を理解する。 【授業時間外学習】 授業で学習したドイツ語表現を復習する。 | | | |
| 第5回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 2 【 到達目標 】 ドイツ語の人称変化についての基本的文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 人称変化の文法を復習する。 | | | 第13回 スポーツ映画 【 到達目標 】 ドイツ語のスポーツ映画の中で用いられたスポーツ用語を理解する。 【授業時間外学習】 映画の中で使われるスポーツ用語を復習する。 | | | |
| 第6回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 3 【 到達目標 】 ドイツ語の接続詞についての基本的文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 接続詞の文法を復習する。 | | | 第14回 「スポーツ」の語源と意味 【 到達目標 】 「スポーツ」という言葉の語源と意味を理解する。 【授業時間外学習】 「スポーツ」という言葉の語源と意味について復習する。 | | | |
| 第7回 ドイツ語の基礎の復習 【 到達目標 】 前回までのドイツ語文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 前回までに学習した語彙や文法の復習をする。 | | | 第15回 理解度の確認と補足説明 【 到達目標 】 「スポーツ」の言語的・文化的意味の理解度を確認する。 【授業時間外学習】 前回までに配布した資料を復習する。 | | | |
| 第8回 ドイツのスポーツ事情 1 【 到達目標 】 ドイツのスポーツクラブの状況について理解する。 【授業時間外学習】 ドイツのスポーツクラブの状況について復習する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 語学の習得には継続と反復が求められる。授業時の学習だけでなく、授業の前後においても語彙、文法、会話の復習をしっかりと行うこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特定の教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅰ、ドイツの言語と文化Ⅱ、教養としてのドイツ言語論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業時の課題 (50%) と学期末レポート (50%) で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 教養としての日本文学 | | | 担当者 | 稲井達也 | |
|---|-------------------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Introduction to Japanese Literature | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 |
| 【目的とねらい】 宮澤賢治は童話や膨大な詩を書き、いまも多くの人の心を魅了してやまない。東日本大震災後、賢治の作品は改めて注目されている。本科目では、没後80年余を迎えた賢治のひとと生涯について理解を深める。賢治の主要な童話や詩の鑑賞と分析を行いながら、賢治が私たちに伝えようとした思想に少しでも近づくことを目指す。また、作品を通して、自ら文学を楽しむ態度を養うとともに、文学作品の分析力を身に付ける。受講者は自ら主体的に「読者」として作品と向き合い、作品への理解を深めることを通して、問題意識を持って現代社会を問い直す視点を持つことが必要とされる。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 この授業の目的とねらい、宮澤賢治の生涯、同時代の作家との違い 【 到達目標 】 教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。また、宮澤賢治の生涯について知る。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | 第9回 イーハトーブ② 【 到達目標 】 『どんぐりと山猫』『狼森と狐森と盗森』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | |
| 第2回 自己犠牲① 【 到達目標 】 『グスコブドリの伝記』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | 第10回 イーハトーブ③ 【 到達目標 】 『風の又三郎』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | |
| 第3回 自己犠牲② 【 到達目標 】 『戌十公園林』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | 第11回 生命と宇宙① 【 到達目標 】 『銀河鉄道の夜』を読み解く① 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | |
| 第4回 生命① 【 到達目標 】 『よだかの星』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | 第12回 生命と宇宙② 【 到達目標 】 『銀河鉄道の夜』を読み解く② 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | |
| 第5回 生命② 【 到達目標 】 『なめとこ山の熊』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | 第13回 生命と宇宙③ 【 到達目標 】 『銀河鉄道の夜』を読み解く③ 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | |
| 第6回 家族① 【 到達目標 】 『疾中』（『病中』『眼にて云ふ』『夜』など）を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | 第14回 生命と宇宙④ 【 到達目標 】 『銀河鉄道の夜』を読み解く④ 【授業時間外学習】 授業記録の内容を充実させるため、授業全体を振り返り、加筆や訂正を行う。 | | | |
| 第7回 家族② 【 到達目標 】 『青森挽歌』『オホーツク挽歌』を読み解く。また兄・清六の随筆を読む。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | 第15回 宮澤賢治と現代社会 【 到達目標 】 東日本大震災後に宮澤賢治をどう読むべきかについて考え、賢治が私たちに問いかけてくることや、自然科学が私たちの生活に果たす役割について考え、現代社会を深く問い直すための視点を持つ。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、自己評価を行う。 | | | |
| 第8回 イーハトーブ① 【 到達目標 】 『注文の多い料理店』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ・文庫本3冊をテキストとするので、履修者は第2回の授業までに各自で購入しておくこと。 ・宮澤賢治の諸作品を精読し、作品分析を行う。次の授業で取り扱う作品を事前に読むのを前提に講義を進める。 ・定期試験を実施する。試験は試験期間中に別途実施。定期試験では指定された新潮文庫3冊（教科書）を使用する。それ以外の持ち込みは認めない。 ・自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書 『新編風の又三郎』宮澤賢治著（新潮文庫）、『銀河鉄道の夜』宮澤賢治著（新潮文庫）、 『注文の多い料理店』宮澤賢治著（新潮文庫） ※3冊とも使用する 参考書 『宮澤賢治-存在の祭りの中へ-』見田宗介著（岩波現代文庫）、『宮澤賢治』吉本隆明著（ちくま学芸文庫） | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 ・授業時の提出物（40%）：授業の講義記録や作品を読んだ意見等を評価する。 ・定期試験（60%）：作品、及び授業内容への理解度を評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | ヨーロッパの文学と文化 | | | | 担当者 | 加賀岳彦 | |
|---|---------------------------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | European Literature and Culture | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 4 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 ヨーロッパの文学は、ヨーロッパのみならず、世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、その文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、また現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観 【到達目標】 授業内容を理解する。 ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | | 第9回 ヨーロッパ中世の文学 【到達目標】 ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | |
| 第2回 ヨーロッパ文学の源流 ギリシャ神話 【到達目標】 ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | | 第10回 ルネサンスの文学① 【到達目標】 中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何かを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | |
| 第3回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学① 【到達目標】 ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | | 第11回 ルネサンスの文学② 【到達目標】 前回到続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | |
| 第4回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学② 【到達目標】 『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | | 第12回 宗教改革 【到達目標】 宗教改革（Reformation）は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | |
| 第5回 ヨーロッパの古典思想 古典ギリシャ哲学 【到達目標】 その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | | 第13回 ヨーロッパ近代の文学① 【到達目標】 宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。デフォー、スウィフト、ディケンズの作品を扱う。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | |
| 第6回 ユダヤ＝キリスト教① 『旧約聖書』 【到達目標】 ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | | 第14回 ヨーロッパ近代の文学② 【到達目標】 18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱った表現していったのか、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | |
| 第7回 ユダヤ＝キリスト教② 『新約聖書』 【到達目標】 前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | | 第15回 ヨーロッパの現代文学 【到達目標】 「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、政治体制・イデオロギー・不条理など、ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | |
| 第8回 ヨーロッパ中世の文化 【到達目標】 ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業時に配布するテキストをしっかりと読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 授業時にテキストをプリントで配布する。また随時、重要文献を指示する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業時での課題50%、理解度確認のためのテスト50%で評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 国際関係と政治 | | | | 担当者 | 中村安菜 | |
|--|--------------------------------------|-------------------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | International Relations and Politics | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 4 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 日々の新聞やテレビニュースに登場するさまざまな政治問題を理解するためには、関連する歴史的背景や国際関係についての理解が必要である。この講義を受講することによって、一つでも多くの問題に関心を持ち、理解を深めることが出来るようにしたい。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 「国際関係」とはどのようなものか 【 到達目標 】 (1) 国際関係を理解するには、今日存在する国家や国家機関について知るだけでなく、それらの歴史的背景を知る必要があることを理解する。 【授業時間外学習】 現在の国際社会の中で問題になっている事例を新聞で調べる。 | | | | 第9回 日本の領土問題① 【 到達目標 】 (1) 北方領土問題とはどのようなものであるのか。その歴史の経緯について理解する。 【授業時間外学習】 北方領土が載っている日本地図をコピーする。 | | | |
| 第2回 国際社会の成立と展開① 【 到達目標 】 (1) 「国際社会」が成立した過程とその展開について、ヨーロッパを中心に理解する。 【授業時間外学習】 ウェストファリア体制について調べる。 | | | | 第10回 日本の領土問題② 【 到達目標 】 (1) 竹島問題、尖閣諸島問題とはどのようなものであるのか。その歴史の経緯について理解する。 【授業時間外学習】 竹島と尖閣諸島が載っている日本地図をコピーする。 | | | |
| 第3回 国際社会の成立と展開② 【 到達目標 】 (1) 第二次世界大戦以降の冷戦時代について、その始まりと当時の世界について理解する。 【授業時間外学習】 ヤルタ会談で話し合われた内容を簡易書きでまとめる。 | | | | 第11回 日本の戦争・戦後責任 【 到達目標 】 (1) 昭和の大戦に関連する責任について、日本がどのような姿勢をとっているかについて理解する。 【授業時間外学習】 中国残留日本人とはどのような人たちかを調べる。 | | | |
| 第4回 国際社会の成立と展開③ 【 到達目標 】 (1) 冷戦の終焉と、その後の世界がどのような時代を迎えたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 ベルリンの壁崩壊を伝える新聞記事・ニュースなどに目を通しておく。 | | | | 第12回 防衛と日米安全保障条約 【 到達目標 】 (1) 今日の日本がどのような仕組みで自分の国を守ろうとしているのか、憲法と自衛隊、日米安全保障条約について理解する。 【授業時間外学習】 日本国憲法第9条は、どのように解釈するべきかを考える。 | | | |
| 第5回 植民地の歴史① 【 到達目標 】 (1) かつての欧米諸国がどのような植民地分割競争を繰り広げたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 かつての植民地で、現在独立国となっている国を調べる。 | | | | 第13回 今日の日本① 【 到達目標 】 (1) 国際的に、ずば抜けた経済繁栄を誇る日本。そのアキレス腱、エネルギー供給問題について理解する。 【授業時間外学習】 日本における具体的なエネルギー供給方法について調べる。 | | | |
| 第6回 植民地の歴史② 【 到達目標 】 (1) かつての植民地が現在どのような状況になっているのかを理解する。 【授業時間外学習】 南アフリカではどのような植民地政策が採られていたかを調べる。 | | | | 第14回 今日の日本② 【 到達目標 】 (1) 良好な国際関係を抜きにしては日々の食事にさえ事欠く日本の食糧供給状況について理解する。 【授業時間外学習】 自分の好きな食べ物について、どれくらいの分量が毎年輸入されているかを調べる。 | | | |
| 第7回 日本の国際関係① 【 到達目標 】 (1) 日本と国際社会とのかかわりについて、明治から昭和初期までの経緯について理解する。 【授業時間外学習】 明治時代以降、日本が参加した戦争にはどのようなものがあるかを調べる。 | | | | 第15回 国際関係と歴史 【 到達目標 】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 自分が関心をもつ国際問題について、ミニ・レポートにまとめる。 | | | |
| 第8回 日本の国際関係② 【 到達目標 】 (1) 日本と国際社会とのかかわりについて、昭和の大戦から今日までの経緯について理解する。 【授業時間外学習】 大戦以降、日本はどのようにして国際社会へ復帰したかを調べる。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 開講時に指示する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | | |

| 科目名 | 人間生活と地球環境 | | | | 担当者 | 鈴木信夫 | |
|---|----------------------------------|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Human life and Earth Environment | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 4 | ／選択の区別 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。 次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。 | | | | 第9回 温室効果ガス 【 到達目標 】 中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べること。 | | | |
| 第2回 原始地球の環境(1) 【 到達目標 】 原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。 | | | | 第10回 崩れる生態系 【 到達目標 】 外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。 | | | |
| 第3回 原始地球の環境(2) 【 到達目標 】 今から6億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。 | | | | 第11回 リサイクル法(1) 【 到達目標 】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドイツのリサイクルに関する現状(問題点)を調べること。 | | | |
| 第4回 恐竜の絶滅 【 到達目標 】 生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。 | | | | 第12回 リサイクル法(2) 【 到達目標 】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べること。 | | | |
| 第5回 人為圧による野生生物の絶滅 【 到達目標 】 野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやタスマニアタイガーの絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドードー・タスマニアタイガー以外の絶滅動物について調べること。 | | | | 第13回 リサイクル法(3) 【 到達目標 】 日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで日本におけるゴミリサイクルの現状(問題点)を調べること。 | | | |
| 第6回 酸性雨 【 到達目標 】 酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べること。 | | | | 第14回 環境監査(1) 【 到達目標 】 環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)の意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。 | | | |
| 第7回 水問題 【 到達目標 】 人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。 | | | | 第15回 環境監査(2) 【 到達目標 】 EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。 | | | |
| 第8回 温室効果ガス 【 到達目標 】 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、プリントを配布する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 教養総合科目 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート課題を100%として評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 人間の観察 | | | | 担当者 | 水戸和幸 | |
|--|--------------------|-------------------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Observation of Man | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 4 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 人間の観察は今、生きている人間をよく観察し、よりよい人間、生活、生き方、また人類の健やかな未来を見出せる目や行動につながる糸口になることを目的としている。まず、ヒトの顔、身体の形、形質やしぐさ、表情、動作、行動の観察を行う。次に、観察法やまとめ方、発表の仕方を学ぶ。さらに、その視点を身体内部や、普段身近に見られないさまざまな極限状態の人間へ広げ、人間の多様な変異と可能性を観察する。また、自分で調査したものを客観的データとしてまとめ、考察し、発表する。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 イントロダクション ～なぜ人間の観察が必要か～ 【 到達目標 】 人間の観察は医療・福祉、スポーツ、教育、労働、広告デザインなど人間の生活を営む上で重要なことである。様々な分野における人間観察の例を挙げ人間観察の必要性を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | | 第9回 からだの中を覗く～脳～ 【 到達目標 】 からだの中を覗くとして最も興味ある対象として、脳について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第2回 人間観察の対象、目的 【 到達目標 】 具体的な例を挙げて、人間観察の目的、その意義を認識してゆく。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | | 第10回 人間観察の実施1 【 到達目標 】 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。実際に調査を試みる。 【授業時間外学習】 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。そして、その成果を発表できるようにまとめる。 | | | |
| 第3回 人間の観察の実際 ～顔、身体、性格などの観察～ 【 到達目標 】 最も身近に観察できる自分の顔、手、からだの感覚、性格などを観察してゆく。毎日見ている顔や手など観察し、描画することで、その存在を正確に把握することを学ぶ。 【授業時間外学習】 授業中に観察した内容をレポートにまとめる。 | | | | 第11回 人間観察の実施2 【 到達目標 】 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。実際に調査を試みる。 【授業時間外学習】 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。そして、その成果を発表できるようにまとめる。 | | | |
| 第4回 人間観察の方法1 【 到達目標 】 人間は五官で感覚情報を受け取り、脳でその意味を理解（認知）し、行動している。感覚、認知、行動特性における人間の観察方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | | 第12回 極限の人々 ～大惨事に直面した人々～ 【 到達目標 】 実際に直面した人々の丁寧な映像記録から大惨事をできるだけ正確に理解するような姿勢を養う。 【授業時間外学習】 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。そして、その成果を発表できるようにまとめる。 | | | |
| 第5回 人間観察の方法2 【 到達目標 】 人間は五官で感覚情報を受け取り、脳でその意味を理解（認知）し、行動している。感覚、認知、行動特性における人間の観察方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | | 第13回 極限の人々 ～身体的なハンディを負った人～ 【 到達目標 】 何不自由なく動ける自分達には考えられないような日常生活の様子を観るにより、他者に対する理解を深める。 【授業時間外学習】 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。そして、その成果を発表できるようにまとめる。 | | | |
| 第6回 人間の行動観察・調査法を学ぶ 【 到達目標 】 人間行動の調査法を学び、その解析法を学ぶことでデータに客観性をもたせる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | | 第14回 人間観察調査の発表1 【 到達目標 】 調査した観察内容の結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。 【授業時間外学習】 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。 | | | |
| 第7回 野外調査の観察例、電車内の人観察、待ち時間、あいさつ、他 【 到達目標 】 おもに、日常生活または労働現場の行動観察の例を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | | 第15回 人間観察調査の発表2 【 到達目標 】 調査した観察内容の結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。 【授業時間外学習】 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。 | | | |
| 第8回 からだの中を覗く～五官～ 【 到達目標 】 ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。五感のしくみや特性について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 顔、手などの観察では鏡で自分の顔を描写して観察を確かなものとする。人間観察の野外調査法を学び、簡単な調査を自分で行う。データのまとめ方、発表の仕方なども学んでゆく。授業は主として視覚メディアを利用して説明する。人の極限状態を記録したビデオ鑑賞時は問題設定した資料を作成、配布する。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、関連資料を配布する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業中の小テスト30%、調査のプレゼン20%、レポート50% | | | | | | | |

| 科目名 | メディアテクノロジー | | | | 担当者 | 牧 琢 弥 | |
|--|------------------|-------------------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Media Technology | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 4 | | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | 教養・選択 | |
| 【目的とねらい】 ICT (Information & Communication Technology) の発展およびマルチメディア技術の発達、これまでのメディアの形態やコンテンツ製作の現場を大きく変えつつある。スポーツ、舞踊や教育の分野においても、このコンピュータ・メディアという側面からアプローチしようとするとき、そのテクノロジーについての知識が必要となってくる。この授業においては、画像・音声・映像といったデジタル素材をそれぞれの分野に活かすための基礎を実践を通して学ぶ。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 マルチメディアの基礎知識 【 到達目標 】 (1)マルチメディアとその利用について理解する。 (2)メディアとしてのコンピュータ・ネットワークの知識を得る。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | | 第9回 マルチメディアを使った分析の基礎知識 【 到達目標 】 (1)映像分析についての基礎知識を得る。 (2)映像分析への利用方法の初歩を習得する。(フレーム書き出し等) 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第2回 映像編集の基礎1 【 到達目標 】 (1)映像編集ソフトの利用方法について理解する。 (2)映像ファイルの読み込みについて習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | | 第10回 周辺機器とメディアについての理解と利用 【 到達目標 】 (1)より高度な映像・音声の編集方法を習得する。 (2)総合課題の準備について理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第3回 映像編集の基礎2 【 到達目標 】 (1)映像編集の基本操作を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | | 第11回 総合課題1 【 到達目標 】 (1)総合課題の撮影を行い、キャプチャについて理解する。 (2)各自映像・音声編集方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第4回 周辺機器と機材についての知識と利用方法 【 到達目標 】 (1)マルチメディアに利用する機材についての知識を得る。 (2)機材の使い方の基本を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | | 第12回 総合課題2 【 到達目標 】 (1)総合課題を完成させ、ファイルとして書き出しまでを習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第5回 映像と音声の取り込み 【 到達目標 】 (1)周辺機器からのマルチメディア・コンテンツの取り込みについて習得する。(とくにビデオ撮影とキャプチャ) 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | | 第13回 PCによるDVD編集・作成方法1 【 到達目標 】 (1)DVD作成について理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第6回 マルチメディア編集の実際1 【 到達目標 】 (1)実際にビデオで撮った映像の編集方法を実践的に習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | | 第14回 PCによるDVD編集・作成方法2 【 到達目標 】 (1)総合課題のDVD編集を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第7回 マルチメディア編集の実際2 【 到達目標 】 (1)映像編集の仕上げとレンダリングについて理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | | 第15回 マルチメディア・コンテンツの利用 【 到達目標 】 (1)マルチメディア・コンテンツの利用形態の知識を理解する。 (2)コンテンツのネットワークにおける利用方法を理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | |
| 第8回 データの知識とファイルへの書き出し 【 到達目標 】 (1)映像・音声ファイルについての基礎知識を理解する。 (2)編集した映像の書き出し方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業でやった内容を復習すること。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 マルチメディア・コンテンツの作成とその利用方法を、背景となる知識とともに、実践的に学ぶ。そのため、毎回の小さな課題による練習と総合的な課題を行う。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の提出課題を100%として評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ運動学 | | | | 担当者 | 石 塚 浩 | |
|--|-----------------------|---------|--|---------|-----------|---------|--|
| 英 文 名 | Sport Movement Theory | | | | | | |
| 単 位 数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 専門基礎・必修 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | | |
| 【目的とねらい】 運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーズ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 運動技能の構造 【 到達目標 】 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | 第9回 運動技能の構造に関する諸要因とその関連性 【 到達目標 】 運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | | |
| 第2回 技術や戦術と専門的体力の関係 【 到達目標 】 複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | 第10回 運動の構造(局面構造に着目して) (1) 【 到達目標 】 運動形式(循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ)から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | | |
| 第3回 運動技能と発育発達との関係 【 到達目標 】 年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に変化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。 【授業時間外学習】 中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。 | | | 第11回 運動の構造(リズム構造に着目して) (2) 【 到達目標 】 運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | | |
| 第4回 宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術 【 到達目標 】 武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。 | | | 第12回 運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | | |
| 第5回 戦術に関する要因とその具体例(1) 【 到達目標 】 代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念についても理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | 第13回 運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | | |
| 第6回 戦術に関する要因とその具体例(2) 【 到達目標 】 技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。 | | | 第14回 運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | | |
| 第7回 技術練習の方法 【 到達目標 】 技術練習を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。 | | | 第15回 運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得 【 到達目標 】 運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。 | | | | |
| 第8回 戦術練習の方法 【 到達目標 】 戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、板書を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳（大修館書店） 「運動学講義」金子明友、朝岡正雄・編著（大修館書店）、「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不味堂出版） | | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習A（体操・器械運動）、スポーツ方法実習B（陸上競技・水泳）、スポーツ方法実習C（バスケットボール・バレーボール）、スポーツコーチング論、スポーツ技術論、スポーツ戦術論、スポーツコンディショニング論、トレーニング計画論、運動技能評価法など | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 全体の20％は教回配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの80％はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に別途実施。 | | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ原論 | | | 担当者 | 都 筑 真 | |
|---|---------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Principle of Sports | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 専門基礎・必修 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 本講義では、古代から現代に至るまでのスポーツや体育の展開を概観しながら、これまでのスポーツや体育の在り様や諸問題について理解を深めることを目的とする。これまでのスポーツや体育の在り様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育の在り方を考察することをねらいとする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。 | | | 第9回 体育の理念の変遷 【 到達目標 】 (1)体育の理念の変化と、体育において求められる人間像の変化について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第2回 古代のスポーツ 【 到達目標 】 (1)ギリシャやローマなどの古代のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第10回 社会変化と今後の体育 【 到達目標 】 (1)社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、今後の体育の在り方について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第3回 中世のスポーツ 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパや日本などの中世のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第11回 スポーツのグローバリゼーションとナショナリズム 【 到達目標 】 (1)スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を踏まえ、この現象がもたらす長所や問題点について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第4回 近代のスポーツ① 【 到達目標 】 (1)イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第12回 スポーツと政治 【 到達目標 】 (1)スポーツ界が掲げる「政治のスポーツへの不介入」という理想と現実の乖離について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第5回 近代スポーツ② 【 到達目標 】 (1)近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第13回 スポーツとドーピング 【 到達目標 】 (1)スポーツ界におけるドーピング問題とアンチ・ドーピングの取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第6回 近代オリンピックの創始 【 到達目標 】 (1)近代オリンピックが何故創始されたのかを理解する。 (2)日本の近代オリンピックとの関わりを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第14回 スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1)スポーツ界における男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解する。 (2)性の多様な在り方が引き起こす問題について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第7回 近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題 【 到達目標 】 (1)戦争、テロ、ボイコットなど近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第15回 「スポーツ・フォー・オール」運動 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。 | | | |
| 第8回 体育とスポーツの違いと体育の目的 【 到達目標 】 (1)体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解する。 (2)体育は何を目的として行われているのかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ史 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|------------------|-------------------|---|---------|-------------|---------|
| 科目名 | スポーツ生理学 | | | 担当者 | 加茂 美冬・山口 眞紀 | |
| 英文名 | Sport Physiology | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | 専門基礎・選択 | | |
| 【目的とねらい】 運動の発現、運動に対する生体応答および適応について学び、運動やスポーツを生理学的側面から理解できる基礎的な力を身につける。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツ生理学とは何か 【到達目標】 スポーツ生理学の定義と本講義における学習到達目標を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ生理学の定義と講義の学習到達目標を振り返る。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 第9回 トレーニングによる神経・筋系の適応 【到達目標】 運動に伴う神経および筋の適応の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | |
| 第2回 運動の発現とその調節の仕組み(1) 神経系の基礎 【到達目標】 神経系の解剖、生理について理解を深め、運動発現とその調節の仕組みについての学習に備える。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 第10回 運動に対する生体応答(1) 呼吸系の基礎 【到達目標】 呼吸系の解剖、生理について理解を深め、運動に対する生体応答に関する学習に備える。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | |
| 第3回 運動の発現とその調節の仕組み(2) 運動の発現 【到達目標】 神経系における運動発現の仕組みの基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 第11回 運動に対する生体応答(2) 運動時の呼吸機能変化とその調節機構 【到達目標】 運動時の呼吸機能変化の目的とその調節機構を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | |
| 第4回 運動の発現とその調節の仕組み(3) 運動の調節 【到達目標】 神経系による運動および筋力調節の仕組みの基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 第12回 トレーニングによる呼吸系の適応 【到達目標】 運動に伴う呼吸系の適応の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | |
| 第5回 トレーニングによる神経系の適応 【到達目標】 運動に伴う神経系の適応の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 第13回 運動に対する生体応答(3) 循環系の基礎 【到達目標】 循環系の解剖、生理について理解を深め、運動に対する生体応答に関する学習に備える。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | |
| 第6回 運動の発現とその調節の仕組み(4) 筋系の基礎 【到達目標】 筋系の解剖、生理について理解を深め、神経系からの指令を受けた筋が収縮し運動が発現する仕組みの学習に備える。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 第14回 運動に対する生体応答(4) 運動時の循環機能系変化とその調節機構 【到達目標】 運動時の循環機能系変化の目的とその調節機構(神経調節、液性調節)を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | |
| 第7回 運動の発現とその調節の仕組み(5) 筋力を決定する因子 【到達目標】 筋力を決定する種々の因子について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 第15回 トレーニングによる循環系の適応 【到達目標】 運動に伴う循環系の適応の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。 | | | |
| 第8回 運動の発現とその調節の仕組み(6) 筋疲労 【到達目標】 持続や反復に伴う筋力の変化とその仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業は教科書とパワーポイントを用いて進め、資料は適宜配布する。 また、講義後、知識の理解度を把握するため講義内容に関する小課題を実施する場合がある。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「運動生理学の基礎と発展」 春日規克、竹倉宏明編著、フリースペース | | | | | | |
| 【関連科目】 機能解剖学、生理・生化学入門 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 小課題を20%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)を80%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ栄養学 | | | 担当者 | 古泉佳代 | |
|--|------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Sports Nutrition | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 日常の食生活が体格や健康状態に影響を及ぼすこと、すなわちウェイトコントロール、骨密度の増加、貧血予防などには日常生活において食事をしっかり摂ることが重要であることに気付く。そして栄養摂取と代謝のメカニズムを理解する。またスポーツ選手の身体組成とその評価法、競技特性と食事計画、水分補給、試合に向けた食事調整法、サプリメントとエルゴジェニックエイドなどを理解し、自らの競技力向上に役立たせるとともに、指導者としての能力を養う。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)「勝つための食事」について考えることができる。 (2)「食」とスポーツの関係を考えることができる。 【授業時間外学習】 一日の食事を見直す。 | | | 第9回 からだづくりとウェイトコントロール④たんぱく質2 【 到達目標 】 (1)必須アミノ酸を説明できる。 (2)アミノ酸価を算出し、たんぱく質の質を理解できる。 【授業時間外学習】 「いつ」「何を」食べるかを考えて食事をする。 | | | |
| 第2回 栄養バランスの評価① 【 到達目標 】 (1)栄養バランスの評価方法を理解する。 (2)自分の一日の食事の栄養バランスを評価できる。 【授業時間外学習】 一日の食事の栄養バランスを見直す。 | | | 第10回 エネルギー摂取と消費からダイエットを考える① 【 到達目標 】 (1)体重の増減とエネルギー消費と摂取の関係を理解できる。 (2)様々な身体組成の測定方法の長所と短所に気付く。 【授業時間外学習】 身体組成の測定をする。 | | | |
| 第3回 栄養バランスの評価② 【 到達目標 】 (1)期分けによる食事の違いに気付く。 (2)様々な状況下での食事を考えることができる。 【授業時間外学習】 一日の食事の栄養バランスを見直す。 | | | 第11回 エネルギー摂取と消費からダイエットを考える② 【 到達目標 】 (1)サプリメントとエルゴジェニックエイドの特徴を理解する。 (2)食事、食品の安全性に関する様々な視点を理解する。 【授業時間外学習】 サプリメント、エルゴジェニックエイドについてインターネットを利用し調べる。 | | | |
| 第4回 水分補給① 【 到達目標 】 (1)飲み物の糖度を測定し「味覚」に気付く。 (2)糖度や甘さと炭水化物の量の関係を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ中の水分補給を実践する。 | | | 第12回 エネルギー摂取と消費からダイエットを考える③ 【 到達目標 】 (1)骨障害、月経障害、摂食障害の関係を説明できる。 (2)エネルギー有用性を理解できる。 【授業時間外学習】 ミネラル(鉄・カルシウム)の摂取を意識して食事をする。 | | | |
| 第5回 水分補給② 【 到達目標 】 (1)運動時の水分補給について理解する。 (2)飲み物について多面的に考えることができる。 【授業時間外学習】 スポーツ中の水分補給を考え実践する。 | | | 第13回 「いつ」「どのように」「何を」食べるのかを考える① 【 到達目標 】 (1)エネルギー消費量を把握する方法を説明できる。 (2)運動強度と時間の関係を理解できる。 (3)一日のエネルギー消費量を算出できる。 【授業時間外学習】 運動強度を意識して生活する。 | | | |
| 第6回 からだづくりとウェイトコントロール①炭水化物 【 到達目標 】 (1)炭水化物の種類と吸収の関係を理解できる。 (2)炭水化物の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。 | | | 第14回 「いつ」「どのように」「何を」食べるのかを考える② 【 到達目標 】 (1)グリコーゲンローディングを説明できる。 (2)血糖値と食事の関係を理解できる。 【授業時間外学習】 「いつ」「どのように」「何を」食べるのかを意識して生活する。 | | | |
| 第7回 からだづくりとウェイトコントロール②ビタミン 【 到達目標 】 (1)ビタミンの特徴を説明できる。 (2)食事におけるビタミンB群の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 「いつ」「どのように」食べるかを考えて食べる。 | | | 第15回 試合前後の食事 【 到達目標 】 (1)試合を想定して、自分の食事を考えることができる。 【授業時間外学習】 自分自身の期分けに沿って食生活をまとめ、実践する。 | | | |
| 第8回 からだづくりとウェイトコントロール③脂質・たんぱく質1 【 到達目標 】 (1)脂質の質を理解し、摂取方法を考えることができる。 (2)たんぱく質の種類とたんぱく質の質を理解できる。 (3)たんぱく質の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 たんぱく質と炭水化物を同時に摂れる献立を考え、調理する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、さらに口頭でその詳細を説明する。受講者は提示された要点のみをノートに書き写すだけでなく、積極的にメモをとること。配布されたプリントはファイリングする等、各自整理して保存し、テストに備えること。簡単な測定や実験を授業内で行うことがあるが、持ち物等に関しては事前に説明するので、忘れずに用意すること。 授業にとどまらず、日常生活での自分自身の食事に興味を持ち、実践することがスポーツ栄養学を理解する近道である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 ・「ビジュアルワイド食品成分表 文部科学省科学技術・学術審議会 資源調査分科会 報告 五訂増補日本食品標準成分表」東京書籍 ・計算が苦手な受講者は電卓を用意しておくこと ・参考図書に関しては授業内で適宜、紹介する | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として期末テストの結果(100%)で評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。 出席を重視するため、良好な出席状況は当然である。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|------------------|-------------------|---|---------|-----------|---------|
| 科目名 | スポーツ心理学 | | | 担当者 | 佐々木万丈 | |
| 英文名 | Sport Psychology | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | 専門基礎・選択 | | |
| 【目的とねらい】 スポーツ心理学の研究領域で提出された知見と最新の研究成果に関わる基礎的事項を学習することが目的である。3年次履修のスポーツ科学論演習とスポーツコンディショニング演習Cでは、これらの心理学的知見が適用される。したがって、スポーツと研究の実践に結びつく心理学的知識の習得とその応用力を高めるための基盤づくりが本講義のねらいとなる。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツ心理学概説 【到達目標】 (1) スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。 (2) スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 研究課題の中から関心のある内容の一つを選び、提出されている知見を整理する。 | | | 第9回 スポーツ傷害と選手の心理 【到達目標】 (1) スポーツ選手の傷害発生を心理学的に理解し、説明することができる。 (2) ストレス理論を用いたスポーツ傷害の予防及び対処について説明することができる。 【授業時間外学習】 リハビリにおける心理的側面の留意点を整理し、ケガによる無力感からの脱出方法を考える。 | | | |
| 第2回 スポーツと不安 【到達目標】 (1) 不安には2つの側面（状態不安と特性不安）が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。 (2) 逆U字理論を理解し説明できる。 【授業時間外学習】 Anshelの「不安制御の指針」を参考に自分の不安コントロールに関わる課題を整理する。 | | | 第10回 スポーツとバーンアウト 【到達目標】 (1) スポーツ選手のバーンアウト発症機序を説明できる。 (3) バーンアウトや学習性無力感に対する対処法を説明できる。 【授業時間外学習】 バーンアウト及び学習性無力感の予防的対処のポイントをまとめる。 | | | |
| 第3回 スポーツとストレス 【到達目標】 (1) スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。 【授業時間外学習】 スポーツ中の心理社会的ストレスに適応するための認知的評価と対処行動の要点をまとめる。 | | | 第11回 スポーツとキャリアトランジション 【到達目標】 (1) スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 選手のキャリアトランジションに関わる問題を考慮し自らのトランジションを考案する。 | | | |
| 第4回 スポーツと動機づけ（1） 【到達目標】 (1) 動機づけとは何かを理解し、説明できる。 (2) 自己決定理論を理解し、スポーツ行動がどのように起こるのか説明できる。 【授業時間外学習】 動機づけの定義と外発的及び内発的動機づけの行動特徴をふまえ自らの運動活動を振り返る。 | | | 第12回 スポーツとライフスキル 【到達目標】 (1) スポーツ活動の効果の一つである心理社会的スキルはどのような心理的過程を経て習得されるのかを説明することができる。 (2) 心理社会的スキルがライフスキルに般化する過程を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 般化の過程及び要因を考慮したライフスキル形成に寄与する運動部活動のあり方を考案する。 | | | |
| 第5回 スポーツと動機づけ（2） 【到達目標】 (1) 期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。 (2) スポーツ場面のやる気の高め方を具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 各理論を説明ことができ、それをふまえて自らの動機づけに関する課題を整理する。 | | | 第13回 スポーツとジェンダー 【到達目標】 (1) スポーツ活動場面におけるジェンダーに関わる問題や課題を具体的に説明することができる。 【授業時間外学習】 スポーツ場面におけるハラスメントを防ぐための方策を考案する。 | | | |
| 第6回 スポーツと運動学習 【到達目標】 (1) 運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。 (2) 効果的な運動学習の方法を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 ランダム練習の有効性、効果的なフィードバックの方法をまとめ、自らの練習内容を見直す。 | | | 第14回 スポーツ心理学研究法（1）調査方法について 【到達目標】 (1) 質問紙法、面接法、事例研究法などを理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 調査法を整理し、自分が取り組みたい研究課題はどのような方法が可能かをまとめる。 | | | |
| 第7回 運動学習と認知 【到達目標】 (1) 認知とスキーマについて理解し、説明することができる。 (2) 高い運動スキルを支える認知的要因を説明できる。 【授業時間外学習】 自らが取り組むスポーツ種目の技能及び認知のスキーマを整理する。 | | | 第15回 スポーツ心理学研究法（2）統計法について 【到達目標】 (1) 度数分布、平均、分散、標準偏差について理解し、それぞれを実際に用いてデータを処理することができる。 【授業時間外学習】 出題された練習課題に取り組み、記述統計の求め方を見直す。 | | | |
| 第8回 スポーツと心理的競技能力 【到達目標】 (1) スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。 (2) DIPCAⅢにより自らの心理的競技能力を把握し、分析できる。 【授業時間外学習】 認知行動療法的セルフ・コーチングを用いて自らの競技場面における思考の問題を整理する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、さらに口頭でその詳細を説明する。受講者は提示された要点のみをノートに書き写すだけでは、学習としては不十分であることを理解しておく必要がある。集中をしてメモを取り、スポーツ活動に役立つオリジナルのスポーツ心理学ノートを作り上げる努力をすることが求められる。また、毎時間、その時間に取り上げられた内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。授業以外の時間を有効に使う復習と予習に取り組み、知識の定着を図る努力が必要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。 「スポーツ・モチベーション」西田 保編著（大修館書店）、「スポーツ心理学の世界」杉原 隆他・編著（福村出版） 「最新 スポーツ心理学 その軌跡と展望」日本スポーツ心理学会・編（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 人間心理の理解、ジェンダー論、データ分析と統計学、精神発達、精神保健、スポーツコンディショニング演習C | | | | | | |
| 【成績評価方法】 期末テストの結果（100%：試験は別途試験期間中に実施）に基づいて評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|--|-------------------|--|-------|-------------|---------|
| 科目名 | スポーツ方法実習A（体操・器械運動） | | | 担当者 | 佐藤麻衣子・木皿久美子 | |
| 英文名 | Practice of Sport Methods A (Gymnastics / Apparatus Exercise) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 | | | | | | |
| <p>中学校と高等学校の学習指導要領では7つの運動・スポーツ領域が提示されているが、その中で「体づくり運動」は、唯一、全ての学年で実施する最重要領域である。それは「体力を高める運動」と「体ほぐし運動」に大別されるが、本授業では「自己の体に気づき、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動」とされる後者の適正な実施法の習得を主目的とし、適宜、指導法についても解説する。</p> | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 長なわとび 課題Ⅰ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 運動効果を理解することが出来る。また持ち手の技術、怪我に対する注意点を熟知する。更に用具の用途が理解出来る。 | | | 第9回 リズム体操 課題Ⅳ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 課題曲に合わせた正確でかつ、緊張緩和を有する体操の模範及び「体ほぐし運動」を理解することが出来る。 | | | |
| 第2回 長なわとび 課題Ⅱ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 1本のなわのバリエーション（向かえ縄・かぶり縄）の技術に加え連続で跳ぶ過程で体力を高める運動効果を理解出来る。 | | | 第10回 リズム体操 課題Ⅴ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 課題曲に合わせた正確でかつ、緊張緩和を有する体操の模範及び「体ほぐし運動」を指導することが出来る。 | | | |
| 第3回 長なわとび 課題Ⅲ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 2本のなわのバリエーション（2本のなわを複数で同時に跳ぶ）技術を習得する課程で巧緻性を身につけることが出来る。 | | | 第11回 隊形の変化 課題Ⅰ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 資料（図）から課題「隊形の変化」に関する運動効果を理解することが出来る。 | | | |
| 第4回 長なわとび 課題Ⅳ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 3本のなわのバリエーションを連続で跳ぶ課程でその技術を習得し、更に巧緻性・体力を高める運動を理解することが出来る。 | | | 第12回 隊形の変化 課題Ⅱ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 課題「隊形の変化」を号令に合わせ、正確に実施することが出来る。更に仲間との協調性について理解することが出来る。 | | | |
| 第5回 長なわとび 課題Ⅴ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 これまでの課題及び、それらを指導することが出来る。更になわの持ち手に必要な技術を習得し、指導することが出来る。 | | | 第13回 隊形の変化 課題Ⅲ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 音楽に合わせた課題「隊形の変化」を、正しく実践することが出来る。更に課題の目的である律動的という意味合いを理解することが出来る。 | | | |
| 第6回 リズム体操 課題Ⅰ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 運動の効果を理解する。また、ダンスと体操の異なる点を理解することが出来る。 | | | 第14回 隊形の変化 課題Ⅳ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 グループを編成し、選択した音楽に合わせた課題「隊形の変化」を実施し、更に上肢、下肢の動きを完成することが出来る。 | | | |
| 第7回 リズム体操 課題Ⅱ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 スローテンポの課題曲に合わせ、緩やかでかつ正確な動きを創作・実施することで体をほぐす運動を理解することが出来る。 | | | 第16回 隊形の変化 課題Ⅴ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 完成度の高い課題「隊形の変化」を発表することが出来る。更にそれを指導することが出来る。 | | | |
| 第8回 リズム体操 課題Ⅲ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 課題曲に合わせ、緩やかでかつ正確な体操を、動きを止めず正確に説明することが出来る。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 | | | | | | |
| 15回分の授業について、内容とその効果をレポートして提出する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 | | | | | | |
| 実技にふさわしい服装で受講すること。（肩に髪の毛がつく学生は結ぶこと）なわとびの課題の際にはインシューズを用意すること。 *スポーツ方法実習Aは、体操と器械運動の両方を履修して1科目分とする。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | |
| プリント資料を配付する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| スポーツコーチング演習Ⅰ、スポーツコーチング演習Ⅱ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | |
| リズム体操（実技試験）50%、隊形の変化（発表）20%、レポート30%で評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|-------------------|---|-------|------------|---------|
| 科目名 | スポーツ方法実習A（体操・器械運動） | | | 担当者 | 小海 隆樹・中村 剛 | |
| 英文名 | Practice of Sport Methods A (Gymnastics / Apparatus Exercise) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階的練習方法を通して身につけていく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 マット運動の基礎技能 【 到達目標 】 (1) 器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。 (2) マット運動の基礎技能の習熟を図る。 | | | 第9回 マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）④ 【 到達目標 】 (1) ハンドスプリングの技能テスト | | | |
| 第2回 マット運動（倒立の基礎・接転系の技）① 【 到達目標 】 (1) 倒立の基礎知識・技能を習得する。 (2) 前転、後転の基礎知識・技能を習得する。 | | | 第10回 とび箱運動（反転系の技の基礎技能） 【 到達目標 】 (1) 反転系の技の基礎知識・技能を習得する。 | | | |
| 第3回 マット運動（倒立の基礎・接転系の技）② 【 到達目標 】 (1) 倒立の静止技能および歩行技能を習得する。 (2) 前転、後転の変形技を習得する。 | | | 第11回 とび箱運動（反転系の技・開脚とび） 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト | | | |
| 第4回 マット運動（倒立の基礎・接転系の技）③ 【 到達目標 】 (1) 倒立前転の技能を習得する。 (2) 伸膝後転の技能を習得する。 | | | 第12回 とび箱運動（反転系の技・開脚とび） 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト | | | |
| 第5回 マット運動（倒立の基礎・接転系の技）④ 【 到達目標 】 (1) 倒立前転の技能テスト (2) 伸膝後転の技能テスト | | | 第13回 鉄棒運動（支持回転系の技）① 【 到達目標 】 (1) 鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。 | | | |
| 第6回 マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）① 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。 | | | 第14回 鉄棒運動（支持回転系の技）② 【 到達目標 】 (1) 支持回転系の技の技能を習得する。 (2) 支持回転系の技の技能テスト | | | |
| 第7回 マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）② 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転の技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。 | | | 第16回 課題の達成度と身体知 【 到達目標 】 (1) 技の習得に必要な身体知について理解する。 (2) 達成できた動きの身体知について理解する。 | | | |
| 第8回 マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）③ 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転の技能テスト (2) ハンドスプリングの技能を習得する。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ（動感）を思い出しながら（想起）、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらかじめ動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。*スポーツ方法実習Aは、体操と器械運動の両方を履修して1科目分とする。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 <参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法応用演習（器械運動）、スポーツコーチング演習Ⅰ（採点競技系・器械運動） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 課題技の達成度 100% | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|-------------------|---|-------|---------------------|---------|
| 科目名 | スポーツ方法実習B（陸上競技・水泳） | | | 担当者 | 石塚 浩・大橋 祐二 眞鍋 芳明 | |
| 英文名 | Practice of Sport Methods B (Track and Field / Swimming) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 陸上競技は走・跳・投運動による最大達成を競う種目である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験すること、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業内容の説明（採点表） 【 到達目標 】 100m、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。 | | | 第9回 全助走跳躍 【 到達目標 】 自分にあつたおおよそ助走距離を見つけ、同時に踏み切り板に足が合う正確な距離を見つけ出す。 | | | |
| 第2回 100m走の走り方：中間疾走 【 到達目標 】 短距離走の走り方として、中間疾走を行う中でまず支持局面を意識して実践してみる。 | | | 第10回 走り幅跳び記録測定1 【 到達目標 】 走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。 | | | |
| 第3回 クラウチングスタートのしかた 【 到達目標 】 自分にあつたクラウチングスタートの方法を身につける。 | | | 第11回 走り幅跳び記録測定2 【 到達目標 】 前回の達成距離を更新するために、改善点を見つけ出しより高いレベルにチャレンジする。 | | | |
| 第4回 スタート～加速のしかた 【 到達目標 】 クラウチングスタートからトップスピードを作り出す加速局面で、問題点を把握してその改善を図る。 | | | 第12回 砲丸投げの基本技術とルール 【 到達目標 】 砲丸投げの基本技術であるつき出し動作のドリルを実習することによって、つき出しの動き方を確認する。同時に、砲丸投げのルールを理解する。 | | | |
| 第5回 スタート、加速疾走、中間疾走 【 到達目標 】 100m記録測定の準備として、100mという距離を走る体験をする。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。 | | | 第13回 メディシンボールによるつき出し 【 到達目標 】 メディシンボールによるつき出し、砲丸を用いてのつき出しを繰り返し行うことによって、合理的なつき出し動作を身につける。 | | | |
| 第6回 100m記録測定 【 到達目標 】 100mの記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。 | | | 第14回 ホップ、グライドからの投げ 【 到達目標 】 つき出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。 | | | |
| 第7回 走り幅跳びの基本技術とルール 【 到達目標 】 走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術及びルールを身につける。 | | | 第16回 砲丸投げ記録測定 【 到達目標 】 砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。 | | | |
| 第8回 短助走跳躍 【 到達目標 】 短助走跳躍を実践する中で、自分にあつた効果的な踏み切り技術を探り当てる。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 過去の運動経験を生かし、より高いレベルの記録を達成するようにして欲しい。そのためには、陸上競技の専門性を理解し、その中で自分の運動経験を生かすようにすることが必要である。 *スポーツ方法実習Bは、陸上競技と水泳の両方を履修して1科目分とする。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法応用演習（陸上競技）、スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系）、スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツコーチング演習Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|-------------------|--|-------|----------------------|---------|
| 科目名 | スポーツ方法実習B（陸上競技・水泳） | | | 担当者 | 北川 幸夫・浅井 泰詞 金沢 翔一 | |
| 英文名 | Practice of Sport Methods B (Track and Field / Swimming) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 水の特性に慣れることからはじめ、4種目泳法の各種技術練習を通して水泳の基本技能を修得すると共に、水泳運動の学習方法を理解する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 水慣れ 【 到達目標 】 水に入る、浮く、沈む、歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ等を通して、水の特性に慣れる。 | | | 第9回 バタフライの泳法実習 【 到達目標 】 バタフライの呼吸法を修得する。 バタフライのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。 | | | |
| 第2回 けのび、グライダー姿勢、クロールの導入 【 到達目標 】 正しいけのびの型を理解し、修得する。グライダー姿勢を理解し、修得する。クロールのバタ足を修得する。 | | | 第10回 平泳ぎとバタフライの完成 【 到達目標 】 平泳ぎおよびバタフライにおいて、競技規則に則った正しいフォームを完璧に修得する。 | | | |
| 第3回 クロールの泳法実習 【 到達目標 】 クロールのキックおよびストロークを修得する。 クロールの呼吸法を修得する。 | | | 第11回 周辺技術（スタートおよびターン）の修得① 【 到達目標 】 水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。 クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。 | | | |
| 第4回 クロールの泳法実習と背泳ぎの導入 【 到達目標 】 クロールにおいて随時呼吸を行い、正しいフォームを修得する。 背泳ぎの導入としての背浮きを修得する。 | | | 第12回 周辺技術（スタートおよびターン）の修得② 【 到達目標 】 水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。 クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。 | | | |
| 第5回 背泳ぎの泳法実習 【 到達目標 】 背泳ぎのキックおよびストロークを修得する。 背泳ぎの呼吸法を修得する。 | | | 第13回 4泳法のまとめとクロールのトレーニング 【 到達目標 】 4泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。 100mクロールに向けたトレーニングを行う。 | | | |
| 第6回 クロールと背泳ぎの完成 【 到達目標 】 クロールおよび背泳ぎについて、競技規則に則った正しいフォームを完璧に修得する。 | | | 第14回 4泳法のまとめと平泳ぎのトレーニング 【 到達目標 】 4泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。 100m平泳ぎに向けたトレーニングを行う。 | | | |
| 第7回 平泳ぎの導入と泳法実習 【 到達目標 】 平泳ぎのキックを修得する。 あおり足とかえる足の違いを理解する。 | | | 第15回 100mクロールおよび100m平泳ぎの確認 【 到達目標 】 100mクロールおよび100m平泳ぎを泳ぐ。 | | | |
| 第8回 平泳ぎの泳法実習とバタフライの導入 【 到達目標 】 平泳ぎのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。 バタフライのキックを修得する。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリ系の着用は不可とする。 水泳は、普段の生活とは異なる水中環境下での運動となるため、様々な身体への影響が生じる。そのため、実習への参加に際し、健康状態に配慮することが必要である。 *スポーツ方法実習Bは、陸上競技と水泳の両方を履修して1科目分とする。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「水泳指導教本」 財団法人日本水泳連盟編、大修館書店 「基礎からの水泳」 柴田義晴著、ナツメ社 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系）、スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツコーチング演習Ⅲ、スポーツ指導演習（水泳） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 1. 泳法試験（70%）、2. クロールおよび平泳ぎの泳力試験（30%）とする。 評価は、上記に加えて授業における課題達成度を含め、総合的に判定する。 | | | | | | |

| | | | | | |
|---|--|-------------------|--|---------------------|-----------|
| 科目名 | スポーツ方法実習C (バスケットボール・バレーボール) | | 担当者 | 柴田 雅貴・川井 明 橋本 早予 | |
| 英文名 | Practice of Sport Methods C (Basketball / Volleyball) | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | | |
| 【目的とねらい】 バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。2年次履修のスポーツ方法応用演習、スポーツコーチング演習Ⅰ(判定競技系A)では、本実習で習得したことが適用される。したがって、習得した個人技術、グループ・チーム戦術を応用できるための基礎作りが本実習のねらいとなる。 | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | |
| 第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。 | | | 第9回 グループ戦術 カッティング 【 到達目標 】 (1)カッティングを用いたグループ戦術を理解し、習得する。 | | |
| 第2回 基礎的な個人技術 コントロール 【 到達目標 】 (1)ボディコントロール、ボールコントロールの技術を習得する。 | | | 第10回 グループ戦術 ドリブルペネトレイト 【 到達目標 】 (1)ドリブルペネトレイトを用いたグループ戦術を理解し、習得する。 | | |
| 第3回 基礎的な個人技術 ゴール下シュート 【 到達目標 】 (1)ゴール下シュートの技術を習得する。 | | | 第11回 チーム戦術 オフェンスとディフェンス 【 到達目標 】 (1)チーム戦術としての5人で行うオフェンスとディフェンスを理解し、習得する。 | | |
| 第4回 基礎的な個人技術 セットシュート・ジャンプシュート 【 到達目標 】 (1)セットシュート・ジャンプシュートの技術を習得する。 | | | 第12回 チーム戦術 ゲーム① 【 到達目標 】 (1)ゲームの中で個人技術、グループ・チーム戦術が発揮できる。 (2)ゲームのルールを理解する。 | | |
| 第5回 基礎的な個人技術 レイアップシュート 【 到達目標 】 (1)レイアップシュートの技術を習得する。 | | | 第13回 チーム戦術 ゲーム② 【 到達目標 】 (1)ゲームの中で個人技術、グループ・チーム戦術が発揮できる。 (2)ゲームのルールを理解する。 | | |
| 第6回 基礎的な個人技術 パスとレシーブ 【 到達目標 】 (1)パスとレシーブの技術を習得する。 | | | 第14回 チーム戦術 ゲーム③ 【 到達目標 】 (1)ゲームの中で個人技術、グループ・チーム戦術が発揮できる。 (2)ゲームのルールを理解する。 | | |
| 第7回 基礎的な個人技術 ドリブル 【 到達目標 】 (1)ドリブルの技術を習得する。 | | | 第16回 スキルの総合的検証 【 到達目標 】 (1)本実習で習得した個人技術ができる。 | | |
| 第8回 グループ戦術 アウトナンバー 【 到達目標 】 (1)アウトナンバーでのグループ戦術を理解し、習得する。 | | | | | |
| 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。 | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習の授業となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。また、ナンバリング(ゼッケン)を一人ずつ購入し、授業時には必ず着用する。本実習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。 *スポーツ方法実習Cは、バスケットボールとバレーボールの両方を履修して1科目とする。 | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法応用演習(バスケットボール)、スポーツコーチング演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | | | | | |
| 【成績評価方法】 平常授業での到達目標に対する到達度を70%、スキルテストを30%として評価する。 | | | | | |

| | | | | | |
|--|--|-------------------|---|-------------|-----------|
| 科目名 | スポーツ方法実習C (バスケットボール・バレーボール) | | 担当者 | 湯澤 芳貴・古瀬 由佳 | |
| 英文名 | Practice of Sport Methods C (Basketball / Volleyball) | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | | |
| 【目的とねらい】 バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営についても学ぶことも目的とする。 | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | |
| 第1回 バレーボールの歴史と発展 【 到達目標 】 (1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。 | | | 第9回 ゲームの進め方・ルール・審判法の理解 【 到達目標 】 (1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。 (2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。 | | |
| 第2回 基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) 【 到達目標 】 (1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。 (2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。 | | | 第10回 ゲーム実践Ⅰ 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。 | | |
| 第3回 基礎技能の応用(各種レシーブ・トス) 【 到達目標 】 (1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。 (2)方向転換しているいろいろな方向へコントロールできる。 | | | 第11回 ゲーム実践Ⅱ 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。 | | |
| 第4回 基礎技能の習得Ⅱ(サーブ) 【 到達目標 】 (1)アンダーハンドサーブ、フロッターサーブの打ち方をマスターする。 (2)狙ったコースへコントロールできる。 | | | 第12回 個人技能の評価方法と技能修正方法 【 到達目標 】 (1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。 (2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。 | | |
| 第5回 基礎技能の習得Ⅲ(スパイク) 【 到達目標 】 (1)助走のステップ、スイングを身につける。 (2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。 | | | 第13回 バレーボールのポジションとその役割の理解 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。 | | |
| 第6回 集団技能の理解と集団での技術・戦術 【 到達目標 】 (1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。 (2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。 | | | 第14回 ゲーム実践Ⅲ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。 | | |
| 第7回 基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃) 【 到達目標 】 (1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。 | | | 第16回 ゲーム実践Ⅳ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。 | | |
| 第8回 基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション) 【 到達目標 】 (1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。 | | | | | |
| 【授業時間外学習】 基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。 | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリ類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。 不明な点はそのまませず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。 *スポーツ方法実習Cは、バスケットボールとバレーボールの両方を履修して1科目とする。 | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特になし。 | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法応用演習(バレーボール)、スポーツコーチング演習Ⅰ(判定競技系B) | | | | | |
| 【成績評価方法】 基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。 | | | | | |

| | | | | | | |
|---|-------------------|-------------------|----------|---|---------------------|---------|
| 科目名 | ダンス・ファンダメンタル | | | 担当者 | 宮本 乙女・石川 浩子 渡辺 碧 | |
| 英文名 | Dance Fundamental | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 ダンスの要素である「踊る、創る、観る」力をバランス良く養う。 半期：創作ダンス…初歩的な即興表現から簡単な作品作りまでを体験し、自己表現の可能性を広げる。仲間と関わるフォークダンスも体得する。 半期：リズムのダンス…音楽に乗って、基礎的なステップやビートを刻んだ体の使い方を体得し、リズムに乗る楽しみを味わえるようになる。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分 | | | | | | |
| 第1回 年間オリエンテーション 前期オリエンテーション ウォームアップ 【 到達目標 】 ダンスに取り組んでいく上での必要事項を確認し、全員が積極的に参加することを確認する。 これから1年間の流れと、半期の流れを認識する。 仲間と交流しながらリズムに乗って楽しく踊る。 | | | | 第9回 課題の連続～ソロを加えたグループ作品① 【 到達目標 】 これまでに学んだ創作ダンスの題材を復習する。 身につけた力を活かして、運動の連続からグループでオリジナル作品を作る。 グループで助け合って、作品を構成する。 | | |
| 第2回 ダンスに近づく基本的な題材① 【 到達目標 】 ひと流れの動きを理解し、ペアで即興的な作品を作って見せ合う。 恥ずかしがらずに体を思い切り使えるようになる。 | | | | 第10回 課題の連続～ソロを加えたグループ作品② 【 到達目標 】 お互いに評価しあいながら、ソロを加えたグループ作品の完成度を高める。 グループで助け合って、ソロの発表を構成する。 | | |
| 第3回 ダンスに近づく基本的な題材② 【 到達目標 】 メリハリある動きを身につけ、少人数のグループで即興的な作品を作って見せ合う。 恥ずかしがらずに体を思い切り使えるようになる。 | | | | 第11回 仲間と構成した作品発表会（実技テストとして評価対象とする） 【 到達目標 】 協力し合って発表会を行う。 お互いの作品を楽しむ。 | | |
| 第4回 ダンスに近づく基本的な題材③ 【 到達目標 】 群で表現することを学び、6人程度のグループによる即興的な作品を作って見せ合う。 恥ずかしがらずに体を思い切り使えるようになる。 | | | | 第12回 グループ作品制作① 【 到達目標 】 ものをつかって、自分たちの表現したいテーマを見つけ、動きをたくさん見つける。 タイトルをつけて、構想をふくらませる。 | | |
| 第5回 これまでの力を活かして作品作りとミニ発表会 【 到達目標 】 イメージから動きを導く題材により、6人～8人程度のグループで即興的な動きをみつけ、クワイマックスを意識してミニ作品に仕上げる。 司会、音楽などの係を分担し、ミニ発表会を行う。 | | | | 第13回 グループ作品制作② 【 到達目標 】 一番表現したいシーンを中心に、作品を構成する。 ものも、体も、場所も大きく使ってより観客に伝わる作品に仕上げる。 | | |
| 第6回 映像の鑑賞（良い動きとは？）・日本の民謡 【 到達目標 】 自分たちの作品や、参考作品を鑑賞して、ダンスの良い動きについて理解を深める。 日本の民謡に挑戦して、ステップを身につけたり、仲間と工夫した発表会をする。 | | | | 第14回 グループ作品仕上げ・発表会（実技テストとして評価対象とする） 【 到達目標 】 リハーサルをして仕上げを行う。 司会、音楽などの係を分担し、発表会を行う。 | | |
| 第7回 ダンスのデッサン①・フォークダンス 【 到達目標 】 身近な題材からイメージを出し合い、どのようにしてダンスにするかを学び、仲間と一緒に即興的な作品を作って見せ合う。 少し難しいフォークダンスに挑戦し、ステップやポジションを理解したり、交流を楽しむ。 | | | | 第16回 作品鑑賞と身につけた踊りの復習 【 到達目標 】 自分たちの作った作品を鑑賞し、良い動きとは何かを改めて学ぶ。 これまで学んだ踊りを復習し、思い出す。 | | |
| 第8回 ダンスのデッサン② 【 到達目標 】 イメージから作品を作る。簡単にクラス作品に構成して、踊り合い、見せ合いを楽しむ。 | | | | | | |

次ページに続く

| | | | | | | |
|--|-------------------|-------------------|--|-------|---------------------|---------|
| 科目名 | ダンス・ファンダメンタル | | | 担当者 | 宮本 乙女・石川 浩子 渡辺 碧 | |
| 英文名 | Dance Fundamental | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・必修 | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分 | | | | | | |
| 第16回 後期オリエンテーション | | | 第24回 コンビネーション② リズムパターン⑬⑭⑮ | | | |
| 【 到達目標 】 ダンスをする上で、まずは身体作りの重要性を理解し、その上で、ダンスを難しく捉えずに、簡単な動きの組み合わせで、楽しく踊れることを学ぶ。 この半期の流れを理解する。 | | | 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 リズムのパターン⑬⑭⑮を覚える。 そのパターンを使ったコンビネーションを学ぶ。 | | | |
| 第17回 ダンスに必要な身体作り① リズムパターン①②③ | | | 第25回 カノン形式を学ぶ | | | |
| 【 到達目標 】 簡単なウォームアップ、筋トレなどを覚える。 簡単なリズムのパターン①②③を覚える。 | | | 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 前回覚えたリズムパターン⑬～⑮を復習し、そのパターンを使いカノン形式を学ぶ。 少人数に分かれ4×8の作品を作る。 | | | |
| 第18回 ダンスに必要な身体作り② リズムパターン④⑤⑥ | | | 第26回 リズムパターン⑩～⑬の復習と Rond 形式を学ぶ | | | |
| 【 到達目標 】 前回覚えたウォームアップ、筋トレを確認しながら、身体を動かす。 簡単なリズムのパターン④⑤⑥を覚える。 | | | 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 リズムパターン⑩～⑬を復習する。 Rond形式を学び、最終テストのための作品作りの説明をし、グループ分けをし、それぞれのグループでミーティングする。 | | | |
| 第19回 ダンスに必要な身体作り③ リズムパターン⑦⑧⑨ | | | 第27回 作品創作① | | | |
| 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 簡単なリズムのパターン⑦⑧⑨を覚える。 | | | 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 曲、作品のモチーフ、イメージなど、作品を作っていく上で、方向性がぶれない様に導き、作品の大枠を決める。 | | | |
| 第20回 リズムのパターン①～⑨の復習と作品作り | | | 第28回 作品創作② | | | |
| 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 簡単なリズムのパターン①～⑨を復習する。 5人～6人グループ分けをし、それぞれのグループで作品作りのミーティングをする。 | | | 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 今までに、覚えたリズムパターン、作品を作るための形式などの復習をし、作品の構成を円滑に導く。 | | | |
| 第21回 覚えたパターンを使い作品作りと発表（実技テストとして評価対象とする） | | | 第29回 作品創作③ | | | |
| 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 5人～6人のグループに分かれ、指導者が用意した同じ曲で、簡単なリズムパターン①～⑨を使い、8×8のコンビネーションを振付し、発表する。 | | | 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 それぞれのチームでの最終リハーサルをする。 | | | |
| 第22回 コンビネーション① リズムパターン⑩⑪⑫ | | | 第30回 作品発表（実技テストとして評価対象とする） | | | |
| 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 リズムのパターン⑩～⑫を覚える。 そのパターンを使ったコンビネーションを学ぶ。 | | | 【 到達目標 】 ウォームアップと筋トレをする。 作品を発表し鑑賞する。 半期に学んだことの確認をし終了する。 | | | |
| 第23回 シンメトリー形式を学ぶ | | | | | | |
| 【 到達目標 】 ウォームアップ、筋トレをする。 前回覚えたリズムパターン⑩～⑫を復習し、そのパターンを使いシンメトリー形式を学ぶ。 少人数に分かれ4×8の作品を作る。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 各自自分の課題を把握し、不足があれば時間外にも練習をして臨む。作品作りに当たっては、題材・音楽などの探究も行う。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 積極的に取り組み、固定概念にとらわれない創造性が求められる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 実技試験と授業への積極性を総合的に評価する。 前期の評価及び後期の評価を統合して通年科目として成績判定する。 | | | | | | |

| 科目名 | 健康科学論 | | | 担当者 | 沢井史穂 | |
|---|--------------------------------|---------|---|---------|-----------|---------|
| 英文名 | Introduction to Health Science | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・必修 | 専門基礎・選択 |
| 【目的とねらい】 現代人の抱える健康問題を、主に生活環境の変化との関わりから理解する。特に、日本における疾病構造の変化と主な死因の推移、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームのリスクファクターとその予防について、運動を中心とするライフスタイルとの関連で理解すること、また、年齢、食生活、休養、ストレスと健康との関わりについて理解することを目的とする。これらの理解を通して、現代の健康の問題に対する科学的見方を身につけることがねらいである。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 健康とは何か。健康観の変遷。現代における健康観。 【 到達目標 】 (1)「健康」の定義を理解する。 (2)健康観の歴史的推移を知り、現代における望ましい健康観を考える。 【授業時間外学習】 各種メディアの発信する「健康」関連情報に関心を持ち、視聴したり読んだりする。 | | | 第9回 子どもの運動と健康 【 到達目標 】 (1)現代の生活環境が子どもの健康に及ぼす影響について理解する。 (2)成長に伴う身体構造と機能の変化を知り、成長期における運動と健康との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 子どもの健康に関する文献や資料を探して読む。 | | | |
| 第2回 日本人の健康問題 人口構成の推移、疾病構造の変化 【 到達目標 】 (1)死因順位の大きな変化とその要因について理解する。 (2)現代日本人の抱える健康問題を、人口構成の推移、疾病構造の変化とともに理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。 | | | 第10回 女性の運動と健康 【 到達目標 】 (1)女性特有の健康問題を知り、女性の健康と運動との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 女性の健康に関する文献や資料を探して読む。 | | | |
| 第3回 生活習慣病とは 【 到達目標 】 (1)健康な生活を送る上での良い生活習慣について理解する。 (2)生活習慣病の定義、危険因子、予防策について理解する。 【授業時間外学習】 良い生活習慣について復習し、自分の生活習慣を見直して行動変容につなげる。 | | | 第11回 高齢者の運動と健康 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体構造と機能の変化を知り、中高齢者、高齢者の健康に運動が果たす役割や意義について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康に関する文献や資料を探して読む。 | | | |
| 第4回 循環系疾患とライフスタイル 【 到達目標 】 (1)心臓病と脳血管病、その基礎疾患としての動脈硬化、高血圧、糖尿病とライフスタイルとの関連を理解する。 【授業時間外学習】 循環系疾患に関連するライフスタイルについて復習し、予防行動につなげる。 | | | 第12回 食生活と健康 【 到達目標 】 (1)現代日本人の食生活と健康との関わりについて理解する。 (2)喫煙や飲酒がもたらす健康への影響について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、健康的な食生活行動につなげる。 | | | |
| 第5回 代謝異常・肥満とライフスタイル 【 到達目標 】 (1)脂質代謝異常、肥満症をもたらすライフスタイルを理解する。 (2)肥満の判定基準と日本の現状を知り、予防・改善策を考える。 【授業時間外学習】 肥満の予防につながるライフスタイルについて復習し、自らの日常生活に還元する。 | | | 第13回 休養と健康 【 到達目標 】 (1)睡眠や休息と健康との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。 | | | |
| 第6回 メタボリックシンドロームの判定と予防 【 到達目標 】 (1)メタボリックシンドロームの定義と判定基準を理解する。 (2)メタボリックシンドロームの現状、危険因子を理解し、予防・改善策を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、メタボリックシンドロームの予防行動につなげる。 | | | 第14回 メンタルヘルス 【 到達目標 】 (1)現代社会におけるストレスと健康との関わり、心の健康に運動が果たす役割について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、自分のストレスマネジメントに積極的に取り組む。 | | | |
| 第7回 骨の健康 骨粗鬆症の予防 【 到達目標 】 (1)人の一生を通じた骨量、骨代謝の変化を知り、丈夫な骨を形成し、骨粗鬆症を予防するための生活習慣を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、丈夫な骨を作るための生活習慣を心がける。 | | | 第15回 健康づくり施策 概念と歴史 日本における施策 【 到達目標 】 (1)健康づくり施策の概念と歴史を理解し、日本における健康施策とその課題について考える。 【授業時間外学習】 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。 | | | |
| 第8回 ロコモティブシンドロームの概念と予防 【 到達目標 】 (1)ロコモティブシンドロームの概念、定義、危険因子を理解し、予防策を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、将来のロコモティブシンドロームの予防につながる生活行動を身につける。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら資料に書き込んでいくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 とくに指定はない。必要な資料をその都度配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 衛生学・公衆衛生学、女性のライフステージと運動、保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術含む） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業内での課題達成度30%、定期試験（試験は試験期間中に別途実施する）70%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 機能解剖学 | | | | 担当者 | 永野康治 | |
|---|--------------------|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Functional Anatomy | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・必修 | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 本講義の目的は骨格と各関節の構造、特徴、運動を学び、身体の動きを関節運動や筋肉の働きから理解することである。本講義のねらいは、体育・スポーツに関わる者として、筋骨格系の知識を得る事で自らのスポーツ活動におけるパフォーマンス向上や怪我の予防に生かし、さらには運動を指導する立場において効果的な評価、処方、指導ができるようになることである。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 機能解剖学概論 (機能解剖学の基礎) 【 到達目標 】 (1)機能解剖を学ぶうえで必要な基礎事項を理解する。 (2)骨の構造を理解し、全身の骨の名称とその位置を把握する。 【授業時間外学習】 全身の骨の名称とその位置を覚える。 | | | | 第9回 関節の構造と関節運動 上肢1 【 到達目標 】 (1)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節の構造を理解する。 (2)肩甲胸郭関節の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。 | | | |
| 第2回 骨格の理解 上肢1 【 到達目標 】 (1)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 上肢の骨の特徴を覚える。 | | | | 第10回 関節の構造と関節運動 上肢2 【 到達目標 】 (1)肘関節、前腕、手関節、手指の構造を理解する。 (2)肘関節、前腕、手関節、手指の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。 | | | |
| 第3回 骨格の理解 上肢2 【 到達目標 】 (1)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 上肢の骨の特徴を覚える。 | | | | 第11回 関節の構造と関節運動 下肢1 【 到達目標 】 (1)股関節、膝蓋大腿関節の構造を理解する。 (2)股関節の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。 | | | |
| 第4回 骨格の理解 下肢1 【 到達目標 】 (1)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 下肢の骨の特徴を覚える。 | | | | 第12回 関節の構造と関節運動 下肢2 【 到達目標 】 (1)脛骨大腿関節の構造を理解する。 (2)脛骨大腿関節の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。 | | | |
| 第5回 骨格の理解 下肢2 【 到達目標 】 (1)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 下肢の骨の特徴を覚える。 | | | | 第13回 関節の構造と関節運動 下肢3 【 到達目標 】 (1)足関節、足部の構造を理解する。 (2)足関節、足部の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。 | | | |
| 第6回 骨格の理解 体幹1 【 到達目標 】 (1)体幹(脊柱、椎骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 体幹の骨の特徴を覚える。 | | | | 第14回 関節の構造と関節運動 体幹1 【 到達目標 】 (1)体幹、脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)の構造を理解する。 (2)脊柱の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。 | | | |
| 第7回 骨格の理解 体幹2 【 到達目標 】 (1)体幹(椎骨、肋骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 体幹の骨の特徴を覚える。 | | | | 第15回 関節の構造と関節運動 体幹2 【 到達目標 】 (1)体幹、胸郭の関節の構造を理解する。 (2)胸郭の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。 | | | |
| 第8回 関節の構造と関節運動 概論 【 到達目標 】 (1)関節の大まかな構造と種類を理解する。 (2)関節運動の定義を理解する。 (3)肩甲上腕関節を例に関節運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。覚えるべきことが多いため、各授業ごとに内容をノートに整理しておくことが望まれる。毎回の授業の際にその日の授業内容を問う小テストを実施する。また、復習用の課題を適時提示する。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書：特に指定しない 参考書：筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版) 骨・関節・筋肉の構造と動作のしくみ(ナツメ社) | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 課題 20% 期末試験(試験は試験期間中に別途実施) 80% | | | | | | | |

| 科目名 | 発育発達論 | | | | 担当者 | 井筒紫乃 | |
|--|------------------------|-------------------|--|---------|-----------|---------|--|
| 英文名 | Growth and Development | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育発達特性を考慮したスポーツへの取り組みや運動指導の重要性を理解する。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 発育発達概念 【 到達目標 】 (1)授業の進め方、諸注意、参考図書等について理解する。 【授業時間外学習】 発育発達に関する予備知識について書籍等で予習する。 | | | 第9回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性5 【 到達目標 】 (1)青年期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)インディペンデント・エイジ期の運動との関わりを理解する。 【授業時間外学習】 第8回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | | |
| 第2回 人類学からみた発育発達 【 到達目標 】 (1)生物の誕生からヒトはどのように進化してきたのか理解する。 (2)人類の進化に興味を持つ。 【授業時間外学習】 第1回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | 第10回 女性の身体的特性1 【 到達目標 】 (1)女性の身体的特性、性周期を理解する。 (2)貧血のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 第9回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | | |
| 第3回 形態・体格指数と生物学的年齢 【 到達目標 】 (1)発育を評価するための形態指数・体格指数、生物学的年齢について理解する。 【授業時間外学習】 第2回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | 第11回 女性の身体的特性2 【 到達目標 】 (1)女性アスリートの3主徴の問題について理解する。 (2)女性アスリートの加齢変化について理解する。 【授業時間外学習】 第10回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | | |
| 第4回 受精から誕生そして歩行獲得までの発育発達特性 【 到達目標 】 (1)胎児の発育について理解する。 (2)乳児期の身体的・心理的・社会的特性について理解する。 【授業時間外学習】 第3回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | 第12回 妊娠・出産 【 到達目標 】 (1)妊娠と出産について理解する。 【授業時間外学習】 第11回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | | |
| 第5回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性1 【 到達目標 】 (1)幼児期前期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)運動神経の発達特性について理解する。 【授業時間外学習】 第4回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | 第13回 中高年期のからだどころ 【 到達目標 】 (1)中高年期の身体的特性とエイジングについて理解する。 【授業時間外学習】 第12回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | | |
| 第6回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性2 【 到達目標 】 (1)幼児期後期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)プレゴールデンエイジ期の運動との関わり方を理解する。 【授業時間外学習】 第5回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | 第14回 加齢に伴う体力・運動能力の変化 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性、体力・運動能力の変化について理解する。 【授業時間外学習】 第13回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | | |
| 第7回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性3 【 到達目標 】 (1)学童期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)ゴールデンエイジ期の運動との関わり方を理解する。 【授業時間外学習】 第6回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | 第15回 ライフステージと生涯スポーツ 【 到達目標 】 (1)運動継続のためのスポーツへの関わりについて理解する。 (2)それぞれのステージでの運動プログラムを作成する。 【授業時間外学習】 作成したノートを整理する。 | | | | |
| 第8回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性4 【 到達目標 】 (1)思春期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)ポストゴールデンエイジ期の運動との関わりを理解する。 【授業時間外学習】 第7回の授業内で提示した専門用語について予習する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業ノートを作成し、要点を自分なりにわかりやすくまとめ、後で読み返しても十分理解できるように工夫すること。また、どんな小さなこと、細かいことにも興味を持って受講し、疑問があれば積極的に質問すること。 ※2014年度入学生までは、科目名「身体発達」 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書：指定しない | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 定期試験の成績70%、ノート作成の内容20%、毎授業後のレポート10%で評価する。 なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | | |

| 科目名 | スポーツバイオメカニクス | | | 担当者 | 湯田 淳 | |
|--|--------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Sport Biomechanics | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 日常の動作からスポーツにいたる様々な身体運動を、力学的観点から解明する領域がスポーツバイオメカニクスである。本講義では、力学の基礎知識や必要な計測法などについて学び、それに基づいて具体的なからだの動きやスポーツ場面の運動について解説する。なお、本講義のより良い理解のためには、1年次で履修した機能解剖学による身体構造に関する基礎的知識の習得が必須である。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツバイオメカニクス概論（スポーツバイオメカニクスの位置づけ） 【 到達目標 】 (1)スポーツバイオメカニクスとはどのような学問であり、何を学ぶかを理解する。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスに関連する書籍を確認する。 | | | 第9回 身体の構造 【 到達目標 】 (1)様々な関節の特徴を動きと関連づけて把握する。 (2)筋の収縮様式を理解し、動きと関連づけて説明できる。 【授業時間外学習】 筋骨格系の構造について把握する。 | | | |
| 第2回 スポーツバイオメカニクス概論（スポーツバイオメカニクスの捉え方） 【 到達目標 】 (1)身体運動の分析へのバイオメカニクスのアプローチを把握する。 【授業時間外学習】 他の関連学問との分析方法の違いについて検討する。 | | | 第10回 上肢および肩甲骨の運動 【 到達目標 】 (1)上肢の関節（肩、肘、手関節）および肩甲骨における動きを、それに関与する筋の働きとともに理解し、スポーツ現場におけるトレーニングに役立てることができる。 【授業時間外学習】 上肢の関節の運動に関係する筋を把握する。 | | | |
| 第3回 スポーツバイオメカニクスの活用法（映像の活用法） 【 到達目標 】 (1)定量的および定性的分析についてそれぞれの特徴を理解する。 【授業時間外学習】 各種計測機器の特徴を把握する。 | | | 第11回 下肢および骨盤帯の運動 【 到達目標 】 (1)下肢の関節（股、膝、足関節）および骨盤帯における動きを、それに関与する筋の働きとともに理解し、スポーツ現場におけるトレーニングに役立てることができる。 【授業時間外学習】 下肢の関節の運動に関係する筋を把握する。 | | | |
| 第4回 スポーツバイオメカニクスの活用法（映像活用の実際） 【 到達目標 】 (1)映像を用いた動作改善法について理解し、バイオメカニクスがスポーツ現場でどのように活用されているかを把握する。 【授業時間外学習】 様々なスポーツにおけるバイオメカニクスの分析の活用事例を把握する。 | | | 第12回 運動・動作の力学的解釈 【 到達目標 】 (1)姿勢とモーメントの関係について理解し、説明できる。 (2)力学的データとパフォーマンスとの関係について理解し、スポーツバイオメカニクスにおける研究成果をスポーツ現場に活かす方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ現場において、どのようなスポーツバイオメカニクスのデータが収集されているかを把握する。 | | | |
| 第5回 運動の力学（力の作用、ニュートンの運動の法則） 【 到達目標 】 (1)力の要素について理解し、力の作用によってどのような運動が生じるかを説明できる。 (2)ニュートンの運動の法則を理解し、スポーツ活動における運動の説明に活用できる。 【授業時間外学習】 親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。 | | | 第13回 スポーツバイオメカニクスにおける計測（動作分析におけるデータ収集法） 【 到達目標 】 (1)動作分析が具体的にどのように行われるかを把握する。 (2)動作分析における様々な座標算出法について理解する。 【授業時間外学習】 動作分析のためのデータ収集において、どのような機器が使用されているのかを把握する。 | | | |
| 第6回 運動の力学（静的なつりあい、求心力、流体力） 【 到達目標 】 (1)回転運動において発生する力について説明できる。 (2)流体力について理解し、空気抵抗について説明できる。 【授業時間外学習】 親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。 | | | 第14回 スポーツバイオメカニクスにおける計測（動作分析におけるデータ算出法） 【 到達目標 】 (1)身体重心や関節角度などの各種パラメータの算出方法について把握する。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスにおいて、どのようなパラメータを算出することができるのかを把握する。 | | | |
| 第7回 運動の力学（運動量と力積、運動と力のモーメント） 【 到達目標 】 (1)運動量と力積の関係について説明できる。 (2)運動における力のモーメントの効果について説明できる。 【授業時間外学習】 親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。 | | | 第15回 スポーツバイオメカニクスとスポーツ活動 【 到達目標 】 (1)講義で取り上げたスポーツバイオメカニクスの学習内容について理解し、自己のスポーツ活動や関連領域における学習内容のより良い理解に役立てることができる。 【授業時間外学習】 自身の専門とするスポーツ種目におけるバイオメカニクスのデータの活用事例を把握する。 | | | |
| 第8回 運動の力学（運動と角運動量、よい動きのバイオメカニクスの原則） 【 到達目標 】 (1)角運動量について理解し、それに影響を及ぼす要因について説明できる。 (2)よい動きのバイオメカニクスの原則について、例を用いて説明できる。 【授業時間外学習】 親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業はパワーポイントを用いて進められ、毎回の授業において内容に関する資料が配付される。受講者は講義内容における必要な箇所を素早く資料に書き取り、自分用のスポーツバイオメカニクスノートとしてまとめあげる努力が求められる。また、ほぼ毎回、その回の講義内容に関する小課題を実施する。受講者はただ単にノートをとるだけではなく、講義内容についての理解も求められる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。 「スポーツバイオメカニクス20講」 阿江通良・藤井範久・著（朝倉書店） 「目でみる動きの解剖学 新装版」 ロルフ・ヴィルヘルド・著、金子公有・松本迪子・訳（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 機能解剖学 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 小課題を60%、期末試験を40%の割合として評価する（試験は試験期間中に別途実施）。 | | | | | | |

| 科目名 | 生涯スポーツ概論 | | | 担当者 | 齊藤隆志 | |
|---|-----------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Lifelong Sports | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | | 専門基礎・選択 |
| 【目的とねらい】 本人の生涯学習活動として、新しい公共の担い手として、生涯スポーツ社会を形成する指導者としての生涯スポーツの基礎的知識を獲得する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 生涯スポーツ概論概説 【 到達目標 】 (1)授業ガイダンス、生涯スポーツ関連用語を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習とは何かをインターネットで調べる。 | | | 第9回 生涯学習としてのスポーツ活動について (2) 【 到達目標 】 (1)社会構築の主体としての生涯スポーツ活動を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会におけるスポーツ活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第2回 生涯学習について (1) 【 到達目標 】 (1)生涯学習の考え方の歴史の変遷を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習とは何かをインターネットで調べる。 | | | 第10回 生涯学習社会におけるスポーツについて (1) 【 到達目標 】 (1)生涯学習社会における文化としてのスポーツを理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会におけるスポーツ活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第3回 生涯学習について (2) 【 到達目標 】 (1)現在の「生涯学習」の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習とは何かをインターネットで調べる。 | | | 第11回 生涯学習社会におけるスポーツについて (2) 【 到達目標 】 (1)生涯学習社会におけるコミュニティスポーツを理解する。 (2)新しい公共、社会関係資本としてのスポーツを理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会におけるスポーツ活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第4回 生涯学習について (3) 【 到達目標 】 (1)人間の存在的意義としての「学習」について理解する。 【授業時間外学習】 人間にとって学習とは何かをインターネットで調べる。 | | | 第12回 生涯学習社会におけるスポーツについて (3) 【 到達目標 】 (1)生涯学習社会における総合型地域スポーツクラブを理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。 | | | |
| 第5回 生涯学習社会について (1) 【 到達目標 】 (1)生涯学習社会における人間と社会について理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会とは何かをインターネットで調べる。 | | | 第13回 みんなのスポーツについて (1) 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパ型スポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 ヨーロッパのスポーツ活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第6回 生涯学習社会について (2) 【 到達目標 】 (1)新しい公共、公共圏について理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会とは何かをインターネットで調べる。 | | | 第14回 みんなのスポーツについて (2) 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパ型スポーツシステムについて理解する。 【授業時間外学習】 ヨーロッパのスポーツ活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第7回 生涯学習社会について (3) 【 到達目標 】 (1)社会関係資本について理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会とは何かをインターネットで調べる。 | | | 第15回 生涯スポーツの展望と課題 【 到達目標 】 (1)生涯学習思想を述べることができる。 (2)豊かなスポーツライフを述べることができる。 (3)生涯学習社会でのスポーツのあり方を述べることができる。 【授業時間外学習】 第1回目から第14回目までの授業内容を復習する。 | | | |
| 第8回 生涯学習としてのスポーツ活動について (1) 【 到達目標 】 (1)個人の教養として生涯スポーツ活動を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習としてのスポーツ活動についてインターネットで調べる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業中の私語、携帯電話使用、飲食を禁じる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に指定しない。 適宜、印刷物を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、4回程度のテスト(50%)で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツマネジメント | | | 担当者 | 畑 攻 | |
|--|------------------|---------|---|---------|-----------|---------|
| 英文名 | Sport Management | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | | |
| 【目的とねらい】 スポーツマネジメントは、経営学の理論や発想をベースにして、体育やスポーツ及び関連の活動のための条件整備を中心に、諸原則や実践的な働きかけを追究する分野である。本講義をとおして、各種のスポーツや関連の活動を支えるためのマネジメントの基礎基本を十分に習得する。また、スポーツビジネスやプロスポーツのマネジメントなどのような今日的な状況に適合するためのマネジメントのあり方についても、発展的にその理解を深めたい。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツとマネジメント 【 到達目標 】 (1) スポーツ活動の様々な側面とその成立条件を理解する。 (2) マネジメントの目標と価値、組織性、時間軸を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツマネジメントとはなんだろう？と今の自分なりに考えてみる。 | | | 第9回 スポーツマーケティングの仕組み 【 到達目標 】 (1) 一般的なマーケティングの仕組みや考え方を理解する。 (2) スポーツとマーケティングの関係を理解する。 【授業時間外学習】 マーケティングとはどういうことかを自分なりに考えてみる。 | | | |
| 第2回 製品としてのスポーツ 【 到達目標 】 (1) 一般的な製品の考え方及び代表的なモデルを理解する。 (2) スポーツを製品としてとらえる基本的な視点を考察する。 【授業時間外学習】 スポーツ関連の様々な製品の場合と、スポーツそのものを製品として見た場合の違いは？どのような違いがあるかを考えてみる。 | | | 第10回 スポーツマーケティングの基本戦略 【 到達目標 】 (1) 現状のスポーツマーケティングの動向を理解する。 (2) スポーツに関わるマーケティング戦略のあり方を検討する。 【授業時間外学習】 一般的によく売れる製品を具体的に浮かべてみる。なぜ売れるかを考えてみる。 | | | |
| 第3回 スポーツプロダクトの機能と構造 【 到達目標 】 (1) 欧米の代表的なスポーツプロダクトモデルを理解する。 (2) プロダクトとしての代表的な日本のスポーツを検討する。 【授業時間外学習】 スポーツが製品となる場合にはその具体的な仕組みはどのようにになっているかを考えてみる。 | | | 第11回 スポーツ組織の活性化1 【 到達目標 】 (1) 基本的な組織論とその根底にある人間観を理解する。 (2) 組織の能動性、活性化、モラルの向上を理解する。 【授業時間外学習】 集団や組織の中の人間にどのような問題があるか、また、うまく機能している組織とはどのような組織なのかを考えてみる。 | | | |
| 第4回 スポーツプロダクトの進化とマネジメント 【 到達目標 】 (1) プロダクトとしてのスポーツの進化モデルを理解する。 (2) 各スポーツの位置づけやマネジメントのあり方を理解する。 【授業時間外学習】 それぞれのスポーツは「進化する」という視点でどのような特徴があるのかを考えてみる。 | | | 第12回 スポーツ組織の活性化2 【 到達目標 】 (1) スポーツにおける組織研究の必要性を理解する。 (2) スポーツにおけるリーダーシップのあり方を検討する。 【授業時間外学習】 スポーツの組織をよくするにはどうしたらいいかを考えてみる。 | | | |
| 第5回 サービス商品としてのスポーツ 【 到達目標 】 (1) スポーツをめぐる様々なサービスを理解する。 (2) サービスプロダクトとしてのスポーツを検討する。 【授業時間外学習】 サービスということとスポーツはどのような関係か？を考えてみる。 | | | 第13回 トピックス1：社会の活性化とスポーツマネジメント 【 到達目標 】 (1) 様々な社会の活性化の要因を広く理解する。 (2) そのためのスポーツマネジメントのあり方を検討する。 【授業時間外学習】 人々が感動をするスポーツの種類やその具体的な様子を思い浮かべてみる。 | | | |
| 第6回 サービス業としてのスポーツ施設・組織 【 到達目標 】 (1) スポーツやその活動を扱う施設や組織の状況を理解する。 (2) スポーツ施設や組織のあり方を検討する。 【授業時間外学習】 一般的にスポーツ施設はどのようなものか、何をするとところかを調べ、考えてみる。 | | | 第14回 トピックス2：スポーツ教育とマネジメント 【 到達目標 】 (1) 今日のスポーツ教育に関わる問題点を理解する。 (2) そのような問題点に対するマネジメントを検討する。 【授業時間外学習】 これまでの自分の経験からスポーツ教育の問題点を考えてみる。 | | | |
| 第7回 スポーツビジネスとマネジメント 【 到達目標 】 (1) 今日のスポーツビジネスの概要を理解する。 (2) スポーツのビジネスとスポーツによるビジネスを理解する。 【授業時間外学習】 ビジネスということはどういうことか、スポーツとビジネスの関係を考えてみる。 | | | 第15回 総括：スポーツマネジメントの課題と展望 【 到達目標 】 (1) スポーツマネジメントの基礎基本を総復習し理解を深める。 (2) スポーツマネジメントの今後の課題と可能性を検討する。 【授業時間外学習】 このスポーツマネジメントで自分が最も感じたことを整理し、今後を考えてみる。 | | | |
| 第8回 社会文化事業としてのスポーツイベント 【 到達目標 】 (1) スポーツイベントの様々なインパクトを理解する。 (2) 社会文化事業としてのイベントのあり方を検討する。 【授業時間外学習】 どのようなスポーツイベントがあるのか、その影響力は何かを考えてみる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 大学で初めて学ぶ分野であり、その内容及び考え方に早く慣れることが必要である。この分野の学習の第一歩であることから、基礎基本を確実に理解し、十分に習得することが必要である。また、そのような基礎基本を踏まえて、現状のスポーツマネジメントの状況や課題について調べてみたり、踏み込んで考えてみる事が望まれる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「スポーツ経営学（改訂版）」山下、畑、富田（編著）大修館書店をテキストとする。 その他参考資料を授業で配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツサービス論、スポーツ施設管理論、スポーツ調査法、スポーツ産業論など | | | | | | |
| 【成績評価方法】 数回の授業内の小テスト及びレポートを50%、定期試験の結果を50%として総合評価する。 試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|---------------------------|-------------------|---|---------|-----------|---------|
| 科目名 | 衛生学・公衆衛生学 | | | 担当者 | 助友裕子 | |
| 英文名 | Hygiene and Public Health | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 | | | | | | |
| 我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活を営むためや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 健康と公衆衛生 【到達目標】 (1)健康には様々な考え方があることを知る。 (2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。 【授業時間外学習】 公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。 | | | 第9回 感染症対策 【到達目標】 (1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。 (2)主な感染症について理解する。 【授業時間外学習】 咳エチケットの方法とその理由について考えておく。 | | | |
| 第2回 保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか 【到達目標】 (1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。 【授業時間外学習】 政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。 | | | 第10回 環境保健 【到達目標】 (1)人間と環境のかかわりについて理解する。 (2)環境問題とその対策について知る。 【授業時間外学習】 地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。 | | | |
| 第3回 疫学：その健康情報はどこからくるか 【到達目標】 (1)疫学の起源について知る。 (2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。 【授業時間外学習】 喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。 | | | 第11回 産業保健 【到達目標】 (1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。 【授業時間外学習】 働くことの意味について自分の考えをまとめておく。 | | | |
| 第4回 ヘルスプロモーション 【到達目標】 (1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。 【授業時間外学習】 本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。 | | | 第12回 メンタルヘルス対策 【到達目標】 (1)精神疾患の現状とその対策について知る。 【授業時間外学習】 厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。 | | | |
| 第5回 世界と日本の健康戦略 【到達目標】 (1)世界の健康戦略の流れを知る。 (2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。 【授業時間外学習】 教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び、説明できるようにしておく。 | | | 第13回 親子保健 【到達目標】 (1)我が国の母子保健の水準を知る。 (2)母子保健活動の動向について理解する。 【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。 | | | |
| 第6回 健康の社会的決定要因 【到達目標】 (1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。 【授業時間外学習】 現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。 | | | 第14回 地域保健 【到達目標】 (1)地域の様々な保健活動を知る。 (2)健康なまちづくりについて理解する。 【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。 | | | |
| 第7回 生活の場と健康 【到達目標】 (1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。 (2)WHOのsettingsアプローチを理解する。 【授業時間外学習】 一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。 | | | 第15回 将来への健康の課題 【到達目標】 (1)日本の人口、人口構成の将来を自分の事として考える。 (2)少子高齢社会の実態を知り、その対策について考える。 【授業時間外学習】 少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。 | | | |
| 第8回 がん対策 【到達目標】 (1)がんが身近な疾病であることを理解する。 (2)我が国のがん対策の現状を知る。 【授業時間外学習】 がんに関する情報を収集しておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 毎回の講義で、その回のキークエスションに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『学生のための現代公衆衛生 第7版』 中浩一編著 南山堂 このほかに適宜資料を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 健康科学論、生活習慣と健康、学校保健、精神保健 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 | | | | | | |

| 科目名 | 精神発達 | | | 担当者 | 中道直子 | |
|--|--------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Developmental Psychology | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 本講義では、ヒトが生まれてから死ぬまでの生涯に渡る心理的発達について概観し、各時期に生じる様々な問題についての理解を深めることを目的とする。これらの知見に基づいて、乳幼児や児童、生徒に対するのぞましい教育の在り方について考察することをねらいとする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 発達とは 【 到達目標 】 (1)発達の定義、子ども観・発達観やその歴史、発達の原理について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第9回 乳幼児期の遊び 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の遊びと、遊びを通した発達を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第2回 胎児期と母胎環境 【 到達目標 】 (1)胎児期の身体、脳、運動、知覚の発達と、それに対する母胎環境の影響について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第10回 初期経験の影響 【 到達目標 】 (1)ヒトの発達における初期経験の影響について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第3回 乳幼児期の身体と知覚 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の身体と脳と知覚の発達について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第11回 児童期の認知と学校への適応 【 到達目標 】 (1)児童期の認知について理解する。 (2)学校教育への適応における問題について説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第4回 乳幼児期の養育者とのつながり 【 到達目標 】 (1)他者と関係を築くための基盤的能力について理解する。 (2)養育者への愛着とその要因について説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第12回 青年期の身体と認知 【 到達目標 】 (1)青年期の第2次性徴と性行動について理解する。 (2)青年期の身体の変化と心の変化の関係について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第5回 乳幼児期の言葉 【 到達目標 】 (1)言語獲得の基礎やそのメカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第13回 青年期の自己の発達と社会化 【 到達目標 】 (1)青年期のアイデンティティの確立について理解する。 (2)青年期の対人関係について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第6回 乳幼児期の認知 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の認知の特徴を説明できる。 (2)認知発達段階について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第14回 成人期の心理的特徴と発達課題 【 到達目標 】 (1)成人期の身体の変化について理解する。 (2)成人期の社会的問題について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第7回 乳幼児期の自己 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の自己認識や自己抑制の発達について説明できる。 (2)乳幼児期の感情の発達について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第15回 老年期の心理的特徴と発達課題 【 到達目標 】 (1)エイジズムについて理解する。 (2)老年期の身体と認知の変化について説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第8回 乳幼児期の仲間関係 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の仲間関係の特徴について説明できる。 (2)仲間関係に影響する要因について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、教科書を軸として展開する。パワーポイントそのものの資料は配布しないため、受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料（図表のみ）を配布する。また、事後学習として、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「発達心理学の最先端」 中澤 潤（編） あいり出版 | | | | | | |
| 【関連科目】 教育心理学 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業時の提出物の内容を30%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|-----------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 科目名 | スポーツ医学 | | | 担当者 | 夏井裕明 | |
| 英文名 | Sports Medicine | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | | 専門・選択 |
| 【目的とねらい】 本講義は臨床スポーツ医学の後編（内科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本体育協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲ・Ⅳに関する内容を取り扱う。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション、健康の概念と医事法規 【到達目標】 健康の概念と医事法規について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキスト 上 p 3 - 11 を読む。 | | | 第9回 環境とスポーツⅡ（低温・低圧・高圧環境） 【到達目標】 凍傷と低温症、急性高山病、潜水事故について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 171 - 174, 221 を読む。 | | | |
| 第2回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで） 【到達目標】 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 256 - 260 を読む。 | | | 第10回 メディカルチェックとコンディショニング 【到達目標】 メディカルチェックの重要性とコンディショニング、運動中止の判定について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 17 - 27 を読む。 | | | |
| 第3回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで） 【到達目標】 女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 260 - 262 を読む。 | | | 第11回 皮膚・眼疾患とスポーツ 【到達目標】 主な皮膚疾患及び眼疾患について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 223 - 235 を読む。 | | | |
| 第4回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器の急性疾患） 【到達目標】 運動中の突然死とその対策について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 147 - 153, 187 - 198 を読む。 | | | 第12回 精神とスポーツ 【到達目標】 オーバートレーニング症候群、統合失調症、気分障害、摂食障害、神経症、睡眠障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 182 - 184 を読む。 | | | |
| 第5回 内科的疾患とスポーツⅡ（呼吸器・その他の急性疾患） 【到達目標】 過換気症候群、運動誘発性喘息、自然気胸、運動誘発性アナフィラキシー、Side Stitchについて理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 163 - 171 を読む。 | | | 第13回 海外遠征のスポーツ医学 【到達目標】 海外遠征の特殊性について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅳ p 18 - 22、アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 p 100 - 104 を読む。 | | | |
| 第6回 内科的疾患とスポーツⅢ（慢性疾患） 【到達目標】 貧血、蛋白尿・血尿、糖尿病、てんかんについて理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 180 - 182, 201 - 202 を読む。 | | | 第14回 ドーピング・コントロールⅠ（総論） 【到達目標】 ドーピングについて、なぜいけないのか、歴史、現状を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 13 - 17 を読む。 | | | |
| 第7回 感染症とスポーツ 【到達目標】 主な感染症とスポーツとの関わり、対策について理解する。 【授業時間外学習】 アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 p 38 - 59 を読む。 | | | 第15回 ドーピング・コントロールⅡ（各論） 【到達目標】 禁止物質、検査の実際について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 13 - 17 を読む。 | | | |
| 第8回 環境とスポーツⅠ（高温環境） 【到達目標】 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 153 - 157 を読む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 本科目は選択科目ではあるが、健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本体育協会公認スポーツ指導者共通科目、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。2年次前期開講の「救急処置法」を履修していることが望ましい。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」、公益財団法人 日本体育協会 「アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4」、公益財団法人 日本体育協会 | | | | | | |
| 【関連科目】 栄養学入門、生理・生化学入門、スポーツ生理学、機能解剖学、救急処置法 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 全講義に出席した者を単位認定の対象とし、試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | |

| 科目名 | 救急処置法 | | | | 担当者 | 夏井裕明 | |
|--|-----------|-------------------|---|-------|-----------|---------|--|
| 英文名 | First Aid | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | 専門・選択 | | |
| 【目的とねらい】 本講義は臨床スポーツ医学の前編（外科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本体育協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第9回 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ（頸部から胸部） 【 到達目標 】 頸部から胸部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61, 90 を読む。 | | | | |
| 第2回 外傷総論 【 到達目標 】 外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治療過程について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 29 - 36 を読む。 | | | 第10回 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ（腰部から骨盤） 【 到達目標 】 腰部のスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 89 - 100 を読む。 | | | | |
| 第3回 応急処置総論 【 到達目標 】 RICE処置の内容・方法・効果について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。 | | | 第11回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝の外傷） 【 到達目標 】 膝のスポーツ外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 115 を読む。 | | | | |
| 第4回 頭部のスポーツ外傷 【 到達目標 】 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39, 55 - 58, 157 - 160 を読む。 | | | 第12回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（膝の障害、大腿部） 【 到達目標 】 膝のスポーツ障害と大腿部のスポーツ外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 115 - 123 を読む。 | | | | |
| 第5回 顔面のスポーツ外傷 【 到達目標 】 顔面外傷、鼻出血、歯牙損傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 233 - 241 を読む。 | | | 第13回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（大腿・下腿・足部） 【 到達目標 】 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105, 123 - 139 を読む。 | | | | |
| 第6回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節） 【 到達目標 】 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。 | | | 第14回 心肺蘇生法の理論 【 到達目標 】 心肺蘇生法の理論について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。 | | | | |
| 第7回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から前腕） 【 到達目標 】 上腕から前腕までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 83 を読む。 | | | 第15回 心肺蘇生法実習 【 到達目標 】 心肺蘇生法実習を通じて、BLS（Basic Life Support）ができるようになる。 【授業時間外学習】 BLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。 | | | | |
| 第8回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（手関節から指） 【 到達目標 】 手関節から指までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 83 - 89 を読む。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 本科目は選択科目ではあるが、教員免許、健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本体育協会公認スポーツ指導者共通科目、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。2年次後期開講の「スポーツ医学」も併せて履修することが望ましい。 第15回の実習は夏休みの補講・集中講義期間中に実施する。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本体育協会 | | | | | | | |
| 【関連科目】 栄養学入門、生理・生化学入門、スポーツ生理学、機能解剖学、スポーツ医学 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 全講義に出席した者を単位認定の対象とし、試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | | |

| 科目名 | 女性のライフステージと運動 | | | | 担当者 | 沢井史穂 | |
|---|---|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Life Stage and Physical Activity of Women | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 ライフステージによって変わる女性の身体の構造と機能の特徴を知り、幼児期から老年期に至るまでの各ステージに応じた運動への取り組み方について考える。 また、女性の性機能と運動の関わり、女性特有の健康問題と運動との関わり、体力・運動能力の男女差、女性アスリートの健康問題等について理解を深める。そして、一生を通じて女性が運動・スポーツと関わることの意義と価値を考える。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 女性と運動 【 到達目標 】 (1)女性としての自分と運動・スポーツとの関わり方、年齢と運動との関係、女性スポーツ選手のイメージなど、いくつかのキーワードに沿って女性と運動について考える。 【授業時間外学習】 メディアや周囲の人が女性と運動との関わりをどう捉えているかを調べる。 | | | | 第9回 女性の性機能と運動の関わり (女性ホルモンの働きと性周期) 【 到達目標 】 (1)女性ホルモンの働きと性周期に伴う各種ホルモン、子宮、卵巣の変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を整理し、復習する。 | | | |
| 第2回 女性のスポーツ参加の変遷 【 到達目標 】 (1)社会環境の変化に伴う女性のスポーツ参加の変遷を理解する。 【授業時間外学習】 女性の参加する各種競技会やスポーツイベントに関心をもち、参加したり観戦したりする。 | | | | 第10回 女性の性機能と運動の関わり (月経と運動) 【 到達目標 】 (1)月経周期、月経前症候群 (PMS)、月経随伴症状について理解し、運動との関わり方について考える。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。 | | | |
| 第3回 女性のスポーツ参加の現状 【 到達目標 】 (1)成長期及び成人期女子の身体活動量、スポーツ参加率の現状を知り、改善策を考える。 【授業時間外学習】 スポーツ活動に参加したり、定期的な運動習慣を身につける。 | | | | 第11回 女性の性機能と運動の関わり (妊娠・出産と運動) 【 到達目標 】 (1)妊娠・出産に伴う身体の変化について理解する。 (2)妊娠期および産褥期における運動への取り組み方について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。 | | | |
| 第4回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (幼児期) 【 到達目標 】 (1)幼児期の身体特性と運動との関わりについて理解する。 (2)現代の生活環境が幼児の健康に及ぼす影響について考える。 【授業時間外学習】 幼児の運動に関する情報や資料を集めて読む。 | | | | 第12回 女性の性機能と運動の関わり (更年期障害と運動) 【 到達目標 】 (1)閉経がもたらす影響と更年期障害について理解する。 (2)更年期女性にとっての運動の効果について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。 | | | |
| 第5回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (発育発達期) 【 到達目標 】 (1)発育発達期における女子の身体特性と運動との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 発育発達期の運動に関する情報や資料を集めて読む。 | | | | 第13回 女性アスリートの健康問題 【 到達目標 】 (1)現代の女性アスリートが抱える様々な健康問題 (月経異常、摂食障害、骨粗鬆症等)について理解を深める。 【授業時間外学習】 女性アスリートの健康問題に関する情報や資料を集めて読む。 | | | |
| 第6回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (成人期) 【 到達目標 】 (1)現代の若い女性が抱える様々な健康問題と運動との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 若い女性の運動に関する情報や資料を集めて読む。 | | | | 第14回 体格・身体組成・体力・運動能力における性差 【 到達目標 】 (1)体格や身体能力の性差について、それが生じる要因とともに理解する。 【授業時間外学習】 運動場面で見られる性差について整理し、復習する。 | | | |
| 第7回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (中高年期) 【 到達目標 】 (1)中高年女性の身体特性を理解し、適切な運動習慣の取り入れ方について考える。 (2)肥満、メタボリックシンドローム、生活習慣病、うつ予防としての運動の効果について理解する。 【授業時間外学習】 中高年の健康と運動に関連する資料を探して読む。 | | | | 第15回 女性スポーツの展望 【 到達目標 】 (1)これからの女性とスポーツとの関わりについて、競技力向上、健康体力づくり、生きがいづくり等、様々な視点から、その意義と価値について考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、自分自身の運動とのかかわり方について考え、行動する。 | | | |
| 第8回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (老年期) 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体機能の低下に応じた運動について理解する。 (2)高齢者の運動実施における留意点について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康と運動に関連する資料を探して読む。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。図表を多く引用するので、その意味するところを読み取り、そこから何がわかるかを考えることに重点をおく。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら進めていくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。 ※2013年度入学生までは、科目名「女性と運動」 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に指定はない。授業内で適宜資料を配布する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 健康科学論、生涯スポーツ論 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業内での課題達成度40%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)60%で評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ史 | | | 担当者 | 都 筑 真 | |
|--|---------------|---------|---|---------|-----------|---------|
| 英文名 | Sport History | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 本講義では、社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解を深めることを目的とする。各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの在り様を理解していくことを通じて、今後のスポーツの在り方を考察していくことをねらいとする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。 | | | 第9回 近代の戦争と体育・スポーツ 【 到達目標 】 (1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第2回 スポーツ史を学ぶ意義 【 到達目標 】 (1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解する。 (2)スポーツ史を学ぶ意義について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第10回 オリンピックムーブメントと世界平和 【 到達目標 】 (1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解する。 (2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第3回 スポーツのルーツへのまなざし 【 到達目標 】 (1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第11回 日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法 【 到達目標 】 (1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第4回 各時代の社会におけるスポーツ 【 到達目標 】 (1)スポーツの時代毎の変化と現代のスポーツとの相違点を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第12回 スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果 【 到達目標 】 (1)スポーツの発展に貢献しているスポーツに関連した「モノ」「場」「サービス」の歴史とスポーツの経済効果について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第5回 スポーツ種目の誕生と変容 【 到達目標 】 (1)われわれの身近にあるスポーツ種目がなぜ誕生し、どのように変化してきたのかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第13回 女性スポーツの展開と現在 【 到達目標 】 (1)女性にとってスポーツ文化がこれまでどのようなものであったのか、そして現在どのようなものとなっているかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第6回 欧米スポーツの日本への移入 【 到達目標 】 (1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第14回 スポーツとメディア 【 到達目標 】 (1)スポーツとメディアの歴史的関係やスポーツメディアの特性について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | |
| 第7回 体操、身体教育、スポーツ教育 【 到達目標 】 (1)古代の体操、近代の身体教育、現代のスポーツ教育に関する理論と歴史的過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | 第15回 スポーツと環境問題 【 到達目標 】 (1)スポーツと環境問題の関係を理解する。 (2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。 | | | |
| 第8回 スポーツの技術、戦術、ルールの歴史的変容 【 到達目標 】 (1)スポーツの技術、戦術、ルールがどのように変化してきたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『スポーツの歴史と文化』（新井博／榎原浩見編著、道和本書院）を講義の参考書として利用すること。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ原論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 | | | | | | |

| 科目名 | 野外教育論 | | | | 担当者 | 北原 澄高 | |
|---|-------------------|---------|---|---------|-----------|---------|--|
| 英文名 | Outdoor Education | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 21世紀を展望した我が国の教育のあり方において、子どもたちに豊かな人間性やたくましさといった「生きる力」を育むことが重要であるとされ、体験学習に基づく野外活動/自然体験活動を手段として行われる野外教育や環境教育が強調されている。これらのことから、「野外教育」に求められる今日的意義及び教育的可能性を学ぶことを目的とし、野外教育が自然・他者(他存在)・自己との調和を育む上で有効な教育実践であることを、学習者の日常体験に照らしながら考え理解を深めることをねらいとする。また、指導者(教職を含む)のあり方について理解を深めることもねらいとする。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 「野外教育」とは：基礎概念・意義・効果・歴史、等 【 到達目標 】 (1) 野外教育の基本的考え方及びその意義や効果等を理解する。 (2) 野外教育の歴史的背景(起源・変遷・現状、等)を理解する。 【授業時間外学習】 自身の野外教育体験を小学校から振り返り、表にまとめてみる。 | | | 第9回 グループワーク(2)：身近な自然から考える 【 到達目標 】 (1) 身近な自然とは何であるかをグループで共有し理解する。 (2) 自然を身近に感じることの意義を日常に照らして考え理解する。 【授業時間外学習】 自身の生活圏を取り巻く自然環境はどの程度残されているかを調べる。 | | | | |
| 第2回 体験学習とその意義：野外活動/教育との関連から 【 到達目標 】 (1) 「体験」の今日的意味や重要性を理解する。 (2) 「体験学習」の理論とあり方について理解する。 【授業時間外学習】 大学での授業やクラブ等で経験した体験学習をまとめる。 | | | 第10回 野外生活技術の知識(2)：衣食住の観点から 【 到達目標 】 (1) 野外生活における基礎知識を衣食住の観点から理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 野外生活での献立を考えてまとめる。 | | | | |
| 第3回 日本の野外教育：学校教育との関連を含めて 【 到達目標 】 (1) 日本の野外教育の取り組み・現状を理解する。 (2) 野外教育が学校現場でどのように実施されているか理解する。 【授業時間外学習】 高校までの校外学習を列挙し、分類する。 | | | 第11回 プログラムデザインの考え方：理論と構成方法 【 到達目標 】 (1) 教育的効果を促し安全で楽しい活動構成のあり方を理解する。 (2) 応用として日数、対象、事前・事後等の点を交えて理解する。 【授業時間外学習】 自身が体験してみたい活動で起きた事故例をまとめる。 | | | | |
| 第4回 グループワーク(1)：チームビルディング(仲間づくり)について 【 到達目標 】 (1) 野外教育での「仲間づくり活動」の位置づけを理解する。 (2) 「仲間づくり活動」の重要性と日常での応用を理解する。 【授業時間外学習】 自身が考えるグループワークの必要性についてまとめる。 | | | 第12回 プログラム(活動)各論：よく実施される活動について 【 到達目標 】 (1) 主に「ASE」「登山」「キャンプファイア」等について理解する。 (2) 上(1)について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 キャンプファイヤーの必要性について考えをまとめる。 | | | | |
| 第5回 野外活動/教育と安全管理 【 到達目標 】 (1) 野外活動/教育における安全についての考え方や内容を理解する。 (2) 安全を保持するための方策を日常に照らしながら考え理解する。 【授業時間外学習】 野外活動時に自身が体験したヒヤリ・ハットをまとめる。 | | | 第13回 グループワーク(3)：作成プログラムの共有 【 到達目標 】 (1) 自ら作ったプログラム(課題)をグループで共有し理解する。 (2) 活動場所や日数等の要素を変えて立案し応用を理解する。 【授業時間外学習】 自身が体験してみたいプログラムの行程表の作成をする。 | | | | |
| 第6回 野外生活技術の知識(1)：天候、配慮すべき生物、等について 【 到達目標 】 (1) 野外生活における主に天候、配慮すべき生物について理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 自身が体験した天候による活動の変更等を列挙する。 | | | 第14回 野外教育の今後の展望：総括とその教育的可能性 【 到達目標 】 (1) 昨今重視される心の教育・ホリスティック教育等との接点を理解する。 (2) 上(1)を認識した上で、野外教育の今後の可能性を理解する。 【授業時間外学習】 現在実施されているホリスティック教育の活動例を調べてまとめる。 | | | | |
| 第7回 冒険教育との接点：プロジェクト・アドベンチャー(PA)の取り組みもふまえて 【 到達目標 】 (1) 野外教育の片翼「冒険教育」の基礎理論及び内容を理解する。 (2) 「冒険教育」の活用を、日常に照らしながら考え理解する。 【授業時間外学習】 自身にとつての冒険的活動とは何かを列挙する。 | | | 第15回 グループワーク(4)：ふりかえり(全体学習内容) 【 到達目標 】 (1) 野外教育の社会的・個人的意味について共有し理解する。 (2) 自己や周囲の人達(家族・友達)への活用を考え理解する。 【授業時間外学習】 野外教育の必要性について自分の体験を踏まえまとめる。 | | | | |
| 第8回 環境教育との接点：「ミニマムインパクト」をふまえて 【 到達目標 】 (1) 野外教育の一方の片翼「環境教育」の考え方を理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 自身が知っている自然の破壊の原因をまとめる。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義ではプロジェクターを多用します。各自でポイントとなるところはノートに書き留めるなどして、時間外学習に役立ててほしい。適宜プリントも配布します。また授業においては、下記の参考書を中心に講義を進めるため、必要に応じて購入すること。授業の進行を妨げるような行動(私語や携帯電話の使用など)は慎むこと。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜プリントを配布する。以下の参考書を中心に講義を進める。 参考書：『野外教育の理論と実践』自然体験活動研究会編(小森伸一 責任編集)/杏林書院(2011)、『キャンプテキスト』日本キャンプ協会 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 提出課題20%、学期末レポート50%、小テスト30%。なお、小テストは授業時間内に数回実施します。 | | | | | | | |

| 科目名 | 学校保健 | | | | 担当者 | 助友裕子 | |
|---|---------------|-------------------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | School Health | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | | |
| 【目的とねらい】 学校保健とは、学校管理下での児童生徒の精神的・身体的健康の保持増進や、学校生活を健康的に過ごす能力や知識を身につけさせる教育活動などを指し、保健指導、保健教育、衛生管理、安全管理などが含まれる。本授業では、学校現場で求められる学校保健の知識や、教員として携わる学校保健活動などについて学ぶことを目的とし、学校保健の現状や集団の健康管理などについて理解することをねらいとする。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 学校保健とは 【 到達目標 】 学校保健の意義や歴史的背景などを理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p17-28) を読み、学校保健の歴史をまとめる。 | | | | 第9回 学校環境衛生と教育活動 【 到達目標 】 児童生徒にとって望ましい学習環境について理解し、学校環境を的確に整えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p117-124) を読み、学校環境衛生基準を調べる。 | | | |
| 第2回 子どもの発達 【 到達目標 】 子どもの発達発達の特徴や現状を理解し、発達曲線などを用いて的確に評価できる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p29-41) を読み、子どもの発達発達の特徴をまとめる。 | | | | 第10回 保健教育の基礎とその展開 【 到達目標 】 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育などの保健指導、保健学習を含めた保健教育の目的や内容、必要性を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p78-83・125-146) を読み、保健指導計画を立てる。 | | | |
| 第3回 子どもの心身の発達と体育 【 到達目標 】 子どもの身体機能の変化と体力・運動能力の発達を体力テストなどを用いて的確に評価できる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p43-64) を読み、体力テストの種類と評価方法を調べる。 | | | | 第11回 学校安全の理論と学校安全活動 【 到達目標 】 学校で注意すべき安全や危機管理について理解し、災害を未然に防ぐ方法や災害発生時の対応策を考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p147-157) を読み、事故防止や安全にかかわる理論を調べる。 | | | |
| 第4回 現代的な健康課題の現状と対策① (感染症と予防接種) 【 到達目標 】 感染症の種類や症状の特徴などを理解し、予防接種の意義と学校集団での感染症の対応策を考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p70-75) を読み、学校感染症の特徴をまとめる。 | | | | 第12回 スポーツ活動中の事故防止 【 到達目標 】 スポーツ活動中に発生している事故の現状や背景を理解し、スポーツ活動中の事故防止対策を考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p159-169) を読み、スポーツ活動を含めた学校事故の特徴をまとめる。 | | | |
| 第5回 現代的な健康課題の現状と対策② (生活習慣病とメンタルヘルス) 【 到達目標 】 むし歯や肥満などの生活習慣病やメンタルヘルスなどの健康課題について学び、対応策を考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p65-70・84-89) を読み、子どもの健康課題をまとめる。 | | | | 第13回 子どもの体力低下と生活改善 【 到達目標 】 現代の子どもの体力の現状を理解し、体力向上や生活改善のための学校保健的アプローチを考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p171-184) を読み、子どもの体力低下の原因を調べる。 | | | |
| 第6回 学校保健計画と学校保健活動 【 到達目標 】 学校保健安全法に基づく学校保健活動について理解し、学校保健計画を立案することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p91-99) を読み、学校保健計画を作成する。 | | | | 第14回 特別支援教育と学校保健 【 到達目標 】 発達障害をもつ子どもの特徴と特別な配慮、特別支援のあり方を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p185-191) を読み、特別な支援が必要な子どもたちの特徴をまとめる。 | | | |
| 第7回 学校健康診断と健康評価 【 到達目標 】 健康診断の意義と方法、必要性を理解し、健康診断を用いた健康評価ができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p101-106) を読み、学校健康診断の特徴をまとめる。 | | | | 第15回 学校給食と食育 【 到達目標 】 給食の意義や目的、食の重要性を理解し、学校で望ましい食育ができる。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、学校給食の特徴や食育の重要性をまとめる。 | | | |
| 第8回 教職員の健康と教育活動 【 到達目標 】 学校保健活動における教職員の健康管理と教育活動について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p107-115) を読み、教職員の健康課題をまとめる。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業時にプリントを配付するので、自分で書き入れながら丁寧に読み、教科書とあわせて理解を深めるようにする。 やむを得ず欠席をしたものは、次回の授業までに配付資料を取りにくること。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問すること。学校保健に関する本、雑誌、気になる話題があれば日頃からチェックする習慣を身につけること。授業中の飲食・携帯・私語は厳禁とする。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「学校保健の世界」大澤清二著 (杏林書院) (参考図書は授業中に適宜紹介する) | | | | | | | |
| 【関連科目】 健康科学論、発達発達論、衛生学・公衆衛生学、保健体育科教育法 I (教育の方法・技術を含む) | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として試験の結果 (70%) と平常授業での課題 (30%) を用いて評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 精神保健 | | | | 担当者 | 角田和也 | |
|---|------------------------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Mental Health of Adolescence | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 | | |
| 【目的とねらい】 <p>昨今、「メンタルヘルス」「心の健康」という言葉を、日常生活の中でよく耳にするようになった。社会全体が個々の精神的な健康状態を以前よりも大切にしていこうとする風潮にある一方で、不登校やうつによる自殺の増加といった現実的な問題に直面していることが背景にあることに起因すると考えられる。こうした状況の中で、今日私たちが直面している子どもたちの心の健康の問題について、その実態を学ぶとともに対処方法を検討していく。</p> | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション／「精神保健」とは 【到達目標】 (1)「精神保健」の意義を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 第9回 子どもの生活環境と精神保健② 食生活から受ける影響 【到達目標】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである食生活の影響について理解するとともに、望ましい食生活についても理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第2回 「精神的健康」と現代社会 【到達目標】 (1)社会問題にもなっている「心の健康」にかかわる事象について、その実態を理解するとともにその要因について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 第10回 子どもの生活環境と精神保健③ 住環境から受ける影響 【到達目標】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである住居の影響について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第3回 ライフサイクルと精神保健① 出生前期に受ける影響 【到達目標】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである出生前期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 第11回 子どもの生活環境と精神保健④ 空気環境から受ける影響 【到達目標】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである空気環境について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第4回 ライフサイクルと精神保健② 乳児期に受ける影響 【到達目標】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである乳児期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 第12回 子どもの生活環境と精神保健⑤ 睡眠から受ける影響① 【到達目標】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである睡眠の影響について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第5回 ライフサイクルと精神保健③ 幼児期に受ける影響 【到達目標】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである幼児期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 第13回 子どもの生活環境と精神保健⑥ 睡眠から受ける影響② 【到達目標】 (1)引き続き、睡眠の影響について理解するとともに、望ましい睡眠のあり方についても理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第6回 ライフサイクルと精神保健④ 学童期に受ける影響 【到達目標】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである学童期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 第14回 発達障がい① 【到達目標】 (1)発達障がいの種類やその特徴を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | |
| 第7回 ライフサイクルと精神保健⑤ 思春期に受ける影響 【到達目標】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである思春期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | 第15回 発達障がい② 【到達目標】 (1)引き続き、発達障がいの特徴を理解するとともに、発達障がい児(者)の心の健康を保持するために必要な支援・援助のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。 | | | |
| 第8回 子どもの生活環境と精神保健① 家族から受ける影響 【到達目標】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである「家族」の質的变化について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 ・1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらを参考にしてください。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。 | | | | | | | |

| 科目名 | 障害者スポーツ論 | | | | 担当者 | 松原 豊 | |
|--|--------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|--|
| 英文名 | Theory of Adapted Sports | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | 専門基礎・選択 | | |
| 【目的とねらい】 ノーマライゼーションやバリアフリーなどの言葉が社会に定着しつつあり、障害の有無に関わらず全ての人が楽しめるスポーツ環境を整えていくことが重要になってきている。障害者スポーツはリハビリテーションを目的とした活動だけではなく、競技スポーツや生涯スポーツへと拡がり、さらに共生や交流を目的としたインクルーシブ・スポーツのニーズが高まってきている。本講義では、障害について正しく理解し、障害の特性に応じた体育・スポーツの意義や具体的な実践方法に関する知識を習得することを目的とする。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 障害理解について 【 到達目標 】 障害についての全般的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第9回 肢体不自由と体育・スポーツ（脳性障害を中心に） 【 到達目標 】 肢体不自由（脳性障害）の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。 | | | | |
| 第2回 ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン 【 到達目標 】 現代的な課題であるノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味を理解し、具体的なイメージを習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第10回 肢体不自由と体育・スポーツ（筋無力症を中心に） 【 到達目標 】 肢体不自由（筋無力症）の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。 | | | | |
| 第3回 ICFの概念について 【 到達目標 】 WHOのICFの概念を学び、障害のある人たちにとって活動、参加、環境因子の重要性を理解する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。 | | | 第11回 知的障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 知的障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。 | | | | |
| 第4回 障害者スポーツの歴史（リハビリから競技スポーツへ） 【 到達目標 】 障害者スポーツの歴史について、リハビリテーションから競技スポーツへの発展拡大についての基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。 | | | 第12回 重症心身障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 重症心身障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | |
| 第5回 障害者スポーツの現状（パラリンピックを中心に） 【 到達目標 】 障害者スポーツの現状として、パラリンピックについての知識を習得すると共に課題となる事柄について考察する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。 | | | 第13回 発達障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 発達障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | |
| 第6回 Adapted Physical Activitiesの理念と具体例 【 到達目標 】 Adapted Physical Activitiesの理念を学び、具体的な方法に関する知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。 | | | 第14回 インクルーシブ体育・スポーツ 【 到達目標 】 障害の有無に関わらず共に体育・スポーツを楽しむインクルーシブ体育についての基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | |
| 第7回 視覚障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 視覚障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。 | | | 第15回 将来への展望と課題、学習の振り返り 【 到達目標 】 障害者スポーツの将来への展望と課題について考察すると共に、これまでの内容を振り返りながら習得した知識の確認を行う。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | |
| 第8回 聴覚障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 聴覚障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 テキストを使用した講義による理解だけではなく、映像教材を用いて具体的なイメージが得られるようにする。必要に応じてレポートを課す。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 テキスト：『バリアフリーをめぐる体育授業』 筑波大学附属学校保健体育研究会編 杏林書院 補助資料としてプリントを配布する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業における課題達成度に対する評価（20％） レポートによる評価（20％） 試験による評価（60％） 試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ社会学 | | | 担当者 | 海老島均 | |
|---|------------------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Introduction to Sociology of Sport | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 4 | | 専門基礎・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 現代はスポーツの時代とも言われる。政治的、また経済的にスポーツがこれだけ重要性を有した時代はかつてない。グローバル化という現代社会の特徴を検証するうえで、スポーツは数々の具体例を提示している。本講義は、こうした現代社会とスポーツの関係性に関して、政治、経済、サブカルチャー等、様々な観点から考えていく内容から構成される。さらに現代までに蓄積されたスポーツ社会学の研究成果を紹介しつつ、スポーツ関連の諸現象に対しての社会的探求の有効性、可能性に関して理解を促す。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 学習のねらいと進め方 【 到達目標 】 スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。 【授業時間外学習】 現代社会におけるスポーツの抱える問題について、自分なりに整理し書き出してみる。 | | | 第9回 我が国の固有なスポーツ文化について考える 【 到達目標 】 明治期に海外より輸入されたスポーツがいかにか形作られてきたか、また日本古来のスポーツ（大相撲等）がいかにか生まれ変容してきたかについて、精神文化の観点から考え理解する。 【授業時間外学習】 日本のスポーツ文化について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。 | | | |
| 第2回 スポーツ指導者とスポーツ社会学の必要性 【 到達目標 】 現代社会においてスポーツ指導者が、なぜスポーツ社会学を学ぶ必要があるのかについて理解する。 【授業時間外学習】自ら経験したり体験したスポーツに関連して、スポーツ社会学が現場にどう貢献するかまとめてみる。 | | | 第10回 総合型地域スポーツクラブを社会的に考える 【 到達目標 】 ヨーロッパの総合型の現状とそれをモデルとする日本のプロモーションビデオを視聴し、現在における日本の総合型の課題について議論できるようにする。 【授業時間外学習】 自分の住む地域の地域スポーツの実態に関して調査する。 | | | |
| 第3回 グローバル化社会の中でのスポーツの変容 【 到達目標 】 スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する（小レポートを実施）。 【授業時間外学習】グローバル化社会の特徴について、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。 | | | 第11回 スポーツと身体 【 到達目標 】 スポーツと身体文化について、アスリートの身体、健康産業によって作りだされる健康、フィットネス産業によって作られる身体、加齢と身体といったトピックを社会的に理解・議論できるようにする。 【授業時間外学習】 上記のトピックから、自分が特に興味を持ったトピックに関して調べる。 | | | |
| 第4回 スポーツと政治の関係性について 【 到達目標 】 スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。 【授業時間外学習】スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。 | | | 第12回 文化をめぐるスポーツ／社会のなかのスポーツ 【 到達目標 】 スポーツが文化として成立するための文化的構成要素とその社会的担い手の特徴や変化をめぐる課題について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツの文化的要素とは何か、これまでの講義内容からまとめてみる。 | | | |
| 第5回 スポーツの社会における機能 【 到達目標 】 スポーツと人種、社会階級の関係性について、様々なスポーツ社会学の研究成果を踏まえて考えていく。スポーツが持つ人々を分断させる力、また融合させる力について理解する。 【授業時間外学習】 前回の授業で指示した読書課題を読み、理解する。 | | | 第13回 スポーツとジェンダー（1）—問題のとらえ方— 【 到達目標 】 ジェンダー問題とは何かについて理解し、スポーツにおける性差別問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。 【授業時間外学習】 スポーツに限定せず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。 | | | |
| 第6回 スポーツの産業化の功罪とスポーツ文化 【 到達目標 】 スポーツの産業化の功罪及びスポーツの文化性がスポーツ産業とどのように結びつくのかについて考えていく。健康産業、フィットネス産業に関して、社会的観点から理解・検討する。 【授業時間外学習】 スポーツビジネスの市場に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。 | | | 第14回 スポーツとジェンダー（2）—課題と展望— 【 到達目標 】 女性アスリートのメディア・イメージやパターナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができるようにする（小レポート実施）。 【授業時間外学習】 スポーツとジェンダーの問題に関して、特に関心のある領域に関して小レポートをまとめる。 | | | |
| 第7回 スポーツと社会的逸脱について 【 到達目標 】 スポーツと社会的逸脱の関係性について、ドーピング問題、スポーツと暴力等の問題をもとに理解を深めていく。 【授業時間外学習】 近年のドーピング問題の動向について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。 | | | 第15回 これからの社会とスポーツの使命・可能性 【 到達目標 】 スポーツが担うべきミッションについて各自が理解し、今後の展望について、社会的観点から独自の議論を展開できるようにする。 【授業時間外学習】 スポーツ社会学のパースペクティブについて理解し、整理する。 | | | |
| 第8回 スポーツと教育の関係性について 【 到達目標 】 スポーツと教育の関係性について、社会的観点から議論できるようにする。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会的観点から理解する（小レポートを実施）。 【授業時間外学習】 自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 1. 個別的な種目を離れて、スポーツの全体を捉えるようにする。 2. テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。 3. 現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。 4. 静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。 参考図書：菊幸一他編著、「現代スポーツのパースペクティブ」、大修館書店、2006 井上俊・菊幸一編著、「よくわかるスポーツ文化論」、ミネルヴァ書房、2012 | | | | | | |
| 【関連科目】 生涯スポーツ論、スポーツ原論、スポーツ政策論、スポーツ産業論、日常生活の社会学、ジェンダー論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 1. 試験：60%（試験は試験期間中に別途実施。持込不可） 2. 授業中の小レポート（3回）及びリアクションペーパーへの記述内容：40% 3. 良好な出席状況は、当然の前提である。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ政策論 | | | 担当者 | 齊藤隆志 | |
|---|--|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Sport Social Policy and Administration | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 4 | | 専門基礎・選択 | | 専門・選択 | |
| 【目的とねらい】 我が国や諸外国のスポーツ政策史、現在のスポーツ政策、スポーツを利用したまちづくりなどを知り、日本のスポーツのあり方を政策レベルで述べられるようにする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツ政策論概説 【到達目標】 (1) 授業ガイダンス、スポーツ政策関連用語を理解する。 【授業時間外学習】 政策とは何かをインターネットで調べる。 | | | 第9回 地域スポーツクラブ政策（3） 【到達目標】 (1) 総合型地域スポーツクラブの具体的事例について理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。 | | | |
| 第2回 スポーツ政策の歴史と政策史観 【到達目標】 (1) スポーツをめぐる政策史を理解する。 (2) 「政策」からみたスポーツの歴史観を理解する。 【授業時間外学習】 政策とは何かをインターネットで調べる。 | | | 第10回 競技力向上政策（1） 【到達目標】 (1) 我が国の競技力向上政策について理解する。 【授業時間外学習】 JISSとNTCの活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第3回 スポーツ基本計画（1） 【到達目標】 (1) スポーツ基本計画の全体構想と意義を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ基本計画についてインターネットで調べる。 | | | 第11回 競技力向上政策（2） 【到達目標】 (1) 諸外国の競技力向上政策を理解する。 【授業時間外学習】 JISSとNTCの活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第4回 スポーツ基本計画（2） 【到達目標】 (1) スポーツ基本計画の下位施策の目標を理解する。 (2) スポーツ基本計画の下位施策の具体的展開を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ基本計画についてインターネットで調べる。 | | | 第12回 競技力向上政策（3） 【到達目標】 (1) マルチサポート政策について理解する。 (2) スポーツ団体の競技力向上政策について理解する。 【授業時間外学習】 JISSのマルチサポートシステムについてインターネットで調べる。 | | | |
| 第5回 「スポーツ推進」という考え方 【到達目標】 (1) スポーツ基本法を理解する。 (2) 「みんなのスポーツ」を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ基本法についてインターネットで調べる。 | | | 第13回 スポーツ指導者養成政策（1） 【到達目標】 (1) 我が国のスポーツ指導者養成の具体的考え方を理解する。 【授業時間外学習】 日本体育協会の指導者資格についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第6回 コミュニティスポーツ推進政策 【到達目標】 (1) スポーツの公共性について理解する。 (2) スポーツによるコミュニティ形成について理解する。 【授業時間外学習】 地域におけるコミュニティ活動についてインターネットで調べる。 | | | 第14回 スポーツ指導者養成政策（2） 【到達目標】 (1) スポーツ指導者資格制度について理解する。 【授業時間外学習】 日本体育協会の指導者資格についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第7回 地域スポーツクラブ政策（1） 【到達目標】 (1) 総合型地域スポーツクラブとまちづくりについて理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。 | | | 第15回 スポーツ政策の展望と課題 【到達目標】 (1) 我が国のスポーツの将来像を具体的に述べるができる。 (2) 我が国のスポーツ法制度・行政制度を述べるができる。 (3) 我が国の具体的スポーツ政策を述べるができる。 【授業時間外学習】 第1回目から第14回目までの授業内容を復習する。 | | | |
| 第8回 地域スポーツクラブ政策（2） 【到達目標】 (1) 総合型地域スポーツクラブの具体的事例について理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業中の私語、携帯電話使用、飲食を禁じる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に指定しない。 適宜、印刷物を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、4回程度のテスト(50%)で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ指導者論 | | | 担当者 | 柴田雅貴 | |
|--|-----------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Theory of Sport Coach | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 4 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 現代におけるスポーツ指導者のあり方を論理的に学び、実践で役立てられるようにすることをねらいとする。指導者として、指導の目的・目標とは、指導における成功とは、指導者の価値観とは、を議論しながら考え、自分なりの指導者像を形成していく。また、指導者に必要なリーダーシップとフォロワーシップについて議論しながら考え、選手との双方向なコミュニケーションの取り方を探っていく。そして、理想的な女性の指導者像を導き出し、現代におけるスポーツ指導者のあるべき姿を探っていく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 指導者とは 【 到達目標 】 語源からみる「指導者（コーチ）」および「スポーツ」の本来の意味を理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | 第9回 実際の指導者 【 到達目標 】 海外を代表する実際の指導者のコーチングや指導理念などについて映像で触れ、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。対象は子ども達の選手を指導する指導者とする。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | |
| 第2回 スポーツとは 【 到達目標 】 語源からみる「スポーツ」の本来の意味を理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。また、日本におけるスポーツ指導者資格について理解する。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | 第10回 指導者の倫理的価値観 【 到達目標 】 実際に起こった指導者の暴言や暴力による指導、モラルに反した行動について理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | |
| 第3回 指導の目的・目標について 【 到達目標 】 目的と目標の違いについて理解し、その上で指導する際の優先順位を明確にする必要性を感じとり、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | 第11回 指導者の倫理的価値観 【 到達目標 】 指導者や選手を対象としたアンケート結果をもとに指導者の暴言や暴力による指導の限界、モラルに反した行動について理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | |
| 第4回 実際の指導者 【 到達目標 】 日本を代表する実際の指導者のコーチングや指導理念などについて映像で触れ、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。対象は成人選手の日本代表チームを指導する指導者とする。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | 第12回 双方向のコミュニケーション 【 到達目標 】 選手と指導者による双方向のコミュニケーションについて理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。 【授業時間外学習】 選手と指導者の具体的な良いコミュニケーション法について調べる。 | | | |
| 第5回 幹となる資質を育てる 挑戦と失敗 【 到達目標 】 選手の育成にあたり重要な幹となる資質について理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。今回は「挑戦と失敗」について理解する。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあり方を整理する。 | | | 第13回 コーチングとティーチング 【 到達目標 】 実際の指導におけるコーチングとティーチングについて理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | |
| 第6回 幹となる資質を育てる 主体性 【 到達目標 】 選手の育成にあたり重要な幹となる資質について理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。今回は「主体性（自主性）」について理解する。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | 第14回 実際の指導者 【 到達目標 】 日本を代表する実際の指導者のコーチングや指導理念などについて映像で触れ、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。対象は女子高校生選手を指導する指導者とする。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | |
| 第7回 幹となる資質を育てる スポーツマンシップ 【 到達目標 】 選手の育成にあたり重要な幹となる資質について理解しスポーツ指導者のあるべき姿を探る。今回は「スポーツマンシップ」について理解する。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | 第15回 理想とする指導者像 【 到達目標 】 これまでの14回の講義を振り返り、各自が理想とするスポーツ指導者を導き出し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。 【授業時間外学習】 総合的な自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | |
| 第8回 指導の理念 PATROL 【 到達目標 】 実際に指導する際の理念について「PATROL」を題材に理解し、スポーツ指導者のあるべき姿を探る。 【授業時間外学習】 自分なりのスポーツ指導者のあるべき姿を整理する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義全般にわたりパワーポイントで行う。ただしパワーポイントの文言を写すだけでなく、講義の話しも聴きながらメモを取り、授業の最後にレポート用紙に理解した事柄をまとめ、自分の意見や考えを整理する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 必要に応じてプリント教材を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎授業時の小レポートの達成度70%、最終レポートの達成度30%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 指導サービス論 | | | 担当者 | 畑 攻 | |
|--|---------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Sport Service | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 4 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 体育やスポーツ活動の支援や促進は、各種のスポーツサービスの展開によって具体化される。本講義を通して学校、地域、ビジネス及びプロスポーツなどの各活動領域の実践的なサービスの現状を把握するとともに、各サービスの提供母体や拠点の特性、対象者（消費者）の特性及び各スポーツの特性を活用した、調和のあるスポーツサービスのあり方を理解する。また、今日的な状況に適合する新たなスポーツサービスの企画開発の可能性やそのためのマネジメントのあり方についての理解も深めたい。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 一般的なサービスの変容と進化 【 到達目標 】 (1)「サービス」の曖昧さと変容及び今日的な意味を理解する。 (2)実態のある業務としてのサービスの重要性を理解する。 【授業時間外学習】 サービスという言葉について、何を指すのか、どのようなことなのかを整理する。 | | | 第9回 スポーツサービスの企画開発3（学校） 【 到達目標 】 (1)学校におけるスポーツサービスの現状を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 学校における様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。 | | | |
| 第2回 スポーツサービスの特徴と課題 【 到達目標 】 (1)伝統的なスポーツサービス論（体育事業論）を理解する。 (2)経営学的なサービス論とスポーツサービス論を考察する。 【授業時間外学習】 スポーツとサービスの関係について考えてみる。 | | | 第10回 スポーツサービスの企画開発4（ビジネス） 【 到達目標 】 (1)スポーツビジネスにおけるサービスの動向を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 ビジネス分野における様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。 | | | |
| 第3回 スポーツサービスの中核的構造（ベネフィット） 【 到達目標 】 (1)スポーツプロダクトモデルの構造を理解する。 (2)中核となるスポーツベネフィットについて広く検討する。 【授業時間外学習】 製品としてのスポーツの最も重要な中身は何かを考えてみる。 | | | 第11回 スポーツサービスの企画開発5（みるスポーツ） 【 到達目標 】 (1)みるスポーツにおけるサービスの動向を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 みることを主とする様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。 | | | |
| 第4回 スポーツサービスの周辺的構造（接客、態度、精神など） 【 到達目標 】 (1)スポーツサービスの価値を高める各種の要因を理解する。 (2)スポーツにおける「おもてなし」構造と重要性を検討する。 【授業時間外学習】 製品としてのスポーツの質をより高める条件を整理して考えてみる。 | | | 第12回 スポーツサービスの企画開発6（女性スポーツ） 【 到達目標 】 (1)現代女性のためのスポーツサービスの状況を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 女性における様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。 | | | |
| 第5回 サービスマーケティングの基本理論 【 到達目標 】 (1)スポーツをめぐる様々なマーケティングを理解する。 (2)サービスマーケティングの基本を理解する。 【授業時間外学習】 マーケティングの基本を振り返ってみる。 | | | 第13回 スポーツサービスの企画開発7（高齢者） 【 到達目標 】 (1)高齢者をめぐるスポーツサービスの状況を広く理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 高齢者における様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。 | | | |
| 第6回 サービスマーケティングの基本戦略 【 到達目標 】 (1)スポーツに関わる様々なマーケティング戦略を理解する。 (2)スポーツの固有なマーケティング戦略を検討する。 【授業時間外学習】 サービス製品としてのスポーツを見直すとともに、その段階的なマーケティングを考える。 | | | 第14回 スポーツサービスの企画開発8（日本女子体育大学） 【 到達目標 】 (1)本学のスポーツサービスの現状を理解する。 (2)今後の本学にふさわしいスポーツサービスを検討する。 【授業時間外学習】 日本女子体育大学ができる様々なスポーツ活動とそのサービス化を考えてみる。 | | | |
| 第7回 スポーツサービスの企画開発1（地域社会） 【 到達目標 】 (1)一般的な地域社会のスポーツサービスの現状を理解する。 (2)伝統的なサービスと将来的なサービスの必要性を理解する。 【授業時間外学習】 地域スポーツの問題点と今後のサービスの在り方を考えてみる。 | | | 第15回 総括：スポーツサービスの課題と展望 【 到達目標 】 (1)スポーツサービスの基礎基本を総復習し理解を深める。 (2)スポーツサービスの今後の課題と可能性を検討する。 【授業時間外学習】 スポーツサービスの基本を踏まえて、自分のサービス企画を作り上げる。 | | | |
| 第8回 スポーツサービスの企画開発2（子どもスポーツ） 【 到達目標 】 (1)現代の子どもの状況とサービスの現状を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 子どもスポーツの問題点と今後のサービスの在り方を考えてみる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 基礎科目である「スポーツマネジメント」を踏まえて、より実践的なスポーツサービスの企画運営を目指して授業を展開する。授業の基本事項の理解や習得は必須であるが、この段階にとどまらず、スポーツサービスの扱いに精通した現代的な専門家としての基礎を築いて欲しい。そのためには、常に実際のサービスに触れること、体験すること、そして実情を十分に踏まえて踏み込んで考えてみる事が望まれる。実効性のあるサービス企画、発展性のあるサービス企画、夢のあるサービス企画がどれだけ浮かび上がるかが楽しみである。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「スポーツ経営学（改訂版）」山下、畑、富田（編著）大修館書店を参考にする。 その他必要に応じて参考資料として授業で配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 数回の授業内の小テスト及びレポートを50%、最終レポート（サービスの企画書）の結果を50%として総合評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ法学 | | | 担当者 | 中村安菜 | |
|--|------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Sports Law | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 4 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツ事故をはじめ、スポーツと法律の接する領域は少なくない。特に、学校体育における事故をめぐる法律問題は、その典型的な領域である。この講義では、こうした問題領域についての理解を深めることを中心としつつ、スポーツに関わるその他の法的論点も取り上げてゆく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツと法律が関わる領域 【到達目標】 (1) スポーツと法律が関わるのはどのような場合かについて理解する。その中で、この講義で取り上げる問題領域について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツと法律が関連する具体例を考える。 | | | 第9回 判例を読む① 【到達目標】 (1) スポーツに関する事故を扱った判決の読み方を身につける。 中学校の正課体育の時間に発生した事故における教員の責任 【授業時間外学習】 授業前に判例を熟読する。 | | | |
| 第2回 法的責任とは何か 【到達目標】 (1) 民事責任、刑事責任、行政責任の違いについて理解する。 (2) それぞれの責任を問う仕組みの違いについて理解する。 【授業時間外学習】 民事事件と刑事事件とは何かを調べる。 | | | 第10回 判例を読む② 【到達目標】 (1) スポーツに関する事故を扱った判決の読み方を身につける。 施設内で発生した事故におけるスポーツジムの責任 【授業時間外学習】 授業前に判例を熟読する。 | | | |
| 第3回 刑事責任について 【到達目標】 (1) スポーツに関係して刑事責任が問われる場合について理解する。 (2) 競技に関してなされた加害行為の法的特殊性について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツにおいて刑事責任を負うことになった事例を調べる。 | | | 第11回 判例を読む③ 【到達目標】 (1) スポーツに関する事故を扱った判決の読み方を身につける。 大会参加者と第三者との間に発生した事故における主催者の責任 【授業時間外学習】 授業前に判例を熟読する。 | | | |
| 第4回 民事責任概説 【到達目標】 (1) スポーツに関係して民事責任が問われる場合について理解する。 (2) 民事責任の種類について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツにおいて民事責任を負うことになった事例を調べる。 | | | 第12回 スポーツと体罰 【到達目標】 (1) スポーツに関連して発生する体罰の特殊性と求められる対策について理解する。 【授業時間外学習】 体罰を防止するために効果的な手段を考える。 | | | |
| 第5回 不法行為の要件 【到達目標】 (1) 不法行為とはどのようなことなのかについて理解する。 (2) 不法行為責任が認められるのはどのような場合なのかについて理解する。 【授業時間外学習】 不法行為について規定している条文を調べ、コピーする。 | | | 第13回 スポーツとセクシュアル・ハラスメント 【到達目標】 (1) スポーツに関連して発生するセクシュアル・ハラスメントの特殊性と求められる対策について理解する。 【授業時間外学習】 セクシュアル・ハラスメントを防止するために効果的な手段を考える。 | | | |
| 第6回 不法行為の効果 【到達目標】 (1) 不法行為責任の法的効果について理解する。 (2) 過失相殺等の意味について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ以外の場面で不法行為責任を負う事例を調べ、箇条書きでまとめる。 | | | 第14回 スポーツをめぐる紛争解決の工夫 【到達目標】 (1) スポーツに関して発生する紛争を解決するために設けられている紛争解決機関の現状と課題について理解する。 【授業時間外学習】 日本仲裁スポーツ機構のホームページを授業前に確認し、その活動を理解する。 | | | |
| 第7回 損害賠償責任を負うのは誰か 【到達目標】 (1) 責任無能力者に対する監督義務者等の責任について理解する。 (2) 使用者責任、国・地方公共団体等の責任について理解する。 【授業時間外学習】 公立学校における体育授業中に起きた事故の事例を1つ調べる。 | | | 第15回 スポーツ指導者の責任と法 【到達目標】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 授業を通して自分が関心をもった事項について、ミニ・レポートにまとめる。 | | | |
| 第8回 施設等が原因となって発生した事故と法律 【到達目標】 (1) 施設などの欠陥を原因とする事故の責任について理解する。 (2) 器具などの製造者に負わせられる責任について理解する。 【授業時間外学習】 器具の故障などが問題となった事件を新聞などで調べる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 開講時に指示する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法基礎演習（新体操） | | | 担当者 | 木皿 久美子・橋爪 みすず | |
|--|---|-------------------|---|-------|---------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Basic Methods of Sports (Rhythmic Gymnastics) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 新体操に要求されている徒手要素（ジャンプ・バランス・ピボット・柔軟な動き）を初歩から段階的に行うと同時に、身体の動きと手具操作の調和を音楽と一緒に実践する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 授業展開とねらい、評価方法・学習上の留意点について理解する。 新体操の概要を理解する。 【授業時間外学習】 新体操に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第9回 ボール：徒手要素と手具操作 【 到達目標 】 身につけた徒手要素（柔軟な動き・バランス・ピボット・ジャンプ）と手具操作を組み合わせで実践できる。 【授業時間外学習】 ボールの基礎技術要素を調べておく。 | | | |
| 第2回 新体操の特性 【 到達目標 】 新体操に必要な柔軟性・バランス・調整力・筋力などを高める。 【授業時間外学習】 新体操の体力トレーニングについて調べておく。 | | | 第10回 ボール：音楽との調和 【 到達目標 】 徒手要素と手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。 【授業時間外学習】 メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。 | | | |
| 第3回 新体操の基礎運動① 【 到達目標 】 正しい基本姿勢および柔軟な動き・バランスを実践し、基礎技術を身につける。 【授業時間外学習】 新体操の基礎的要素（柔軟・バランス）について理解を深める。 | | | 第11回 ボール：フレーズの組み立て 【 到達目標 】 曲調に合ったステップや動きを取り入れながら、フレーズを実践できる。 【授業時間外学習】 メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。 | | | |
| 第4回 新体操の基礎運動② 【 到達目標 】 正しい基本姿勢およびジャンプ・ローテーション（ピボット）を実践し、基礎技術を身につける。 【授業時間外学習】 新体操の基礎的要素（柔軟・バランス）について理解を深める。 | | | 第12回 ボール：実技課題の実践① 【 到達目標 】 身につけたフレーズを音楽に合わせて、作品を実践できる。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。 | | | |
| 第5回 フープ：基本操作の実践 【 到達目標 】 回す、くぐる、転がす、投げるなどの基本操作からフープの特性を理解する。 【授業時間外学習】 フープの特性を調べておく。 | | | 第13回 ボール：実技課題の実践② 学習方法の理解 【 到達目標 】 手具操作と身体の動きが明確になり、技術を習得できる。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。 | | | |
| 第6回 フープ：徒手要素と手具操作 【 到達目標 】 身につけた徒手要素（柔軟な動き・バランス・ローテーション・ジャンプ）と手具操作を組み合わせで実践できる。 【授業時間外学習】 フープの基礎技術要素を調べておく。 | | | 第14回 ボール：実技課題の実践③ 【 到達目標 】 音楽と体のリズムに合わせたタイミングの良い手具操作を身につけながら、動きのつながりがスムーズになるよう、更に実践を重ねる。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。 | | | |
| 第7回 フープ：音楽との調和 【 到達目標 】 徒手要素と手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。 【授業時間外学習】 メディア等を活用し、フープの基礎技術について理解を深める。 | | | 第15回 ボール：作品の発表 【 到達目標 】 作品の発表を行う。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、修正すべき点を検討する。 | | | |
| 第8回 ボール：基本操作の実践 【 到達目標 】 突く、転がす、投げるなどの基本操作から、ボールの特性を理解する。 【授業時間外学習】 ボールの特性を調べておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 アクセサリー類や時計は、相手や自らの怪我を引き起こす危険性や、手具により破損する可能性があるため、決して身につけない。服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は好ましくない。（パーカー・スウェットは着用しない） | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 必要に応じて、プリント教材を配布します。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 実技試験70% レポート30% | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法基礎演習（ハンドボール） | | | 担当者 | 笹倉清則 | |
|--|---|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Basic Methods of Sports (Handball) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 ハンドボール競技の指導を「ゲームができるように」という主題のもとで、ゲーム構造を理解し、ゲームを局面に分類し、ゲームで発生する局面に従い、それぞれの局面に必要な技術・戦術を学習し、ゲーム全体を作り上げていく指導方法を理解する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 ガイダンスでは、授業の進め方や授業進行上4つのグループとして授業を展開することを理解する。また、最終の実課題と評価について理解する。 【授業時間外学習】 ハンドボールの発生や歴史について学習する。 | | | 第9回 第6局面での「防御」の理解 【 到達目標 】 本来組織的攻撃の第4局面の次は、戻りの局面の第5局面であるが、この授業ではこの局面を除き、組織的防御の第6局面の構想について理解し、組織的防御に必要な技能を習得する。 【授業時間外学習】 速攻に対する戻りから組織的防御への流れを理解する。 | | | |
| 第2回 ハンドボールのゲームの局面理解 【 到達目標 】 この授業で中心となる最終目標を「ゲームができる」とし、その為に授業展開がゲームの時間経過に伴う変化（ゲームの局面）にあわせて展開することを理解する。あわせて局面自体に関しても理解する。 【授業時間外学習】 学習指導要領のハンドボールを調べ理解を深める。 | | | 第10回 総合的ミニゲーム① 【 到達目標 】 これまでのすべての局面で理解したことや身につけた技術を、ゲームの場面で状況に応じて発揮できるようにする。 【授業時間外学習】 今日のゲームの中でのチームの戦術、そして個人の評価をし、次回につなげる。 | | | |
| 第3回 第1局面「ボール獲得」の理解と技術習得 【 到達目標 】 3回目から9回目まではハンドボールのゲーム局面を6つとして、ゲームの進行に伴う局面に従い、それぞれの局面に必要な技術・戦術を理解する。第1回目は第1局面でボールを獲得する技術・戦術を理解する。 【授業時間外学習】 第1局面の理解とそこで必要な技術・戦術をまとめる。 | | | 第11回 総合的ミニゲーム② 【 到達目標 】 前回行った総合的ゲームの反省から、修正を加えたり、より戦術的なゲームが実践できたりするようにする。 【授業時間外学習】 いろいろな攻撃戦術の変化や、防御戦術の仕方を事前に学ぶ。 | | | |
| 第4回 第2局面「ボールを進める」の理解と技術習得 【 到達目標 】 前回授業で理解した「ボール獲得」第1局面から、取ったボールを相手コートに進めるための第2局面について、その構想、戦術、必要な技術を習得し理解をする。 【授業時間外学習】 ボールを運ぶ為の技術・戦術の理解を深める。 | | | 第12回 チームごとの作戦にもとづくゲーム① 【 到達目標 】 12.～14.の授業では4つの班に分かれ、その班のメンバーを考慮して各チームがおのおのの戦術を選択し、相手チームに対応して戦術を変化させる。作戦タイム等でゲームの進め方やルールも理解する。 【授業時間外学習】 今回チームでつかった戦術の反省と次回へ向けての対策を学ぶ。 | | | |
| 第5回 第3局面「シュートを狙う」の理解と技術習得 【 到達目標 】 前回の授業の「ボールを進める」第2局面から、ゴール前でのシュートを狙う第3局面の構想や戦術を理解し、それに必要な技術を習得し理解する。 【授業時間外学習】 いろいろなシュートについて学習する。 | | | 第13回 チームごとの作戦にもとづくゲーム② 【 到達目標 】 12.～14.の授業では4つの班に分かれ、その班のメンバーを考慮して各チームがおのおのの戦術を選択し、相手チームに対応して戦術を変化させる。作戦タイム等でゲームの進め方やルールも理解する。 【授業時間外学習】 実技試験のジャンプスロー20mの投技術の課題練習をする。 | | | |
| 第6回 第4局面「攻撃を組み立てる」の理解と技術習得 【 到達目標 】 「シュートを狙う」第3局面でシュートまで至らないときに、初めて組織的攻撃としての第4局面の構想や戦術を理解する。そこでフェイントやパスなどの個人戦術を習得し、理解する。 【授業時間外学習】 組織的攻撃に関して学習する。 | | | 第14回 チームごとの作戦にもとづくゲーム③ 【 到達目標 】 12.～14.の授業では4つの班に分かれ、その班のメンバーを考慮して各チームがおのおのの戦術を選択し、相手チームに対応して戦術を変化させる。作戦タイム等でゲームの進め方やルールも理解する。 【授業時間外学習】 最終ゲームに向けて自分のチームの戦術を学習する。 | | | |
| 第7回 第4局面でのグループ戦術の習得 【 到達目標 】 前回の授業で理解した第4局面を発展させ、個人戦術からグループ戦術の理解とそれに必要な技術を習得する。 【授業時間外学習】 いろいろなグループ戦術、チーム戦術に関して事前に学習する。 | | | 第15回 トップレベルの戦術の理解とその応用 【 到達目標 】 現代のトップの映像をみて、それをチームに取り入れたゲームを行い、戦術を工夫する。互いに競い合いながらゲームを行う。 【授業時間外学習】 15回の授業を基にハンドボール競技の理解を深める。 | | | |
| 第8回 第4局面でのチーム戦術 【 到達目標 】 組織的攻撃の最終段階としてチーム戦術（攻撃戦術）を理解し、チームとしてどのように考え、戦術を選ぶかを理解し、その戦術をチームとして習得する。 【授業時間外学習】 攻撃戦術のまとめを理解することと、自軍コートへの戻りを事前に理解する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 学生たちが技術習得する授業であるが、この授業では実際の指導方法論の手順にしたがって進めることを理解する。技術習得だけでなく、それをゲームの場面で対応して発揮できるかが主眼であることを理解する。また、この授業では単位修得の条件として二つの課題のテストがあることを理解する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 最終的な技術の課題テスト20%、毎回の授業での技能習得や戦術の理解度40%、チームとしての活動の中での役割の理解やゲームでの対応能力40%。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法基礎演習（サッカー） | | | 担当者 | 玉井 朗 | |
|---|---|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Basic Methods of Sports (Soccer) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 サッカーの基本的な技術を習得することが本授業の目的である。そのために、ボールに触れる機会がサッカーより断然多いフットサルのゲームをサッカーの練習と並行して行っていく。①フットサルの基本技術をドリルし、スキルとして習得できるよう努力する。②チーム構成員同士が勝利を目指し、協力し合う態度を学ぶ。③ゲームを楽しむためには相手チームの選手やレフェリーを尊重しなければならないという現実を認識し、フェアな態度や他者への思いやり等を学ぶ。以上のことを目的として本授業を展開する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ボールコントロールとキックのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)技術のコツを理解し実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第9回 3人目のプレーヤーを使う攻撃のトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)3人目のプレーヤーを使うタイミング、使われるタイミングを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第2回 ボールコントロールとヘディングのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)技術のコツを理解し実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第10回 ボールを奪うトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)タックルのタイミングと方法を理解し実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第3回 ボールコントロールとドリブルのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)技術のコツを理解し実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第11回 守備におけるチャレンジとカバーのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)チャレンジとカバーについて理解し実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第4回 コミュニケーションのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)コミュニケーションのタイミングを理解し実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第12回 クロスボールからの攻撃パターンのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)クロスボールからシュートまでのパターンを3種類実践しシュートまでつながるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第5回 視野の確保のトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)良いボディシェイブを確保するステップワークを学び実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第13回 チーム毎でのウォームアップとゲーム① 【 到達目標 】 (1)ウォームアップをチーム毎できちんと行いその後ゲームを行えるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第6回 攻撃のサポートのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)サポートの角度とタイミング、そして距離を理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第14回 チーム毎でのウォームアップとゲーム② 【 到達目標 】 (1)ウォームアップをチーム毎できちんと行いその後ゲームを行えるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第7回 3対1のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)サポートの動きと良い視野を保つことを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第15回 レクリエーションゲーム 【 到達目標 】 (1)班編成を変え、レクリエーションゲームを行う。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第8回 4対2のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)クサビのパスのタイミングを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとする。アクセサリ類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法応用演習（サッカー） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 以下の割合にて評価し、点数化する。①授業への取り組み方・参加度60%、②技術点（実技テスト）10%、③知識点（理論テスト）10%、④準備点（服装・ゼッケン等の準備）20%。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|---|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 科目名 | スポーツ方法基礎演習（柔道） | | | 担当者 | 木村昌彦 | |
| 英文名 | Seminar in Basic Methods of Sports (Judo) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツ種目の一つである柔道の基礎技能（受身の仕方、投げ技、固め技など）を習得する。併せて柔道の歴史的発展についての知識も学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション（授業展開について） 【到達目標】 授業の全体像を把握する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第9回 受身試験 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第2回 柔道の基本動作、受身（後受身）、固め技（袈裟固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第10回 投げ技（大腰）、固め技（関節技、乱取） 【到達目標】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第3回 受身（横受身・前回受身）、固め技（袈裟固の逃れ方、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第11回 投げ技（払い腰、約束練習）、固め技（絞め技、乱取） 【到達目標】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第4回 受身（前回受身）、固め技（崩れ袈裟固め、横四方固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第12回 投げ技（体落とし、約束練習）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅰ 【到達目標】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第5回 投げ技の基本動作（姿勢、組み方、進退動作、崩し一作り一掛け）、投げ技（膝車） 【到達目標】 基本動作を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第13回 投げ技（連絡技、乱取）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅱ 【到達目標】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第6回 投げ技（膝車、小内刈）、固め技（上四方固、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第14回 試験（投げ技、固め技） 【到達目標】 正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第7回 投げ技（大外刈り、背負投）、固め技（縦四方固、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第15回 簡易な試合 【到達目標】 柔道全般を理解する。 【授業時間外学習】 参考書と学習指導要領を用いて指導法の理解を深める。 | | | |
| 第8回 投げ技（釣込腰、払腰）、固め技（各種抑え技の逃れ方、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「受け身から作る柔道授業（仮）」木村昌彦 著（ベースボールマガジン社） 「いちばんわかりやすい！柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） 「女子のための柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート（30%）と試験（70%）で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習（体操） | | | 担当者 | 佐藤麻衣子 | |
|---|---|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Gymnastics) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 本授業は、方法実習A（体操）の発展科目とし、同様に、中学校と高等学校の保健体育科教育における「体づくり運動」の「体ほぐし運動」の指導力を習得するために、その適正な実施法を習得することを主目的とし、適宜、指導法についても解説するものである。なお、リズム体操やなわとびについてはより高度な内容とし、また、マ스ゲームに代え、「体ほぐし」に直結するストレッチ運動を新規に取り扱う。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 リズム体操 課題Ⅰ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 運動効果及び5回の授業内容を理解する。また、テンポの速い課題曲のカウントをとることが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | 第9回 短なわとび 課題Ⅳ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 I N F 公認初級レベルの技術を習得することができる。また、それを正確に実施することが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | |
| 第2回 リズム体操 課題Ⅱ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 グループ編成を行い、音楽を使わず一人8×8カウントの体操を創作する。また、それを正確に実施することが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | 第10回 短なわとび 課題Ⅴ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 I N F 公認中級レベルの技術を習得することができる。また、それを正確に実施することが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | |
| 第3回 リズム体操 課題Ⅲ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 前週の課題と合わせて一人8×16カウントの体操を創作する。また、それを課題曲に合わせて、正確に実施することが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | 第11回 短なわとび 課題Ⅵ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 これまでの課題を模範することが出来る。また、それを指導することが出来る。 【授業時間外学習】 6回～10回までのノートを整理する。 | | | |
| 第4回 リズム体操 課題Ⅳ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 課題曲に合わせた一人8×8の体操の動きを止めずに説明できる。更に、グループ全員が正確な体操を実施することが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | 第12回 ストレッチ 課題Ⅰ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 運動効果及び4回の授業の内容を理解する。また、ストレッチを実施する筋肉の名称を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容をノートに記録する。 | | | |
| 第5回 リズム体操 課題Ⅴ「主に律動的な運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 これまでの課題を模範することが出来る。また、それを指導することが出来る。 【授業時間外学習】 1回～4回までのノートを整理する。 | | | 第13回 ストレッチ 課題Ⅱ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 各筋肉に対するストレッチの技術を習得することが出来る。また、それを模範することが出来る。 【授業時間外学習】 授業内容をノートに記録する。 | | | |
| 第6回 短なわとび 課題Ⅰ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 運動効果とその理解及び6回の授業内容を理解することが出来る。また、年齢に応じた用具の必要性を理解することが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | 第14回 ストレッチ 課題Ⅲ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 目的に応じたストレッチをプログラミングすることが出来る。また、それを指導することが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | |
| 第7回 短なわとび 課題Ⅱ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 1回旋1跳躍の技術を習得することが出来る。また、それをリズムに合わせ跳ぶことが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | 第15回 ストレッチ 課題Ⅳ「主に体ほぐし運動」を目的とした教材 【 到達目標 】 2人組でのストレッチの技術を習得することが出来る。また、それを指導することが出来る。 【授業時間外学習】 提出するためのノートを整理する。 | | | |
| 第8回 短なわとび 課題Ⅲ「主に体力を高める運動」の教材 【 到達目標 】 2回旋1跳躍の技術を習得することができる。また、それをリズムに合わせ跳ぶことが出来る。 【授業時間外学習】 授業で作成した内容をノートに記録する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実技にふさわしい服装で受講すること。（肩に髪の毛がつく学生は結ぶこと）なわとびの課題の際にはインシューズを用意すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 プリント資料を配付する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習A（体操） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 リズム体操（実技試験）20%、短なわとび（実技試験）20%、ストレッチ（実技試験）20%、ノート40%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習（新体操） | | | 担当者 | 木皿 久美子・橋爪 みすず | |
|---|---|-------------------|---|-------|---------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Rhythmic Gymnastics) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 新体操に要求されている徒手要素（ジャンプ・バランス・ピボット・柔軟な動き）を体得すると同時に、身体の動きと手具操作の調和を音楽と一緒に実践する。また、音楽のリズムを感じ、流動的な動きの中に表現力や手具技術の習得を目指す。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 授業展開とねらい、評価方法、学習上の留意点について理解する。 新体操の歴史と概要を理解する。 【授業時間外学習】 新体操に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第9回 フープ：徒手要素と手具操作 【 到達目標 】 身につけた徒手要素（柔軟な動き・バランス・ピボット・ジャンプ）と組み合わせが可能な手具操作を考え、実践できる。 【授業時間外学習】 動きを提案できるように準備する。 | | | |
| 第2回 新体操の特性について 【 到達目標 】 新体操に要求されている徒手要素、手具の特性を理解する。 【授業時間外学習】 徒手難度（ジャンプ・バランス・ローテーション）を調べておく。 | | | 第10回 フープ：音楽との調和 【 到達目標 】 徒手要素と手具操作の組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。 【授業時間外学習】 メディア等を活用し、フープの基礎技術について理解を深める。 | | | |
| 第3回 新体操の基礎運動① 【 到達目標 】 正しい基本姿勢およびジャンプ・バランスを実践し、基礎技術を身につける。 【授業時間外学習】 徒手難度（ジャンプ・バランス）の基礎的特徴について調べておく。 | | | 第11回 フープ：フレーズの組み立て・実技課題の振り写し 【 到達目標 】 曲調に合ったステップや動きを取り入れながらのフレーズを実践できる。 【授業時間外学習】 メディア等を活用し、フープの基礎技術について理解を深める。 | | | |
| 第4回 新体操の基礎運動② 【 到達目標 】 正しい基本姿勢およびローテーション（ピボット）を実践し、基礎技術を身につける。 【授業時間外学習】 徒手難度（ローテーション）の基礎的特徴について調べておく。 | | | 第12回 フープ：実技課題の実践①（8×4）自由創作 【 到達目標 】 身につけたフレーズを更につなげ、1分30秒の音楽に合わせて、作品を実践できる。 自由創作（8×4）の内容を考える。 【授業時間外学習】 自由創作の材料を準備する。 | | | |
| 第5回 ボール：基本操作の実践（一人、二人組で） 【 到達目標 】 突く、転がす、投げるなどの基本操作から、ボールの特性を理解する。また、あらゆる操作から発想力を高める。 【授業時間外学習】 ボールの基礎技術について調べておく。 | | | 第13回 フープ：実技課題の実践② 自由創作の決定 【 到達目標 】 手具操作と身体の動きが明確になるとともに、音楽のリズムと調和した動きの技術を習得する。自由創作（8×4）の内容を決定する。 【授業時間外学習】 自由創作の材料を準備する。 | | | |
| 第6回 ボール：徒手要素と手具操作 【 到達目標 】 身につけた徒手要素（柔軟な動き・バランス・ピボット・ジャンプ）と組み合わせが可能な手具操作を考え、実践できる。 【授業時間外学習】 動きを提案できるように準備する。 | | | 第14回 フープ：実技課題の実践③ 学習方法の理解 【 到達目標 】 音楽と体のリズムに合わせたタイミングの良い手具操作を身につけながら、動きのつながりがスムーズに流れるよう更に実践を重ねる。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。 | | | |
| 第7回 フープ：音楽との調和（二人組で） 【 到達目標 】 徒手要素と手具操作との組み合わせをフレーズにし、二人組による動きを取り入れながら、音楽のリズムに合わせて実践できる。 【授業時間外学習】 メディア等を活用し、二人組の基礎技術について理解を深める。 | | | 第15回 フープ：作品の発表 【 到達目標 】 作品の発表を行う。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、修正すべき点を検討する。 | | | |
| 第8回 フープ：基本操作の実践（一人、二人組で） 【 到達目標 】 回す、くぐる、転がす、投げるなどの基本操作からフープの特性を理解する。また、あらゆる操作から発想力を高める。 【授業時間外学習】 フープの基礎技術について調べておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 アクセサリー類や時計は、相手や自らの怪我を引き起こす危険性や、手具により破損する可能性があるため、決して身につけない。服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は好ましくない。（パーカー・スウェットは着用しない） | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 必要に応じて、プリント教材を配布します。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法基礎演習（新体操） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 実技試験70% レポート30% | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習（器械運動） | | | 担当者 | 佐藤麻衣子・中村 剛 | |
|---|--|-------------------|---|-------|------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Apparatus Exercise) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 器械運動の基礎的な技が習得できているレベルを出発点とし、それらの技の習熟を図るとともに、さらに発展した技の習得ができるようにする。また、それらの技の具体的な練習方法についても理解を深める。 授業で取り扱う種目は、マット運動を中心にそのための補助的練習としてトランポリンも用いる。鉄棒・とび箱・平均台は選択の種目とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 マット運動の基礎技能と練習方法 【 到達目標 】 (1) マット運動の基礎技能と練習方法について再確認する。 【授業時間外学習】 マット運動の基礎技能との繋がりを身体で理解できるよう想起する。 | | | 第9回～第14回 <選択種目>以下のいくつかの技とその練習方法 ○マット (ロンダート・後転とび) 【 到達目標 】 (1) マット：ロンダートの習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 (2) マット：後転とびの習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 ○トランポリン (いろいろなとび方・回転系の技) 【 到達目標 】 (1) トランポリン：基本的な跳躍の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 (2) トランポリン：回転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 ○鉄棒 (支持回転系の技・懸垂系の技) 【 到達目標 】 (1) 鉄棒：支持回転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 (2) 鉄棒：懸垂系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 ○とび箱 (反転系の技・回転系の技) 【 到達目標 】 (1) とび箱：反転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 (2) とび箱：回転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 ○平均台 (移動技・回転系の技) 【 到達目標 】 (1) 平均台：移動技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 (2) 回転系の技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 【授業時間外学習】 それぞれの授業において得られた動く感じ（動感）を思い起こしながら（想起）、次回の授業に向けて、どんな感じで動けばその課題が達成できそうなのかを実際に動いているように考える。 | | | |
| 第2回 マット運動（接転系の技・倒立系の技と練習方法） 【 到達目標 】 (1) 前転とその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 【授業時間外学習】 この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。 | | | | | | |
| 第3回 マット運動（接転系の技・倒立系の技と練習方法） 【 到達目標 】 (1) 後転とその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 【授業時間外学習】 この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。 | | | | | | |
| 第4回 マット運動（接転系の技・倒立系の技と練習方法） 【 到達目標 】 (1) 側転とその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 【授業時間外学習】 この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。 | | | | | | |
| 第5回 マット運動（接転系の技・倒立系の技と練習方法） 【 到達目標 】 (1) いろいろな倒立の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 【授業時間外学習】 この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。 | | | | | | |
| 第6回 マット運動（倒立回転系の技・倒立回転とび系の技と練習方法） 【 到達目標 】 (1) 前方倒立回転とその変形技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 (2) 後方倒立回転とその変形技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 【授業時間外学習】 この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。 | | | | | | |
| 第7回 マット運動（倒立回転系の技・倒立回転とび系の技と練習方法） 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転とその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 (2) 側方倒立回転とびとその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 【授業時間外学習】 この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。 | | | 第15回 課題の達成度と身体知 【 到達目標 】 (1) 技の習得に必要な身体知について理解する。 (2) 達成できた動きの身体知について理解する。 【授業時間外学習】 授業で身につけた新たな身体知が他の動きかたにも応用できるよう準備する。 | | | |
| 第8回 マット運動（倒立回転系の技・倒立回転とび系の技と練習方法） 【 到達目標 】 (1) 前方倒立回転とびとその発展技の習得を通して、その練習方法を身体で理解する。 【授業時間外学習】 この時間で身につけた動く感じ（動感）を想起しながら、次回の授業の準備をする。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 課題として取り上げられた技は、スポーツ方法実習で習得した技の発展・変形技である。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらかじめ動きができるための「道しるべ」を確認することになり、器械運動が苦手な学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 <参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習A（器械運動）、スポーツコーチング演習I（採点競技系・器械運動） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 課題技の達成度 50% ・ 課題技の練習方法の理解度と補助技術 50% | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習（陸上競技） | | | 担当者 | 大橋 祐二・眞鍋 芳明 | |
|---|---|-------------------|--|-------|-------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Track and Field) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 陸上競技種目の中でも、比較的運動構造が複雑であり、習熟に時間のかかるとされる種目から、走種目として80mハードル、跳種目として走り高跳びを選び出し、それらの実習を通して、技能向上を図るための技術練習や試合状況の中での負荷を経験する。さらに動きの学習における段階的指導内容について理解することを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業内容の説明（採点表） 【 到達目標 】 80mハードル、走り高跳びの種目特性を理解する。単位認定の条件となる達成記録及び習熟レベルを確認する。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | 第9回 走り高跳び：はさみ跳びでの跳躍 【 到達目標 】 走り高跳びの導入に用いる「踏み切り」ドリルを実習する。はさみ跳びによる跳躍によって、強い踏み切りの感覚を確認する。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | |
| 第2回 ミニハードルによるハードル走 【 到達目標 】 ミニハードルを使用するハードル走を繰り返し行うことによって、ハードルリズムを身につける。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | 第10回 背面跳びの踏み切り練習 【 到達目標 】 背面跳びの導入として、マットに背中から着地する方法を練習する。その次にバーに対して背中を向けた状態で踏み切り、背中から着地する感覚を養う。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | |
| 第3回 各種インターバルによるハードル走 【 到達目標 】 3歩のリズムをよりスムーズに行えるように、インターバルの距離およびハードルの高さの変化に適応できるようにする。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | 第11回 背面跳びクリアランス 【 到達目標 】 パークリアランスをうまく行うための踏み切り方、踏み切り時の体勢の作り方などを繰り返し練習する中で、良い方法を見つけ出す。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | |
| 第4回 クラウチングからのハードル走 【 到達目標 】 8台のハードルを置き、クラウチングスタートからゴールまでの一連の動きを体験し、80mハードル全体を把握する。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | 第12回 短助走からの跳躍 【 到達目標 】 5歩～7歩助走による跳躍を実施する。踏み切り前3歩のリズムの獲得と、踏み切りやすい助走角度を見つけ出す。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | |
| 第5回 80mハードル記録測定1 【 到達目標 】 80mハードルの記録測定を行う。達成記録がどのレベルかを把握する。改善の余地がどこにあるのかを確認する。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | 第13回 全助走からの跳躍 【 到達目標 】 助走歩数を増やして、自分にあった助走距離を見つけ出す。バーを上げていながら、次の記録会での目標値を探し出す。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | |
| 第6回 欠点の修正1 【 到達目標 】 前回の記録測定で明らかになった改善点を中心に修正練習を行う。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | 第14回 走り高跳び記録測定1 【 到達目標 】 走り高跳びの記録測定を行う。前回の練習で作った目標値にチャレンジする。失敗跳躍の原因を確認する。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | |
| 第7回 欠点の修正2 【 到達目標 】 改善点の修正の仕上げとして、80mハードル走の試走を行い、次回の記録測定の準備をする。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | 第15回 走り高跳び記録測定2 【 到達目標 】 2回目の記録測定を行う。前回でわかった失敗跳躍の原因を解決しながら、さらに高い記録にチャレンジする。達成記録がどのレベルかを把握する。改善のための練習効果を確認する。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | |
| 第8回 80mハードル記録測定2 【 到達目標 】 80mハードルの記録測定を行う。達成記録がどのレベルかを把握する。改善のための練習効果を確認する。 【授業時間外学習】 授業の該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を通じて運動の理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 運動の構成が比較的複雑なので、うまくコントロールできる部分を土台にして、改善すべき部分に集中して学習する。繰り返し練習する中で、「こつ」を見つけ出すよう心がける。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習B（陸上競技）、スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系）、スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツコーチング演習Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習（水泳） | | | 担当者 | 浅井 泰詞・金沢 翔一 | |
|--|---|-------------------|---|-------|-------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Swimming) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎおよびバタフライ）、スタートおよびターンを段階的に学習し、技術および泳力を高める。また、応用技術として、4泳法以外の泳法、すなわち横泳ぎ、立ち泳ぎおよび潜行や、水球およびスノーケリング等の基本技術を修得するとともに、学習方法について理解する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 水泳技術の構造の理解（ストロークメカニクス） 【 到達目標 】 水の特性を学ぶとともに、各種泳法のストロークメカニクスを中心に技術的特性を理解する。 【授業時間外学習】 水泳の推進力に関するトレンドの変化について、書籍等を参考に歴史の変遷とともに理解する。 | | | 第9回 横泳ぎ、立ち泳ぎおよび潜行 【 到達目標 】 横泳ぎ、立ち泳ぎおよび潜行について、段階的に修得する。 【授業時間外学習】 横泳ぎ、立ち泳ぎおよび潜行に関する記事を読み、理解を深める。 | | | |
| 第2回 水泳競技規則の理解および競技会における審判法 【 到達目標 】 4泳法および個人メドレーにおける泳法（スタートおよびターンなどの周辺技術含む）に加え、水泳競技における規則を理解する。 【授業時間外学習】 競泳競技規則の当該箇所を読み、まとめる。 | | | 第10回 スタートおよび個人メドレーのトレーニング 【 到達目標 】 水面上からのスタートを段階的に修得する。 個人メドレーの技術的および体力的トレーニングを行う。 【授業時間外学習】 スタート動作に関して、書籍やメディアなどを活用して理解を深める。 | | | |
| 第3回 クロール（手足のコンビネーションの練習） 【 到達目標 】 クロールにおけるキック、プルおよびキックとプルのコンビネーションを段階的に修得する。 【授業時間外学習】 書籍やメディアを活用して、クロールの泳技術を再確認する。 | | | 第11回 各種泳法のターン練習および個人メドレーのトレーニング 【 到達目標 】 個人メドレーのタイムを短縮するために、周辺技術を含め、技術的および体力的トレーニングを行う。 【授業時間外学習】 ターン動作に関して、競技会の映像などを活用して理解を深める。 | | | |
| 第4回 背泳ぎ（正しい基本姿勢、キックおよびプルの練習） 【 到達目標 】 浮き方および立ち方から、キックおよびプルの練習へと段階的に修得する。 【授業時間外学習】 書籍やメディアを活用して、背泳ぎの泳技術を再確認する。 | | | 第12回 水球（基本動作および簡易ゲーム） 【 到達目標 】 水球におけるルール、泳法およびパスなどを基本から段階的に修得する。 【授業時間外学習】 メディアを活用して、水球競技の基礎技能を見学し、理解を深める。 | | | |
| 第5回 背泳ぎ（手足のコンビネーションの練習） 【 到達目標 】 ドリル練習などを含めて背泳ぎのコンビネーションを段階的に修得する。 【授業時間外学習】 陸上にて、背泳ぎのストローク動作の確認を行う。 | | | 第13回 スノーケリング 【 到達目標 】 水球における泳法およびパスなどを復習し、まとめとして簡易ゲームを行う。 【授業時間外学習】 メディアを活用して、水球競技の試合を見学し、理解を深める。 | | | |
| 第6回 平泳ぎ（手足のコンビネーションの練習） 【 到達目標 】 平泳ぎにおけるキック、プルおよびキックとプルのタイミングを合わせたコンビネーションを段階的に修得する。 【授業時間外学習】 書籍やメディアを活用して、平泳ぎの泳技術を再確認する。 | | | 第14回 各種泳法の確認 【 到達目標 】 4泳法を競技規則に則り、合理的なフォームを完璧に修得する。 【授業時間外学習】 オリンピックなどの競技会に関する映像を見学し、理想的なフォームのイメージを具体化する。 | | | |
| 第7回 バタフライ（ドルフィンキックの練習） 【 到達目標 】 バタフライにおいて、特にドルフィンキックを中心に修得する。 【授業時間外学習】 書籍やメディアを活用して、バタフライの泳技術を再確認する。 | | | 第15回 個人メドレーのタイム計測 【 到達目標 】 水面上からのスタートより100m個人メドレーを泳ぎ、タイムを計測する。 【授業時間外学習】 オリンピックなどの競技会に関する映像を見学し、競技種目への理解を深める。 | | | |
| 第8回 バタフライ（手足のコンビネーションの練習） 【 到達目標 】 バタフライにおけるキック、プルおよびコンビネーションを段階的に修得する。 【授業時間外学習】 陸上にて、手足のタイミングに関する動きの練習を反復する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリ系の着用は不可とする。 水泳は、普段の生活とは異なる水中環境下での運動となるため、様々な身体への影響が生じる。また、泳力を高めるためのトレーニングも行うため、実習への参加に際して、健康状態に配慮することが必要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「水泳指導教本」 財団法人日本水泳連盟編、大修館書店／「競泳競技規則」 財団法人日本水泳連盟編 「上達する水泳」 柴田義晴著、ナツメ社／「フラットスイム～もつときれいに長く速くクロールが泳げる～」 高橋雄介著、永岡書店 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習B（水泳）、スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系）、スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツコーチング演習Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 1. 泳法試験（70%）、2. 100m個人メドレーのタイム（30%）とする。 評価は、上記に加えて受講態度を含め、総合的に判定する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習（バスケットボール） | | | 担当者 | 柴田 雅貴・佐々木直基 橋本 早予 | |
|--|---|-------------------|---|-------|----------------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Basketball) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 1年次履修のスポーツ方法実習で習得したバスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を、適切な状況判断のもとグループ・チーム戦術の中で応用させ、より高いレベルでゲームを行うことが目的である。さらに、理解したルールのもと審判を実践することも目的である。2年次履修のスポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系A）、3年次履修のスポーツコーチング演習ⅡおよびⅢでは、本演習で習得したことを適用するため、その基礎作りがねらいである。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方を理解する。 【授業時間外学習】 バスケットボールにおける技術の全体像を調べる。 | | | 第9回 グループ戦術 スクリーンプレー（オンボール） 【 到達目標 】 (1)オンボールでのスクリーンプレーを理解し、習得する。 【授業時間外学習】 オンボールでのスクリーンプレーの戦術構造について調べる。 | | | |
| 第2回 個人技術の応用 様々なゴール下シュート 【 到達目標 】 (1)様々な個人技術を応用したゴール下シュートを習得する。 【授業時間外学習】 様々な個人技術を応用したゴール下シュートの技術構造について調べる。 | | | 第10回 グループ戦術 スクリーンプレー（オフボール） 【 到達目標 】 (1)オフボールでのスクリーンプレーを理解し、習得する。 【授業時間外学習】 オフボールでのスクリーンプレーの戦術構造について調べる。 | | | |
| 第3回 個人技術の応用 様々なセットシュート・ジャンプシュート 【 到達目標 】 (1)様々な個人技術を応用したセットシュート・ジャンプシュートを習得する。 【授業時間外学習】 様々な個人技術を応用したセットシュート・ジャンプシュートの技術構造について調べる。 | | | 第11回 チーム戦術 トランジション 【 到達目標 】 (1)トランジションを理解し、攻防の切り替えの中でチーム戦術が発揮できる。 【授業時間外学習】 トランジションの戦術構造を調べる。 | | | |
| 第4回 個人技術の応用 様々なレイアップシュート 【 到達目標 】 (1)様々な個人技術を応用したレイアップシュートを習得する。 【授業時間外学習】 様々な個人技術を応用したレイアップシュートの技術構造について調べる。 | | | 第12回 チーム戦術 ゲームとその運営① 【 到達目標 】 (1)ゲームの中で個人技術、グループ・チーム戦術が発揮できる。 (2)ゲームのルールを理解し、審判を行うことができる。 【授業時間外学習】 バスケットボールにおけるゲーム構造について調べる。 | | | |
| 第5回 個人技術の応用 フェイント 【 到達目標 】 (1)様々な個人技術を応用したフェイントを習得する。 【授業時間外学習】 様々な個人技術を応用したフェイントの技術構造について調べる。 | | | 第13回 チーム戦術 ゲームとその運営② 【 到達目標 】 (1)ゲームの中で個人技術、グループ・チーム戦術が発揮できる。 (2)ゲームのルールを理解し、審判を行うことができる。 【授業時間外学習】 バスケットボールにおけるゲーム構造について調べる。 | | | |
| 第6回 グループ戦術 スペーシングとカッティング 【 到達目標 】 (1)スペーシングを理解し、その中でカッティングを用いたグループ戦術を習得する。 【授業時間外学習】 スペーシングとカッティングを用いたグループ戦術構造について調べる。 | | | 第14回 チーム戦術 ゲームとその運営③ 【 到達目標 】 (1)ゲームの中で個人技術、グループ・チーム戦術が発揮できる。 (2)ゲームのルールを理解し、審判を行うことができる。 【授業時間外学習】 バスケットボールにおけるゲーム構造について調べる。 | | | |
| 第7回 グループ戦術 優先順位とカッティング 【 到達目標 】 (1)ゴールを狙う優先順位を理解し、その上でカッティングを用いたグループ戦術を習得する。 【授業時間外学習】 優先順位とカッティングを用いたグループ戦術構造について調べる。 | | | 第15回 チーム戦術の総合的検証 【 到達目標 】 (1)本実習で習得した戦術を理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 バスケットボールにおける本質的特性について調べる。 | | | |
| 第8回 グループ戦術 カッティングとドリブルペネトレイト 【 到達目標 】 (1)カッティングとドリブルペネトレイトの状況を理解し、実際に状況判断をしながらグループ戦術が発揮できる。 【授業時間外学習】 カッティングとドリブルペネトレイトを用いたグループ戦術構造を調べる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習の授業が中心となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。また、ナンバリング（ゼッケン）を一人ずつ購入し、授業時には必ず着用する。本演習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習C（バスケットボール）、スポーツコーチング演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 平常授業での到達目標に対する到達度を70%、スキルテストを30%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習 (バレーボール) | | | 担当者 | 古瀬 由佳・横矢 勇一 | |
|---|---|---------|---|-------|-------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Volleyball) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 バレーボールのゲームをおこなう上で必要な基本戦術をより高いレベルまで応用し、様々なバレーボールの戦術を実践できるようにする。また質の高いゲームに要求される多彩な種類の攻撃や各種フォーメーションなどの集団技能としての基本戦術をグループに分かれて演習形式で実践しながら習得していく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 バレーボールにおける技術・戦術の考え方 【 到達目標 】 (1)質の高いゲームをおこなうために必要なことを理解する。 (2)戦術を生かすための技術の適用の仕方を理解する。 【授業時間外学習】 レベルの高いゲームをおこなうための技術・戦術の考え方を理解しておく。 | | | 第9回 ゲーム実践 I 【 到達目標 】 (1)W型サーブレシーブフォーメーションでゲームを実践できる。 (2)Man-up型レシーブフォーメーションでゲームを実践できる。 【授業時間外学習】 事前に各フォーメーションでの動き方について理解しておく。 | | | |
| 第2回 基礎技能の応用 I (各種パス・レシーブ技術) 【 到達目標 】 (1)場面に応じたパス技術を身につける。 (2)ボールの質を意識したレシーブができる。 【授業時間外学習】 事前に各局面に応じたレシーブ技術の構造を理解しておく。 | | | 第10回 ゲーム実践 II 【 到達目標 】 (1)M型サーブレシーブフォーメーションでゲームを実践できる。 (2)Man-down型レシーブフォーメーションでゲームを実践できる。 【授業時間外学習】 事前に各フォーメーションでの動き方について理解しておく。 | | | |
| 第3回 基礎技能の応用 II (様々なスパイク技術) 【 到達目標 】 (1)攻撃のエリア、テンポの違う攻撃を理解・実践する。 【授業時間外学習】 事前にゲームで用いる様々なスパイク技術の構造を理解しておく。 | | | 第11回 基本戦術の応用 IV (攻撃システム) 【 到達目標 】 (1)チームでの攻撃の組み立て方を理解・実践する。 【授業時間外学習】 事前に各種攻撃システムの特徴について理解しておく。 | | | |
| 第4回 基礎技能の習得 I (ブロック技術の構造) 【 到達目標 】 (1)手の出し方、ステップを理解・実践する。 【授業時間外学習】 事前にブロック技術の構造を理解しておく。 | | | 第12回 基本戦術の応用 V (各戦術の適用) 【 到達目標 】 (1)各戦術について、チームに最適なものを考え、適用できる。 【授業時間外学習】 相手との対応を考慮して適切な戦術の適応について理解しておく。 | | | |
| 第5回 基礎技能の応用 III (サーブ)、各ポジションの専門性について 【 到達目標 】 (1)狙ったコースにサーブを安定して打つことができる。 (2)スパイカーの各ポジションの専門性について理解・実践する。 【授業時間外学習】 事前に各種サーブ技術の構造、各ポジションの特徴と役割について理解しておく。 | | | 第13回 バレーボールにおけるスカウティングについて 【 到達目標 】 (1)個人技術の評価方法を理解し、実践できる。 (2)チーム戦術分析の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 各種スカウティングの目的を明らかにすることを理解しておく。 | | | |
| 第6回 基本戦術の応用 I (3段攻撃) 【 到達目標 】 (1)攻撃のエリア、テンポの違う3段攻撃を実践できる。 【授業時間外学習】 事前に集団技能としての3段攻撃の組み立てを理解しておく。 | | | 第14回 ゲーム実践 III 【 到達目標 】 (1)チーム戦術を遂行し、ゲームを実践できる。 【授業時間外学習】 相手チームとの対応から適切な作戦を立ててゲームをおこなう方法を理解しておく。 | | | |
| 第7回 基本戦術の応用 II (サーブレシーブフォーメーション) 【 到達目標 】 (1)各フォーメーションの特長を理解し、それらをチームで実践できる。 【授業時間外学習】 事前に各種サーブレシーブフォーメーションの特徴を理解しておく。 | | | 第15回 ゲーム実践 IV 【 到達目標 】 (1)チーム戦術を遂行し、ゲームを実践できる。 【授業時間外学習】 相手チームとの対応から適切な作戦を立ててゲームをおこなう方法を理解しておく。 | | | |
| 第8回 基本戦術の応用 III (アタックレシーブフォーメーション) 【 到達目標 】 (1)各フォーメーションの特長を理解し、それらをチームで実践できる。 【授業時間外学習】 事前に各種アタックレシーブフォーメーションの特徴を理解しておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリ類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。 不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習 C (バレーボール) | | | | | | |
| 【成績評価方法】 技能の実技テストを60%、チームでのゲーム実践の達成度を40%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習 (ハンドボール) | | | 担当者 | 亀井良和 | |
|--|---|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Handball) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツ方法基礎演習で学んだ基礎的な個人技術のバリエーションを増やし、グループによる様々な基本戦術を実践できるようにする。最終的には、チーム戦術として6人での攻撃展開の仕方や防御の仕方を理解した上で、チームごとに作戦や戦術をたて実践できる能力を身につける。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 個人技能の応用と実践 シュートバリエーション① 【 到達目標 】 (1)状況に応じた様々なフォームでシュートすることができる。 【授業時間外学習】 状況に応じた様々なフォームでのシュート技術について確認する。 | | | 第9回 チーム戦術(6人による攻撃～展開からシュートまで) 【 到達目標 】 (1)揺さぶり→きっかけ→突破の一連の流れのある攻撃ができる。 【授業時間外学習】 流れのあるセットオフェンスについて確認する。 | | | |
| 第2回 個人技能の応用と実践 シュートバリエーション② 【 到達目標 】 (1)ポジションに応じたシュートが打てる。 【授業時間外学習】 ポジションに応じたシュート技術について確認する。 | | | 第10回 チーム戦術(6人による防御) 【 到達目標 】 (1)システムに応じた組織的な防御の仕組みが理解できる。 【授業時間外学習】 組織的な防御の仕組みに関する理解を深める。 | | | |
| 第3回 個人技能の応用と実践 パス技術のバリエーション 【 到達目標 】 (1)状況に応じたパス技術を使い分けすることができる。 【授業時間外学習】 状況に応じたパス技術について確認する。 | | | 第11回 ポジションの役割と理解 【 到達目標 】 (1)攻撃におけるポジションの役割を理解し実践できる。 (2)防御におけるポジションの役割を理解し実践できる。 【授業時間外学習】 攻撃防御それぞれにおけるポジションの役割に関する理解を深める。 | | | |
| 第4回 個人技能の応用と実践 フェイント技術のバリエーション 【 到達目標 】 (1)状況に応じた突破のためのフェイント技術を使い分けすることができる。 【授業時間外学習】 状況に応じた突破のためのフェイント技術について確認する。 | | | 第12回 各チームの戦術とゲーム・評価1 【 到達目標 】 (1)チームごとに立てたゲーム構想の下にゲームを行うことができる。 (2)自他チームに対する適切なゲーム評価ができる。 【授業時間外学習】 ゲームの評価に関する理解を深める。 | | | |
| 第5回 グループ戦術(2人による攻撃方法) 【 到達目標 】 (1)ポストがない2対2のコンビプレイを身につける。 (2)ポストがある2対2のコンビプレイを身につける。 【授業時間外学習】 2対2のコンビプレイについて確認する。 | | | 第13回 各チームの戦術とゲーム・評価2 【 到達目標 】 (1)チームごとに立てたゲーム構想の下にゲームを行うことができる。 (2)自他チームに対する適切なゲーム評価ができる。 【授業時間外学習】 ゲームの評価に関する理解を深める。 | | | |
| 第6回 グループ戦術(3人による攻撃方法) 【 到達目標 】 (1)ポストがない3対3のコンビプレイを身につける。 (2)ポストがある3対3のコンビプレイを身につける。 【授業時間外学習】 3対3のコンビプレイについて確認する。 | | | 第14回 各チームの戦術とゲーム・評価3 【 到達目標 】 (1)チームごとに立てたゲーム構想の下にゲームを行うことができる。 (2)自他チームに対する適切なゲーム評価ができる。 【授業時間外学習】 ゲームの評価に関する理解を深める。 | | | |
| 第7回 グループ戦術(2人による防御方法) 【 到達目標 】 (1)マンツーマンシフトによる防御を理解する。 (2)スイッチシフトによる防御を理解する。 【授業時間外学習】 防御のコンビネーションについて確認する。 | | | 第15回 各チームの戦術とゲーム・評価4 【 到達目標 】 (1)チームごとに立てたゲーム構想の下にゲームを行うことができる。 (2)自他チームに対する適切なゲーム評価ができる。 【授業時間外学習】 ゲームの評価に関する理解を深める。 | | | |
| 第8回 グループ戦術(3人による防御方法) 【 到達目標 】 (1)マンツーマンシフトとスイッチシフトを使い分けて防御することができる。 【授業時間外学習】 防御のコンビネーションについて確認する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習が中心となる上に、身体接触を伴う競技であるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特に、ピアス、ネックレス、指輪等のアクセサリー類は決して身につけない。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業ごとの課題の達成度を30%、各技術の習得レベルを30%、ゲームの実践能力を20%、テストの結果を20%の割合として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習（サッカー） | | | 担当者 | 玉井 朗 | |
|---|---|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Soccer) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 フットサルのトレーニングにより獲得した技術を、より広いスペースの中でそのスペースを活かしながら使用し、サッカーの技術として再構築する。そして、サッカーのゲームを楽しむ。①攻撃にかかわる人数を増加させることにより、結果としてより複雑な動きを経験する。②技術の定着をさらに促進させるため、新たなドリルトレーニングを行う。③ゲームを楽しみながらサッカーの本質を理解する。 以上のことを目的として本授業を展開する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ボールコントロールとキックとヘディングのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)技術向上のためのドリルトレーニングを実践し技術レベルを向上させる。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第9回 4対4での守備を想定したシャドートレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)4対4のゲームにおける守備のシャドートレーニングを実践し、動き方を理解できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第2回 コミュニケーションのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)ゲームの中でコミュニケーションがうまくはかれるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第10回 ダイヤモンド型プラスワントップを攻撃の単位とするトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)5名での攻撃の形を繰り返しトレーニングし、ゲームの中で使えるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第3回 視野を確保しながらボールを受けるトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)ゲーム形式トレーニングの中で視野を確保しながらボールを受けることができるようになる。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第11回 攻守の切り替えのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)攻守の切り替えの早さの重要性を理解し、ゲームの中で実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第4回 攻撃のサポートのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)ゲーム形式トレーニングの中で、良いタイミングで良い位置・良い距離にサポートすることができるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第12回 クロスボールからの攻撃のパターントレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)クロスボールからの攻撃パターンを4種類トレーニングし、ゲームの中で、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第5回 3人目のプレーヤーを使う攻撃のトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)ゲーム形式トレーニングの中で、3人目のプレーヤーを使う攻撃ができるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第13回 クロスボールに対する守備のトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)守備の方法を実践し、ゲームの中で行えるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第6回 ボールを奪うトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)タッチライン際、ペナルティエリア角付近、それぞれの位置でボールが確実に奪えるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第14回 チーム毎でのウォームアップとゲーム 【 到達目標 】 (1)チーム毎にウォームアップを行い、ゲームが実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第7回 守備におけるチャレンジとカバーのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)チャレンジとカバーがゲームの中で実践できるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | 第15回 レクリエーションゲーム 【 到達目標 】 (1)班編成を変え、レクリエーションゲームを行う。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | |
| 第8回 ダイヤモンド型フォーメーションによる攻撃のトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)ゲームの中で、ボールを中心にダイヤモンド型フォーメーションを次々に作ることができるようにする。 【授業時間外学習】 (1)時間を見つけて自主トレーニングに励む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとする。 アクセサリ類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法基礎演習（サッカー） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 以下の割合にて評価し、点数化する。①授業への取り組み方・参加度60%、②技術点（実技テスト）10%、③知識点（理論テスト）10%、④準備点（服装・ゼッケン等の準備）20%。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ方法応用演習（柔道） | | | 担当者 | 木村昌彦 | |
|--|---|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Applied Methods of Sports (Judo) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツ種目の一つである柔道の基礎技能および応用技能（受身の仕方、投げ技、固め技など）を習得する。併せて中学校武道必修化に対応した柔道についての知識も学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション（授業展開について） 【到達目標】 授業の全体像を把握する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第9回 受身試験 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。単独での受け身の完成を目指す。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第2回 柔道の基本動作、受身（後受身）、固め技（袈裟固、崩れ袈裟固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。後ろ受け身の運動構造を理解する。固め技の理論を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第10回 投げ技（大腰、内股）、固め技（関節技、乱取） 【到達目標】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。梶子と関節技の関連を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第3回 受身（横受身・前回受身）、固め技（横四方固、上四方固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。横受け身、前回り受け身の運動構造を理解する。固め技の理論を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第11回 投げ技（体落、乱取）、固め技（絞め技、乱取） 【到達目標】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第4回 受身（前回受身）、固め技（抑え技の返し方、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。前回り受け身の運動構造を理解し、実際の投げ技に対応する技能を身につける。固め技の理論を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第12回 投げ技（連絡・変化技、乱取）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅰ 【到達目標】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第5回 投げ技の基本動作（姿勢、組み方、進退動作、崩しー作りー掛け）、投げ技（膝車） 【到達目標】 基本動作を理解し、正確な動作を習得する。基本的な動作の理論を理解し、正しい技能を習得する。膝車の原理を理解する。（慣性の法則） 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第13回 投げ技（連絡・変化技、乱取）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅱ 【到達目標】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。連絡技と変化技の違いを理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第6回 投げ技（小内刈、大内刈、大外刈）、固め技（乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。投げ技理論の慣性の法則、偶力を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第14回 試験（投げ技、固め技、乱取） 【到達目標】 正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第7回 投げ技（背負投、一本背負投）、固め技（縦四方固、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。重心の位置と安定性を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第15回 簡易な試合 【到達目標】 柔道全般を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第8回 投げ技（釣込腰、払腰）、固め技（連絡技、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。双対動作、梶子の投げ技への応用を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「受け身から作る柔道授業（仮）」木村昌彦 著（ベースボールマガジン社） 「いちばんわかりやすい！柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） 「女子のための柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート（30%）と試験（70%）で評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|---------------------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 科目名 | 野外スポーツ実習Ⅰ（スキー） | | | 担当者 | 森田陽子 | |
| 英文名 | Practice of Outdoor Sports I (Skiing) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・選択 | | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 |
| 【目的とねらい】 スキー未経験者や初級者レベルを主な対象として、スキーの基本技術や理論、ルールやマナーを学習し、整地されたグレンデで安全に楽しく滑降する技術を習得することを目的とする。今後、習得した技術をさらに積み重ね、生涯スポーツの一つとして自然のなかで大いに楽しむことができる基礎作りとなることをねらいとしている。 授業形態は、事前事後指導と、4泊5日の宿泊集中授業で行うので、併せて集団生活についても学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スキー用具の取り扱い方、基本的な動作、操作 【 到達目標 】 (1) スキー用具の取り扱い方法を理解する。 (2) スキー用具の装着方法を理解する。 (3) スキーを装着しての距離感覚を理解する。 | | | 第9回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1) 横ずれの少ないブルークボーゲンの操作方法を理解する。 (2) 内スキーの引きよせの方法を理解する。 (3) シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。 | | | |
| 第2回 方向変換、歩行、滑走 【 到達目標 】 (1) 踏み替えによる方向変換法を理解する。 (2) 平地歩行感覚を理解する。 (3) 平地滑走感覚を理解する。 (4) 正しい転び方、立ち方を理解する。 | | | 第10回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 内スキーの引きよせのタイミングを理解する。 (2) シュテムターンで緩斜面を滑る。 (3) 素早い内スキーの引きよせ (4) 一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。 | | | |
| 第3回 登行、直滑降、ブルーク、制動と停止 【 到達目標 】 (1) 直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2) 直滑降で滑る。(3) ブルーク時の基本姿勢を理解する。(4) ブルークで滑る。(5) 直滑降から制動ブルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6) ブルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7) 階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用法を理解する。(8) 開脚登行時のインエッジの使用法を理解する。(9) 階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。 | | | 第11回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 内スキーの引きよせのタイミングを理解する。 (2) シュテムターンで緩斜面を滑る。 (3) 素早い内スキーの引きよせ (4) 一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。 | | | |
| 第4回 登行、直滑降、ブルーク、制動と停止 【 到達目標 】 (1) 直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2) 直滑降で滑る。(3) ブルーク時の基本姿勢を理解する。(4) ブルークで滑る。(5) 直滑降から制動ブルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6) ブルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7) 階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用法を理解する。(8) 開脚登行時のインエッジの使用法を理解する。(9) 階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。 | | | 第12回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。 (2) 中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。 | | | |
| 第5回 ブルーク、ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1) 直滑降→ブルークの連続押し出しを理解する。 (2) 直滑降→ブルークの交互押し出しを理解する。 (3) ブルークの山まわりで加重配分を理解する。 (4) 左右スキーへの荷重移動で浅い連続回転を理解する。 (5) 浅い連続回転でブルークボーゲンの初歩で滑る。 | | | 第13回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。 (2) 中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。 | | | |
| 第6回 ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1) 滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。 (2) 一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。 (3) ブルークボーゲンで緩斜面を滑る。 (4) 一定のリズムを保って中ターンで滑る。 (5) ショートターンのリズムを理解する。 (6) ショートターンで緩斜面を滑る。 | | | 第14回 総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1) 総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。 (2) 総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。 | | | |
| 第7回 ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1) 滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。 (2) 一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。 (3) ブルークボーゲンで緩斜面を滑る。 (4) 一定のリズムを保って中ターンで滑る。 (5) ショートターンのリズムを理解する。 (6) ショートターンで緩斜面を滑る。 | | | 第15回 総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1) 総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。 (2) 総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。 | | | |
| 第8回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1) 横ずれの少ないブルークボーゲンの操作方法を理解する。 (2) 内スキーの引きよせの方法を理解する。 (3) シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（新潟参加者¥60,000程度、北海道参加者¥85,000）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、女子学生らしさを常に持って行動をすることを心がける。宿泊を伴うので、集団生活のあり方を十分理解し、他人に迷惑がかからないように心配りをする。 実習はグループ毎に活動するので、グループの指導者に従い積極的に参加するようにし、リーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 野外教育論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート10%、スキー技術の習熟度80%、集団生活の適応度10%。 | | | | | | |

| 科目名 | 野外スポーツ実習Ⅰ（スケート） | | | 担当者 | 湯 田 淳 | |
|--|--|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Practice of Outdoor Sports Ⅰ (Skating) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門基礎・選択 | | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 |
| 【目的とねらい】 スケートの未経験者及び初級レベルを対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、グループスケーティング等について学習及び実習を行う。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス（事前ガイダンス（学内）1） 【 到達目標 】 実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。 | | | 第9回 応用技術（連続滑走、停止）（学外実習7） 【 到達目標 】 ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。 | | | |
| 第2回 スケートの概要（事前ガイダンス（学内）2） 【 到達目標 】 ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。 | | | 第10回 グループスケーティング（学外実習8） 【 到達目標 】 2～3人のグループで滑走できるようにする。 | | | |
| 第3回 リンクでの安全な行動法、基礎技術（前進滑走）（学外実習1） 【 到達目標 】 氷上への安全な入退場、安全な転倒法、転倒後の立ち上がり法を実践する。前方への歩行、滑走をできるようにする。 | | | 第11回 グループミーティング（発表準備）（学外実習9） 【 到達目標 】 編成したグループでの演技発表の内容を作成する。 | | | |
| 第4回 グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習2） 【 到達目標 】 実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。 | | | 第12回 応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習10） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続してできるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽に合わせてできるようにする。 | | | |
| 第5回 講義（学外実習3） 【 到達目標 】 スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。 | | | 第13回 グループスケーティング、ミニホッケー（導入）（学外実習11） 【 到達目標 】 実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。 | | | |
| 第6回 基礎技術（前進滑走、後進滑走）（学外実習4） 【 到達目標 】 前進滑走および後方への歩行、滑走をできるようにする。 | | | 第14回 試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習12） 【 到達目標 】 実習班ごとの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケーティングを音楽に合わせて実践する。 | | | |
| 第7回 基礎技術（カーブ滑走）（学外実習5） 【 到達目標 】 前進滑走から半円上を惰力滑走できるようにする。 | | | 第16回 試験、グループによる演技発表（学外実習13） 【 到達目標 】 試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケーティングを発表する。 | | | |
| 第8回 基礎技術（ターン滑走）（学外実習6） 【 到達目標 】 前進滑走から後進滑走、後進滑走から前進滑走へ変換できるようにする。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 自身の滑走動作改善のための課題を確認し、改善のための方策を検討する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。参考書としては「アイススケーティングの基礎」（大学スケート研究会編）を推薦する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 実技試験を40%、演技発表を40%、実習レポートを20%の割合として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 野外スポーツ実習Ⅱ（スキー） | | | 担当者 | 森田陽子 | |
|--|--|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Practice of Outdoor Sports II (Skiing) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門基礎・選択 | | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 |
| 【目的とねらい】 スキー初級者レベル以上を主な対象として、スキーの基本技術や応用技術、発展技術とそれらの理論、ルールやマナーを学習し、圧雪されたゲレンデや自然のままのゲレンデを安全に楽しく滑降する技術を習得することを目的とする。今後、スキーを様々な対象者に指導できる基礎作りとなることをねらいとしている。授業形態は、事前事後指導と、4泊5日の宿泊集中授業で行うので、併せて集団生活についても学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 直滑降、ブルーク、斜滑降、横滑りなどの基本的なポジション 【 到達目標 】 (1)直滑降、ブルーク時の基本姿勢を確認する。 (2)斜滑降、横滑りの基本姿勢やエッジングを確認する。 (3)基本のポジションで滑る。 | | | 第9回 パラレルターン（大まわり） 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）中急斜面を滑る。 | | | |
| 第2回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1)直滑降→ブルークの連続押し出しや交互押し出しで滑る。(2)ブルークでの山まわりを確認する。(3)ブルーク・ギランデで滑る。(4)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。(5)横ずれの少ないブルークボーゲンで滑る。(6)内スキーの引き寄せの早いタイミングのシュテムターンで滑る。(7)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。 | | | 第10回 パラレルターン（小まわり） 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（小まわり）中急斜面を滑る。 | | | |
| 第3回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1)直滑降→ブルークの連続押し出しや交互押し出しで滑る。(2)ブルークでの山まわりを確認する。(3)ブルーク・ギランデで滑る。(4)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。(5)横ずれの少ないブルークボーゲンで滑る。(6)内スキーの引き寄せの早いタイミングのシュテムターンで滑る。(7)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。 | | | 第11回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (2)パラレルターン（小まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (3)パラレルターン（大まわり→小まわり）で中急斜面を滑る。 (4)パラレルターン（小まわり→大まわり）で中急斜面を滑る。 | | | |
| 第4回 シュテムターン 【 到達目標 】 (1)シュテム・ギランデで滑る。 (2)シュテムターンで中斜面を滑る。 (3)シュテムターンのトレーンで中斜面を滑る。 (4)シュテムターンで急斜面を滑る。 | | | 第12回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (2)パラレルターン（小まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (3)パラレルターン（大まわり→小まわり）で中急斜面を滑る。 (4)パラレルターン（小まわり→大まわり）で中急斜面を滑る。 | | | |
| 第5回 シュテムターン 【 到達目標 】 (1)シュテム・ギランデで滑る。 (2)シュテムターンで中斜面を滑る。 (3)シュテムターンのトレーンで中斜面を滑る。 (4)シュテムターンで急斜面を滑る。 | | | 第13回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (2)パラレルターン（小まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (3)パラレルターン（大まわり→小まわり）で中急斜面を滑る。 (4)パラレルターン（小まわり→大まわり）で中急斜面を滑る。 | | | |
| 第6回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1)シュテムターンのトレーンで中急斜面を滑る。 (2)パラレ・ギランデで滑る。 (3)パラレルターンで中斜面を滑る。 (4)パラレルターンのトレーンで中斜面を滑る。 | | | 第14回 総合滑走（中・上級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1)総合斜面を応用技術や発展技術で自由に滑る。 (2)総合斜面を応用技術や発展技術でデモンストレーションする。 | | | |
| 第7回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1)シュテムターンのトレーンで中急斜面を滑る。 (2)パラレ・ギランデで滑る。 (3)パラレルターンで中斜面を滑る。 (4)パラレルターンのトレーンで中斜面を滑る。 | | | 第16回 総合滑走（中・上級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1)総合斜面を応用技術や発展技術で自由に滑る。 (2)総合斜面を応用技術や発展技術でデモンストレーションする。 | | | |
| 第8回 ストックワーク 【 到達目標 】 (1)ブルークの交互押し出しをしながらストックワークをする。 (2)直滑降でサイドステップしながらストックワークをする。 (3)シュテムターンをしながらストックワークをする。 (4)パラレルターンをしながらストックワークをする。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（新潟参加者¥60,000程度、北海道¥85,000程度）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、女子学生らしさを常に持って行動することを心がける。宿泊を伴うので、集団生活のあり方を十分理解し、他人に迷惑がかからないように心配りをする。実習はグループ毎に活動するので、グループの指導者に従い積極的に参加するようにし、リーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 野外教育論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート10%、スキー技術の習熟度80%、集団生活の適応度10%。 | | | | | | |

| 科目名 | 野外スポーツ実習Ⅱ（スケート） | | | 担当者 | 湯 田 淳 | |
|--|--|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Practice of Outdoor Sports Ⅱ (Skating) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門基礎・選択 | | 専門基礎・選択 | 専門基礎・選択 |
| 【目的とねらい】 スケートの経験者を対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、専門技術（スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンス、シンクロナイズドスケート）等について学習及び実習を行う。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス（事前ガイダンス（学内）1） 【 到達目標 】 実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。 | | | 第9回 アイスダンス（学外実習7） 【 到達目標 】 アイスダンス（ダッチワルツ）に必要なステップを実践する。 | | | |
| 第2回 スケートの概要（事前ガイダンス（学内）2） 【 到達目標 】 ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。 | | | 第10回 シンクロナイズドスケート（学外実習8） 【 到達目標 】 シンクロナイズドスケートの要素を実践する。 | | | |
| 第3回 基礎技術（前進、後進、カーブ、ターン滑走）（学外実習1） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走を実践する。 | | | 第11回 グループミーティング（発表準備）（学外実習9） 【 到達目標 】 編成したグループでの演技発表の内容を作成する。 | | | |
| 第4回 グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習2） 【 到達目標 】 実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。 | | | 第12回 アイスダンス（学外実習10） 【 到達目標 】 アイスダンス（ダッチワルツ）を音楽にあわせて実践する。 | | | |
| 第5回 講義（学外実習3） 【 到達目標 】 スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。 | | | 第13回 ミニホッケー（ゲーム）（学外実習11） 【 到達目標 】 ミニホッケーで班対抗のゲームを実践する。 | | | |
| 第6回 応用技術（連続滑走、停止）、グループスケート（学外実習4） 【 到達目標 】 ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。2～3人のグループで滑走できるようにする。 | | | 第14回 試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習12） 【 到達目標 】 実習班ごとの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケートを音楽に合わせて実践する。 | | | |
| 第7回 応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習5） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続して滑走できるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽にあわせてできるようにする。 | | | 第16回 試験、グループによる演技発表（学外実習13） 【 到達目標 】 試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケートを発表する。 | | | |
| 第8回 グループスケート、ミニホッケー（導入）（学外実習6） 【 到達目標 】 実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 グループスケートの発表内容について、他のグループメンバーの力量を考慮しながら検討する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。参考書としては「アイススケートの基礎」（大学スケート研究会編）を推薦する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 実技試験を40%、演技発表を40%、実習レポートを20%の割合として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング論 | | | 担当者 | 吉田孝久 | |
|---|---------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Coaching Theory in Sports | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツコーチング論は、スポーツにおいて運動技能および競技力の向上を図るために、何を、いつから、どのように実施するのかを扱うスポーツの指導方法論である。本講義では、トレーニング活動は計画的に目標とするレベルへと導いていく過程の全体を意味することを理解させると同時に、トレーニングの対象となる内容について概説する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 コーチング論の対象領域：競技力とは 【 到達目標 】 コーチングの対象領域について概要を理解する。競技力について理解を深めるために、実際の試合の映像から競技力の一面を確認する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | 第9回 コーチングの実際1 【 到達目標 】 初心者指導におけるコーチングの例に関して、映像を活用して理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | |
| 第2回 「何を」「いつから」「どのように」 【 到達目標 】 早期に身につけるべき動きや競技力に直結する体力要素について、映像を活用して理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | 第10回 コーチングの実際2 【 到達目標 】 上級者（プロサッカー）の例によって、組織的、系統的、計画的なコーチングの実践例を理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | |
| 第3回 スポーツ活動経験から：動きの学習と指導1 【 到達目標 】 動きの習熟過程について、例として上げられた3つの段階をそれぞれ自分の動きの習熟状態に置き換えて理解しようとする。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | 第11回 ジュニアのコーチング 【 到達目標 】 プロチームの下部組織であるジュニアチームの活動を例にあげ、ジュニア選手育成におけるポイントを把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | |
| 第4回 スポーツ活動経験から：動きの学習と指導2 【 到達目標 】 スポーツ活動の生活化の必要性を多くの例から理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | 第12回 計画的なコーチング1 【 到達目標 】 トレーニング計画の有用性について、多くの例から把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | |
| 第5回 スポーツ活動経験から：動きの学習と指導3 【 到達目標 】 学習の時期を逸すると学習が困難であるという例をもとに、早期専門化の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | 第13回 計画的なコーチング2 【 到達目標 】 年間トレーニング計画とトレーニングの原理・原則について理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | |
| 第6回 「こつ」をつかむ1 【 到達目標 】 身近な運動学習場面を例にして、「こつ」のつかみ方、「こつ」の示し方について理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | 第14回 コーチングにおける問題点1 【 到達目標 】 シニアのコーチングにおける問題点について、多角的に検討する。その解決方法について考える。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | |
| 第7回 「こつ」をつかむ2 【 到達目標 】 映像をもとに、他の分野における「こつ」の示し方について理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | 第15回 コーチングにおける問題点2 【 到達目標 】 ジュニアのコーチングにおける問題点について、多角的に検討する。また、それらの解決方法について考える。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | |
| 第8回 技術・戦術・体力・メンタルコントロール 【 到達目標 】 自動化のレベルには、習熟度合いによって、あるいは個人によって違いや幅があることを理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読して理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ・ 毎回配布するプリントに提示された課題に回答する。次の授業で課題への回答例を示すことによって、授業内容の理解の度合いを自分自身でチェックする。 ・ 過去のスポーツ経験をもとに、自分自身のトレーニング実践について分析・評価することによって、また関連内容に関する映像資料の活用によってコーチングについての理解を深める。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 トレーニング計画論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 理解度を評価するために試験を実施する。その試験の結果100%で評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ技術論（スポーツ技術トレーニングを含む） | | | 担当者 | 小海隆樹 | |
|--|--------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Technique in Sports | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 本講義では、まず運動技能を構成する中核的因子である技術を、戦術・体力と関連させながら概観する。そして、運動が「できる」ことは、技術（コツ）を身につけることであり、コツの発生にはいくつかの階層（形成位相）があることや動きを「覚える人」と「教える人」にはそれぞれ「身体知」が必要であることを理解する。さらに、トレーニング過程全体の中で、「技術」に目を向けることや技術トレーニングの必要性を確認していく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツ技術とは 【到達目標】 (1) 技術の概念について理解する。 (2) スポーツ技術の概念について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第9回 技術の伝承と促発身体知 【到達目標】 (1) 技術の伝承と促発身体知の関連を理解する。 (2) 促発身体知の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第2回 スポーツ技術の変遷 【到達目標】 (1) スポーツ技術の歴史の変遷を理解する。 (2) スポーツ技術の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第10回 技術トレーニングの前提 【到達目標】 (1) 技術トレーニングの前提を理解する。 (2) トレーニングの原則を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第3回 競技力の構造 【到達目標】 (1) 競技力の構造について理解する。 (2) 技術・戦術・体力の関連について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第11回 初級者の技術トレーニング1 【到達目標】 (1) 初級者の技術トレーニングの概要を理解する。 (2) 初級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する①。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第4回 スポーツ技術と動感身体知 【到達目標】 (1) スポーツ技術と動感身体知の関連を理解する。 (2) 動感身体知の具体的例証について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第12回 初級者の技術トレーニング2 【到達目標】 (1) 初級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する②。 (2) 初級者の技術トレーニングと課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第5回 動感身体知の形成位相1 【到達目標】 (1) 動感身体知の形成位相の概要を理解する。 (2) 原志向位相、探索位相、偶発位相について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第13回 中級者の技術トレーニング 【到達目標】 (1) 中級者の技術トレーニングの概要を理解する。 (2) 中級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第6回 動感身体知の形成位相2 【到達目標】 (1) 形態化位相、自在位相について理解する。 (2) 形成位相と動きの獲得について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第14回 上級者の技術トレーニング 【到達目標】 (1) 上級者の技術トレーニングの概要を理解する。 (2) 上級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第7回 技術とコツ 【到達目標】 (1) 技術とコツの関連について理解する。 (2) コツ身体知の概要について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第15回 トレーニングにおけるスポーツ技術 【到達目標】 (1) トレーニング内容の中核がスポーツ技術であることを理解する。 (2) 各自の今後の技術トレーニングの展望と課題を明確にする。 【授業時間外学習】 授業から得た知見を実際のトレーニング場面に活かせるよう準備する。 | | | |
| 第8回 技術の習得と創発身体知 【到達目標】 (1) 技術の習得と創発身体知の関連を理解する。 (2) 創発身体知の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、講義内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。 <参考文献> 「選手とコーチのためのスポーツ技術のトレーニング」M.ゲッサー/A.ノイヤー（大修館書店） 「運動学講義」金子、朝岡編（大修館書店）「身体知の形成 上・下」金子明友（明和出版） 等 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ運動学、スポーツコーチング論、運動技能評価法 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の小レポートの達成度 70% ・ 最終レポートの達成度 30% | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ戦術論（スポーツ戦術トレーニングを含む） | | | 担当者 | 柴田雅貴 | |
|--|--------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Tactics in Sports | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 戦術、スポーツ戦術の歴史、概念、構造を概説する。そして、スポーツ戦術が具体的な競技場面で実現でき、競技力向上を図れるように、トレーニング方法に関して個人的戦術と集団的戦術（グループ・チーム戦術）に分類して講義をする。さらに戦術トレーニングの動向や最新のトレーニング法及び技術トレーニングや体力トレーニングとの関連性についても講義を行う。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス（授業の進め方など） 【 到達目標 】 講義の進め方、聴講上で留意する点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | 第9回 スポーツの戦術構想の注意点 【 到達目標 】 戦術構想の際の忘れてはならない事柄を理解する。 自己の専門とするスポーツでの注意点を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | |
| 第2回 戦術に関する用語（戦法、戦略） 【 到達目標 】 戦術の語源、スポーツ戦術に関連する用語を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | 第10回 戦術構想でのスポーツの種類、種目による特性 【 到達目標 】 スポーツ種目ごとの前提条件とその違いを理解する。 自己の専門とするスポーツ種目の戦術構想の特性を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | |
| 第3回 スポーツ戦術の構造 【 到達目標 】 競技者と指導者及び個人と集団の関係を理解する。 戦術構想、戦術行動、戦術実践の関係を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | 第11回 スポーツ戦術トレーニングの構造 【 到達目標 】 構想、行動、実践のトレーニングの関係を理解する。 直観できる戦術行動と戦略行動のトレーニングの違いを理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | |
| 第4回 戦術の歴史 【 到達目標 】 戦術の歴史を理解する。 孫武「孫子の兵法」、クラウゼビッツ「戦争論」の概略を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | 第12回 スポーツ戦術行動トレーニングの方法 【 到達目標 】 相手や状況に対応する具体的なトレーニング方法を理解する。 相手の戦術を探り出す、また自己の戦術を隠すトレーニング方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | |
| 第5回 スポーツ戦術の歴史 【 到達目標 】 スポーツにおける戦術の歴史を理解する。 各種目で優れた成果を残した指導者の戦術を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | 第13回 スポーツ戦術行動トレーニングの練習段階、順序 【 到達目標 】 練習の3段階とその内容を理解する。 練習順序（習得、完成、定着）を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | |
| 第6回 スポーツ戦術の意義 【 到達目標 】 スポーツ競技における戦術の意義を理解する。 運動技術と戦術行動の関係を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | 第14回 スポーツ戦術行動トレーニングの注意点 【 到達目標 】 戦術行動トレーニングを行う際の一般的注意点を理解する。 自己の専門とする種目での注意点を作成する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | |
| 第7回 スポーツの戦術構想と前提条件 【 到達目標 】 戦術構想の内容、方法を理解する。 構想の際の前提条件となる内容を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | 第15回 スポーツ戦術行動における即興行動 【 到達目標 】 戦術行動トレーニングを省略する即興行動について理解する。 【授業時間外学習】本講義で獲得した知見をもとに競技力向上を狙った実際の戦術トレーニングに活かせるようにする。 | | | |
| 第8回 スポーツの戦術構想に影響を及ぼすもの 【 到達目標 】 構想の際に影響を及ぼすものとその内容を理解する。 【授業時間外学習】 授業で作成したノートおよび配布した資料を見直し、次回の授業の準備をする。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 板書された事柄をノートに記録する高校時代の授業状態を一步進化させ、講義された事柄を聞いてノートできることを重視して授業を進めていくので、対処すること。換言すれば「見て書ける」から「聞いて書ける」ようになることである。一般論及び他のスポーツ種目の内容を自己の専門とする種目にとりいれるようにする。他の受講者に迷惑を及ぼす行動については厳しく対処する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない、参考資料を配布する。参考書「スポーツ戦術入門」 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の小レポート達成度60%と2回のまとめレポート達成度40%で評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 科目名 | スポーツコンディショニング論 | | | 担当者 | 加茂美冬 | |
| 英文名 | Sport Conditioning | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 | | | | | | |
| スポーツにおいて設定された目的を達成するためには、心身の条件を最適化することが必要である。本講義では、身体の条件を最適化する際に必要とされる科学的基礎について解説する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツにおけるコンディショニング | | | 第9回 適応とコンディショニング(2) | | | |
| 【到達目標】 スポーツにおけるコンディショニングの特性と本講義における学習到達目標について理解する。 | | | 【到達目標】 デトレニングについて理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 講義内容を自筆ノートに元を復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 【授業時間外学習】 講義内容を自筆ノートに元を復習する。 | | | |
| 第2回 コンディショニングの基礎 神経調節 | | | 第10回 適応の可逆性とコンディショニング | | | |
| 【到達目標】 身体機能の調節を担う神経系について理解する。 | | | 【到達目標】 オーバートレーニングについて理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 【授業時間外学習】 講義内容を自筆ノートに元を復習する。 | | | |
| 第3回 コンディショニングの基礎 液性調節 | | | 第11回 コンディショニングの評価方法(1) | | | |
| 【到達目標】 液性調節による身体機能の調節について理解する。 | | | 【到達目標】 体調、体力などの評価方法を理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 【授業時間外学習】 講義内容を自筆ノートに元を復習する。 | | | |
| 第4回 環境刺激に対するコンディショニング(1) | | | 第12回 コンディショニングの評価方法(2) | | | |
| 【到達目標】 各種環境下におけるコンディショニングについて理解する。 | | | 【到達目標】 体調、体力などの評価方法を理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 【授業時間外学習】 講義内容を自筆ノートに元を復習する。 | | | |
| 第5回 環境刺激に対するコンディショニング(2) | | | 第13回 コンディショニングの実践(1) | | | |
| 【到達目標】 各種環境下におけるコンディショニングについて理解する。 | | | 【到達目標】 コンディショニングチェックを実施する際の留意点を理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 【授業時間外学習】 講義内容を自筆ノートに元を復習する。 | | | |
| 第6回 生体リズムとコンディショニング | | | 第14回 コンディショニングの実践(2) | | | |
| 【到達目標】 生体リズムとコンディショニングの関係を理解する。 | | | 【到達目標】 コンディショニングチェックを実施する際の留意点を理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 【授業時間外学習】 講義内容を自筆ノートに元を復習する。 | | | |
| 第7回 疲労とコンディショニング | | | 第15回 コンディショニングの実践(3) | | | |
| 【到達目標】 疲労とコンディショニングの関係を理解する。 | | | 【到達目標】 コンディショニングチェックを実施する際の留意点を理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | 【授業時間外学習】 講義内容を自筆ノートに元を復習する。 | | | |
| 第8回 適応とコンディショニング(1) | | | | | | |
| 【到達目標】 トレーニングについて理解を深める。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 | | | | | | |
| “理解度の自己確認”や“より発展的な内容の学習”を希望する学生のために自主学習課題を用意する。積極的に活用していただきたい。また、講義後、知識の理解度を把握するため講義内容に関する小課題を実施する場合がある。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | |
| 関連資料(パワーポイント)と教科書を使用する。 「運動生理学の基礎と発展」 春日規克、竹倉宏明編著、フリースペース | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| スポーツ生理学、スポーツ医学、スポーツ栄養学、スポーツ心理学 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | |
| 小課題を20%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)を80%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 体力トレーニング演習 | | | 担当者 | 佐伯 徹郎・吉田 孝久 亀井 良和 | |
|---|-----------------------------|-------------------|---|-------|----------------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Fitness Training | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 体力は、運動に使うエネルギーを出す能力と、効果的に出したり使ったりする能力に分けられる。本授業では、おもに、最大エネルギーを出す能力（筋力・パワー・持久力）の評価法とトレーニング方法について体得し、目的・目標に応じた体力トレーニングに関するプログラム作成能力および実行能力を養成することを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方について理解する。 【授業時間外学習】 授業のねらいと進め方について理解を深める。 | | | 第9回 最大パワーのトレーニング法 【 到達目標 】 (1)最大パワートレーニングについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 最大パワートレーニングについて理解を深める。 | | | |
| 第2回 体力トレーニングの基礎知識と基本手段 【 到達目標 】 (1)体力トレーニングの基礎知識と基本手段について理解する。 【授業時間外学習】 体力トレーニングの基礎知識と基本手段について理解を深める。 | | | 第10回 持久力のトレーニング法 【 到達目標 】 (1)持久力トレーニングについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 持久力トレーニングについて理解を深める。 | | | |
| 第3回 マシントレーニング 【 到達目標 】 (1)トレーニングマシンの基本的な使い方を理解する。 【授業時間外学習】 トレーニングマシンの基本的な使い方について理解を深める。 | | | 第11回 いろいろなトレーニング法① 【 到達目標 】 (1)スタビライゼーションなどについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践したトレーニングに関する内容と課題等に関するレポートを作成する。 | | | |
| 第4回 フリーウェイトトレーニング 【 到達目標 】 (1)フリーウェイトトレーニングの基本的な行い方を理解する。 【授業時間外学習】 フリーウェイトトレーニングの基本的な行い方の理解を深める。 | | | 第12回 いろいろなトレーニング法② 【 到達目標 】 (1)プライオメトリックスなどについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践したトレーニングに関する内容と課題等に関するレポートを作成する。 | | | |
| 第5回 最大筋力の評価法 【 到達目標 】 (1)最大筋力の測定評価法を理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践した自身の測定結果をまとめてレポートを作成する。 | | | 第13回 プログラムの作成・実行①：自己 【 到達目標 】 (1)自己の目的・現状に応じたプログラムを作成・実践する。 【授業時間外学習】 自己の目的に応じたトレーニングメニューを作成し、実施後の課題等をまとめる。 | | | |
| 第6回 最大パワーの評価法 【 到達目標 】 (1)最大パワーの測定評価法を理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践した自身の測定結果をまとめてレポートを作成する。 | | | 第14回 プログラムの作成・実行②：他者（実技指導あり） 【 到達目標 】 (1)他者の目的・現状に応じたプログラムを作成・実践する。 【授業時間外学習】 他者の目的に応じたトレーニングメニューを作成し、実施後の課題等をまとめる。 | | | |
| 第7回 持久力の評価法 【 到達目標 】 (1)持久力の測定評価法を理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践した自身の測定結果をまとめてレポートを作成する。 | | | 第15回 プログラムの作成・実行③：他者（実技指導なし） 【 到達目標 】 (1)授業のねらいが達成されたか評価される内容で作成する。 (2)第13～14回の授業内容を活かしてプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 他者が作成したトレーニングメニューを実践し、結果について課題等をまとめ評価を行う。 | | | |
| 第8回 最大筋力のトレーニング法 【 到達目標 】 (1)最大筋力トレーニングについて理解し、実践する。 【授業時間外学習】 実践したトレーニングに関する内容と課題等に関するレポートを作成する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 トレーニングに適した服装、室内シューズを用意し、過剰なアクセサリ等は控えること。 安全・効果的にトレーニングできるように体調管理に努めること。 グループおよび個人ごとの学習活動において、記録をつけながらの実技となる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 配布資料による。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 中間課題40%、最終課題60%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 石 塚 浩 | |
|--|---------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英 文 名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単 位 数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 運動想像力：新しい運動形態の発生や運動組合せに関連した「運動を表象する能力」。運動記憶：運動学習を通して獲得された運動の記憶全体。運動発生の際にどのような関わりを持つか。運動経験：運動体験との差異を明らかにし、運動発生における運動記憶と関係。運動表象：運動発生における「運動表象→運動遂行→現在値と目標値の比較に関するフィードバック」の機能。こういった基礎概念などをもとに、運動発生の運動投企との関係を浮き彫りにし、実践的に解明する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業内容の概略としてのオリエンテーション 【 到達目標 】 実験的な方法から、運動の分析を行い、運動修正全体に関わる内容を構造的に理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読。 | | | 第9回 股関節角度の定義とその分析方法 【 到達目標 】 バイオメカニクスで用いられる股関節角度の定義と感覚印象を基本とした股関節角度との相違から各々の分析作業を行う。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読。 | | | |
| 第2回 運動修正に関わる実験設定と実験方法 【 到達目標 】 実験として用いられる方法論の理解と授業内での実験の実施方法について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読。 | | | 第10回 股関節角度の分析作業 【 到達目標 】 9.の股関節角度の分析作業を行う。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読。 | | | |
| 第3回 運動修正を含んだ実験の実施 【 到達目標 】 自己自身のオリジナルな動きとモデルとした動きを「真似て」という試技を高速カメラにより撮影を行う。 【授業時間外学習】 実験設定や実験に関わる諸手続の確認。 | | | 第11回 ストライドとピッチの定義とその分析方法 【 到達目標 】 ピッチとストライドの定義と感覚印象を基本とした分析作業を行う。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と参考書の該当箇所の熟読。 | | | |
| 第4回 撮影された映像のコマ/秒と各種分析項目との関係 【 到達目標 】 高速カメラの撮影条件、また市販のビデオカメラでの撮影条件を理解し、分析にあたっての基礎条件を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読。 | | | 第12回 分析結果による理想モデルとの比較検討 【 到達目標 】 すべての分析作業の結果から得られたデータと理想となるモデルとの比較を行い差異の検討をする。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と参考書の該当箇所の熟読。 | | | |
| 第5回 上体角の定義とその分析方法 【 到達目標 】 バイオメカニクスで用いられる上体角の定義と感覚印象を基本とした上体角との相違から各々の分析作業を行う。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読。 | | | 第13回 運動修正における運動表象、運動投企、運動記憶の意味 【 到達目標 】 運動修正に必要な自己の運動表象および運動投企、さらには運動記憶との関係を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と参考書の該当箇所の熟読。 | | | |
| 第6回 上体角の分析作業 【 到達目標 】 5.の上体角の分析作業を行う。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読。 | | | 第14回 レポート課題の作成作業（1） 【 到達目標 】 パーソナルコンピューターを利用してのレポート作成作業から、表や図の作成方法などを理解する。 【授業時間外学習】 パソコンソフト「エクセル」の操作方法の復習。 | | | |
| 第7回 膝関節角度の定義とその分析方法 【 到達目標 】 バイオメカニクスで用いられる膝関節角度の定義と感覚印象を基本とした上体角との相違から各々の分析作業を行う。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読。 | | | 第15回 レポート課題の作成作業（2） 【 到達目標 】 パーソナルコンピューターを利用してのレポート作成作業から、文書作成ならびにパワーポイントの作成方法などを理解する。 【授業時間外学習】 パソコンソフト「パワーポイント」の操作方法の復習。 | | | |
| 第8回 膝関節角度の分析作業 【 到達目標 】 7.の膝関節角度の分析作業を行う。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実験と、その分析作業を伴う授業である。分析作業からデータを抽出することが重要であり、さらにそれを元とした運動修正を行うため、これまでの運動経験や運動観察が重要となる。自己の運動を実験対象とするため、そして、その分析作業のため、継続的な授業への出席が求められる。また、レポート作成では、パーソナルコンピューターを最大限に利用し、総合的に情報機器に関わるようにする努力が必要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 参考書：「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） 「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳（大修館書店） 「運動学講義」金子明友、朝岡正雄・編著（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ運動学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ運動分析法、運動技能評価法 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 実験結果についての分析作業からレポート作成を行い、その内容を評価する（100％）。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 亀井良和 | |
|--|---------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 現在行っている競技の特性を考え、体力トレーニングの観点から競技力向上のためのトレーニング方法を学習する。その際、体力トレーニングを運動制御系体力とエネルギー系体力の2つの観点からとらえ、現在自らが競技で実施しているトレーニングの科学的理解を高めながら、より効率のよい種目特性に応じた体力トレーニングの在り方を学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス(授業の進め方、グループ作り、発表の仕方) 【 到達目標 】 (1) 2回から9回までの授業の進め方を理解し、種目の偏りの少ないグループ作りを行う。 (2) 10回以後の体力トレーニング実践報告の内容を理解し、順番も決定する。 【授業時間外学習】 体力トレーニングに関する知識を深める。 | | | 第9回 種目に応じた有酸素性持久力とそのトレーニング方法に関する発表 【 到達目標 】 (1) 種目に応じた有酸素性持久力のトレーニング方法に関して、各自の運動経験を生かしたグループ発表が行える。 【授業時間外学習】 種目に応じた有酸素性持久力のトレーニング方法に関する理解を深める。 | | | |
| 第2回 運動制御系体力とそのトレーニング方法について(発表準備) 【 到達目標 】 (1) 運動制御系体力とは何かを理解し、グループ毎にそのトレーニング方法に関する準備を行う。 【授業時間外学習】 授業内で行った準備を元に、各自がレポートを作成する。 | | | 第10回 体力トレーニング実践報告とディスカッション① 【 到達目標 】 (1) 担当者による体力トレーニング実践報告とディスカッションを通して、体力トレーニングに関する見識を深め、種目に応じた体力トレーニングの違いを理解する。 【授業時間外学習】 担当者は自身の体力トレーニング実践報告をまとめディスカッションの準備を行う。 | | | |
| 第3回 運動制御系体力のトレーニング方法に関する発表 【 到達目標 】 (1) 運動制御系体力のトレーニング方法に関して、各自の運動経験を生かしたグループ発表が行える。 【授業時間外学習】 運動制御系体力のトレーニング方法に関する理解を深める。 | | | 第11回 体力トレーニング実践報告とディスカッション② 【 到達目標 】 (1) 担当者による体力トレーニング実践報告とディスカッションを通して、体力トレーニングに関する見識を深め、種目に応じた体力トレーニングの違いを理解する。 【授業時間外学習】 担当者は自身の体力トレーニング実践報告をまとめディスカッションの準備を行う。 | | | |
| 第4回 種目に応じた筋力・瞬発力とそのトレーニング方法について(発表準備) 【 到達目標 】 (1) 筋力・瞬発力とは何かを理解し、グループ毎にそのトレーニング方法に関する準備を行う。 【授業時間外学習】 授業内で行った準備を元に、各自がレポートを作成する。 | | | 第12回 体力トレーニング実践報告とディスカッション③ 【 到達目標 】 (1) 担当者による体力トレーニング実践報告とディスカッションを通して、体力トレーニングに関する見識を深め、種目に応じた体力トレーニングの違いを理解する。 【授業時間外学習】 担当者は自身の体力トレーニング実践報告をまとめディスカッションの準備を行う。 | | | |
| 第5回 種目に応じた筋力・瞬発力とそのトレーニング方法に関する発表 【 到達目標 】 (1) 種目に応じた筋力・瞬発力のトレーニング方法に関して、各自の運動経験を生かしたグループ発表が行える。 【授業時間外学習】 種目に応じた筋力・瞬発力のトレーニング方法に関する理解を深める。 | | | 第13回 体力トレーニング実践報告とディスカッション④ 【 到達目標 】 (1) 担当者による体力トレーニング実践報告とディスカッションを通して、体力トレーニングに関する見識を深め、種目に応じた体力トレーニングの違いを理解する。 【授業時間外学習】 担当者は自身の体力トレーニング実践報告をまとめディスカッションの準備を行う。 | | | |
| 第6回 種目に応じた無酸素性持久力とそのトレーニング方法について(発表準備) 【 到達目標 】 (1) 無酸素性持久力とは何かを理解し、グループ毎にそのトレーニング方法に関する準備を行う。 【授業時間外学習】 授業内で行った準備を元に、各自がレポートを作成する。 | | | 第14回 体力トレーニング実践報告とディスカッション⑤ 【 到達目標 】 (1) 担当者による体力トレーニング実践報告とディスカッションを通して、体力トレーニングに関する見識を深め、種目に応じた体力トレーニングの違いを理解する。 【授業時間外学習】 担当者は自身の体力トレーニング実践報告をまとめディスカッションの準備を行う。 | | | |
| 第7回 種目に応じた無酸素性持久力とそのトレーニング方法に関する発表 【 到達目標 】 (1) 種目に応じた無酸素性持久力のトレーニング方法に関して、各自の運動経験を生かしたグループ発表が行える。 【授業時間外学習】 種目に応じた無酸素性持久力のトレーニング方法に関する理解を深める。 | | | 第15回 体力トレーニング実践報告とディスカッション⑥ 【 到達目標 】 (1) 担当者による体力トレーニング実践報告とディスカッションを通して、体力トレーニングに関する見識を深め、種目に応じた体力トレーニングの違いを理解する。 【授業時間外学習】 担当者は自身の体力トレーニング実践報告をまとめディスカッションの準備を行う。 | | | |
| 第8回 種目に応じた有酸素性持久力とそのトレーニング方法について(発表準備) 【 到達目標 】 (1) 有酸素性持久力とは何かを理解し、グループ毎にそのトレーニング方法に関する準備を行う。 【授業時間外学習】 授業内で行った準備を元に、各自がレポートを作成する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義による一言指導だけではなく、グループもしくは各自が課題解決のための調査、情報収集を行い、さらにそれを発表しディスカッションを行う演習であることを理解し、積極的に参加することを心がける。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業ごとの発表に対する理解度を50%、各自もしくは各グループの発表内容を50%の割合として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 加茂美冬 | |
|--|---------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 運動の発現とその調節機構について、講義および簡単な実験を通して学ぶ。運動やスポーツについて生理学的側面から理解を深めると同時に実験、観察に必要な基礎的技術を習得、態度を身に付ける。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツにおけるスキルと体力 【 到達目標 】 スキルおよび体力の定義について理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第9回 筋力トレーニング(2) 【 到達目標 】 様々な筋力トレーニングの特徴を生理学的に理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第2回 最大筋力の調節(1) 【 到達目標 】 最大筋力を規定する因子について理解を深めるために、最大筋力に関する簡単な実験を行う。データの解析方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第10回 筋力調節能力のトレーニング(1) 【 到達目標 】 トレーニングによる筋力調節能力の向上の生理学的機構を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第3回 最大筋力の調節(2) 【 到達目標 】 データの解析を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第11回 筋力調節能力のトレーニング(2) 【 到達目標 】 様々な筋力調節能力のトレーニングの特徴を生理学的に理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第4回 最大筋力の調節(3) 【 到達目標 】 得られた結果から最大筋力を規定する因子について考え、理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第12回 神経筋機能の測定方法 【 到達目標 】 神経筋機能を電気生理学的に測定する方法について理解する。筋電図の記録を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第5回 最大下筋力の調節(1) 【 到達目標 】 最大下筋力の神経系による調節機構について理解を深めるために、最大下筋力に関する簡単な実験を行う。データの解析方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第13回 神経筋機能測定データの解析方法 【 到達目標 】 筋電図の解析方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第6回 最大下筋力の調節(2) 【 到達目標 】 データの解析を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第14回 神経筋機能測定データ解析結果の評価方法 【 到達目標 】 筋電図の解析結果の評価方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第7回 最大下筋力の調節(3) 【 到達目標 】 得られた結果から最大下筋力の調節機構について考え、理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第15回 総括 【 到達目標 】 本演習で学習した内容について総合的に理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第8回 筋力トレーニング(1) 【 到達目標 】 トレーニングによる筋力向上の生理学的機構について理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 “より発展的な内容の学習”を希望する学生のために自主学習課題を用意する。積極的に活用して頂きたい。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 資料を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ生理学、スポーツコンディショニング論、スポーツコンディショニング演習 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として授業中に与えられた課題に関するレポート(100%)を基に評価を行う。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 北川幸夫 | |
|--|---------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 運動の達成度を測定し、その結果を評価するスポーツ種目のうち、主に競泳競技を取り上げ、特に体力的要素に関する内外の文献を輪読しながら、体力向上のためのトレーニング法について基本的な考え方を学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読① 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第9回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読⑧ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第2回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読② 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第10回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読⑨ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第3回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読③ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第11回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読⑩ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第4回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読④ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第12回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読⑪ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第5回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読⑤ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第13回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読⑫ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第6回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読⑥ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第14回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読⑬ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第7回 ディスカッション（輪読した内容について討議する）① 【 到達目標 】 輪読した文献内容についてまとめ、討議する。 【授業時間外学習】 競泳のトレーニングに関してディスカッションを行い、理解を深める。 | | | 第15回 ディスカッション（輪読した内容について討議する）② 【 到達目標 】 輪読した文献内容についてまとめ、討議する。 【授業時間外学習】 競泳のトレーニングに関してディスカッションを行い、理解を深める。 | | | |
| 第8回 競泳におけるトレーニングに関する外国文献 輪読⑦ 【 到達目標 】 競泳におけるトレーニングに関する外国文献を通して体力トレーニング等について学習し、理解する。 【授業時間外学習】 競泳の体力トレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 外国文献の和訳を分担して発表してもらうが、和訳は自分の割り当てられたところのみではなく、全体を行うこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツコーチング演習Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として筆記テストの結果を100%とする。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 古泉佳代 | |
|--|---------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 「食べる」ことは、身体をつくることである。食べることに関わる「感覚」を再確認する多くの体験から、「食べる」ことを科学的に理解する。同時に、スポーツ場面における食に関わる様々な文献をまとめ、これまで行われてきた食教育と、今後必要になる食教育を試行錯誤しながら構築することが本演習のねらいである。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)自分が考える「食べる」を他者と共有できる。 (2)スポーツと食べることの関係に気付くことができる。 【授業時間外学習】 「食べる」ことを考える。 | | | 第9回 事例研究② 【 到達目標 】 (1)実験方法をまとめることができる。 (2)実験の準備をすることができる。 【授業時間外学習】 実験の準備をする。 | | | |
| 第2回 五感①視覚 【 到達目標 】 (1)人は目で食べる事に気付き、その仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 日常生活での食事で、「見る」ことを意識して食べる。 | | | 第10回 事例研究③ 【 到達目標 】 (1)実験をすることができる。 (2)結果をまとめることができる。 (3)要点を共有するためのプレゼンテーション技能を高める。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。 | | | |
| 第3回 五感②触覚 【 到達目標 】 (1)触覚の役割に気付くことができる。 (2)唇や口腔内の粘膜で感じる触覚について理解する。 【授業時間外学習】 日常生活の食事で「触覚」を意識して食べる。 | | | 第11回 事例研究④ 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションすることができる。 (2)他者の発表を聞き、意見や感想を述べるができる。 【授業時間外学習】 食育に関する実践報告を検索する。 | | | |
| 第4回 五感③嗅覚 【 到達目標 】 (1)嗅覚の重要性に気付くことができる。 (2)嗅覚刺激について理解する。 【授業時間外学習】 日常生活の食事で「嗅覚」を意識して食べる。 | | | 第12回 運動を継続している子どもを対象とした食育① 【 到達目標 】 (1)現代に必要な食育を考えることができる。 (2)体力、体組成測定の方法を習得できる。 【授業時間外学習】 食育に関する実践報告を検索する。 | | | |
| 第5回 五感④聴覚 【 到達目標 】 (1)聴覚と食事の関係に気付くことができる。 【授業時間外学習】 日常生活での食事で「聴覚」を意識して食べる。 | | | 第13回 運動を継続している子どもを対象とした食育② 【 到達目標 】 (1)食育のめあて、指導のながれを考えることができる。 (2)食育実践のための準備をすることができる。 【授業時間外学習】 食育実践の準備を行う。 | | | |
| 第6回 五感⑤味覚 【 到達目標 】 (1)5つの基本味の判別ができる。 (2)味覚について理解できる。 【授業時間外学習】 日常生活での食事で「味覚」を意識して食べる。 | | | 第14回 運動を継続している子どもを対象とした食育③ 【 到達目標 】 (1)食育を実践することができる。 【授業時間外学習】 食育実践の振り返りを実施する。 | | | |
| 第7回 五感を使ったテイasting 【 到達目標 】 (1)味覚の変化に気付くことができる。 (2)テイasting方法を理解できる。 【授業時間外学習】 日常生活での食事で「味わう」ことを意識して食べる。 | | | 第15回 運動を継続している子どもを対象とした食育④ 【 到達目標 】 (1)食育実践の振り返りを発表する。 (2)他者の発表を聞き、意見や感想を述べることができる。 【授業時間外学習】 食育の可能性について考える。 | | | |
| 第8回 事例研究① 【 到達目標 】 (1)「食べる」事に関する日常の疑問をまとめることができる。 (2)仮説を考えることができる。 【授業時間外学習】 仮説を検証するための方法を考える。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 演習の前半では、味覚教育を体験しながら「食べる」ことを再確認し、その体験で学んだ事をレポートにまとめる。演習の後半では、事例研究から得られた情報を他者へわかりやすく説明することが求められる。さらに、現代のスポーツ場面で必要な食教育を考え、実践することで食教育を体験的に学ぶ。授業に出席し、各種体験を積極的に取り組む姿勢が重要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配布する。 参考書としては、プラトール味覚教育センター/中野美季共著「味覚の学校」などを用いる。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ栄養学、スポーツコンディショニング演習B（スポーツ選手の栄養学）、栄養学入門 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として、授業中に与えられた課題に関するレポート1題（30%）、事例研究1題（30%）、食教育の実践1題（40%）をもとに評価を行う。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 小海隆樹 | |
|--|---------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツ技術論で扱った内容を詳細に検討することにより、動きの習得と定着に必要な事柄を整理し、発生的視点からの検討を試みる。そこから、動きを身につけるための具体的方法論についての理解を深める。さらに、その過程で最も重要となる観察力のトレーニングについても理解していく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツ技術の構造 【到達目標】 (1) スポーツ技術の構造について再確認する。 (2) スポーツ技術に関する具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | 第9回 観察とは？ 【到達目標】 (1) 観察の概念について再確認する。 (2) 発生運動学的な観察とその具体的例証について再確認する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | |
| 第2回 スポーツ技術の習得 【到達目標】 (1) スポーツ技術の習得に関するさまざまな課題を理解する。 (2) スポーツ技術の習得に関する具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | 第10回 観察の実際1 【到達目標】 (1) 実際の動きの観察から、観察方法を検討する。 (2) 日常生活での動きの観察とその具体的例証について理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | |
| 第3回 発生運動学に基づく動きの指導 【到達目標】 (1) 発生運動学について再確認する。 (2) 動きの指導に関する具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | 第11回 観察の実際2 【到達目標】 (1) 実際の動きの観察から、観察方法を検討する。 (2) スポーツでの動きの観察とその具体的例証について理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | |
| 第4回 コツとは？ 【到達目標】 (1) 動きのコツについて再確認する。 (2) コツの具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | 第12回 選手と観察能力 【到達目標】 (1) 選手にとっての観察能力の必要性を理解する。 (2) 選手の観察能力の具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | |
| 第5回 コツの習得 【到達目標】 (1) コツの習得に関するさまざまな課題を理解する。 (2) コツの習得に関する具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | 第13回 指導者と観察能力 【到達目標】 (1) 指導者にとっての観察能力の必要性を理解する。 (2) 指導者の観察能力の具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | |
| 第6回 カンとは？ 【到達目標】 (1) 動きのカンについて再確認する。 (2) カンの具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | 第14回 指導者の促発能力 【到達目標】 (1) 指導者の促発能力の必要性を理解する。 (2) 観察、交信、代行の具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | |
| 第7回 カンの習得 【到達目標】 (1) 動きのカンについて再確認する。 (2) カンの具体的例証を検討し、理解する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | 第15回 促発能力の養成方法 【到達目標】 (1) 促発能力の必要性を理解する。 (2) 促発能力の具体的養成方法について理解する。 【授業時間外学習】 授業で得た発生的運動学的な知見を動きかたの習得や指導に活かせるよう準備する。 | | | |
| 第8回 コツとカンの反転 【到達目標】 (1) コツとカンの反転化現象について理解する。 (2) コツとカンの反転化現象の具体的例証を分析する。 【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 スポーツ技術・身体知・コツ・カン・観察能力などに関して、実際の動きの場面に照らし合わせながら検討していく授業である。多くの例証から、発生的運動学的知見が指導現場に有用であることを確認するため、常に「動きの発生」に関する問題意識を持って参加してほしい。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。 <参考文献> 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店） 「わざの伝承」金子明友（明和出版） 「身体知の形成 上・下」金子明友（明和出版） 等 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ運動学、スポーツコーチング論、スポーツ技術論、運動技能評価法 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の小レポートの達成度 70% ・ 最終レポートの達成度 30% | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 齊藤隆志 | |
|--|---------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツによるまちづくりをテーマとして扱う。スポーツは人々の生き甲斐や健康をもたらすとともに、人と人のつながりをうながしたり、コミュニティを作ったりする。地域によってはスポーツが住民の誇りとなっているところもある。本授業は大学周辺（烏山地域）を題材に、スポーツを利用してどのようなまちづくりが可能か、あわせて理想的な“まち”の提案ができるよう検討・議論する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)授業の進め方を理解する。グループ分けを行う。 【授業時間外学習】 地域社会でのスポーツ活動の具体例をインターネットで調べる。 | | | 第9回 スポーツによるまちづくりの事例研究（４） 【 到達目標 】 (1)ニチジョクラブの参与観察を行う。 【授業時間外学習】 大学スポーツの地域貢献についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第2回 スポーツとまちづくりの理論的説明（１） 【 到達目標 】 (1)総合型地域スポーツクラブの社会的役割を理解する。 【授業時間外学習】 世田谷区の総合型地域スポーツクラブの具体的内容をインターネットで調べる。 | | | 第10回 スポーツによるまちづくりの事例研究（５） 【 到達目標 】 (1)ニチジョクラブの参与観察を行う。 【授業時間外学習】 烏山スポーツクラブユニオンの活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第3回 スポーツとまちづくりの理論的説明（２） 【 到達目標 】 (1)総合型地域スポーツクラブのマネジメントを理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブのマネジメントについてインターネットで調べる。 | | | 第11回 スポーツによるまちづくりの事例研究（６） 【 到達目標 】 (1)烏山スポーツクラブユニオンの事業を企画する。 (2)住民ニーズに応える事業を考える。 【授業時間外学習】 烏山スポーツクラブユニオンの活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第4回 スポーツとまちづくりの理論的説明（３） 【 到達目標 】 (1)地域社会の生活課題、公共問題、住民ニーズを調べる。 【授業時間外学習】 世田谷区の生活問題について、教育、スポーツ、健康、保健分野等で調べる。 | | | 第12回 スポーツによるまちづくりの事例研究（７） 【 到達目標 】 (1)烏山スポーツクラブユニオンの事業を企画する。 (2)住民ニーズに応える事業を考える。 【授業時間外学習】 烏山スポーツクラブユニオンの活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第5回 スポーツとまちづくりの理論的説明（４） 【 到達目標 】 (1)烏山スポーツクラブユニオンの目的、組織を理解する。 【授業時間外学習】 世田谷区のスポーツ政策の取り組みについてインターネットで調べる。 | | | 第13回 スポーツによるまちづくりの事例研究（８） 【 到達目標 】 (1)烏山スポーツクラブユニオンの事業の一部を実施する。 (2)住民の期待に応えるサービスを展開する。 【授業時間外学習】 烏山スポーツクラブユニオンの活動についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第6回 スポーツによるまちづくりの事例研究（１） 【 到達目標 】 (1)烏山スポーツクラブユニオンの事例調査を行う。 【授業時間外学習】 烏山スポーツクラブユニオンの活動についてインターネットで調べる。 | | | 第14回 スポーツによるまちづくりの事例研究（９） 【 到達目標 】 (1)ニチジョクラブの事業を参与観察する。 (2)住民の期待に応えるサービスを展開する。 【授業時間外学習】 大学スポーツの地域貢献についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第7回 スポーツによるまちづくりの事例研究（２） 【 到達目標 】 (1)烏山スポーツクラブユニオンの事例調査を行う。 【授業時間外学習】 烏山スポーツクラブユニオンの活動についてインターネットで調べる。 | | | 第15回 スポーツによるまちづくりのあり方 【 到達目標 】 (1)地域におけるコミュニティスポーツのあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブの事業運営についてインターネットで調べる。 | | | |
| 第8回 スポーツによるまちづくりの事例研究（３） 【 到達目標 】 (1)烏山スポーツクラブユニオンの事例報告会を行う。 【授業時間外学習】 烏山スポーツクラブユニオンの活動についてインターネットで調べる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 地域社会において住民と関わりを持つため、常識ある態度、服装、積極的姿勢を期待する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に指定しない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、提出レポート(50%)で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 佐々木万丈 | |
|---|---------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 本演習では、スポーツ選手や体育授業に取り組む学習者の心理や行動に関する研究方法について学習し、質問紙調査法によるデータの収集と統計解析プログラムなどを用いたデータ分析を行い、スポーツ選手や学習者を対象とする心理学的研究法を実地に学ぶことを目的とする。具体的には、1年次に「スポーツ心理学」で履修したスポーツ選手の心理的問題などから検討課題を設定し、その課題解決のための尺度作成や調査を実施し、統計法や結果の解釈に関する理解を深めていく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツ心理学の研究デザイン 【 到達目標 】 (1)スポーツ心理学に関わる研究方法の枠組みを理解し、自らが行う調査研究の方法を適正に定めることができる。 【授業時間外学習】 量的・質的、横断的・縦断的、仮説の検証・生成など研究の枠組みについて整理する。 | | | 第9回 調査テーマ、分析方法の決定 【 到達目標 】 (1)心理学的調査のテーマと変数の決定方法や、研究目的に応じた分析方法について理解し、調査方法を設定できる。 【授業時間外学習】 演習で設定した研究テーマ、独立変数、従属変数、調査・分析方法の再確認を行なう。 | | | |
| 第2回 心理尺度を理解するための基礎知識と心理尺度作成法 【 到達目標 】 (1)収集データのコーディングの意味と方法について理解し、データを実際にファイル化する。 【授業時間外学習】 練習用データを用いてデータファイルのつくり方を練習する。 | | | 第10回 心理尺度の作成と調査準備 【 到達目標 】 (1)設定した研究課題に関わる心理尺度を作成するための資料を収集し、調査項目を設定できる。 【授業時間外学習】 調査項目の吟味を行なうと共に、最終的に設定された質問紙を実施しデータを収集する。 | | | |
| 第3回 心理尺度を理解するための基礎知識と心理尺度作成法 【 到達目標 】 (1)独立変数、従属変数、剰余変数について理解し、説明できる。 (2)信頼性、妥当性の概念について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 スポーツ関連の心理的課題を整理し、それらを検討している先行研究をレビューする。 | | | 第11回 収集データの整理と入力 【 到達目標 】 (1)調査計画に基づき調査を実施しデータを収集することができる。 (2)データを入力し、コーディングして整理することができる。 【授業時間外学習】 収集・入力したデータの度数分布、記述統計を求め標本の特徴を整理する。 | | | |
| 第4回 データの分布、正規分布、代表値 【 到達目標 】 (1)度数分布、正規分布の意味や特徴を理解し、説明できる。 (2)分布を説明するための各種代表値の意味を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 練習用データ（課題として配布）の入力作業を行い、さらにデータの分布状況を確認する。 | | | 第12回 統計分析の実施と分析結果の整理(1) 【 到達目標 】 (1)研究計画に基づいて統計分析を行い、分析結果を適正に解釈し、また、整理することができる。 【授業時間外学習】 自らのデータファイルに関して研究テーマに沿った分析を様々試みる。 | | | |
| 第5回 平均、分散、偏差、標準偏差 【 到達目標 】 (1)平均、分散、偏差、標準偏差の意味を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 配布される練習用データファイルの記述統計を求め標本の特徴をまとめる。 | | | 第13回 統計分析の実施と分析結果の整理(2) 【 到達目標 】 (1)分析結果をわかりやすく整理し、資料にまとめることができる。 【授業時間外学習】 考察により明らかになった事柄をスライドにまとめる。 | | | |
| 第6回 t検定 【 到達目標 】 (1)t検定の意味、計算の手順、有意性検定手順を理解すると共に実際にデータ分析に用いることができる。 【授業時間外学習】 練習用データファイルを用いてt検定の実施手順や考察の仕方を練習する。 | | | 第14回 調査・分析結果の発表と討論 【 到達目標 】 (1)調査分析結果を発表し明らかになった事項を他者と討議できる。 (2)残された問題点や検討課題を明確にすることができる。 【授業時間外学習】 発表・討議によって指摘された事柄をふまえて改めてデータの分析を試みる。 | | | |
| 第7回 χ^2乗検定 【 到達目標 】 (1) χ^2 乗検定の意味、計算の手順、有意性検定の手順を理解すると共に実際にデータ分析に用いることができる。 【授業時間外学習】 練習用データファイルを用いて χ^2 乗検定の実施手順や考察の仕方を練習する。 | | | 第15回 心理調査に関わる倫理について 【 到達目標 】(1)アンケート調査実施に関わる倫理的問題を理解し、どのような手続きを経なければならないかを説明することができる。(2)スポーツ心理学における心理尺度を用いた研究の計画から発表までの流れと、収集したデータの適正な処理と結果発表の仕方について理解し、さらにそれを実践することができる。 【授業時間外学習】 調査用紙の作成過程、分析・結果・考察を振り返り、今後の調査に関する課題を整理する。 | | | |
| 第8回 相関分析 【 到達目標 】 (1)相関分析の意味、計算の手順、有意性検定の手順を理解すると共に実際にデータ分析に用いることができる。 【授業時間外学習】 練習用データファイルを用いて相関分析の実施手順や考察の仕方を練習する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 本演習の前半では、心理尺度による調査研究法の基礎的事項を学ぶため、統計法に関わる例題への取り組み以外は講義形式となる。後半は、グループ別の課題研究である。研究課題は、本学の学生を対象に検討可能な内容とし、オリジナルの調査項目を作成して調査、分析、発表を実地に体験する。本演習の学習事項は、全て心理学的研究実践を意義あるものにする上で必須の事項である。受講者は集中して取り組まなければならない。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。 参考書としては、村上宣寛・著「心理尺度の作り方」（北大路書房）、徳永幹雄・著「体育・スポーツの心理尺度」（不昧堂出版）などを用いる。 | | | | | | |
| 【関連科目】 人間心理の理解、データ分析と統計学、スポーツ心理学、精神発達、精神保健、スポーツコンディショニング演習C | | | | | | |
| 【成績評価方法】 統計法に関わる領域の作業課題を20%、研究グループとしての研究報告課題を40%、期末の本演習全般を総括するレポート課題を40%とし、以上の3つを総合して評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 笹倉清則 | |
|---|---------------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踏学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 チームスポーツでは、指導者はチームの目標達成のために、チーム構想をたて、それに基づきトレーニング計画を設定し、実際にトレーニングを行い大会に臨む。その指導者に必要な基本的な戦術の理解から始まり、ゲームの構想、そしてゲームの構造（局面構造）を理解し、それに応じたトレーニング方法、最後にゲームや技能評価そして体力評価なども理解する。これらの理解のベースとしてハンドボール競技を取り上げ、そこから各自の専門種目を考える。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 ガイダンスにおいてこの授業の内容や目的、進め方に関して理解する。 | | | 第9回 専門種目の体的分析 【 到達目標 】 各種スポーツにおける体的要因を理解し、それぞれのスポーツでどのような体力を養成すべきかを理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | |
| 第2回 専門種目の歴史・発生 【 到達目標 】 いろいろな種目の発生とその背景を調べ発表し、その中で自分の専門種目の発生やその位置づけや価値などを理解する。 | | | 第10回 専門種目の体的選手評価基準 【 到達目標 】 前回の体力の理解と併せて、具体的に体力や技術の評価としての体力テストやスキルテストを調べ、検討し、共通理解をする。 | | | |
| 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | |
| 第3回 専門種目の普及・発展 【 到達目標 】 各種スポーツの普及や発展状況を理解し、特にヨーロッパ型のスポーツ、アメリカ型のスポーツの特性や普及の仕方を理解する。 | | | 第11回 ゲームの評価と分析 【 到達目標 】 球技種目にとって大切なゲーム分析について、意味やその結果の現場へのフィードバックの仕方について理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | |
| 第4回 いろいろな観点での球技種目の分類 【 到達目標 】 いろいろな球技をそれぞれの観点で分類し、それらの共通点や相違点を理解する。それによって自分の種目に関して参考とすべき種目を見つけ、共通点を理解する。 | | | 第12回 専門種目のゲーム評価と分析 【 到達目標 】 前回の授業をもとに各種目で行われているゲーム分析の事例を挙げ、どのような意図で行われ、どのような問題があるかを理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | |
| 第5回 戦術の基本的な考え方 【 到達目標 】 球技に必要な「ゲーム構想」を理解し、そこから戦略、戦術、技術、体力の一般的な位置づけや考え方を理解する。 | | | 第13回 トレーニング計画について 【 到達目標 】 スポーツの戦略に含まれる「年間計画」について、その基本的な考え方を理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | |
| 第6回 専門種目の戦術の考え方 【 到達目標 】 前回の一般論をふまえてそれぞれの専門種目の中で戦術構造をつかって発表し、それぞれの種目の共通点や相違点を理解する。 | | | 第14回 専門種目のトレーニング計画と観点 【 到達目標 】 自分の現在取り組んでいる種目に関する年間計画を作成し、それぞれの時期のあるべきトレーニングに関して理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 これまでの各自のレポート、講義から自分の専門種目のレポートをまとめる。 | | | |
| 第7回 ゲームの局面のとりえ方 【 到達目標 】 球技の指導においてもう一つ必要な「ゲーム局面」について、一般的にとりえ方をハンドボールを題材に理解する。 | | | 第15回 球技全般の学習から専門種目の位置づけ等の理解 【 到達目標 】 球技全般の中で、それぞれの専門種目の位置づけや、発生の背景など、自分の種目に関する見方を、運動学的ないろいろな見方で捉えることをまとめとして理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 今回の講義全体をまとめた上、自分のレポートを含め小論文の作成をする。 | | | |
| 第8回 専門種目のゲームの局面のとりえ方 【 到達目標 】 それぞれの専門種目の「ゲームの局面」のとりえ方を発表し、種目による局面の違い等を理解する。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 次回までに、与えられた各自の課題を調べレポートを作成する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 この授業では、球技の指導者になるための全般的な知識を習得するために、基本的にはそれぞれの種目に関する毎回の課題を自分で文献から調べ、発表し理解することを目的としている。自分の専門種目も重要だが他の種目、特に自分の種目と似たものや逆に極端に異なったものも理解することにより、今後の自分の研究の方向を見いだすことができるように受講すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回のレポートの調査の内容と発表の仕方60%、他種目への理解度20%、本講義全体の理解度と取り組み方20%。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 佐藤麻衣子 | |
|--|---------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 器械運動を対象に、「指導教材づくり」の観点から指導方法について、分析・考察型の学習を行う。まず受講者が「指導する側」と「指導される側」とに別れ、器械運動の指導を体験し、「指導する側」の反省や「指導される側」の期待などを基に、中学校や高等学校の保健体育科指導を想定した「指導用ビデオ教材」を作成する。もちろん、この分析・考察過程を他のスポーツ種目指導に援用することを期待している。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業内容の確認及び器械運動の特性の理解 【 到達目標 】 授業内容及び15回分の授業の流れを理解する。また、器械運動の種目及び技を資料を基に、その特性を理解し、それを説明することが出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に基づき今後の授業の流れを確認する。 | | | 第9回 収録した映像の確認 【 到達目標 】 収録した映像を観察し、討議、検討する過程において修正箇所を見出すことが出来る。更には、どのような修正が必要であるかを検討することが出来る。 【授業時間外学習】 授業内容をノートに記録する。 | | | |
| 第2回 各グループで対象とする種目・技を検討する 【 到達目標 】 グループ編成をおこない、対象とする教材、種目及び技を選択する課程において、その特性を理解する。更にその種目及び技の指導法の必要性を説明することが出来る。 【授業時間外学習】 授業内容をノートに記録する。 | | | 第10回 修正箇所の収録 【 到達目標 】 前週の課題を明確なものとし、修正することが出来る。更にそれをビデオカメラに収録し再度修正箇所を見出すことが出来る。 【授業時間外学習】 授業内容をノートに記録する。 | | | |
| 第3回 技の習得の為の手順を討議、検討する 【 到達目標 】 決定した技の習得に必要な手順を討議、検討する過程で多くのアドバイスを提示することが出来る。更に、分析する中で特に重視することを検討し明確にすることが出来る。 【授業時間外学習】 授業内容をノートに記録する。 | | | 第11回 9～10回の見直し 【 到達目標 】 9～10回を繰り返すことにより、より質の高い内容の教材が完成することを理解出来る。更にその内容をPCに保存し再度修正箇所を確認する。 【授業時間外学習】 5回～10回までの内容をノートに整理する。 | | | |
| 第4回 10段階の指導法を検討する 【 到達目標 】 前回提示した多くのアドバイスの中から、より必要とされるものを抽出し、初歩から完成までの10段階の指導法を検討する。更にそれらが適切であるかを実施し、確認することが出来る。 【授業時間外学習】 授業内容をノートに記録する。 | | | 第12回 グループごとの確認 【 到達目標 】 11回の課題が修正できた場合、他のグループと互いに教材を確認し、討議を行う過程で、更に修正箇所を見出すことが出来る。 【授業時間外学習】 授業内容の復習をする。 | | | |
| 第5回 課題をビデオカメラに収録する 【 到達目標 】 前回提示した多くのアドバイスの中から、より必要とされるものを抽出し、初歩から完成までの10段階の指導法を検討する。更にそれらが適切であるかを実施し、確認することが出来る。 【授業時間外学習】 画像をノートに図式化する。 | | | 第13回 各自による教材の説明 【 到達目標 】 グループごとに互いの教材を確認し、器械運動の特性を再確認することが出来る。 【授業時間外学習】 授業内容をノートに記録する。 | | | |
| 第6回 課題をビデオカメラに収録する（1段階から3段階） 【 到達目標 】 第1段階から第3段階の課題を作成する過程において、それをビデオカメラに収録し適切であるかを討議、検討する。更に修正が必要であれば再度内容を検討することが出来る。 【授業時間外学習】 画像をノートに図式化する。 | | | 第14回 完成した教材の特徴の評価 【 到達目標 】 制作した教材の中で特に重要な箇所を理解出来る。更にその理由について説明出来る。 【授業時間外学習】 これまでのノートの内容を整理する。 | | | |
| 第7回 課題をビデオカメラに収録する（4段階から7段階） 【 到達目標 】 第4段階から第7段階の課題を作成する過程において、それをビデオカメラに収録し適切であるかを討議、検討する。更に修正が必要であれば再度内容を検討することが出来る。 【授業時間外学習】 画像をノートに図式化する。 | | | 第15回 完成した教材の説明 【 到達目標 】 各自が制作した教材について指導段階の手順及び必要事項を理解し、またそれを説明出来る。 【授業時間外学習】 提出用のノートを完成させる。 | | | |
| 第8回 収録した映像をPCへ保存（8段階から10段階） 【 到達目標 】 第8段階から第10段階の課題を作成する課程において、それらをビデオカメラに収録し修正箇所があれば内容を検討する。 【授業時間外学習】 画像をノートに図式化する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実技の際にはそれにふさわしい服装で受講すること。（肩に髪の毛がつく学生は結ぶこと）シューズは必要ありません。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 必要に応じて資料を配付する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 作成したビデオ教材の内容（60%）、ノート（40%）で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 柴田雅貴 | |
|---|---------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツ、とりわけバスケットボールのコーチに必要な能力についてのプレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築することがねらいとなる。また、個々のプレゼンテーション能力を高め、ディスカッションの中で論理的な思考力を高める。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方について理解する。 【授業時間外学習】 良いプレゼンテーションについて調べる。 | | | 第9回 プレゼンテーションとディスカッション⑥ 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | |
| 第2回 「成功のピラミッド」についての理解 【 到達目標 】 (1)「成功のピラミッド」について理解する。 【授業時間外学習】 「成功のピラミッド」について理解したことを整理する。 | | | 第10回 プレゼンテーションとディスカッション⑦ 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | |
| 第3回 プレゼンテーションとディスカッション① 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | 第11回 プレゼンテーションとディスカッション⑧ 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | |
| 第4回 プレゼンテーションとディスカッション② 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | 第12回 プレゼンテーションとディスカッション⑨ 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | |
| 第5回 プレゼンテーションとディスカッション③ 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | 第13回 プレゼンテーションとディスカッション⑩ 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | |
| 第6回 プレゼンテーションとディスカッション④ 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | 第14回 プレゼンテーションとディスカッションの検証 【 到達目標 】 (1)実際に行ったプレゼンテーションについて分析・検証する。 (2)受講生相互のディスカッションについて分析・検証する。 【授業時間外学習】 分析・検証したプレゼンテーション・ディスカッションについて整理する。 | | | |
| 第7回 プレゼンテーションとディスカッション⑤ 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションとディスカッションを通して、コーチングフィロソフィーを構築する。 【授業時間外学習】 行ったプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。 | | | 第15回 コーチングフィロソフィーの構築 【 到達目標 】 (1)構築したコーチングフィロソフィー全体をレポートとしてまとめる。 【授業時間外学習】 構築したコーチングフィロソフィーを実践する。 | | | |
| 第8回 プレゼンテーションの検証 【 到達目標 】 (1)実際に行ったプレゼンテーションについて分析し、2度目のプレゼンテーションに活かすよう検証する。 【授業時間外学習】 2度目のプレゼンテーションについてシミュレーションしておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 演習形式の授業であり、受講者との双方向でのコミュニケーションを重要視すると同時に、多くのプレゼンテーションとディスカッションをするので、授業内で積極的に発言し、論理的な思考ができるよう努めることが求められる。また、授業中は集中して授業内容を理解するように努める。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に教科書は指定しない。 「Practical Modern Basketball」 John R. Wooden (Viacom Company) | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 平常授業での到達目標に対する到達度を80%、レポート課題を20%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 都 筑 真 | |
|---|---------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 本演習では、スポーツ史学やスポーツ社会学が扱うテーマに関連する文献講読と発表を行い、これらを通してスポーツ史学やスポーツ社会学についての理解を深めるとともに、文献から得られた情報を整理して文章化する技術を身につける。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツ史とスポーツ社会学の研究方法 【 到達目標 】 (1) スポーツ史とスポーツ社会学の研究方法について理解する。 | | | 第9回 越境するスポーツ 【 到達目標 】 (1) 西洋スポーツの日本での普及と日本発祥のスポーツの国際化について理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 スポーツ史とスポーツ社会学の研究方法を扱った文献を精読する。 | | | 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | |
| 第2回 近代スポーツの成立と展開 【 到達目標 】 (1) 近代スポーツの成立と展開について理解する。 | | | 第10回 日本の高校野球 【 到達目標 】 (1) 日本の高校野球の歴史と功罪について理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | |
| 第3回 近代スポーツの特質 【 到達目標 】 (1) 近代スポーツの特質について理解する。 | | | 第11回 日本の企業スポーツ 【 到達目標 】 (1) 日本の企業スポーツの歴史と功罪について理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | |
| 第4回 スポーツと帝国主義 【 到達目標 】 (1) 近代スポーツの伝播を文化帝国主義や文化ヘゲモニーの視点から理解する。 | | | 第12回 Jリーグ 【 到達目標 】 (1) Jリーグの理想と現実について理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | |
| 第5回 近代オリンピックの功罪 【 到達目標 】 (1) 近代オリンピックの功罪について理解する。 | | | 第13回 スポーツとメディア 【 到達目標 】 (1) スポーツとメディアの歴史的関係と関係がもたらす功罪について理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | |
| 第6回 スポーツとアマチュアリズム 【 到達目標 】 (1) スポーツとアマチュアリズムの歴史的関係について理解する。 | | | 第14回 日本のスポーツ政策 【 到達目標 】 (1) 諸外国のスポーツ政策と比較しながら、日本のスポーツ政策について理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | |
| 第7回 スポーツとナショナリズム 【 到達目標 】 (1) スポーツとナショナリズムの歴史的関係について理解する。 | | | 第15回 現代スポーツの課題 【 到達目標 】 (1) これまでに授業で扱った内容を踏まえて、現代スポーツが抱える課題について理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | |
| 第8回 スポーツと世界平和 【 到達目標 】 (1) 国際親善や世界平和に対するスポーツの貢献について理解する。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内容に関連したレポートを作成する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 演習での文献講読や発表を通して卒業研究に繋がるテーマを見つけてほしい。 自分の力で何かを調べ、学ぶことの中に喜びや楽しさを見出してほしい。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ原論、スポーツ史 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 演習時に毎回発表するレポート（50%）と学期末レポート（50%）で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 湯澤芳貴 | |
|---|---------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 バレーボールを題材として、国内外のトップレベルの選手やチームがどのような戦術を採用しているのか、またどのような戦術・戦略でゲームに勝利しようとしているのかについてVTR等を用いてスカウティングの技法を身につけ、実際に分析することで明らかにしていく。また新しい戦術やそのトレーニング方法の開発をおこない、それらを実践することにより戦術の成り立ちについて理解を深める。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 バレーボールにおける技術・戦術・戦略の考え方 【 到達目標 】 (1)技術、戦術、戦略がどのように関連しているか理解する。 【授業時間外学習】 技術・戦術が適切に選択できるようそれぞれを関連づけられるようにする。 | | | 第9回 スカウティング結果の検討、および戦略の立て方 【 到達目標 】 (1)スカウティング結果からチームの特徴を知ることができる。 (2)スカウティング結果からの効果的な戦略の立て方を理解する。 【授業時間外学習】 事前にバレーボールの戦略について理解を深めておく。 | | | |
| 第2回 スカウティングの方法について 【 到達目標 】 (1)バレーボールにおけるスカウティング技法について理解する。 (2)それぞれのスカウティングで明らかにすることを理解する。 【授業時間外学習】 スカウティングで用いる技法について理解を深める。 | | | 第10回 新たな戦術、およびそのトレーニング法の開発 【 到達目標 】 (1)バレーボール技術を用いての新たな戦術を開発することができる。 (2)その戦術の効果的なトレーニング方法を検討することができる。 【授業時間外学習】 事前にバレーボールの戦術の特徴について理解を深めておく。 | | | |
| 第3回 個人技術評価 【 到達目標 】 (1)スパイク・サーブ・サーブレシーブ・ブロックの評価方法を理解する。 (2)JVISの使用方法和評価基準を理解する。 【授業時間外学習】 個人技術評価の計算方法について適切におこなえるようにする。 | | | 第11回 戦術トレーニング実践演習Ⅰ 【 到達目標 】 (1)開発した新しい戦術についてトレーニング指導を実践できる。 【授業時間外学習】 実践したトレーニング指導を改善、再検討する。 | | | |
| 第4回 スカウティング実践演習Ⅰ(個人技術評価) 【 到達目標 】 (1)VTRを見ながら個人技術評価をおこなうことができる。 【授業時間外学習】 リアルタイムでの評価ができるように処理能力を高める。 | | | 第12回 戦術トレーニング実践演習Ⅱ 【 到達目標 】 (1)開発した新しい戦術についてトレーニング指導を実践できる。 【授業時間外学習】 実践したトレーニング指導を改善、再検討する。 | | | |
| 第5回 チーム戦術分析Ⅰ(フォーメーション分析) 【 到達目標 】 (1)フォーメーション分析の方法について理解する。 【授業時間外学習】 事前にバレーボールで用いられるフォーメーションを理解しておく。 | | | 第13回 戦術トレーニング実践演習Ⅲ 【 到達目標 】 (1)開発した新しい戦術についてトレーニング指導を実践できる。 【授業時間外学習】 実践したトレーニング指導を改善、再検討する。 | | | |
| 第6回 チーム戦術分析Ⅱ(攻撃パターン分析) 【 到達目標 】 (1)様々な局面での攻撃パターン分析の方法を理解する。 【授業時間外学習】 事前に各ポジションの攻撃の種類について理解しておく。 | | | 第14回 戦術トレーニング実践演習Ⅳ 【 到達目標 】 (1)開発した新しい戦術についてトレーニング指導を実践できる。 【授業時間外学習】 実践したトレーニング指導を改善、再検討する。 | | | |
| 第7回 スカウティング実践演習Ⅱ(フォーメーション分析) 【 到達目標 】 (1)VTRを見ながらフォーメーション分析をおこなうことができる。 【授業時間外学習】 分析したフォーメーションの特徴を述べられるようにする。 | | | 第15回 戦術トレーニング実践演習の評価と反省 【 到達目標 】 (1)戦術トレーニング実践に関してより良い方法を検討できる。 (2)スポーツを科学的にとらえるということを理解できる。 【授業時間外学習】 事前に戦術トレーニングの評価方法について理解を深めておく。 | | | |
| 第8回 スカウティング実践演習Ⅲ(攻撃パターン分析) 【 到達目標 】 (1)VTRを見ながら攻撃パターン分析をおこなうことができる。 【授業時間外学習】 分析した攻撃パターンの特徴を述べられるようにする。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 バレーボールを通して、スポーツを実際に「おこなう」ということから、スポーツを客観的に「理解する」ということに主眼を置き、授業を進めていく。そのためバレーボールに関する技術・戦術に関する基礎知識が必要となってくる。スポーツ方法実習Cやスポーツ方法応用演習のバレーボールで身に付けた基礎知識をしっかりと復習しておくようにすること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習C(バレーボール)、スポーツ方法応用演習(バレーボール) | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業内での課題達成状況を50%、戦術トレーニング実践を50%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 湯 田 淳 | |
|--|---------------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツバイオメカニクスの研究手法を用いた競技力向上に関連する文献をまとめ、競技現場における客観的データの活用法について議論する。また、動作分析におけるデータ収集から分析までの一連の流れを体験し、自身の専門種目における動作改善法について議論する。本演習は2年次に履修したスポーツバイオメカニクスの応用として位置づけられているため、スポーツバイオメカニクスにおける基本的知識の習得が不可欠である。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 科学論文の捉え方（文献検索法） 【 到達目標 】 (1)様々な学術雑誌に掲載されている科学論文の検索方法を把握する。 【授業時間外学習】 いくつかの論文検索方法を確認し、試してみる。 | | | 第9回 動作分析の実際（動作分析におけるデータ算出法） 【 到達目標 】 (1)動作分析におけるデータ処理方法を把握する。 【授業時間外学習】 動画加工ソフトウェアの種類やその機能について把握する。 | | | |
| 第2回 科学論文の捉え方（科学論文の構成） 【 到達目標 】 (1)科学論文とはどのようなものであるかを理解する。 【授業時間外学習】 いくつかの科学論文を入手し、その内容を確認する。 | | | 第10回 動作改善法の検討1 【 到達目標 】 (1)自身の専門種目の動作を客観的に捉えることができる。 【授業時間外学習】 自身の専門種目の動作を撮影する。 | | | |
| 第3回 文献研究1 【 到達目標 】 (1)自身の求める内容の科学論文を見つけることができる。 【授業時間外学習】 自身の専門のスポーツ種目において、どのようなことが課題であるかを検討する。 | | | 第11回 動作改善法の検討2 【 到達目標 】 (1)自身の専門種目の動作における課題を分析することができる。 【授業時間外学習】 自身の専門種目の競技力向上のための課題を検討する。 | | | |
| 第4回 文献研究2 【 到達目標 】 (1)専門用語などを調べながら、自身の力で科学論文を読み進めることができる。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスの専門用語について理解を深める。 | | | 第12回 動作改善法の検討3 【 到達目標 】 (1)様々なスポーツ動作の特徴を客観的に捉えることができる。 【授業時間外学習】自身の専門種目について、競技力向上のためのスポーツバイオメカニクスの活用事例を把握する。 | | | |
| 第5回 文献研究3 【 到達目標 】 (1)要点を簡潔にまとめることができる。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスの分析方法について理解を深める。 | | | 第13回 動作改善法の検討4 【 到達目標 】 (1)様々なスポーツ動作の改善法を説明し、議論することができる。 【授業時間外学習】様々なスポーツ種目について、競技力向上のためのスポーツバイオメカニクスの活用事例を把握する。 | | | |
| 第6回 文献研究4 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーションの技能を高める。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスから得られた知見の活用法について検討する。 | | | 第14回 スポーツバイオメカニクス研究法1（分析方法の検討） 【 到達目標 】 (1)スポーツバイオメカニクスの研究法について理解する。 【授業時間外学習】 科学論文で用いられるスポーツバイオメカニクスの研究手法を把握する。 | | | |
| 第7回 動作分析の実際（動作分析におけるデータ収集法） 【 到達目標 】 (1)動作分析における作業の流れを把握する。 (2)ビデオカメラを用いた撮影法を把握する。 【授業時間外学習】 ビデオカメラの操作方法について、留意点を含めて把握する。 | | | 第15回 スポーツバイオメカニクス研究法2（研究計画の立案） 【 到達目標 】 (1)スポーツ現場における課題と研究とを結びつけ、スポーツ現場で自身が抱える様々な問題を科学的に捉える視点を養う。 【授業時間外学習】 自身の専門種目において算出可能なスポーツバイオメカニクスのデータについて検討する。 | | | |
| 第8回 動作分析の実際（映像加工の実際） 【 到達目標 】 (1)コンピューター上での動画の加工法を把握する。 【授業時間外学習】 動画の仕組みを把握する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 前半では、スポーツバイオメカニクスの研究手法を用いた競技力向上に関連する文献（各自のテーマに沿ったもの）をA3用紙2枚程度にまとめ、発表する。ここでは、専門的な内容で記述された科学論文を自身の力で読み解き、他の受講生に分りやすく説明することが求められる。後半では、スポーツバイオメカニクスにおける動作分析の流れを実験を通して学び、これを基に自身の専門種目の動作改善法についてまとめ、発表する。いずれも受講生には各種作業に積極的に取り組む姿勢が求められ、より良い理解のためには自分で調べ、学ぶ努力が重要となる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツバイオメカニクス | | | | | | |
| 【成績評価方法】 文献および動作改善法の発表課題を60%、期末の本演習全般を総括するレポート課題を40%の割合として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ科学論演習 | | | 担当者 | 吉田孝久 | |
|---|---------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Sciences | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・必修 | | | |
| 【目的とねらい】 トレーニングを合目的かつ効果的にするには、「現状把握」→「目的の設定」→「方法の選択」というプロセスで計画し、「実施」→「結果の検証」を行って行くことが必要である。こうしたトレーニングサイクルを行う中で、コントロールテストは「現状把握」と「結果の検証」を確認するのに有効なツールとなっている。この授業では、コントロールテストで用いられるさまざまな体力要素を測定し、それぞれを分析・評価する方法を習得することを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の目的と進め方を理解する。プレゼンテーションの発表方法を確認する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第9回 持久力の分析 【 到達目標 】 映像とハートレートモニターから区間ごとの速度変化、HRMの変化をまとめる。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第2回 各種測定方法の説明 【 到達目標 】 コントロールテストで用いられているもののうち、授業で扱うスプリント、ジャンプ力、持久力、柔軟性、巧緻性を理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第10回 柔軟性・巧緻性の測定 【 到達目標 】 映像と測定機器を用いて、柔軟性と巧緻性の測定を行い、分析方法を習得する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第3回 スプリント走の測定 【 到達目標 】 スプリント走の実験を行い、タイム測定と映像を撮影する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第11回 プレゼンテーション用の資料作成1 【 到達目標 】 パワーポイントを使ったプレゼンテーション用の資料を作成し、その方法を習得する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第4回 スプリント走の分析1 【 到達目標 】 パソコンと映像を用いて、疾走タイムと各区間の平均疾走速度を算出する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第12回 プレゼンテーション用の資料作成2 【 到達目標 】 パワーポイントを使ったプレゼンテーション用の資料を作成し、その方法を習得する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第5回 スプリント走の分析2 【 到達目標 】 パソコンと映像を用いて、区間ごとの平均ピッチと平均ストライド等を算出する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第13回 プレゼンテーション1 【 到達目標 】 1人15分の発表、質疑応答5分でプレゼンテーションを行い、修正と実行のポイントを確認する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第6回 ジャンプ力の測定 【 到達目標 】 マットスイッチ上での各種のジャンプ運動の実験を行う。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第14回 プレゼンテーション2 【 到達目標 】 1人15分の発表、質疑応答5分でプレゼンテーションを行い、修正と実行のポイントを確認する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第7回 ジャンプ力の分析 【 到達目標 】 マットスイッチ上の接地時間と滞空時間から各種ジャンプでの推定跳躍高を算出する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第15回 プレゼンテーション3 【 到達目標 】 1人15分の発表、質疑応答5分でプレゼンテーションを行い、修正と実行のポイントを確認する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第8回 持久力の測定 【 到達目標 】 映像とハートレートモニターを用いた持久走のタイム測定を行う。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業では、各自の体力測定を行い、そこでの体力要素を分析しながら測定評価の方法を理解していく。したがって、受講者は被験者としても測定に参加できるように継続してトレーニングを行っていることが望ましい。また、授業ではパーソナル・コンピューターを使って分析を行うため情報機器の習熟度を高めていく必要がある。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） 『スポーツトレーニング理論』村木征人著 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング論、トレーニング計画論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各測定実施での提出課題50%、プレゼンテーション50%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | トレーニング計画論 | | | 担当者 | 吉田孝久 | |
|---|-----------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Theory of Training Planning | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 運動技能の獲得から、より高い達成へと向上させる過程は長期にわたるトレーニング活動が必要である。そのためには確かな理論に裏打ちされたトレーニング計画が有用である。本講義では、ジュニアからシニアに至る長期トレーニング計画、年間トレーニング計画および短期のトレーニング計画立案に必要な内容について検討することによって、トレーニング計画についての理解を深めることを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 トレーニング計画の意義 【 到達目標 】 実生活の体験から計画性が重要であることを理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第9回 トレーニング計画立案の手順3 【 到達目標 】 年間トレーニング計画立案における期分けについて、いくつかのパターンをもとに理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第2回 トレーニング計画の種類 【 到達目標 】 最新のスポーツ科学のトレンドとして、最大達成を効率的に求めるためには長期のライフサイクルの中で考えることが重要であることを理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第10回 筋力の養生法 【 到達目標 】 筋力を向上させるトレーニング方法について理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第3回 トレーニング評価1 【 到達目標 】 サッカープロチームの一貫指導の資料をもとに、ジュニアからシニア、プロチームへの連携が実践されていること、長期計画のもとにトレーニングが行われていることを理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第11回 スピードの養成 【 到達目標 】 スピードを向上させるトレーニング方法について理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第4回 トレーニング評価2 【 到達目標 】 プロ選手の厳しいトレーニングの実態（計画的、安定的に実践できるかどうか）について、映像を通して理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第12回 持久力の養生法 【 到達目標 】 持久力を向上させるトレーニング方法について理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第5回 スポーツ活動経験から：ジュニアのトレーニング計画 【 到達目標 】 自分自身のトレーニング実戦経験から、トレーニングが計画的に行われていたかどうかを検証し、また、改善の余地がどこにあるのかについて検討する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第13回 調整力の養生法 【 到達目標 】 調整力を向上させるトレーニング方法について理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第6回 スポーツ活動経験から：シニアのトレーニング計画 【 到達目標 】 現在のトレーニング活動を材料にして、トレーニング実践における問題点を抽出し、その改善方法について検討する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第14回 柔軟性の養生法 【 到達目標 】 柔軟性を向上させるトレーニング方法について理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第7回 トレーニング計画立案の手順1 【 到達目標 】 現在値の把握のための評価項目及び方法について理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第15回 トレーニング計画立案における問題点2 【 到達目標 】 トレーニング実践の中で、計画立案の時点では把握できない内容を抽出し、それらへの対処方法について検討する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第8回 トレーニング計画立案の手順2 【 到達目標 】 目標値の設定の仕方について理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分の情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回配布するプリントに提示された課題に回答する。次の授業で課題への回答例を示すことによって、授業内容の理解の度合いを自分自身でチェックする。 ・ 過去のスポーツ経験をもとに、自分自身のトレーニング実践について分析・評価することによって、トレーニング計画の有用性についての理解を深める。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）、（競技力向上のためのトレーニング戦略）、（ロシア体育・スポーツトレーニングの理論と方法論） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 理解度を評価するために試験を実施する。その試験の結果100%で評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | |

| 科目名 | 比較スポーツ論 | | | 担当者 | 北川 幸夫・小海 隆樹 湯澤 芳貴 | |
|---|------------------------------|---------|--|-------|----------------------|---------|
| 英文名 | Comparative Theory of Sports | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踏学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 競技スポーツをそのスポーツの特性に応じ、測定競技（陸上競技、競泳など）、判定競技（球技、格技など）、採点競技（体操競技、新体操など）に分類し、それぞれのスポーツ特性や、運動技能の構造や戦術などを学び、幅広くスポーツを理解する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 測定競技系種目とその歴史の変遷 【 到達目標 】 測定競技系に分類されるスポーツ種目を確認し、それぞれの種目の歴史の変遷について理解できる。 【授業時間外学習】 測定競技系の歴史の変遷に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第9回 判定競技系種目のトレーニングの実際 【 到達目標 】 実際のトレーニング内容・方法を知ること、判定競技系種目の望ましいトレーニングのあり方について理解する。 【授業時間外学習】 判定競技系のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第2回 測定競技系種目の特性と競技力の構造 【 到達目標 】 測定競技系種目の特性を理解し、その競技力を技術・戦術・体力それぞれの因子から特徴づけることができる。 【授業時間外学習】 測定競技系の技術・戦術・体力に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第10回 判定競技系スポーツの今後の発展 【 到達目標 】 勝敗の決定が「判定」となる種目が、将来的にどのような方向に発展していくべきかについて理解する。 【授業時間外学習】 判定競技系の将来性に関して、メディア等を活用して理解を深める。 | | | |
| 第3回 測定競技系種目の競技力を規定する要因 【 到達目標 】 競技規則の改正によるさまざまな変化（施設・設備・器具等）が競技力の向上にも影響を及ぼすことを理解する。 【授業時間外学習】 測定競技系の施設・設備・器具等に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第11回 採点競技系種目とその歴史の変遷 【 到達目標 】 採点競技系に分類されるスポーツ種目を確認し、それぞれの種目の歴史の変遷について理解できる。 【授業時間外学習】 採点競技系の歴史の変遷に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第4回 測定競技系種目のトレーニングの実際 【 到達目標 】 実際のトレーニング内容・方法を知ること、測定競技系種目の望ましいトレーニングのあり方について理解する。 【授業時間外学習】 測定競技系のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第12回 採点競技系種目の特性と競技力の構造 【 到達目標 】 採点競技系種目の特性を理解し、その競技力を技術・戦術・体力それぞれの因子から特徴づけることができる。 【授業時間外学習】 採点競技系の技術・戦術・体力に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第5回 測定競技系スポーツの今後の発展 【 到達目標 】 勝敗の決定が「測定」となる種目が、将来的にどのような方向に発展していくべきかについて理解する。 【授業時間外学習】 測定競技系の将来性に関して、メディア等を活用して理解を深める。 | | | 第13回 採点競技系種目の競技力を規定する要因 【 到達目標 】 競技規則の改正によるさまざまな変化（施設・設備・器具等）が競技力の向上にも影響を及ぼすことを理解する。 【授業時間外学習】 採点競技系の施設・設備・器具等に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第6回 判定競技系種目とその歴史の変遷 【 到達目標 】 判定競技系に分類されるスポーツ種目を確認し、それぞれの種目の歴史の変遷について理解できる。 【授業時間外学習】 判定競技系の歴史の変遷に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第14回 採点競技系種目のトレーニングの実際 【 到達目標 】 実際のトレーニング内容・方法を知ること、採点競技系種目の望ましいトレーニングのあり方について理解する。 【授業時間外学習】 採点競技系のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第7回 判定競技系種目の特性と競技力の構造 【 到達目標 】 判定競技系種目の特性を理解し、その競技力を技術・戦術・体力それぞれの因子から特徴づけることができる。 【授業時間外学習】 判定競技系の技術・戦術・体力に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第15回 採点競技系スポーツの今後の発展 【 到達目標 】 勝敗の決定が「採点」となる種目が、将来的にどのような方向に発展していくべきかについて理解する。 【授業時間外学習】 採点競技系の将来性に関して、メディア等を活用して理解を深める。 | | | |
| 第8回 判定競技系種目の競技力を規定する要因 【 到達目標 】 競技規則の改正によるさまざまな変化（施設・設備・器具等）が競技力の向上にも影響を及ぼすことを理解する。 【授業時間外学習】 判定競技系の施設・設備・器具等に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 3人の教員によるオムニバス形式の授業である。各5回の授業でまとめのレポートを課題とする。 測定競技を北川、判定競技を湯澤、採点競技を小海が担当する。授業の順番は状況により入れ替わる場合がある。 講義は資料やパワーポイントによって進める。内容によっては板書を行い、説明を聞くだけに終わらず、仲間との話し合いで自己のスポーツ経験を再認識させ、非経験スポーツへの興味関心を促す。授業中スポーツについて多くの質問をするので日頃からニュースなどに興味を持っておくこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 資料を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ技術論、スポーツ戦術論、専門体力トレーニング論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート100%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 運動技能評価法 | | | 担当者 | 小 海 隆 樹 | |
|---|-------------------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Theory of Evaluation in Motor Skill | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 運動技能は「ある動きができる能力」と解され、スポーツ競技に置き換えると「競技力」となる。競技力を構成する因子は多岐に渡り、その評価にはさまざまな方法がとられている。本講義では、運動技能（競技力）の構造をまず明らかにし、運動技能を発生運動学の知見を用いて評価することがトレーニング過程全体で重要な位置を占めるものであることを理解していく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 運動技能の構造 【 到達目標 】 (1)運動技能の構造を理解する。 (2)運動技能とその評価の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第9回 形態化身体知（コツとカン）とその評価 【 到達目標 】 (1)形態化身体知の概要について理解する。 (2)形態化身体知の具体的例証について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第2回 競技力検査の方法 【 到達目標 】 (1)一般的な競技力検査の方法を理解する。 (2)競技力検査によって得られる結果の有効性と限界を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第10回 動感促発身体知の構造 【 到達目標 】 (1)動感促発身体知の構造について理解する。 (2)動感促発身体知の具体的例証について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第3回 数値化するテスト法1 【 到達目標 】 (1)体力テストの内容と方法を理解する。 (2)体力テストの有効性と課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第11回 指導者の観察能力と動きの評価 【 到達目標 】 (1)指導者の観察能力の必要性について理解する。 (2)動感身体知の観察方法と評価について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第4回 数値化するテスト法2 【 到達目標 】 (1)技能を数値化するテストの内容と方法を理解する。 (2)技能を数値化するテストの有効性と課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第12回 指導者の交信能力と動きの評価 【 到達目標 】 (1)指導者の交信能力の必要性について理解する。 (2)動感身体知の交信方法と評価について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第5回 発生運動学的な評価とは 【 到達目標 】 (1)発生運動学の概要を理解する。 (2)動感身体知とその評価について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第13回 創発分析と身体知テスト 【 到達目標 】 (1)創発分析の方法と必要性について理解する。 (2)創発分析能力と身体知テストの関係を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第6回 動きの形成位相と評価 【 到達目標 】 (1)動感身体知の形成位相について確認・理解する。 (2)それぞれの形成位相における技能評価について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第14回 身体知テストと運動技能評価 【 到達目標 】 (1)身体知テストの方法を理解する。 (2)身体知テストと運動技能評価の関係を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | |
| 第7回 動感創発身体知の構造 【 到達目標 】 (1)動感創発身体知の構造について理解する。 (2)動感創発身体知の具体的例証について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | 第15回 指導者と運動技能評価力 【 到達目標 】 (1)運動技能を評価できる指導者の必要性を理解する。 (2)トレーニング現場における運動技能評価の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業から得た知見を実際のトレーニング場面に活かせるよう準備する。 | | | |
| 第8回 始原身体知とその評価 【 到達目標 】 (1)始原身体知の概要について理解する。 (2)始原身体知の具体的例証について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、講義内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。 <参考文献> 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店） 「わざの伝承」金子明友（明和出版） 「身体知の形成 上・下」金子明友（明和出版） 等 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ運動学、スポーツ技術論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の小レポートの達成度 70% ・ 最終レポートの達成度 30% | | | | | | |

| 科目名 | 専門体力トレーニング論 | | | 担当者 | 北川幸夫 | |
|--|---|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Theory of Special Physical Conditioning | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 運動技能・競技力を構成する体力の中で、最も達成力に反映する体力因子を見出し、その因子を強化する効果的な方法について、各スポーツの特性を考慮し、スポーツ種目に要求される各項目測定値から実際のパフォーマンスとの関連について検討し、その要因を探る。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 体力およびトレーニングの原則 【到達目標】 体力の定義やトレーニングの原則について理解する。 【授業時間外学習】 体力やトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第9回 採点競技系の専門体力トレーニング③ 【到達目標】 シンクロナイズドスイミングの専門体力トレーニング法および新体操の専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 シンクロナイズドスイミングのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第2回 測定競技系の専門体力トレーニング① 【到達目標】 陸上競技短距離種目における専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 陸上競技短距離種目のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第10回 採点競技系の専門体力トレーニング④ 【到達目標】 新体操の専門体力トレーニング法について理解する。 【授業時間外学習】 新体操のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第3回 測定競技系の専門体力トレーニング② 【到達目標】 陸上競技短距離種目における専門体力トレーニング法および陸上競技長距離種目における専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 陸上競技短距離種目・長距離種目のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第11回 判定競技系の専門体力トレーニング① 【到達目標】 バレーボールにおける専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 バレーボールのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第4回 測定競技系の専門体力トレーニング③ 【到達目標】 陸上競技長距離種目における専門体力トレーニング法について理解する。 【授業時間外学習】 陸上競技長距離種目のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第12回 判定競技系の専門体力トレーニング② 【到達目標】 バレーボールにおける専門体力トレーニング法およびバスケットボールにおける専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 バレーボール・バスケットボールのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第5回 測定競技系の専門体力トレーニング④ 【到達目標】 競泳競技における専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 競泳競技のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第13回 判定競技系の専門体力トレーニング③ 【到達目標】 バスケットボールにおける専門体力トレーニング法および柔道の専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 バスケットボールのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第6回 測定競技系の専門体力トレーニング⑤ 【到達目標】 競泳競技における専門体力トレーニング法について理解する。 【授業時間外学習】 競泳競技のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第14回 判定競技系の専門体力トレーニング④ 【到達目標】 柔道の専門体力トレーニング法について理解する。 【授業時間外学習】 柔道のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第7回 採点競技系の専門体力トレーニング① 【到達目標】 体操競技における専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 体操競技のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第15回 各競技系における専門体力トレーニングの特徴 【到達目標】 各競技系における専門体力トレーニング法について説明できる。 【授業時間外学習】 各競技系における専門体力トレーニング法について復習し、理解を深める。 | | | |
| 第8回 採点競技系の専門体力トレーニング② 【到達目標】 体操競技における専門体力トレーニング法について理解する。 シンクロナイズドスイミングの専門体力について理解する。 【授業時間外学習】 体操競技・シンクロナイズドスイミングのトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 主として講義が中心であるが、映像の視聴等によって研究・討議を行う。予習・復習を継続し、日常的に自分の専門種目以外の種目における体力トレーニングについて関心を持つこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 体力トレーニング演習、スポーツ方法特別実習、スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツコーチング演習Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として筆記テスト(試験は試験期間中に別途実施)の結果を100%とする。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ運動分析法 | | | 担当者 | 笹倉清則 | |
|--|-------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Sport Movement Analysis | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 指導対象となるスポーツ運動（その運動形態や運動達成力）を知るためには各種の分析方法が用いられるが、分析する対象とねらいに応じて最適な分析方法を選択することが重要である。スポーツ運動分析の分析方法には量的な方法と質的な方法があり、量的な方法が定量分析、質的な方法が構造化分析（定性分析）である。この授業では、定量分析は主としてバイオメカニクスの分析法について、構造化分析は主としてモルフォロギック的分析について講義、演習を行う。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 運動に関わるものにとって、対象となる運動を分析することの重要性と、分析から実践の場へフィードバックすることの必要性を理解する。 【授業時間外学習】 これまでのスポーツ運動学の授業などを復習し、運動修正を理解する。 | | | 第9回 班毎の運動分析課題と実験計画 【 到達目標 】 グループで話し合いを行い、自分達が分析したい課題を見だし、実験計画を立案する。 【授業時間外学習】 いろいろな観点での分析の仕方理解し、一つの指導までの課程を理解する。 | | | |
| 第2回 運動観察と運動分析 【 到達目標 】 運動分析法の代表的な方法には、バイオメカニクスの分析法とモルフォロギック的な分析法があり、それぞれの違いと観点や問題点を理解する。 【授業時間外学習】 自分の専門種目における、バイオメカニクスの分析と運動学的な分析の事例を調べる。 | | | 第10回 班毎の実験撮影 【 到達目標 】 実際に実験を行い、連続写真を撮影する。 【授業時間外学習】 自分たちの分析に関して、撮影前に仮説を立て実験時の観察視点をつくる。 | | | |
| 第3回 実際の指導現場と運動分析の係わり 【 到達目標 】 運動指導者にとって必要な「見抜く」ための方法と、運動分析の必要性について理解する。 【授業時間外学習】 各自の専門種目におけるトップアスリートの分析例を調べる。 | | | 第11回 班毎の実験結果と分析 【 到達目標 】 撮影した連続写真をグループで役割分担して分析し、問題点修正までの一連の手順を確認する。 【授業時間外学習】 各班で話し合った分析に関して、役割分担を決めた内容を分析しレポートを作成する。 | | | |
| 第4回 トップレベルと運動分析の現状 【 到達目標 】 トップレベルのアスリートのサポートとして、運動分析の現状を野球、陸上、水泳競技などを例に説明し、その重要性を理解する。 【授業時間外学習】 過去の運動分析に関する研究について調べる。 | | | 第12回 班毎のまとめと発表 【 到達目標 】 分析結果を基に、バイオメカニクスの分析から運動指導現場への指導方法を導き出す過程を実践し、発表する。 【授業時間外学習】 各班の発表を含め、いろいろな観点を理解し、それを各班、各個人の分析方法へ還元させ考察する。 | | | |
| 第5回 運動分析の研究事例 【 到達目標 】 運動分析の研究例を説明し、その方法を理解する。 【授業時間外学習】 運動分析の必要性と具体例を、トップアスリート、研究、学校体育のそれぞれに関してまとめる。 | | | 第13回 球技のゲーム分析について 【 到達目標 】 チームスポーツでは、個々の運動を分析する運動分析と、ゲームを一つの対象として捉えたときのゲーム分析がある。そのゲーム分析の観点や結果をどう指導現場にフィードバックするかを理解する。 【授業時間外学習】 チームスポーツでの分析に関して、本時の授業を基に各種目での分析について考察する。 | | | |
| 第6回 バイオメカニクスの運動分析法 【 到達目標 】 全員同一の連続写真を利用して、初心者や未熟者の動作分析をバイオメカニクスの手法で分析し、その問題点を見抜き、そこから未熟者への練習課題を導き出す手順と考え方を理解する。 【授業時間外学習】 分析の仕方理解し、課題である写真分析を仕上げ次回までにレポートを作成する。 | | | 第14回 ゲーム分析の仕方とゲームへのフィードバック 【 到達目標 】 運動分析のまとめとして、バイオメカニクスの分析と運動学的な分析、そしてそのどちらも同様に指導現場で有効なものであることをまとめ、理解する。 【授業時間外学習】 これまでの授業を基に、改めて運動観察の必要性を運動指導の観点からまとめる | | | |
| 第7回 バイオメカニクスの運動実践 【 到達目標 】 各自が独自の観点で分析し、結論を導き出す。次に各班でそれぞれの発表を行い、意見交換をして班としての一つの結論を導き出す。さらに、それぞれの立場からの観点を確認し、共通点・相違点から班の共通理解としての結論を出す。 【授業時間外学習】 今回の授業で班ごとに話し合った内容を踏まえ、自分の分析の観点の修正を行う。 | | | 第15回 指導者に必要な運動観察の位置づけを再確認 【 到達目標 】 運動を教育実習や部活動で指導する指導者として必要な運動観察、そこからの見抜き、そして運動修正というプロセスを理解し、あるべき指導者の像を理解する。 【授業時間外学習】 今後の各自の運動指導や教育実習を前提として、指導者に必要な観察能力とそれに必要な分析方をまとめ理解する。 | | | |
| 第8回 バイオメカニクスの運動分析成果発表（班ごと） 【 到達目標 】 前回までに結論を各班の代表者が発表し、全員の共通理解を出す。他の班の考え方や自分たちとの相違点を質問等により理解し合う。 【授業時間外学習】 共通の課題に対する各班の観点や分析方法の違いを理解し、分析方法を見直す。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 基本的に講義形式であるが、実際に運動分析をグループとして行う内容を含むため、積極的に自分の専門種目の立場からグループとしての活動や討議に参加することが自分の知識となる。最終的にいくつかの運動の分析を実施するが、他のグループの実験も自分の知識として有効であるため、他の分析にも興味を持ち討議することが重要となる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ運動学、スポーツ技術論、運動技能評価法 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業中に2回のレポート課題を提出することになる。それぞれ30%で2つで60%、そして各班でまとめた内容とプレゼンの内容の評価30%、毎回の授業での取り組み10%。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|----------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 科目名 | スポーツリハビリテーション論 | | | 担当者 | 永野康治 | |
| 英文名 | Sport Rehabilitation | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 | | | | | | |
| <p>本講義の目的は、スポーツ外傷・障害の概念や発症要因について理解し、それぞれの病態についての特徴や基本的対応策を学ぶことである。さらにスポーツ外傷・障害からスポーツ復帰に向けてのリハビリテーションに関する基礎的な知識と進め方について学習する。本講義を通して、スポーツ現場においてスポーツ外傷・障害の予防や発症した際の処置を行えること、さらに自身や対象者のスポーツ復帰に向けたリハビリテーションを計画できることが本講義のねらいである。</p> | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)授業の運営、評価の方法等を理解する。 (2)本講義で扱う内容を理解する。 【授業時間外学習】 これまでのスポーツ外傷・障害経験を振り返る。 | | | 第9回 投球障害の病態および評価 【 到達目標 】 (1)投球障害の病態を理解する。 (2)投球障害に対する評価法を理解する。 【授業時間外学習】 肩関節の機能解剖について復習しておく。 | | | |
| 第2回 アスレティックリハビリテーション概論 【 到達目標 】 (1)アスレティックリハビリテーションの考え方について理解する。 (2)アスレティックリハビリテーションに関わる職種について理解する。 【授業時間外学習】 アスレティックリハビリテーションの考え方を整理する。 | | | 第10回 投球障害に対するアスレティックリハビリテーション 【 到達目標 】 (1)投球障害に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。 【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。 | | | |
| 第3回 スポーツ外傷とスポーツ障害 【 到達目標 】 (1)スポーツ外傷の定義、代表例を理解する。 (2)スポーツ障害の定義、代表例を理解する。 (3)スポーツ外傷・障害の発症要因について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ外傷とスポーツ障害の違いについて整理する。 | | | 第11回 足関節捻挫の病態および評価 【 到達目標 】 (1)足関節捻挫の病態を理解する。 (2)足関節捻挫に対する評価法を理解する。 【授業時間外学習】 足関節の機能解剖について復習する。 | | | |
| 第4回 前十字靭帯損傷の病態および評価 【 到達目標 】 (1)前十字靭帯損傷の病態を理解する。 (2)前十字靭帯損傷に対する評価法を理解する。 【授業時間外学習】 膝関節の機能解剖について復習しておく。 | | | 第12回 足関節捻挫に対するアスレティックリハビリテーション 【 到達目標 】 (1)足関節捻挫に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。 【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。 | | | |
| 第5回 前十字靭帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション1 【 到達目標 】 (1)前十字靭帯損傷に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。 【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。 | | | 第13回 腰痛の病態および評価 【 到達目標 】 (1)腰痛の病態を理解する。 (2)腰痛に対する評価法を理解する。 【授業時間外学習】 腰部・体幹の機能解剖について復習しておく。 | | | |
| 第6回 前十字靭帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション2 【 到達目標 】 (1)前十字靭帯損傷に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。 【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。 | | | 第14回 腰痛に対するアスレティックリハビリテーション 【 到達目標 】 (1)腰痛に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。 【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。 | | | |
| 第7回 膝関節障害の病態および評価 【 到達目標 】 (1)膝関節障害の病態を理解する。 (2)膝関節障害に対する評価法を理解する。 【授業時間外学習】 膝関節障害に含まれる疾患について整理する。 | | | 第15回 最新のアスレティックリハビリテーション 【 到達目標 】 (1)最新のアスレティックリハビリテーションに関する知識を得る。 (2)最新のアスレティックリハビリテーションで用いられる器具を挙げることができる。 【授業時間外学習】 自らのトレーニング等を見直し、改善する。 | | | |
| 第8回 膝関節障害に対するアスレティックリハビリテーション 【 到達目標 】 (1)膝関節障害に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。 【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 | | | | | | |
| <p>配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。覚えるべきことが多いため、各授業ごとに内容をノートに整理しておくことが望まれる。毎回の授業の際にその日の授業内容を問う小テストを実施する。また、復習用の課題を適時提示する。</p> | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | |
| <p>参考書：スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド(文光堂)、ランニング障害のリハビリテーションとリコンディショニング(文光堂)、走動作のファンクショナルトレーニング(文光堂)、ファンクショナルトレーニング(文光堂)、野球 肩・ひじ・腰の鍛え方・治し方(日本文芸社)、ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション(羊土社)、腰痛のリハビリテーションとリコンディショニング(文光堂)、運動器の徒手検査法(文光堂)</p> | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 機能解剖学 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | |
| 課題 20% | | | | | | |
| 期末試験（試験は試験期間中に別途実施）80% | | | | | | |

| 科目名 | 障害者スポーツコーチング論 | | | 担当者 | 中 森 邦 男 | |
|---|--|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英 文 名 | Sport Coaching for Persons with Disabilities | | | | | |
| 単 位 数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 4 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 障がいそのものの理解、障がい者スポーツの概要、健常者との違い、地域スポーツの現状を学ぶ。特に障がい者スポーツと健常者との違いを明確にし、健常者のスポーツ理論を基本に持ち、どのように応用し、かかわっていくのかを理解する。また、数日間の障がい者のスポーツの実技を通し、その応用方法を理解する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 障がいについて① 【 到達目標 】 アンケート、自己紹介、ビデオ鑑賞により、障がい者スポーツのイメージを得る。 【授業時間外学習】 障がいの理解を深めるため、各自で調べる。 | | | 第9回 シッティングバレーボール (実技) ③ 【 到達目標 】 ゲームを通し、健常者が一緒にできる障がい者スポーツを経験する。 【授業時間外学習】 障がい者スポーツの規則についての理解を深めるため、各自で調べる。 | | | |
| 第2回 障がいについて② 【 到達目標 】 スポーツの位置づけ、目的、効果、健常者との違いを理解する。 【授業時間外学習】 障がい者にとっての身体運動の重要性について、各自で調べる。 | | | 第10回 シッティングバレーボール (実技) ④ 【 到達目標 】 ゲームを通し、健常者が一緒にできる障がい者スポーツを経験する。 【授業時間外学習】 障がい者スポーツの規則についての理解を深めるため、各自で調べる。 | | | |
| 第3回 障がい者に対する指導法 (概論) 【 到達目標 】 健常者との違いを、個々の障がいや年齢による留意点などを理解する。 【授業時間外学習】 障がい者にとってのスポーツの効果について、各自で調べる。 | | | 第11回 障がい者に対する指導法 (切断者) 【 到達目標 】 両上肢切断者のビデオ鑑賞により、問題点を理解する。 【授業時間外学習】 両上肢切断者についての理解を深めるため、各自で調べる。 | | | |
| 第4回 障がい者スポーツの歴史・現状 (国際) 【 到達目標 】 障がい者スポーツの成り立ちと現状について、国際の状況を理解する。 【授業時間外学習】 国際の障がい者スポーツの成り立ちについて、各自で調べる。 | | | 第12回 障がい者に対する指導法 (脳性まひ者) 【 到達目標 】 脳性まひ者のビデオ鑑賞により、問題点を理解する。特に健常者との指導上の留意点を理解する。 【授業時間外学習】 脳性まひ者についての理解を深めるため、各自で調べる。 | | | |
| 第5回 障がい者スポーツの歴史・現状 (国内) 【 到達目標 】 障がい者スポーツの成り立ちと現状について、国内の状況を理解する。 【授業時間外学習】 国内の障がい者スポーツの成り立ちについて、各自で調べる。 | | | 第13回 障がい者に対する指導法 (全盲者) 【 到達目標 】 全盲者のビデオ鑑賞により、問題点を理解する。口話による体験、視覚障がい者の介護を経験する。 【授業時間外学習】 視覚障がい者についての理解を深めるため、各自で調べる。 | | | |
| 第6回 障がい者スポーツの歴史・現状 (パラリンピック) 【 到達目標 】 パラリンピックの現状を中心に、これからの障がい者スポーツを考える。 【授業時間外学習】 パラリンピックの現状について、各自で調べる。 | | | 第14回 障がい者に対する指導法 (水泳) 【 到達目標 】 障がい者に対する水泳指導法について、考え方、導入、留意点などを学ぶ。 【授業時間外学習】 障がい者の水泳指導法についての理解を深めるため、各自で調べる。 | | | |
| 第7回 シッティングバレーボール (実技) ① 【 到達目標 】 障がい者、健常者を問わず参加できるスポーツとしてシッティングバレーボール体験を通し、障がい者スポーツの考え方を体験する。 【授業時間外学習】 シッティングバレーボールについての理解を深めるため、各自で調べる。 | | | 第15回 スポーツ基本法と障がい者スポーツ 【 到達目標 】 政府の障がい者に対するスポーツ施策を考察する。 【授業時間外学習】 スポーツ基本計画と障がい者スポーツについて、各自で調べる。 | | | |
| 第8回 シッティングバレーボール (実技) ② 【 到達目標 】 シッティングバレーボールの体験と合わせて、柔軟体操などの工夫を経験し、障がいにあった指導を理解する。 【授業時間外学習】 柔軟体操などの工夫をする。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義はパワーポイントを用いて要点を指摘し、資料に基づき説明を加える。障がい者スポーツのイメージが少ないことを予想し、障がい者と健常者が一緒に参加できる、シッティングバレーボールの実技により、障がい者スポーツを体験し、規則や動きなど健常者との違いや考え方を理解する。最終的には、学生が将来障がい者のスポーツ指導に直面したときの、対応方法を理解できればと考える。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 必要としない。資料はコピーにより配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 試験は試験期間中に別途実施。 試験の結果を100%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅰ（採点競技系） | | | 担当者 | 木皿久美子 | |
|---|--|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport CoachingⅠ（Marking Sports） | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 採点競技の競技特性を理解するとともに、新体操における初歩的な基礎技術を習得する。また、適切な段階的指導と効果的指導について、実践を通して学習すると同時に、動きの理解と観察する力を養う。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 授業展開とねらい、評価方法、学習上の留意点について理解する。 新体操のルールの変遷について理解する。 【授業時間外学習】 新体操のルールの変遷を調べておく。 | | | 第9回 指導実践と指導内容の検討① 【 到達目標 】 各班で考えたフレーズ内容を、伝達する方法を身につけ、指導上の問題点について検討する。 【授業時間外学習】 学習者に伝達する内容と方法を準備する。 | | | |
| 第2回 ストレッチ・柔軟・筋力トレーニングの実践および考案 【 到達目標 】 新体操に効果的である年齢と段階に合わせたストレッチ・柔軟・筋力トレーニングを理解し、指導方法を考案する。 【授業時間外学習】 新体操競技におけるトレーニングの基礎に関する資料を準備する。 | | | 第10回 指導実践と指導内容の検討② 【 到達目標 】 各班で考えたフレーズ内容を、伝達する方法を身につけ、指導上の問題点について検討する。 【授業時間外学習】 学習者に伝達する内容と方法を準備する。 | | | |
| 第3回 基礎運動① 徒手要素の習得の仕方と指導方法 【 到達目標 】 望ましい姿勢や正しい基本動作をバーを用いて実践し、徒手要素の習得の仕方と指導方法について考案する。 【授業時間外学習】 指導の場面をシミュレーションし、意見を発表出来るように準備する。 | | | 第11回 技能レベルに応じた団体創作について 【 到達目標 】 伝達されたフレーズ内容を基に、音楽のリズムや曲調をとらえながら作品の組み立てを実践する。技能レベルに応じた創作力を身につける。 【授業時間外学習】 動きを提案できるように準備する。 | | | |
| 第4回 基礎運動② 運動観察による改善・指導方法 【 到達目標 】 前回の基本動作を二人組で行い、動きの補助や矯正を実践する。運動観察による改善・指導方法を身につける。 【授業時間外学習】 意見を提案できるように準備する。 | | | 第12回 作品構成の見直し 【 到達目標 】 さらに独創性を目指した構成を考案し、ミスにつながりやすい問題点とその対処法について検討する。 【授業時間外学習】 作品構成上の問題点を抽出する。 | | | |
| 第5回 手具の基本操作① 手具技術を習得するための段階的指導 【 到達目標 】 基本操作からフープの特性を理解し、手具技術を習得するための段階的指導について考案する。 【授業時間外学習】 意見を提案できるように準備する。 | | | 第13回 技術トレーニングの仕方について 【 到達目標 】 身体の動きと手具動作が明確になるよう実践を重ね、技術を習得するトレーニング法を身につける。 【授業時間外学習】 習得する為のトレーニング法について意見が出せるように準備する。 | | | |
| 第6回 手具の基本操作② 手具操作の発展を目指した指導内容 【 到達目標 】 音楽のリズムや曲調をとらえ、個・組による動きと手具操作の発展を目指した指導内容を考案する。 【授業時間外学習】 手具操作の特徴をまとめ、指導内容について考えをまとめておく。 | | | 第14回 作品発表 【 到達目標 】 班別に発表し、観察により技能の習得の仕方と、指導方法について再度検証する。 【授業時間外学習】 意見を提案できるように準備する。 | | | |
| 第7回 各班によるフレーズ創り① 【 到達目標 】 団体種目の演技構成に特徴的な「手具交換、連係」を創作し、練習手段や指導方法について探る。 【授業時間外学習】 手具交換、連係を提案できるように準備する。 | | | 第15回 採点競技系スポーツについて 【 到達目標 】 採点競技系スポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 採点競技系スポーツについて調べておく。 | | | |
| 第8回 各班によるフレーズ創り② 【 到達目標 】 音楽に合った身体の動きや手具動作を取り入れながら、フレーズ創りを実践し、習得の仕方を学習する。 【授業時間外学習】 動きを提案できるように準備する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 アクセサリー類や時計は、相手や自らの怪我を引き起こす危険性や、手具により破損する可能性があるため、決して身につけない。服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は好ましくない。（パーカー・スウェットは着用しない） | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 必要に応じて、プリント教材を配布します。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法基礎演習（新体操）、スポーツ方法応用演習（新体操） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 実技試験70% レポート30% | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅰ（採点競技系） | | | 担当者 | 小海 隆樹・佐藤麻衣子 | |
|--|--|---------|--|-------|-------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport CoachingⅠ（Marking Sports） | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 器械運動の指導法を学習するために、学校体育で扱われる器械運動の基礎的な技を取り上げ、それらの粗形態獲得（初めてできる、何とかできる段階）のための指導方法論を学ぶ。そのために、それぞれの技の望ましい指導段階の組み方（練習場面の設定、幫助法、安全性の確保等）や技の観察ポイント（評価ポイント）を明らかにしていく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 動きの指導に必要な知識 【 到達目標 】 (1)指導のマネジメント能力の必要性を理解する。 (2)コツの指導の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 第1回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第9回 学生による技の指導（とび箱運動）と指導内容の検討① 【 到達目標 】 (1)「開脚とび」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「開脚とび」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第9回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第2回 器械運動の練習場面の設定と幫助法 【 到達目標 】 (1)技の指導に必要な場の設定の基本的考え方を理解する。 (2)技の指導に必要な基本的な幫助法について理解する。 【授業時間外学習】 第2回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第10回 学生による技の指導（とび箱運動）と指導内容の検討② 【 到達目標 】 (1)「開脚とび」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「開脚とび」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第10回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第3回 学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討① 【 到達目標 】 (1)「倒立」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「倒立」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第3回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第11回 学生による技の指導（とび箱運動）と指導内容の検討③ 【 到達目標 】 (1)「はねとび」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「はねとび」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第11回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第4回 学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討② 【 到達目標 】 (1)「前転」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「前転」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第4回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第12回 学生による技の指導（平均台運動）と指導内容の検討 【 到達目標 】 (1)「平均台の基礎技能」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「平均台の基礎技能」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第12回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第5回 学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討③ 【 到達目標 】 (1)「後転」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「後転」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第5回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第13回 学生による技の指導（鉄棒運動）と指導内容の検討 【 到達目標 】 (1)「鉄棒の基礎技能」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「鉄棒の基礎技能」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第13回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第6回 学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討④ 【 到達目標 】 (1)「側方倒立回転」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「側方倒立回転」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第6回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第14回 とび箱、平均台、鉄棒運動の指導のまとめ 【 到達目標 】 (1)とび箱、平均台、鉄棒運動の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)とび箱、平均台、鉄棒運動の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第14回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第7回 学生による技の指導（マット運動）と指導内容の検討⑤ 【 到達目標 】 (1)「ハンドスプリング」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「ハンドスプリング」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第7回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第15回 器械運動の指導 【 到達目標 】 (1)器械運動で行われる技の動感について理解する。 (2)できない人の動感について理解する。 (3)創発分析の必要性とその方法について理解する。 【授業時間外学習】 授業全体を通して得た知見を実際の指導に活かせるよう準備する。 | | | |
| 第8回 マット運動の指導 【 到達目標 】 (1)マット運動の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)マット運動の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第8回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 「できる」動きを「どう教えるか」を検討する授業である。「指導者役」となる指導担当については、技の習得に必要な「コツ」に関する知識や教えるための「道しるべ」の設定が必要となるため、十分な準備が要求される。教える動きの中身が「わかって」教えられるようになるために、「学習者役」でも、それぞれの技のコツについて想起しながら授業を受ける必要がある。毎回の授業内容をノートにまとめながら、指導に活かせる自分なりの「指導ノート」を作成する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 <参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習A（器械運動）、スポーツ方法応用演習（器械運動） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業内容の記録ノート70％ ・ 指導技術 30％ | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系） | | | 担当者 | 石塚 浩・渡部 誠 近藤 克之 | |
|--|--|---------|---|-------|--------------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport CoachingⅠ（Measuring Sports） | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 ここでは個人競技としての陸上競技を取り上げ、陸上競技の基礎的な走・跳・投の技術を習得する。そして初心者から中級者に至る競技者に対しての技術的な指導、効果的なコーチング法、総合的な陸上競技に必要な体力補強トレーニングの方法を学ぶ。コーチングの面では、初心者から経験の浅い競技者のトレーニング計画の立て方、トレーニング内容・練習内容の組み合わせ構成などについて、実践を通じ、その方法を学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ハードル種目、跳躍種目、投てき種目の技能構造 【 到達目標 】 この授業で取り上げる種目で核となる一連の動きについて理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第9回 基本技能（走り幅跳び）の習得の仕方と指導パターン1 【 到達目標 】 走り幅跳びの導入に用いる「踏み切り」ドリルを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することで走り幅跳びの動きの特性を把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第2回 初心者が身につけるべき基本技能のコーチング 【 到達目標 】 この授業で取り上げる種目の基本技能のコーチングについて理解を深める。同時に初心者対象のコーチングの仕方について理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第10回 基本技能（走り幅跳び）の習得の仕方と指導パターン2 【 到達目標 】 助走スピードをコントロールした中での踏み切りの習熟レベルをパートナーと確認する（相互コーチング）。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第3回 基本技能の発展の方法について 【 到達目標 】 基本技能として身につける過程とそのコーチングについて理解を深める。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第11回 基本技能（走り幅跳び）の習得の仕方と指導パターン3 【 到達目標 】 走り幅跳びにおける最大達成を目指した「記録会」を実施し、その時に現れる問題点を抽出し、その改善の仕方についてコーチングを実践する。そこで伝達方法の問題点を確認する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第4回 基本技能（ハードル走）の習得の仕方と指導パターン1 【 到達目標 】 ハードル走のドリルを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することでハードル走の動きの特性を把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第12回 基本技能（砲丸投げ）の習得の仕方と指導パターン1 【 到達目標 】 砲丸投げの導入に用いるメディシンボールによるつき出し動作のドリルを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することで砲丸投げの動きの特性を把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第5回 基本技能（ハードル走）の習得の仕方と指導パターン2 【 到達目標 】 3歩のリズムでハードル走を行うために、初心者指導では何に留意すべきかをパートナーとの相互コーチングを通して把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第13回 基本技能（砲丸投げ）の習得の仕方と指導パターン2 【 到達目標 】 その場つき出し、ステップをつけてのつき出しの習熟レベルをパートナーと確認する（相互コーチング）。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第6回 基本技能（ハードル走）の習得の仕方と指導パターン3 【 到達目標 】 ハードル走の相互コーチングによって、選手と共振しながらのコーチングを実践する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第14回 基本技能（砲丸投げ）の習得の仕方と指導パターン3 【 到達目標 】 砲丸投げにおける最大達成を目指した「記録会」を実施し、その時に現れる問題点を抽出し、その改善の仕方についてコーチングを実践する。そこで伝達方法の問題点を確認する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第7回 観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達1 【 到達目標 】 相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | 第15回 陸上競技初心者のコーチングにおける問題点 【 到達目標 】 この授業で取り上げた3種目の相互コーチング実習から得られたフィードバック情報をもとに、陸上競技の初心者対象のコーチングについての問題点について検討する。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第8回 観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達2 【 到達目標 】 相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当部分について情報収集を行い、教科書・参考書を精読する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 コーチング実習時に提出させる記録表や実習記録として収録したVTRをもとに、自分自身のコーチングについて分析・評価する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）、（競技力向上のためのトレーニング戦略）、（コーチングマニュアル）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツコーチング演習Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 コーチング実習時に提出した記録表、および実習後に行うコーチング内容・方法についての自己分析記録表を60%、また指導実践におけるできばえを40%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系） | | | 担当者 | 浅井 泰詞・金沢 翔一 | |
|---|--|---------|--|-------|-------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport CoachingⅠ（Measuring Sports） | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 運動の達成度を測定し、その結果を評価する種目のうち、水泳について取り上げ、運動技能向上のための指導法について、科学的な理論背景を理解し、指導実践の場で検証することを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 水の特性と水泳の歴史 【 到達目標 】 水の特性－4つの特性（水圧、浮力、抵抗、水温）を理解する。 水泳競技の成り立ちと歴史概論を理解する。 【授業時間外学習】 水の特性や歴史に関する文献を読み、理解を深める。 | | | 第9回 受講生による初心者を対象とした内容のコーチング⑤ 【 到達目標 】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | |
| 第2回 初心者指導法 【 到達目標 】 水の特性を実際の指導へつなげた指導、特に初心者を対象とした指導法を理解する。 【授業時間外学習】 水泳の初心者指導法に関する文献を読み、理解を深める。 | | | 第10回 受講生による初心者を対象とした内容のコーチング⑥ 【 到達目標 】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | |
| 第3回 各種泳法指導法 【 到達目標 】 クロール、背泳ぎおよび平泳ぎの技術特性および基礎的指導法を理解する。 【授業時間外学習】 各泳法の技術特性や基礎的指導法に関する文献を読み、理解を深める。 | | | 第11回 受講生による初心者を対象とした内容のコーチング⑦ 【 到達目標 】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | |
| 第4回 泳法実習および基礎的泳法指導の実践 【 到達目標 】 クロール、背泳ぎおよび平泳ぎの技術特性を修得する。 泳法に応じた指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 各泳法の指導方法に関する文献を読み、理解を深める。 | | | 第12回 救助法に関する理論の理解と基礎実技力の修得 【 到達目標 】 救助法に関する理論を理解する。 救助法に関する基礎的内容を実践する。 【授業時間外学習】 水難救助法に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第5回 受講生による初心者を対象とした内容のコーチング① 【 到達目標 】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | 第13回 着衣泳に関する理論の理解と基礎実技力の修得 【 到達目標 】 着衣泳に関する理論を理解する。 着衣泳に関する基礎的内容を実践する。 【授業時間外学習】 着衣泳に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第6回 受講生による初心者を対象とした内容のコーチング② 【 到達目標 】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | 第14回 水泳の安全管理および安全対策 【 到達目標 】 プールおよび水辺活動における安全の管理および対策を理解する。 【授業時間外学習】 水泳の安全管理に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第7回 受講生による初心者を対象とした内容のコーチング③ 【 到達目標 】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | 第15回 初心者水泳コーチング実習の反省と検討 【 到達目標 】 これまで行ってきたコーチング実践についてディスカッションをし、各々が改善すべき点を明確に理解する。 【授業時間外学習】 コーチング実践に関する自己評価および他者評価により、問題点を抽出してその対策と共に整理する。 | | | |
| 第8回 受講生による初心者を対象とした内容のコーチング④ 【 到達目標 】 事前に準備した計画に基づいた指導（コーチング）を実践する。 初心者を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング内容の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 本演習は、水泳の指導者としての第一歩を踏み出す内容であり、科学的理論背景に基づいたコーチングを実践することに加え、指導者としての心構えも含めた内容を修得する。そのため、指導者とはどうあるべきか、を考えた受講態度が求められる。プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリ類の着用は不可とする。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「水泳指導教本」 財団法人日本水泳連盟編、大修館書店 「基礎からの水泳」 柴田義晴著、ナツメ社 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツコーチング演習Ⅲ、スポーツ指導演習（水泳） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 1. コーチング実習の計画書（30%）、2. コーチング実習の実践（40%）、3. 水泳指導に関する筆記試験（30%）。 評価は、上記をふまえて総合的に判定する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系A） | | | 担当者 | 柴田 雅貴・佐々木直基 橋本 早予 | |
|--|--|---------|--|-------|----------------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport CoachingⅠ（Judging Sports A） | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 バスケットボールにおける基礎的な個人技術、基礎的なグループ・チーム戦術の習得を目指すコーチングの理論的背景について理解し、指導実践を通してコーチング法を学習することが目的である。3年次履修のスポーツコーチング演習ⅡおよびⅢでは、本演習で習得したことを応用するため、その基礎作りがねらいである。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツコーチングとは 【 到達目標 】 (1)「コーチ」、「コーチング」について理解する。 【授業時間外学習】 実際の「コーチング法」について調べる。 | | | 第9回 検証② 【 到達目標 】 (1)指導実践③～⑤を通して行ったコーチング法について分析し、今後のコーチングに活かせるよう検証する。 【授業時間外学習】 分析・検証したコーチング法について整理する。 | | | |
| 第2回 技術・戦術の習得のためのコーチング 【 到達目標 】 (1)指導実践をする内容を理解し、指導実践の計画を立てる。 【授業時間外学習】 実際に指導する指導計画を立案する。 | | | 第10回 指導実践⑧ 【 到達目標 】(1)1対1の攻防の指導実践③を通してコーチング法を習得する。(2)協力してシュートチャンスを作る指導実践①を通してコーチング法を習得する。(3)協力してシュートチャンスを作る指導実践②を通してコーチング法を習得する。(4)トランジションの指導実践を通してコーチング法を習得する。(5)マンツーマンディフェンスの基礎の指導実践を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | |
| 第3回 指導実践① 【 到達目標 】 (1)遊びを使った導入法の指導実践を通してコーチング法を習得する。 (2)ボールコントロールの指導実践を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | 第11回 指導実践⑦ 【 到達目標 】(1)1対1の攻防の指導実践③を通してコーチング法を習得する。(2)協力してシュートチャンスを作る指導実践①を通してコーチング法を習得する。(3)協力してシュートチャンスを作る指導実践②を通してコーチング法を習得する。(4)トランジションの指導実践を通してコーチング法を習得する。(5)マンツーマンディフェンスの基礎の指導実践を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | |
| 第4回 指導実践② 【 到達目標 】 (1)遊びを使った導入法の指導実践を通してコーチング法を習得する。 (2)ボールコントロールの指導実践を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | 第12回 指導実践⑨ 【 到達目標 】(1)1対1の攻防の指導実践③を通してコーチング法を習得する。(2)協力してシュートチャンスを作る指導実践①を通してコーチング法を習得する。(3)協力してシュートチャンスを作る指導実践②を通してコーチング法を習得する。(4)トランジションの指導実践を通してコーチング法を習得する。(5)マンツーマンディフェンスの基礎の指導実践を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | |
| 第5回 検証① 【 到達目標 】 (1)指導実践①～②を通して行ったコーチング法について分析し、今後のコーチングに活かせるよう検証する。 【授業時間外学習】 分析・検証したコーチング法について整理する。 | | | 第13回 指導実践⑩ 【 到達目標 】(1)1対1の攻防の指導実践③を通してコーチング法を習得する。(2)協力してシュートチャンスを作る指導実践①を通してコーチング法を習得する。(3)協力してシュートチャンスを作る指導実践②を通してコーチング法を習得する。(4)トランジションの指導実践を通してコーチング法を習得する。(5)マンツーマンディフェンスの基礎の指導実践を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | |
| 第6回 指導実践③ 【 到達目標 】 (1)シュートの指導実践を通してコーチング法を習得する。 (2)1対1の攻防の指導実践①を通してコーチング法を習得する。 (3)1対1の攻防の指導実践②を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | 第14回 指導実践⑪ 【 到達目標 】(1)1対1の攻防の指導実践③を通してコーチング法を習得する。(2)協力してシュートチャンスを作る指導実践①を通してコーチング法を習得する。(3)協力してシュートチャンスを作る指導実践②を通してコーチング法を習得する。(4)トランジションの指導実践を通してコーチング法を習得する。(5)マンツーマンディフェンスの基礎の指導実践を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | |
| 第7回 指導実践④ 【 到達目標 】 (1)シュートの指導実践を通してコーチング法を習得する。 (2)1対1の攻防の指導実践①を通してコーチング法を習得する。 (3)1対1の攻防の指導実践②を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | 第15回 総合的検証 【 到達目標 】 (1)指導実践⑥～⑩を通して行ったコーチング法について分析し、今後のコーチング法について検証する。(2)これまでの指導実践を通して行ったコーチング法について総合的に分析し、今後のコーチング法について総合的に検証する。 【授業時間外学習】 総合的に検証したことを踏まえて、本授業で理解・習得したことを整理する。 | | | |
| 第8回 指導実践⑥ 【 到達目標 】 (1)シュートの指導実践を通してコーチング法を習得する。 (2)1対1の攻防の指導実践①を通してコーチング法を習得する。 (3)1対1の攻防の指導実践②を通してコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 指導実践で行ったコーチング法について振り返る。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習の授業が中心となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。また、ナンバリング（ゼッケン）を一人ずつ購入し、授業時には必ず着用する。本演習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、実際の指導実践では、事前の準備が非常に重要であるため、授業時以外での努力が必要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に教科書は指定しない。 「バスケットボールの指導教本」日本バスケットボール協会編（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習C（バスケットボール）、スポーツ方法応用演習（バスケットボール）、スポーツコーチング演習Ⅱ・Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 平常授業での到達目標に対する到達度を70%、指導実践での指導案を30%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習 I (判定競技系 A) | | | 担当者 | 亀井良和 | |
|---|--|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching I (Judging Sports A) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 ハンドボールの各ゲーム局面に応じた指導方法を、ゲーム構想に基づいて考え、グループ毎に提示したトレーニングを実践・評価する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンスと班分け 【 到達目標 】 (1)ハンドボールのゲーム構造を理解する。 (2)技術・戦術トレーニングの原則を理解する。 【授業時間外学習】 ハンドボールのゲーム構造について調べる。 | | | 第9回 ゲーム局面に応じた指導方法について (攻撃局面の指導法②) 【 到達目標 】 (1)攻撃局面における移動攻撃の指導法を理解する。 【授業時間外学習】 攻撃局面における移動攻撃の指導法について調べる。 | | | |
| 第2回 個人技能の指導方法について (ジャンプシュートの指導法) 【 到達目標 】 (1)ゲームに必要不可欠な個人技能であるジャンプシュートの指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 ゲームに必要不可欠な個人技能であるジャンプシュートの指導方法について調べる。 | | | 第10回 ゲーム局面に応じた指導方法について (戻りの局面の指導法①) 【 到達目標 】 (1)戻りの局面における1次速攻に対する防御方法の指導法を理解する。 【授業時間外学習】 戻りの局面における1次速攻に対する防御方法の指導法について調べる。 | | | |
| 第3回 個人技能の指導方法について (位置取り能力の開発) 【 到達目標 】 (1)ハンドボールを行う上で必要不可欠となる位置取り能力の開発方法を理解する。 【授業時間外学習】 ハンドボールを行う上で必要不可欠となる位置取り能力の開発方法について調べる。 | | | 第11回 ゲーム局面に応じた指導方法について (戻りの局面の指導法②) 【 到達目標 】 (1)戻りの局面における2次速攻に対する防御方法の指導法を理解する。 【授業時間外学習】 戻りの局面における2次速攻に対する防御方法の指導法について調べる。 | | | |
| 第4回 ゲーム局面に応じた指導方法について (防御局面の指導法①) 【 到達目標 】 (1)防御局面におけるマンツーマン防御の指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 防御局面におけるマンツーマン防御の指導方法について調べる。 | | | 第12回 指導実習① 【 到達目標 】 (1)提示された指導課題に対する指導方法を考案する。 【授業時間外学習】 授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。 | | | |
| 第5回 ゲーム局面に応じた指導方法について (防御局面の指導法②) 【 到達目標 】 (1)防御局面におけるゾーン防御の指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 防御局面におけるゾーン防御の指導方法について調べる。 | | | 第13回 指導実習② 【 到達目標 】 (1)提示された指導課題に対する指導方法を考案する。 【授業時間外学習】 授業内で指摘を受けた改善点を考慮し指導案を作成する。 | | | |
| 第6回 ゲーム局面に応じた指導方法について (速攻局面の指導法①) 【 到達目標 】 (1)速攻局面における1次速攻の指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 速攻局面における1次速攻の指導方法について調べる。 | | | 第14回 指導実習③ 【 到達目標 】 (1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。 【授業時間外学習】 グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。 | | | |
| 第7回 ゲーム局面に応じた指導方法について (速攻局面の指導法②) 【 到達目標 】 (1)速攻局面における2次速攻の指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 速攻局面における2次速攻の指導方法について調べる。 | | | 第15回 指導実習④ 【 到達目標 】 (1)グループ毎に考案したトレーニングを実践し相互に評価を行う。 【授業時間外学習】 グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。 | | | |
| 第8回 ゲーム局面に応じた指導方法について (攻撃局面の指導法①) 【 到達目標 】 (1)攻撃局面におけるポジション攻撃の指導法を理解する。 【授業時間外学習】 攻撃局面におけるポジション攻撃の指導法について調べる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習が中心となる上に、身体接触を伴う競技であるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特に、ピアス、ネックレス、指輪等のアクセサリー類は決して身につけない。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業ごとの課題の達成度を50%、指導実習の際に考案された指導方法の内容とトレーニング実践の状況を50%の割合として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習 I (判定競技系 A) | | | 担当者 | 玉井 朗 | |
|--|--|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching I (Judging Sports A) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツコーチング演習 I の授業のねらいは、サッカーの楽しさを伝えるためのコーチング方法を学ぶことである。 サッカーの楽しさは、自分で判断し、自分の持っている技術を駆使して積極的にプレーすることから生まれてくる。またそのために必要な体力もゲームを楽しむための大切な要素である。 常に楽しさを追求する態度を持つプレーヤーを育成するためのサッカーの基本を学ぶプログラムの実践が、授業の内容となる。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 サッカーとは何かについて 【 到達目標 】 (1) ダッチビジョンにおけるサッカーのコーチングについて理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第9回 バスのトレーニング 【 到達目標 】 (1) バスのトレーニングを実践し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第2回 コミュニケーションのトレーニング 【 到達目標 】 (1) ボールを用いたコミュニケーションのトレーニングを実践し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第10回 ヘディングのトレーニング 【 到達目標 】 (1) ヘディングのトレーニングを実践し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第3回 ボールフィーリングのトレーニング 【 到達目標 】 (1) 様々なボールフィーリングのトレーニングを実践し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第11回 コーチング法について 【 到達目標 】 (1) コーチング法の知識を学習し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第4回 ボールコントロールのトレーニング 【 到達目標 】 (1) ボールコントロールのトレーニングを実践し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第12回 ボールを奪われないためのトレーニング 【 到達目標 】 (1) ボールを奪われないためのトレーニングを実践し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第5回 発育発達と一貫指導について 【 到達目標 】 (1) 子供の発育と発達についての知識を学習し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第13回 ボールを奪うためのトレーニング 【 到達目標 】 (1) ボールを奪うためのトレーニングを実践し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第6回 シュートのトレーニング 【 到達目標 】 (1) 足でのシュートトレーニングを実践し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第14回 様々なスモールサイドゲーム① 【 到達目標 】 (1) 3種類のスモールサイドゲームを実践し獲得させたい技術の違いを理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第7回 ドリブル突破のトレーニング 【 到達目標 】 (1) ドリブル・ランウィズザボールのトレーニングを実践し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第15回 様々なスモールサイドゲーム② 【 到達目標 】 (1) 3種類のスモールサイドゲームを実践し獲得させたい技術の違いを理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第8回 メディカルの知識について 【 到達目標 】 (1) サッカーにおけるメディカルの知識を学習し理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとする。 アクセサリー類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法基礎演習 (サッカー)、スポーツ方法応用演習 (サッカー) | | | | | | |
| 【成績評価方法】 以下の割合にて評価し、点数化する。①授業への取り組み方・参加度 60%、②技術点 (実技テスト) 10%、③知識点 (理論テスト) 10%、④準備点 (服装・ゼッケン等の準備) 20%。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系B） | | | 担当者 | 湯澤 芳貴・古瀬 由佳 横矢 勇一 | |
|--|--|-------------------|--|-------|----------------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport CoachingⅠ（Judging Sports B） | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 バレーボールの競技特性を理解し、初心者レベルの競技者への基礎技能の指導・ゲームをスムーズに遂行するための指導に関する基礎的なコーチング理論を明らかにする。またそのコーチング理論を実際に計画を立て、実践することにより、よりよいコーチングの方法を明らかにしていく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 基礎技能のコーチング理論Ⅰ（パス技能） 【 到達目標 】 (1)パス技能に関する効果的な指導体系を理解する。 【授業時間外学習】 事前にパス技能の構造を理解しておく。 | | | 第9回 コーチング実践Ⅵ（3段攻撃） 【 到達目標 】 (1)集団技能としての3段攻撃に関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 3段攻撃の指導方法とその効果を判断できるようにする。 | | | |
| 第2回 基礎技能のコーチング理論Ⅱ（サーブ・スパイク） 【 到達目標 】 (1)サーブはフローターサーブ・アンダーハンドサーブの指導について理解する。 (2)スパイクは助走・スイングの指導方法について理解する。 【授業時間外学習】 事前にサーブ・スパイク技能の構造を理解しておく。 | | | 第10回 バレーボールゲーム遂行のためのコーチング理論 【 到達目標 】 (1)初心者がゲームをスムーズにおこなうための理論を理解する。 (2)技能レベルに応じたルールの工夫について理解する。 【授業時間外学習】 事前にローテーションの方法等のゲームに必要な決まりを理解しておく。 | | | |
| 第3回 基礎技能のコーチング理論Ⅲ（集団技能・指導上の安全管理） 【 到達目標 】 (1)個人の基礎技能を集団技能へと発展させる指導法を理解する。 (2)バレーボール指導における安全管理について理解する。 【授業時間外学習】 事前にバレーボールで起こりやすい怪我とその予防対策について理解しておく。 | | | 第11回 コーチング実践Ⅶ（ゲーム運営・審判法） 【 到達目標 】 (1)ゲームをおこなうための基礎知識に関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 事前に基本的なルールと審判法について理解しておく。 | | | |
| 第4回 コーチング実践Ⅰ（オーバーハンドパス） 【 到達目標 】 (1)オーバーハンドパスに関する基礎技能の指導を実践できる。 【授業時間外学習】 オーバーハンドパスの指導方法とその効果を判断できるようにする。 | | | 第12回 コーチング実践Ⅷ（技能レベルに応じたゲーム） 【 到達目標 】 (1)技能レベルに応じたゲームに関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 技能レベルに応じた様々なルールの工夫について適切に判断できるようにする。 | | | |
| 第5回 コーチング実践Ⅱ（アンダーハンドパス） 【 到達目標 】 (1)アンダーハンドパスに関する基礎技能の指導を実践できる。 【授業時間外学習】 アンダーハンドパスの指導方法とその効果を判断できるようにする。 | | | 第13回 コーチング実践Ⅸ（正規ルールによるゲーム） 【 到達目標 】 (1)正規ルールによるゲームに関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 ゲーム中におこなうコーチングについて理解を深める。 | | | |
| 第6回 コーチング実践Ⅲ（パス技術の応用） 【 到達目標 】 (1)パス技術の応用に関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 パス技術の応用の指導方法とその効果を判断できるようにする。 | | | 第14回 バレーボールの技能評価 【 到達目標 】 (1)初心者対象の技能評価について理解する。 【授業時間外学習】 事前に基本的な技能評価方法について理解しておく。 | | | |
| 第7回 コーチング実践Ⅳ（サーブ） 【 到達目標 】 (1)サーブに関する基礎技能の指導を実践できる。 【授業時間外学習】 各種サーブの指導方法とその効果を判断できるようにする。 | | | 第15回 指導上の問題点の研究 【 到達目標 】 (1)コーチング実践で明らかになった問題点の解決法を理解する。 (2)初心者指導におけるポイントを明らかにすることができる。 【授業時間外学習】 初心者指導における適切なコーチングのタイミングを見極める方法を理解しておく。 | | | |
| 第8回 コーチング実践Ⅴ（スパイク） 【 到達目標 】 (1)スパイクに関する基礎技能の指導を実践できる。 【授業時間外学習】 スパイク技能の指導方法とその効果を判断できるようにする。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 バレーボールの初心者を対象にしたコーチングをおこなうために、基礎知識としてスポーツ方法実習Cやスポーツ方法応用演習のバレーボールで身につけた基礎知識をしっかりと理解しておく必要がある。不安なものはしっかりと復習しておくようにすること。 また基本的にグループ単位で演習形式で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習C（バレーボール）、スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツコーチング演習Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 コーチング理論の理解を20%、指導計画の作成を30%、コーチング実践を50%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習 I (判定競技系 C) | | | 担当者 | 木村昌彦 | |
|--|--|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching I (Judging Sports C) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 初心者から初級者レベルを想定して、柔道の基本的な技能である投げ技、固め技、技の連絡変化を身につける方法について、トレーニング実践と指導実践を通して検証する。 技能の習熟度を理解し、その習熟課程を学習者および指導者の両方の立場で体験・実践することによってコーチング方法を身につける。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の全体像を把握する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第9回 投げ技指導法（背負投、一本背負投、体落）、固め技指導法（縦四方固、乱取） 【 到達目標 】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第2回 柔道の特性と歴史的背景の理解 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第10回 投げ技指導法（釣込腰、払腰、大腰）、固め技指導法（連絡技、乱取） 【 到達目標 】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第3回 技術の習熟レベルの確認 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第11回 受身試験 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第4回 受身の指導法（後受身、横受身）、固め技指導法（袈裟固） 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第12回 投げ技指導法（連絡技）、固め技指導法（関節技、乱取） 【 到達目標 】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第5回 受身の指導法（前回受身）、固め技指導法（横四方固、上四方固、乱取） 【 到達目標 】 基本動作を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第13回 審判法 【 到達目標 】 柔道のルールに関する知識を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第6回 受身の指導法（前回受身）、固め技指導法（抑え技の返し方、乱取） 【 到達目標 】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第14回 試験（投げ技、固め技） 【 到達目標 】 正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第7回 投げ技の基本動作（姿勢、組み方、進退動作、崩し作り一掛け）、投げ技指導法（膝車）、固め技（乱取） 【 到達目標 】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第15回 簡易な試合 【 到達目標 】 柔道全般を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第8回 投げ技指導法（小内刈、大内刈、大外刈）、固め技（乱取） 【 到達目標 】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「受け身から作る柔道授業（仮）」木村 昌彦 著（ベースボールマガジン社） 「いちばんわかりやすい！柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） 「女子のための柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート（30%）と試験（70%）で評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|-----------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅱ | | | 担当者 | 亀井良和 | |
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツコーチング演習Ⅰで習得した、ハンドボールの局面構造にもとづく指導方法をもとに、対象に応じた指導方法の違いを理解し、指導することができる能力を身につける。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンスと班分け 【到達目標】 (1) ゲーム構想の共通理解をはかり、一貫指導の在り方を理解する。 | | | 第9回 中学生のハンドボール指導方法の実践と評価(集団技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に考案したトレーニングを実施し相互に評価を行う。 | | | |
| 【授業時間外学習】 ゲーム構想の共通理解をはかり、一貫指導の在り方の理解を深める。 | | | 【授業時間外学習】 グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。 | | | |
| 第2回 子供のハンドボール指導方法の考案(個人技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に小学生に必要な個人技能の指導方法を考案する。 | | | 第10回 高校生のハンドボール指導方法の考案(個人技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に高校生に必要な個人技能の指導方法を考案する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。 | | | 【授業時間外学習】 授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。 | | | |
| 第3回 子供のハンドボール指導方法の実践と評価(個人技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に考案したトレーニングを実施し相互に評価を行う。 | | | 第11回 高校生のハンドボール指導方法の実践と評価(個人技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に考案したトレーニングを実施し相互に評価を行う。 | | | |
| 【授業時間外学習】 グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。 | | | 【授業時間外学習】 グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。 | | | |
| 第4回 子供のハンドボール指導方法の考案(集団技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に小学生に必要な集団技能の指導方法を考案する。 | | | 第12回 高校生のハンドボール指導方法の考案(集団技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に高校生に必要な集団技能の指導方法を考案する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。 | | | 【授業時間外学習】 授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。 | | | |
| 第5回 子供のハンドボール指導方法の実践と評価(集団技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に考案したトレーニングを実施し相互に評価を行う。 | | | 第13回 高校生のハンドボール指導方法の実践と評価(集団技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に考案したトレーニングを実施し相互に評価を行う。 | | | |
| 【授業時間外学習】 グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。 | | | 【授業時間外学習】 グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。 | | | |
| 第6回 中学生のハンドボール指導方法の考案(個人技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に中学生に必要な個人技能の指導方法を考案する。 | | | 第14回 ゲーム構想に応じた攻撃もしくは防御戦術獲得のための指導方法の考案 【到達目標】 (1) グループ毎にゲーム構想を明確にし、攻撃・防御いずれかの戦術獲得のための指導方法を考案する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。 | | | 【授業時間外学習】 授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。 | | | |
| 第7回 中学生のハンドボール指導方法の実践と評価(個人技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に考案したトレーニングを実施し相互に評価を行う。 | | | 第15回 ゲーム構想に応じた攻撃もしくは防御戦術獲得のための指導方法の実践と評価 【到達目標】 (1) グループ毎に考案したトレーニングを実施し相互に評価を行う。 | | | |
| 【授業時間外学習】 グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。 | | | 【授業時間外学習】 グループ毎に考案したトレーニングの理解を深める。 | | | |
| 第8回 中学生のハンドボール指導方法の考案(集団技能に関して) 【到達目標】 (1) グループ毎に中学生に必要な集団技能の指導方法を考案する。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 授業内で説明された指導課題に対する指導方法を指導案の様式にまとめる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習が中心となる上に、身体接触を伴う競技であるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特に、ピアス、ネックレス、指輪等のアクセサリ類は決して身につけない。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業ごとの課題の達成度を50%、考案された指導方法の内容とトレーニング実践の状況を50%の割合として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅱ | | | 担当者 | 北川幸夫 | |
|--|-----------------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 競泳競技において、各種泳法およびスタート・ターン・ゴールタッチ等における主要な動きを、経済的かつ確実に出来るレベルまで高めるための方法について、トレーニング実践と指導実践を通して検証することを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 水泳の力学（水泳の推進理論について） 【 到達目標 】 抗力推進、揚力推進、水の抵抗等について理解する。 【授業時間外学習】 水泳の力学に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第9回 コーチング法の実践② 【 到達目標 】 事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング実践内容の評価および反省を整理する。 | | | |
| 第2回 クロールのコーチング 【 到達目標 】 クロールにおける腕の動作、脚の動作、腕と脚のタイミング等についてのコーチング法を理解する。 【授業時間外学習】 クロールの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。 | | | 第10回 コーチング法の実践③ 【 到達目標 】 事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング実践内容の評価および反省を整理する。 | | | |
| 第3回 背泳ぎのコーチング 【 到達目標 】 背泳ぎにおける腕の動作、脚の動作、腕と脚のタイミング等についてのコーチング法を理解する。 【授業時間外学習】 背泳ぎの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。 | | | 第11回 コーチング法の実践④ 【 到達目標 】 事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング実践内容の評価および反省を整理する。 | | | |
| 第4回 平泳ぎのコーチング 【 到達目標 】 平泳ぎにおける腕の動作、脚の動作、腕と脚のタイミング等についてのコーチング法を理解する。 【授業時間外学習】 平泳ぎの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。 | | | 第12回 コーチング法の実践⑤ 【 到達目標 】 事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング実践内容の評価および反省を整理する。 | | | |
| 第5回 バタフライのコーチング 【 到達目標 】 バタフライにおける腕の動作、脚の動作、腕と脚のタイミング等についてのコーチング法を理解する。 【授業時間外学習】 バタフライの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。 | | | 第13回 コーチング法の実践⑥ 【 到達目標 】 事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング実践内容の評価および反省を整理する。 | | | |
| 第6回 スタートのコーチング 【 到達目標 】 スタート動作についてのコーチング法を理解する。 【授業時間外学習】 スタートの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。 | | | 第14回 コーチング法の実践⑦ 【 到達目標 】 事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング実践内容の評価および反省を整理する。 | | | |
| 第7回 ターン・ゴールタッチのコーチング 【 到達目標 】 ターン・タッチに関するレース中の映像を通してターン・タッチのコーチング法について理解する。 【授業時間外学習】 ターン・ゴールタッチの技術に関して、メディア等を活用して理解を深める。 | | | 第15回 競泳コーチング実習の反省と検討 【 到達目標 】 これまで行ってきたコーチング実践についてディスカッションをし、各々が改善すべき点を明確に理解する。 【授業時間外学習】 コーチング実践に関する自己評価および他者評価により、問題点を抽出してその対策と共に整理する。 | | | |
| 第8回 コーチング法の実践① 【 到達目標 】 事前に準備した指導内容に基づいてコーチングを行う。選手を対象とした指導内容を作成し、運動指導を実践する。 【授業時間外学習】 コーチング実践内容の評価および反省を整理する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 予習・復習を継続し、日常的に競泳種目の泳法について関心を持つこと。プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリ類の着用は不可とする。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅰ、スポーツコーチング演習Ⅲ、スポーツ指導演習（水泳） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 1. コーチング実習の計画書（30%）、2. コーチング実習の実践（40%）、3. 水泳指導に関する筆記試験（30%）。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅱ | | | 担当者 | 木村昌彦 | |
|--|-----------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 初心者から初級者レベルを想定して、柔道の基本的な技能である投げ技、固め技、技の連絡変化を身につける方法について、トレーニング実践と指導実践を通して検証する。 技能の習熟度を理解し、その習熟課程を学習者および指導者の両方の立場で体験・実践することによってコーチング方法を身につける。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の全体像を把握する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第9回 投げ技指導法Ⅲ（背負投、一本背負投、体落）、固め技指導法Ⅳ（縦四方固、乱取） 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第2回 柔道の特性と歴史的背景の理解 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第10回 投げ技指導法Ⅳ（釣込腰、払腰、大腰）、固め技指導法Ⅴ（連絡技、乱取） 【 到達目標 】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第3回 技術の習熟レベルの確認 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第11回 受身試験 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 相対的動作からの安全な受身の実施ができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第4回 受身の指導法Ⅰ（後受身、横受身）、固め技指導法Ⅰ（袈裟固） 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第12回 投げ技指導法Ⅴ（連絡技）、固め技指導法Ⅵ（関節技、乱取） 【 到達目標 】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第5回 受身の指導法Ⅱ（前回受身）、固め技指導法Ⅱ（横四方固、上四方固、乱取） 【 到達目標 】 基本動作を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第13回 審判法、簡易試合 【 到達目標 】 柔道のルールに関する知識を理解する。 相手の動きに応じた攻防ができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第6回 受身の指導法Ⅲ（前回受身）、固め技指導法Ⅲ（抑え技の返し方、乱取） 【 到達目標 】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第14回 試験（投げ技、固め技） 【 到達目標 】 正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第7回 投げ技の基本動作（寝勢、組み方、進退動作、崩し作り-掛け）、投げ技指導法Ⅰ（膝車）、固め技（乱取） 【 到達目標 】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第15回 簡易な試合 【 到達目標 】 柔道全般を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第8回 投げ技指導法Ⅱ（小内刈、大内刈、大外刈）、固め技（乱取） 【 到達目標 】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「受け身から作る柔道授業（仮）」木村 昌彦 著（ベースボールマガジン社） 「いちばんわかりやすい！柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） 「女子のための柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート（30%）と試験（70%）で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅱ | | | 担当者 | 佐藤麻衣子 | |
|---|-----------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 器械運動のコーチング法について、分析・考察型の学習を行う。まず、自身の技能について、ビデオ画像からその特徴（長所と短所）を認識する。次に、短所に着目し、改善のための練習方法やアドバイス（助言、言語指示など）の仕方を考察する。さらに、受講生同士で、その分析・考察の結果を報告して意見交換などを行うことで、器械運動のコーチング法のバリエーションを増やしていく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業内容の確認 【 到達目標 】 授業内容の確認及び15回分の授業の流れを理解する。また、器械運動における技術習得の為の基礎となる運動内容を理解することが出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に基づき今後の授業の流れを確認する。 | | | 第9回 馬跳びにおける技術の理解 【 到達目標 】 跳び箱運動の基礎として、馬跳びを題材に跳び箱と馬跳びの技術の違いを明確に説明することが出来る。また馬跳びの段階を上げることでより跳び箱の技術に近づくことを理解出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に沿って授業内容を復習する。 | | | |
| 第2回 注意点及び個人差の理解 【 到達目標 】 器械運動の技術習得に必要な基礎となる運動を実施し、効果・注意点を理解する。また、このとき生じる個人差を把握することが出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に沿って授業内容を復習する。 | | | 第10回 跳び箱運動に対する恐怖心について 【 到達目標 】 跳び箱を題材とした場合に生じる、恐怖心の個人差と具体的な内容を理解することが出来る。また、改善策を講じることが出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に沿って授業内容を復習する。 | | | |
| 第3回 マット運動の倒立姿勢の理解 【 到達目標 】 マット運動の倒立を題材に、立位と逆位の感覚について、自身の感覚と他者の感覚との違いを明確にすることが出来る。また、それぞれの修正箇所を指摘することが出来る。 【授業時間外学習】 配付された資料に沿って授業内容を復習する。 | | | 第11回 ビデオカメラの映像から改善点を探る 【 到達目標 】 前週の課題をビデオカメラで撮影し自身でその修正箇所を見出すことが出来る。また、自身と他者との技術の違いを考察し、理解することが出来る。 【授業時間外学習】 撮影した画像をノートに図式化する。 | | | |
| 第4回 倒立の実施をビデオカメラの映像を用いて考察する 【 到達目標 】 3回の課題をビデオカメラで撮影し、自身でその修正箇所を見出すことが出来る。更に前週の課題である修正の有無を確認することが出来る。 【授業時間外学習】 撮影した画像をノートに図式化する。 | | | 第12回 助言、言語指示での改善点の伝達 【 到達目標 】 前週得られた動作の特徴を基に助言、言語指示などによる改善策を見出すことが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。 | | | |
| 第5回 得られた動作の特徴の改善策を見出す 【 到達目標 】 前週で得られた動作の特徴を基に、助言、言語指示などによる改善策を見出すことが出来る。更に、得手不得手な対象に対する助言を講じることが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。 | | | 第13回 器械運動に対する苦手意識の対策 【 到達目標 】 これまでに得られた考察及び結果を基に、器械運動の苦手意識のある対象に対してもう一度見直し、更なる改善策を見出すことが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。 | | | |
| 第6回 5回から得られた改善策を実際の動作に反映させる 【 到達目標 】 これまでに得られた改善策を実際の動作に反映することが出来る。また、必要であれば更に新たな改善策を加えることが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。 | | | 第14回 実在した怪我の症例に対する理解 【 到達目標 】 器械運動の授業でこれまでに実在した怪我の症例について、提示された事例の原因および防止策を討議し見出すことが出来る。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。 | | | |
| 第7回 6回と同じ 【 到達目標 】 6回と同じ。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。 | | | 第15回 指導者の立場としての必要な判断 【 到達目標 】 スポーツ指導者という立場になったことを想定し、生徒または選手に怪我が生じた場合の指導について、討議し適切な指導について理解することが出来る。 【授業時間外学習】 提出するためのノートを完成させる。 | | | |
| 第8回 他者への説明・補助について 【 到達目標 】 これまでの過程を理解し、他者に説明することが出来る。また、個人差に応じた的確なアドバイスが出来る。更にこの課題の補助の技術を習得する。 【授業時間外学習】 授業時間内に作成したノートを整理する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実技の際にはそれにふさわしい服装で受講すること。（肩に髪の毛がつく学生は結ぶこと）シューズは必要ありません。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 必要に応じて資料を配付する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅰ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート（ノート）内容100%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅱ | | | 担当者 | 柴田雅貴 | |
|--|-----------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 バスケットボールにおけるコーチングの実際や問題点、さらにはコーチング全般にわたるコーチングの本質について理解することが目的である。実際にコーチングをする授業ではないが、本演習で実際のコーチング場面と関連させながら理解し、習得したコーチングに関する事柄を実践に活かすようにすることがねらいである。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方を理解する。 【授業時間外学習】 バスケットボールにおける本質的特性について調べる。 | | | 第9回 体罰について考える 【 到達目標 】 (1)体罰について自分の考えをまとめ、説明できる。 【授業時間外学習】 指導と体罰について整理する。 | | | |
| 第2回 「コーチ」とは 【 到達目標 】 (1)コーチの語源からコーチの役割を理解する。 【授業時間外学習】 コーチの役割について整理する。 | | | 第10回 ロールプレーゲーム 【 到達目標 】 (1)ロールプレーゲームを通して自分の考えをまとめ、説明できる。 【授業時間外学習】 実践したロールプレーゲームについてのプレゼンテーションを準備する。 | | | |
| 第3回 「スポーツ」とは 【 到達目標 】 (1)スポーツ本来の意味からスポーツの持つ特性を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツの持つ特性について整理する。 | | | 第11回 ディスカッション 【 到達目標 】 (1)ロールプレーゲームでまとめた自分の考えをもとに、ディスカッション、プレゼンテーションをし、その技術を習得する。 【授業時間外学習】 コーチングにおける優先順位について整理する。 | | | |
| 第4回 バスケットボールの特性 【 到達目標 】 (1)バスケットボールの特性を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 バスケットボールの本質的特性について整理する。 | | | 第12回 コミュニケーションをとるための選手の7つの特徴 【 到達目標 】 (1)7つの特徴について理解し、コミュニケーション技術を習得する。 【授業時間外学習】 コミュニケーションの特徴について整理する。 | | | |
| 第5回 コーチングのフィロソフィー 【 到達目標 】 (1)コーチングのフィロソフィーについて理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 コーチングフィロソフィーについて整理する。 | | | 第13回 コミュニケーションを図る7つのルール 【 到達目標 】 (1)7つのルールについて理解し、コミュニケーション技術を習得する。 【授業時間外学習】 コミュニケーションのルールについて整理する。 | | | |
| 第6回 コーチの条件と仕事 【 到達目標 】 (1)コーチの条件と仕事について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 コーチの条件と仕事について整理する。 | | | 第14回 コミュニケーションの4つのスキル 【 到達目標 】 (1)4つのスキルについて理解し、コミュニケーション技術を習得する。 【授業時間外学習】 コミュニケーションのスキルについて整理する。 | | | |
| 第7回 コーチングのセオリーとテクニック 【 到達目標 】 (1)コーチングのセオリーとテクニックについて理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 コーチングのセオリーとテクニックについて整理する。 | | | 第15回 総合的検証 【 到達目標 】 (1)これまで習得した内容について総合的に検証する。 【授業時間外学習】 総合的に検証したことを踏まえて、本演習で理解・習得したことを整理する。 | | | |
| 第8回 指導と体罰 【 到達目標 】 (1)指導と体罰について理解する。 【授業時間外学習】 学校教育基本法における体罰について調べる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 演習形式の授業であり、受講者との双方向でのコミュニケーションを重要視するため、積極的に発言し、論理的に話しができるよう努めることが求められる。また、毎授業終了時に課題を課すので、授業中は集中して授業内容を理解するように努める。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に教科書は指定しない。 「バスケットボールの指導教本」日本バスケットボール協会編（大修館書店） 「もしもウサギにコーチがいたら」伊藤守（大和書房） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習C（バスケットボール）、スポーツ方法応用演習（バスケットボール）、スポーツコーチング演習Ⅰ・Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 平常授業での到達目標に対する到達度を80%、まとめとしての課題を20%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅱ | | | 担当者 | 玉井 朗 | |
|--|-----------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツコーチング演習Ⅱの授業のねらいは、サッカーの楽しさを体験するための要素である①プレーを実践するための要素(技術の獲得)、②判断のための要素、③戦う姿勢、体力などサッカーの基本を、小学校高学年程度の年齢のプレーヤーにコーチングするための方法を学ぶことである。 サッカーのこの育成プログラムの実践が授業の内容になる。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ボールフィーリングⅠ 【 到達目標 】 (1) ボールを使ったウォームアップを8種類実践し、説明できる。 (2) ボールジャグリングを8種類実践し、説明できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第9回 ゴールを奪うための突破の方法 【 到達目標 】 (1) ①シュートに直結する壁パス。②ダイアゴナルランからのパスを受ける。③ターンからシュートする。以上3種類の技術を理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第2回 ボールフィーリングⅡ 【 到達目標 】 (1) キックとヘディングのトレーニングを3種類ずつ実践し、説明できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第10回 コーチング法Ⅱ 【 到達目標 】 (1) コーチングの方法を3種類学びそれらの長所と短所を理解する。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第3回 ゴールを目指すためのパス 【 到達目標 】 (1) シュートに直結するパスのタイミング、方向、強さを理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第11回 ボールを二人で協力して奪う 【 到達目標 】 (1) チャレンジ&カバー、はさみ込みディフェンスを理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第4回 ゴールを目指すためのボールコントロール 【 到達目標 】 (1) シュートに直結するボールコントロールを理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第12回 ゴールキーパーのトレーニング 【 到達目標 】 (1) 基本的なゴールキーパーのトレーニングを学び説明できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第5回 ボールを失わないためのトレーニング 【 到達目標 】 (1) ボールを奪われない体の使い方、ボールの位置を理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第13回 ルール解説 【 到達目標 】 (1) 基本的なサッカーのルールを理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第6回 技術・戦術理論 【 到達目標 】 (1) 基本的な技術、戦術理論を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第14回 指導者の役割 【 到達目標 】 (1) 指導者の役割を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第7回 コーチング法Ⅰ 【 到達目標 】 (1) ゲーム分析とトレーニングのプランニングができる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | 第15回 審判法 【 到達目標 】 (1) 基本的な審判法を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | |
| 第8回 ゴールを奪うシュート 【 到達目標 】 (1) シュートの質とタイミングを理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 (1) 時間を見つけてサッカーに関する著作物を読む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとする。 アクセサリ類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法基礎演習（サッカー）、スポーツ方法応用演習（サッカー） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 以下の割合にて評価し、点数化する。①授業への取り組み方・参加度60%、②技術点（実技テスト）10%、③知識点（理論テスト）10%、④準備点（服装・ゼッケン等の準備）20%。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅱ | | | 担当者 | 橋爪みすず | |
|--|-----------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 新体操の歴史的背景を探り、オリンピック毎に改正されてきた採点規則を把握し、実際の採点規則を学習するとともにルール以外の動きに関する表現力についても問題意識をもちながら競技特性を知る。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業のオリエンテーション 【 到達目標 】 採点競技として重要な採点規則を理解し、実践力の基礎を学ぶ事を説明する。 【授業時間外学習】 新体操の歴史について参考文献を読み、理解を深める。 | | | 第9回 実施の評価について（個人競技）動きの表現との関係 【 到達目標 】 表現力の評価とは何かを一流選手の映像から学ぶ。 【授業時間外学習】 表現力について各自の考えをまとめておく。 | | | |
| 第2回 採点規則の総則1 【 到達目標 】 競技会と運営と公式大会のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 国内で行われる競技会について調べておく。 | | | 第10回 実施の評価について（団体競技） 【 到達目標 】 ミスによる減点とその評価、選手の動きのミスと手具の落下によるミスの減点を理解する。 【授業時間外学習】 ミスのある演技の映像を入手し、見た感想をまとめておく。 | | | |
| 第3回 採点規則の総則2 【 到達目標 】 審判団の構成と国際トーナメントについて知る。 【授業時間外学習】 国内競技会と国際大会の違いを調べておく。 | | | 第11回 ジュニア個人競技について 【 到達目標 】 ジュニアの個人競技の難度の配分と減点について理解する。 【授業時間外学習】 ジュニアルールの意味を考え、各自の考えをまとめておく。 | | | |
| 第4回 採点規則 難度要素について（個人競技）1 【 到達目標 】 個人競技の難度の配分と減点について理解する。 【授業時間外学習】 競技規則を事前に読んでおく。 | | | 第12回 ジュニア団体競技について 【 到達目標 】 ジュニアの団体競技の難度の配分と構成、交換難度について知る。 【授業時間外学習】 ジュニア団体難度について競技規則を読んでおく。 | | | |
| 第5回 採点規則 難度要素について（個人競技）2 【 到達目標 】 手具の基礎技術グループとその他の技術グループについて理解する。 【授業時間外学習】 競技規則を各自の様式で図式化しておく。 | | | 第13回 シンボルマークについて 【 到達目標 】 シンボルマークの書き方について理解する。 【授業時間外学習】 シンボルマークを覚えてくる。 | | | |
| 第6回 採点規則 DERと手具のマスタリーについて 【 到達目標 】 手具操作の危険性を伴った動きの評価について理解する。 【授業時間外学習】 映像を入手し、DERとマスタリーの例を用意する。 | | | 第14回 申告書の書き方について（DVDを観察しての実践） 【 到達目標 】 競技会に提出する申告書の作成とDVDを見て採点の学習を行う。 【授業時間外学習】 各自で申告書を作成してくる。 | | | |
| 第7回 採点規則 難度要素について（団体競技） 【 到達目標 】 団体競技の難度の配分と構成、交換難度について知る。 【授業時間外学習】 競技規則を事前に読んでおく。 | | | 第15回 映像を観察し実際に採点してみる 【 到達目標 】 採点規則を学び実際の申告用紙によって採点を実践する。 【授業時間外学習】 映像で採点練習をした申告書を持ち寄る。 | | | |
| 第8回 採点規則 連係について（団体競技） 【 到達目標 】 選手間の連係による価値と評価について理解する。 【授業時間外学習】 映像を入手し、連係の例を用意する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 採点規則を学び、審判資格を取得する（3種・2種）所までこぎつける。毎回の授業で採点規則を必要とするので準備しておくこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「新体操採点規則集」（日本体協協作成） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法基礎演習（新体操）、スポーツ方法応用演習（新体操）、スポーツコーチング演習Ⅰ（採点競技系） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業における課題達成度50%、授業内試験50%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅱ | | | 担当者 | 湯澤芳貴 | |
|--|-----------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 バレーボールにおけるコーチングについて、初心者レベルの競技者を中級者レベルへ引き上げるための指導体系を明らかにし、その理論を理解しながら指導の場で実践する。特に個人の基礎技能を応用させたものの指導と集団でおこなう技術・戦術を中心にして、質の高いバレーボールゲームをおこなうためのコーチングについて学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 中級者に対するコーチング理論 【 到達目標 】 (1)バレーボール技能の初心者と中級者の違いを理解する。 (2)中級者に求められる技能について理解する。 【授業時間外学習】 バレーボールの初心者、中級者の技能レベルを具体的に判断できるようにする。 | | | 第9回 コーチング実践Ⅰ(レシーブ技術) 【 到達目標 】 (1)レシーブ技術に関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 レシーブ技術の指導に関して中級者レベルに応じた指導内容を理解しておく。 | | | |
| 第2回 基礎技能の応用についてのコーチング理論Ⅰ(各種レシーブ技術) 【 到達目標 】 (1)場面に応じたレシーブ技術の指導について理解する。 (2)ボールの質を意識したレシーブ技術の指導について理解する。 【授業時間外学習】 事前にレシーブ技術の種類とその局面について理解しておく。 | | | 第10回 コーチング実践Ⅱ(トス・スパイク技術) 【 到達目標 】 (1)様々なトスに関する指導を実践できる。 (2)応用的なスパイク技術に関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 トス・スパイク技術の指導に関して中級者レベルに応じた指導内容を理解しておく。 | | | |
| 第3回 基礎技能の応用についてのコーチング理論Ⅱ(トス・スパイク技術) 【 到達目標 】 (1)様々な攻撃に関するトス・スパイクの指導について理解する。 【授業時間外学習】 事前に応用的なスパイク技能について理解しておく。 | | | 第11回 コーチング実践Ⅲ(サーブ・ブロック) 【 到達目標 】 (1)応用的なサーブに関する指導を実践できる。 (2)ブロックに関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 サーブ・ブロック技術の指導に関して中級者レベルに応じた指導内容を理解しておく。 | | | |
| 第4回 基礎技能の応用についてのコーチング理論Ⅲ(サーブ・ブロック) 【 到達目標 】 (1)ジャンプ系サーブの指導について理解する。 (2)ブロック技術の指導について理解する。 【授業時間外学習】 事前にジャンプ系サーブとブロック技能について、その構造を理解しておく。 | | | 第12回 コーチング実践Ⅳ(フォーメーション) 【 到達目標 】 (1)サーブレシーブフォーメーションに関する指導を実践できる。 (2)アタックレシーブフォーメーションに関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 レベルを高めるための各種フォーメーションについての指導内容を理解しておく。 | | | |
| 第5回 集団技能・戦術に関するコーチング理論Ⅰ(サーブレシーブフォーメーション) 【 到達目標 】 (1)各フォーメーションの特長の指導について理解する。 【授業時間外学習】 事前に各種サーブレシーブフォーメーションの特徴を理解しておく。 | | | 第13回 コーチング実践Ⅴ(オフェンスシステム) 【 到達目標 】 (1)オフェンスシステムに関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 レベルを高めるためのオフェンスシステムについての指導内容を理解しておく。 | | | |
| 第6回 集団技能・戦術に関するコーチング理論Ⅱ(アタックレシーブフォーメーション) 【 到達目標 】 (1)各フォーメーションの特長の指導について理解する。 【授業時間外学習】 事前に各種アタックレシーブフォーメーションの特徴を理解しておく。 | | | 第14回 コーチング実践Ⅵ(ディフェンスシステム) 【 到達目標 】 (1)ディフェンスシステムに関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 レベルを高めるためのディフェンスシステムについての指導内容を理解しておく。 | | | |
| 第7回 集団技能・戦術に関するコーチング理論Ⅲ(オフェンスシステム) 【 到達目標 】 (1)チームとしてのオフェンスシステムの指導について理解する。 【授業時間外学習】 事前にオフェンスシステムについて理解しておく。 | | | 第15回 指導上の問題点の研究 【 到達目標 】 (1)コーチング実践で明らかになった問題点の解決法を理解する。 (2)中級者指導におけるポイントを明らかにすることができる。 【授業時間外学習】 中級者指導における適切なコーチングのタイミングと課題を理解しておく。 | | | |
| 第8回 集団技能・戦術に関するコーチング理論Ⅳ(ディフェンスシステム) 【 到達目標 】 (1)チームとしてのディフェンスシステムの指導について理解する。 【授業時間外学習】 事前にブロックを含めたディフェンスシステムについて理解しておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 バレーボールの中級者を対象にしたコーチングが授業の焦点であるので、そのための基礎知識と基礎技能が求められる。受講に際しては、不安な知識や技術についてはしっかりと復習して身につけておくこと。 また基本的にグループ単位で演習形式で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅰ(判定競技系B)、スポーツコーチング演習Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 コーチング理論の理解を20%、指導計画の作成を30%、コーチング実践を50%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅱ | | | | 担当者 | 吉田孝久 | |
|---|-----------------------------|---------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅱ | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | | |
| 【目的とねらい】 陸上競技の指導現場では、目標像の動きと現在の達成レベルとの違いを明らかにし、それをもとに目標像へ近づけるための修正過程が求められる。こうしたことは技術種目と呼ばれるフィールド種目に特に求められるが、それにはこれまで行っていない種目（円盤投、やり投、棒高跳等）に取り組むことが有効である。この授業では、こうした種目への取り組みを通じて、陸上競技のさまざまな運動を理解するとともに、コーチングに必要な自己観察と他者観察といった観察力を習得することを目的とする。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 陸上競技（フィールド）種目の競技力の構造 【 到達目標 】 この授業で取り上げる陸上競技種目の特性および各種目の競技力の構造を理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | | 第9回 基本技能（棒高跳）の習得の仕方と指導パターン4 【 到達目標 】 ボックス走路を使った跳躍を実習すると同時に、自分の動きを自己観察することで棒高跳の動きの特性を理解する。また、パートナーとの相互コーチングによって動きの良さ悪しについて把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第2回 基本技能（円盤投）の習得の仕方と指導パターン1 【 到達目標 】 円盤の基本的な持ち方、投げ方とともに安全な実施方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | | 第10回 観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達 【 到達目標 】 相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第3回 基本技能（円盤投）の習得の仕方と指導パターン2 【 到達目標 】 スタンディングからの投てきを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することで円盤投の動きの特性を把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | | 第11回 基本技能（やり投）の習得の仕方と指導パターン1 【 到達目標 】 安全面の配慮、やりの握り方、投げ方を理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第4回 基本技能（円盤投）の習得の仕方と指導パターン3 【 到達目標 】 ターンを伴う投てきを実習すると同時に、パートナーとの相互コーチングによって動きの良さ悪しについて把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | | 第12回 基本技能（やり投）の習得の仕方と指導パターン2 【 到達目標 】 やり投の導入で用いるドリルやジャベリック、やりを使った投てきを実習すると同時に、自分の動きを自己観察することでやり投の動きの特性を把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第5回 観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達 【 到達目標 】 相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | | 第13回 基本技能（やり投）の習得の仕方と指導パターン3 【 到達目標 】 クロスステップとそれを行いながらの投てきを実習すると同時に、パートナーとの相互コーチングによって動きの良さ悪しについて把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第6回 基本技能（棒高跳）の習得の仕方と指導パターン1 【 到達目標 】 ボールの持ち方、ボール歩行から踏切りまでのボールワークを実習する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | | 第14回 観察による改善点の抽出方法と改善方法の伝達 【 到達目標 】 相互コーチングの際に記録した表やVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第7回 基本技能（棒高跳）の習得の仕方と指導パターン2 【 到達目標 】 ボール歩行からボールを持ったランニング（助走）を実習する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | | 第15回 陸上競技のコーチングにおける問題点 【 到達目標 】 この授業で取り上げた3種目の相互コーチング実習から得られたフィードバック情報をもとに、陸上競技の初級・中級者を対象としたコーチングについての問題点について検討する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第8回 基本技能（棒高跳）の習得の仕方と指導パターン3 【 到達目標 】 マットへの着地方法、ボックスへの踏切りを実習すると同時に、パートナーとの相互コーチングによって動きの良さ悪しについて把握する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ・自分の動きについての自己観察、他者の動きについての他者観察によって動きを分析・評価することを心がける。 ・コーチング実習時に提出させる記録表や実習記録として収録したVTRをもとに、自分自身のコーチングについて分析・評価する。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）、（競技力向上のためのトレーニング戦略）、（コーチングマニュアル）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 レベルアップの陸上競技 上級編） | | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系）、スポーツコーチング演習Ⅲ | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 コーチング実習時に提出した記録表、および実習後に行うコーチング内容・方法についての自己分析記録表を60%、また指導実践におけるできばえを40%として評価する。 | | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅲ | | | 担当者 | 北川幸夫 | |
|--|-----------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅲ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 競泳競技における各種泳法およびスタート・ターン・ゴールタッチ等の主要な動きを、最高精協調のレベルまで高めるための方法について検証することを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 トレーニングの原則 【 到達目標 】 適応の原則、漸増負荷の原則等について理解する。 【授業時間外学習】 トレーニングの原則に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第9回 水泳のトレーニング計画① 【 到達目標 】 年間トレーニング計画の立て方を理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニング計画に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第2回 水泳のトレーニング（有酸素性トレーニング①） 【 到達目標 】 水泳パフォーマンスと持久力の関係について理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第10回 水泳のトレーニング計画② 【 到達目標 】 週間トレーニング計画の立て方を理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニング計画に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第3回 水泳のトレーニング（有酸素性トレーニング②） 【 到達目標 】 水泳における持久力を高めるためのトレーニング内容について理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第11回 水泳のトレーニング計画③ 【 到達目標 】 調整期間におけるトレーニング計画の立て方を理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニング計画に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第4回 水泳のトレーニング（無酸素性トレーニング①） 【 到達目標 】 水泳パフォーマンスとスピードやスピード持久力の関係について理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第12回 水泳における心理学 【 到達目標 】 目標設定の仕方やメンタルトレーニング等について理解する。 【授業時間外学習】 心理学に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第5回 水泳のトレーニング（無酸素性トレーニング②） 【 到達目標 】 水泳におけるスピードやスピード持久力を高めるためのトレーニング内容について理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第13回 水泳における栄養学 【 到達目標 】 水泳選手に必要な栄養摂取の方法について理解する。 【授業時間外学習】 栄養学に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第6回 水泳のトレーニング（一般的トレーニング） 【 到達目標 】 水泳で行われる一般的トレーニング内容について理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第14回 水泳における戦術 【 到達目標 】 水泳レースにおけるペース配分等について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ戦術に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第7回 水泳のトレーニング（陸上トレーニング） 【 到達目標 】 競泳競技のための陸上トレーニング内容について理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | 第15回 水泳の競技規則 【 到達目標 】 競泳競技規則や競技の運営方法について理解する。 【授業時間外学習】 競泳競技規則に関する書籍を読み、理解を深める。 | | | |
| 第8回 水泳における競技力検査法 【 到達目標 】 血中乳酸カーブテスト等の水泳における競技力検査法について理解する。 【授業時間外学習】 水泳のトレーニングに関する書籍を読み、理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 この授業を通し、競泳選手に対するトレーニング内容の作成やトレーニング計画の立て方等が出来るように日頃から復習を行うこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツ科学論演習、専門体力トレーニング論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として筆記テストの結果を100%とする。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅲ | | | 担当者 | 小海隆樹 | |
|--|-----------------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅲ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 体操競技における技や演技に関して、競技会の中のどんな厳しい状況でも自在に対応できる、最高精協調のレベルに高めるための方法について理解することを目的とする。そのために、トップレベル選手の実際のトレーニング方法やトレーニングに関する体操競技の指導書を検討していく。その中で、指導者として必要な事柄や、競技結果に重要な役割を担う審判員の条件についても概観していく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 体操競技のトレーニング 【 到達目標 】 (1) 体操競技の特性について理解する。 (2) 体操競技のトレーニング全般を大まかに理解する。 【授業時間外学習】 第1回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第9回 指導者に必要な知識 【 到達目標 】 (1) 動きの指導者の能力を検討する。 (2) 体操競技の指導者の能力を検討する。 【授業時間外学習】 第9回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第2回 跳馬のトレーニング 【 到達目標 】 (1) 跳馬の種目特性を理解する。 (2) 跳馬に必要なトレーニング内容を理解する。 【授業時間外学習】 第2回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第10回 指導者の観察能力 【 到達目標 】 (1) 指導者としての技の観察能力の必要性を理解する。 (2) 具体的な観察方法について理解する。 【授業時間外学習】 第10回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第3回 段違い平行棒のトレーニング 【 到達目標 】 (1) 段違い平行棒の種目特性を理解する。 (2) 段違い平行棒に必要なトレーニング内容を理解する。 【授業時間外学習】 第3回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第11回 指導者の補助能力 【 到達目標 】 (1) 指導者としての補助能力の必要性を理解する。 (2) 具体的な補助方法について理解する。 【授業時間外学習】 第11回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第4回 平均台のトレーニング 【 到達目標 】 (1) 平均台の種目特性を理解する。 (2) 平均台に必要なトレーニング内容を理解する。 【授業時間外学習】 第4回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第12回 採点規則の構造 【 到達目標 】 (1) 採点規則の史的変遷について理解する。 (2) 採点規則の構造について理解する。 【授業時間外学習】 第12回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第5回 ゆかのトレーニング 【 到達目標 】 (1) ゆかの種目特性を理解する。 (2) ゆかに必要なトレーニング内容を理解する。 【授業時間外学習】 第5回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第13回 審判員の条件 【 到達目標 】 (1) 審判員とは何かを理解する。 (2) 他の競技の審判員との違いを理解する。 【授業時間外学習】 第13回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第6回 補助トレーニング 【 到達目標 】 (1) 補助トレーニングの必要性を理解する。 (2) 補助トレーニングの具体的内容と効果を理解する。 【授業時間外学習】 第6回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第14回 審判員に求められる能力 【 到達目標 】 (1) 審判員としてのルール解釈の必要性について理解する。 (2) 審判員としての観察能力・採点能力について理解する。 【授業時間外学習】 第14回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第7回 トップ選手のトレーニングの実態 【 到達目標 】 (1) トップ選手のトレーニング内容を理解する。 (2) トップ選手と各自のトレーニング内容を比較検討する。 【授業時間外学習】 第7回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第15回 体操競技の選手および指導者の能力 【 到達目標 】 (1) 選手として必要な能力を理解する。 (2) 指導者として必要な能力を理解する。 【授業時間外学習】 授業でまとめ上げた「体操競技ノート」を今後の指導に活かせるよう準備する。 | | | |
| 第8回 トレーニングの課題 【 到達目標 】 (1) すべてのトレーニングにおける課題設定の重要性を理解する。 (2) 各自のトレーニング課題を明確にする。 【授業時間外学習】 第8回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 体操競技の指導者となるための知識や考え方を学ぶため、常に指導現場の問題点や課題を頭に思い描けることが必要である。そして、各回での授業内容と学生自身のおかれた立場（選手、指導者、審判員など）とを比較検討することで、授業内容が理解できるようになる。毎回の授業内容をノートにまとめながら、体操競技がわかる「体操競技ノート」を作成する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 <参考書> 「体操競技のコーチング」金子明友（大修館書店） 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習A（器械運動）、スポーツ方法応用演習（器械運動）、スポーツコーチング演習Ⅰ（採点競技系・器械運動）、スポーツコーチング演習Ⅱ（体操競技） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の小レポートの達成度 70% ・ 最終レポートの達成度 30% | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅲ | | | 担当者 | 笹倉清則 | |
|--|-----------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅲ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 ハンドボール競技を中心として、競技力を決定する大きな要素である戦術について、具体的に1980年代から現在に至るまでの世界選手権大会の中で、トップレベルの指導者がどのようなゲーム観を持ってチームを作り、戦術を考案し、戦ってきているかを、映像をみて分析し、そこから戦術の変遷とその重要性を理解する。そこで指導者としての基礎的なものを身につける。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 球技のコーチに必要な「ゲーム構想」とそれに基づく戦術、そして技術の変遷を世界のハンドボールの発展を題材に、世界の指導者がどのように戦術を先取りし実践しているかを理解する。 【授業時間外学習】 1970年代のハンドボールを取り巻く環境やルールについてレポート作成する。 | | | 第9回 2000年代序盤の戦術 【 到達目標 】 2000年代序盤に攻撃戦術を変化させるルール変更があり、それによって、各国の指導者がより攻撃に重点をおいた結果、色々な局面で大きな変化がみられた。その変化とコンセプトを理解する。 【授業時間外学習】 2000年代中盤の戦術変化の考察をする | | | |
| 第2回 1980年代序盤の戦術 【 到達目標 】 1980年代序盤半に11人制ハンドボールの影響を受けた1970年代のハンドボールから、ポジションプレイが発生した過程の攻撃戦術の変化と防禦戦術の変化を理解する。 【授業時間外学習】 1980年代のハンドボールを取り巻く環境やルールについてレポート作成する。 | | | 第10回 2000年代中盤の戦術 【 到達目標 】 2000年代中盤の攻撃戦術の変化とコンセプトの理解、及び各国で構想された防禦戦術の傾向やコンセプトを理解する。 【授業時間外学習】 2000年代中盤からそれ以降のハンドボールの戦術を考察する。 | | | |
| 第3回 1980年代中盤の戦術 【 到達目標 】 1980年代序盤から中盤にかけての防禦戦術の変化とそれに伴う攻撃戦術の変化を理解する。また世界を先取りする指導者の構想と具体的な戦術についても理解する。 【授業時間外学習】 1970年代から80年代への戦術変化の学習を基に、80年代後半のハンドボールの戦術変化を考察する。 | | | 第11回 現在のハンドボールの戦術 【 到達目標 】 現在の最新のハンドボールの攻撃・防禦戦術の傾向を理解し、あわせて今後の世界の進む方向性を予測する。 【授業時間外学習】 これまでのハンドボールの戦術変遷を基に、ハンドボールの指導者の考え方をまとめる。 | | | |
| 第4回 1980年代終盤の戦術 【 到達目標 】 1980年代終盤の戦術の、特に大きく変化した防禦戦術の各指導者の考え方やそれに対する攻撃戦術の発生過程を理解する。 【授業時間外学習】 1980年代の終盤のハンドボールとこれまでの傾向を基に、90年代初めの戦術変化を考察する。 | | | 第12回 ハンドボールの戦術変遷と指導者の考え方 【 到達目標 】 これまでの授業の中で重要視してきた指導者のゲーム構想が、戦術を変えて世界を変化させ、それがまた新たな指導者によって破られてきた変遷を理解すると同時に、指導者の重要性を再確認する。 【授業時間外学習】 ゲーム構想と戦術、そして実際のトレーニングの構造を理解し、まとめる。 | | | |
| 第5回 1990年代序盤の戦術 【 到達目標 】 1990年代序盤にみられた積極的防禦が、どのように崩され、そして新たな防禦戦術の考え方と新戦術が発生したかについて理解する。 【授業時間外学習】 これまでの講義から1980年代の戦術変化を考察する。 | | | 第13回 日本のハンドボールの戦術の変遷 【 到達目標 】 世界の戦術の変遷と比較しながら日本の戦術の変遷をみて、日本の指導者の戦術というものに対する理解を把握する。 【授業時間外学習】 日本のハンドボールを振り返り、世界に向かう指導者としての構想、戦術の考案をする。 | | | |
| 第6回 1990年代中盤の戦術 【 到達目標 】 1990年代中盤からみられる各指導者の防禦に対するコンセプトやそれに応じた防禦戦術のそれぞれの特色を理解する。 【授業時間外学習】 これまでの戦術変化を基に1990年代終盤の戦術変化を考察する。 | | | 第14回 日本と世界のハンドボールの戦術比較 【 到達目標 】 これまでの世界の戦術と日本の戦術の変遷を比較し、日本の目指すべき方向について考え、今後の世界の中での日本のハンドボールを理解する。 【授業時間外学習】 講義や各受講者の意見から、本授業での1つの指導者論を考察する | | | |
| 第7回 1990年代終盤の戦術 【 到達目標 】 1990年代終盤にこれまでの防禦中心のハンドボールから攻撃中心へと変化した攻撃戦術の発生とそのコンセプトを理解する。また攻撃戦術の新たなコンセプトについても理解する。 【授業時間外学習】 一般的に言われる、ハンドボール戦術の1サイクルである60年代から90年代までをまとめる。 | | | 第15回 この講義の主題である指導者の考える「ゲーム構想」の重要性を再確認する。 【 到達目標 】 1970年代から現在までのハンドボールの戦術変遷とそれに関わる指導者の考え方、いわゆる「ゲーム構想」を基に指導者の重要性を理解する。また、戦術の発展がそのまま指導の発展段階と繋がることを理解する。 【授業時間外学習】 指導者の知識としての戦術変遷の学習の必要性、ゲーム構想から具体的な戦術やトレーニングを考案する重要性、指導段階(ステップ)に関してレポートを作成し、理解する。 | | | |
| 第8回 1990年代の日本の戦術 【 到達目標 】 90年代後半に熊本で行われた男子の世界選手権大会を題材に、日本が世界と戦うにあたり外国人指導者によりどのようにその戦術に変化がみられたかを理解する。 【授業時間外学習】 新たなサイクルとなる2000年代はじめのハンドボールの戦術を考察する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ハンドボール経験者が受講生に多くいるが、その学生は現在のハンドボールから遡るのではなくハンドボール発生からこれまでを時間の経過と同時進行で捉えることが重要となる。そのなかでコーチング演習としての仕上げとして、指導者の考え方がいかに試合に反映し結果を生み出すかを理解する。また、ハンドボール経験以外の学生は他種目の戦術の変遷から自分の種目に置き換えて考えることが大切である。また、指導者の考え方はどの種目も同様であるため、コーチング演習の仕上げとして捉えることが重要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の授業の中での映像を観ての分析報告が30%、全員に渡している記録用紙の記載の仕方やまとめ方30%、最終的なまとめのレポート評価40%。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅲ | | | 担当者 | 佐々木直基 | |
|---|-----------------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅲ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 バスケットボール競技について、本質的特性を学習した上で指導の理論的背景について理解し、コート上での実習や指導実践を通してコーチング法を学習することが目的である。2年次履修のスポーツコーチング演習Ⅰおよび3年次履修のスポーツコーチング演習Ⅱで習得したコーチング法を、さらに専門的に深めることもねらいとなる。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方を理解する。 【授業時間外学習】 バスケットボール競技の特性について調べる。 | | | 第9回 スカウティング、戦術決定と試合への準備 【 到達目標 】 (1)相手チームに対する情報収集の仕方を習得する。 (2)スカウティングした内容をもとに戦術を決定する方法を習得する。 (3)試合への準備期間のコーチング法を習得する。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | |
| 第2回 バスケットボール競技の構造とコーチングに必要な知識 【 到達目標 】 (1)バスケットボール競技を構成する要素を理解する。 (2)バスケットボールをコーチングする際に必要な知識を得る。 【授業時間外学習】 自らの経験を振り返り、構成要素のうち、何を中心に学び、プレイしてきたのかを考える。 | | | 第10回 ゲーム中のコーチング 【 到達目標 】 (1)選手起用についての基本的な考え方を理解する。 (2)タイムアウトの活用方法について理解する。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | |
| 第3回 指導の実践 【 到達目標 】 (1)何を指導すべきかを理解する。 (2)どのような順序で指導すべきかを理解する。 【授業時間外学習】 講義の内容とこれまで受けてきた指導を合わせ、自らが指導する際のイメージをつくる。 | | | 第11回 特別な選手の育成①大型選手 【 到達目標 】 (1)大型選手をコーチングする際の留意点を知る。 (2)大型選手の育成方法を習得する。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | |
| 第4回 バスケットボールの技術戦術①リバウンド 【 到達目標 】 (1)リバウンドの重要性を理解、再認識する。 (2)リバウンドのコーチング法を探る。 【授業時間外学習】 リバウンドの位置づけについて考え、今後の活動を具体的に検討する。 | | | 第12回 特別な選手の育成②ゲームメーカー 【 到達目標 】 (1)バスケットボールにおけるゲームメーカーの役割を知る。 (2)ゲームメーカーの育成方法を習得する。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | |
| 第5回 バスケットボールの技術戦術②個人のディフェンス 【 到達目標 】 (1)ディフェンスにおける基礎知識の理解とコーチング法の習得。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | 第13回 アンダーカテゴリーの指導 【 到達目標 】 (1)アンダーカテゴリーの選手育成の基本的知識を得る。 (2)世界の選手育成について知識を得る。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | |
| 第6回 バスケットボールの技術戦術③個人のオフェンス 【 到達目標 】 (1)個人オフェンスにおける基礎知識の理解とコーチング法の習得。 (2)最新の技術について学び、実践できるようになる。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | 第14回 ゲームプラン 【 到達目標 】 (1)バスケットボールの試合におけるベース配分についての基本的知識を得る。 (2)チームの特徴や相手チームに応じたゲームプランを計画することができる。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | |
| 第7回 バスケットボールの戦術①最新の戦術（オフェンス） 【 到達目標 】 (1)NBAや世界選手権といったトップレベルにおける最新戦術を知る。 (2)最新の戦術についてのコーチング法を検討する。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | 第15回 総合的検証 【 到達目標 】 (1)これまでの講義、指導実践を通して得たコーチング法について総合的に分析し、今後のコーチング法について総合的に検証する。 【授業時間外学習】 総合的に検証したことを踏まえて、本演習で理解・習得したことを整理する。 | | | |
| 第8回 バスケットボールの戦術①最新の戦術（ディフェンス） 【 到達目標 】 (1)NBAや世界選手権といったトップレベルにおける最新戦術を知る。 (2)最新の戦術についてのコーチング法を検討する。 【授業時間外学習】 授業の内容を踏まえ、今後の活動を具体的に検討する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 バスケットボールコートにおける実習を含むため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。また、ナンバリング（ゼッケン）を一人ずつ購入し、授業時には必ず着用する。またグループ毎に活動することも多いため、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受けること。また、実際の指導実践では、事前の準備が非常に重要であるため、授業時以外での努力が必要である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に教科書は指定しない。 「バスケットボールの指導教本」日本バスケットボール協会編（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習C（バスケットボール）、スポーツ方法応用演習（バスケットボール）、スポーツコーチング演習Ⅰ・Ⅱ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 平常授業での到達目標に対する到達度を30%、課題レポートを70%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅲ | | | 担当者 | 橋爪みすず | |
|--|-----------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅲ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 新体操の採点規則の概要を理解すると共に、競技会レベルの作品の構成法や、実際の演技の審判法を大会のVTRによって学習する。具体的に班別に団体演技の創作を行いシンボルマークによって申告書を作成する。審判の実践力を身に付けるために、創作し発表された演技を採点する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業のオリエンテーション 【 到達目標 】 指導者になることを前提に、自己の意識と指導法、創作法を学習する事を理解する。特に団体体操についての採点規則を再度詳しく理解する。 【授業時間外学習】 団体の競技規則を確認し理解を深めておく。 | | | 第9回 具体的演技の創作（班学習）1 【 到達目標 】 前半で学習した内容を体育館で創作の実践を行う。各班で使用する手具を決める。 【授業時間外学習】 手具の特性を調べておく。 | | | |
| 第2回 採点法についてスポーツコーチング演習Ⅱで学習したものを復習する 【 到達目標 】 体操についての採点規則を再度詳しく理解する。 【授業時間外学習】 構成と実施の採点規則を復習しておく。 | | | 第10回 具体的演技の創作（班学習）2 【 到達目標 】 各班で使用する音楽を用意し、具体的に振り付けを行う。 【授業時間外学習】 音楽のテーマ性を規則に従って理解し音楽の候補を準備する。 | | | |
| 第3回 団体演技の難度の構成と作品創りについて 【 到達目標 】 団体体操は、5名の選手による集団の作品であり組合せが主になる。その内容を理解する。 【授業時間外学習】 様々な団体の演技を映像で見えておく。 | | | 第11回 具体的演技の創作（班学習）3 【 到達目標 】 交換の数、連係の数を整理する。 【授業時間外学習】 映像を見て、交換と連係の組み合わせを学んでおく。 | | | |
| 第4回 団体演技の連係の創り方と独創性について 【 到達目標 】 5人での組合せの中で人と人、手具と人等の連係をその組合せから独創性を見出す。 【授業時間外学習】 複数の演技を比較し、独創性の違いについて考えておく。 | | | 第12回 具体的演技の創作（班学習）4 【 到達目標 】 演技を最後まで振り付け、ミスのない演技になる様、実践を重ねる。 【授業時間外学習】 ミスをなくすための方法を考えておく。 | | | |
| 第5回 団体演技の手具交換の方法と難度の数え方 【 到達目標 】 団体体操の一番の特徴である交換の方法を理解する。 【授業時間外学習】 いくつかの交換の方法を考えておく。 | | | 第13回 発表と評価 【 到達目標 】 班別に発表、互いに採点する。 【授業時間外学習】 競技会の規則に則って行うよう規則を確認しておく。 | | | |
| 第6回 団体演技の難度の評価について 【 到達目標 】 交換難度と徒手難度のカウントについて詳しく理解する。 【授業時間外学習】 競技規則を読み理解を深めておく。 | | | 第14回 シンボルマークによる申告書提出 【 到達目標 】 申告書に演技全体をシンボルマークで記述し、提出する。 【授業時間外学習】 PCで作成し、各自のサインしたものを準備する。 | | | |
| 第7回 DVDによる演技の分析（交換難度） 【 到達目標 】 映像から交換難度を分析し点数化できる。 【授業時間外学習】 団体競技の映像を見て、交換を書き出して確認しておく。 | | | 第15回 創作演技発表 【 到達目標 】 団体操2分30秒の演技を班毎に創作し発表する。申告書を基に採点をする。 【授業時間外学習】 客観的評価に必要な知識を確認し採点練習をしておく。 | | | |
| 第8回 DVDによる演技の分析（徒手難度） 【 到達目標 】 映像から徒手難度を分析し点数化できる。 【授業時間外学習】 団体競技の映像を見て、徒手難度を書き出し確認しておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 採点規則熟知と演技創作の実践の両方を学習し、中学校・高校・スポーツクラブでしっかり指導出来る所までこぎつける。各授業は深く関連しているため、一回一回が積み重ねとなるため授業欠席は著しく進歩を妨げるので休まない事。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「新体操教本」「採点規則集」（日本体操協会作成） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅱ、スポーツ方法基礎演習（新体操）、スポーツ方法応用演習（新体操） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業における課題達成度70%、実技試験30%で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅲ | | | 担当者 | 湯澤芳貴 | |
|---|-----------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅲ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 バレーボールにおけるコーチングについて、中級者レベル以上に必要となってくるゲーム中の主要な戦術、各ポジションの専門的な役割、ボールの動きに関して自由自在に対応できるようにする能力、ゲームの様々な場面での状況判断能力を高めるための指導体系を明らかにし、その理論を理解しながら指導の場で実践する。また、バレーボールに効果的なウォーミングアップ方法やトレーニング方法についても学ぶ。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 トップレベルに対するコーチング理論 【 到達目標 】 (1) トップレベルに必要な戦術・戦略の発展について理解する。 (2) 様々な場面での状況判断能力を高める方法を理解する。 【授業時間外学習】 トップレベルで用いられる戦術・戦略について理解しておく。 | | | 第9回 コーチング演習Ⅴ(ゲームの様々な場面での状況判断) 【 到達目標 】 (1) ゲーム中の状況判断に関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 チームとして味方選手と協調し、それぞれに対応する動きを理解しておく。 | | | |
| 第2回 各ポジションの専門的な役割 【 到達目標 】 (1) ポジションの専門的な役割・プレーの分業について理解する。 【授業時間外学習】 事前にバレーボールの各ポジションの役割について理解しておく。 | | | 第10回 コーチング理論Ⅵ(バレーボールに効果的なトレーニング) 【 到達目標 】 (1) 効果的なトレーニングに関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 バレーボールの競技特性から効果的なトレーニング理論について理解しておく。 | | | |
| 第3回 各レシーブ局面・ゲームの様々な場面での状況判断 【 到達目標 】 (1) レシーブにおける状況判断について理解・実践できる。 (2) ゲーム中のチームとしての動きを理解・実践できる。 【授業時間外学習】 ゲーム中の様々な状況判断のポイントについて理解しておく。 | | | 第11回 指導上の問題点の研究 【 到達目標 】 (1) コーチング実践で明らかになった問題点の解決法を理解する。 (2) トップレベルの指導でのポイントを明らかにすることができる。 【授業時間外学習】 トップレベルの指導での適切なコーチングのタイミングと課題を理解しておく。 | | | |
| 第4回 バレーボールに効果的なウォーミングアップ・トレーニング 【 到達目標 】 (1) 動きに即し、障害予防を考慮したウォーミングアップ法を理解する。 (2) スピード・パワーを意識したトレーニング法を理解する。 【授業時間外学習】 事前にバレーボール特有の動きや体の使い方等について理解しておく。 | | | 第12回 ゲーム中のコーチング(タイムアウト・メンバーチェンジ) 【 到達目標 】 (1) ゲーム中のベンチワーク(タイムアウト・メンバーチェンジ)について理解する。 【授業時間外学習】 ベンチワークの適切なタイミングと目的について理解しておく。 | | | |
| 第5回 コーチング実践Ⅰ(バレーボールに効果的なウォーミングアップ) 【 到達目標 】 (1) 効果的なウォーミングアップ法に関する指導を実践できる。 【授業時間外学習】 ウォーミングアップの理論とその目的について理解しておく。 | | | 第13回 勝利のためのコーチング理論Ⅰ(連続ポイント) 【 到達目標 】 (1) 連続ポイントに必要な技術・戦術を理解する。 (2) データを取りながらそれらを検証することができる。 【授業時間外学習】 勝利を獲得するために必要な連続ポイントについて理解しておく。 | | | |
| 第6回 コーチング実践Ⅱ(サイドアタッカー・リベロに対するコーチング) 【 到達目標 】 (1) サイドアタッカーの役割を考慮した指導を実践できる。 (2) レシーブの中心となるリベロの役割を考慮した指導を実践できる。 【授業時間外学習】 事前にサイドアタッカー・リベロのポジション特性について理解しておく。 | | | 第14回 勝利のためのコーチング理論Ⅱ(攻撃組み立て) 【 到達目標 】 (1) 勝利に必要な攻撃組み立て能力と攻撃決定能力について理解する。 (2) データを取りながらそれらを検証することができる。 【授業時間外学習】 勝利を獲得するために必要な攻撃組み立てについて理解しておく。 | | | |
| 第7回 コーチング実践Ⅲ(センタープレイヤー・セッターに対するコーチング) 【 到達目標 】 (1) 速攻・ブロックの中心となるセンタープレイヤーの指導を実践できる。 (2) チームのつなぎの中心となるセッターの指導を実践できる。 【授業時間外学習】 事前にセンタープレイヤー・セッターのポジション特性について理解しておく。 | | | 第15回 勝利のためのコーチング理論Ⅲ(相手への対応) 【 到達目標 】 (1) 相手を考慮した戦略の組み立てができる。 (2) 相手の戦術・戦略を分析し、それに対応することができる。 【授業時間外学習】 勝利を獲得するために必要な相手への対応について理解しておく。 | | | |
| 第8回 コーチング実践Ⅳ(各レシーブ局面での状況判断) 【 到達目標 】 (1) 各レシーブ局面の状況判断を意識した指導を実践できる。 【授業時間外学習】 フォーメーションや相手攻撃に応じた状況判断を理解しておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 バレーボールのトップレベルを対象にしたコーチングが授業の焦点であるので、そのための基礎知識と基礎技能が求められる。受講に際しては、不安な知識や技術についてはしっかりと復習して身につけておくこと。 また基本的にグループ単位で演習形式で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅰ(判定競技系B)、スポーツコーチング演習Ⅱ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 コーチング理論の理解を20%、指導計画の作成を30%、コーチング実践を50%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング演習Ⅲ | | | 担当者 | 吉田孝久 | |
|---|-----------------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sport Coaching Ⅲ | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 陸上競技の中上級者を対象に、各種目における主要な動きを精協調から最高精協調のレベルまで高めるための方法について、トレーニング実践と指導実践を通して検証することを目的とする。特に、試合準備と試合における最高達成を目指す上で、準備すべき内容について、習熟レベルごとに検討する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 陸上競技の競技力の構造 【到達目標】 陸上競技の特性および各種目の競技力の構造を理解する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | 第9回 陸上競技の試合練習の方法 【到達目標】 目標試合で最大達成を得るための練習の組み立て方について理解を深める。その中でも、試合練習を中心に取り上げ、意見交換をする。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第2回 運動観察による「改善点」の見抜き 【到達目標】 ある種目の基本的動きを実習する中で、他者の動きを観察してそこから改善点を抽出する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | 第10回 試合準備期の練習と試合期の練習内容 【到達目標】 目標試合で最大達成を得るための練習の組み立て方について理解を深める。その中でも、ピーキングの作り方を取り上げ、意見交換をする。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第3回 コーチングのためのプログラム作成1 【到達目標】 ある動きの問題点を改善するための年間トレーニング計画を立案する。その計画立案に際しての基本コンセプトについて発表する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | 第11回 トップ選手の動きからのヒントについて 【到達目標】 トップ選手が高いパフォーマンスを可能にしている「動き」の特徴をピックアップして、その動きの形成過程や練習の仕方についてアプローチを試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第4回 コーチングのためのプログラム作成2 【到達目標】 前回の年間トレーニング計画をもとに、準備期を前半・後半に分け、それぞれのプログラムを立案する。一人のプログラムを参考に意見交換を行う。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | 第12回 修正内容を選手へ伝達する方法 【到達目標】 相互コーチングの際に記録した記録表とVTRを用いて、観察による改善点の抽出および改善方法の伝達について分析評価を試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第5回 パートナーとの相互コーチング実習 【到達目標】 コーチ役、選手役を決め、実習の中で相互のコーチングを行う。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | 第13回 試合・記録会における失敗因子の分析とその対処方法 【到達目標】 関東インターカレッジ、日本インターカレッジの試合展開（試合成績、VTRなど）をもとに、試合における失敗因子を抽出する。それらの対処法について意見交換を行う。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第6回 グループ対象のコーチング実習1 【到達目標】 中学生陸上部のハードル選手、走幅跳を対象とした講習会を想定し、そこでのコーチング実習を行う。コーチ役、選手役ともにコーチングに関する感想・意見を記録し、最後に意見交換を行う。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | 第14回 トレーニングでのおかしやすい問題点とその対処法 【到達目標】 過去のトレーニング実践を振り返り、繰り返しおかし失敗を抽出する。それらの原因を明らかにし、その対処法について意見交換を行う。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第7回 グループ対象のコーチング実習2 【到達目標】 中学生陸上部のハードル選手、走幅跳を対象とした講習会を想定し、そこでのコーチング実習を行う。コーチ役、選手役ともにコーチングに関する感想・意見を記録し、最後に意見交換を行う。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | 第15回 陸上競技のコーチングに関する展望 【到達目標】 国内外の陸上競技の動向に関する情報をもとに、競技力向上についてその傾向を展望する。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | |
| 第8回 試合において成功を取るための条件群について 【到達目標】 受講生の経験をもとに試合準備・試合での失敗例・成功例をあげ、そこから問題点の抽出を試みる。 【授業時間外学習】 授業での該当箇所の情報収集と教科書・参考書を精読する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ・自分の動きについての自己観察、他者の動きについての他者観察によって動きを分析・評価することを心がける。 ・レベルの高い動きを見抜く力の養成とその動きを獲得するための練習内容を探し出すことを目指す。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）、（競技力向上のためのトレーニング戦略）、（コーチングマニュアル）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編）、（陸上競技指導教本アンダー16・19 レベルアップの陸上競技 上級編） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系）、スポーツコーチング演習Ⅱ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 コーチング実習時に提出した記録表、および実習後に行うコーチング内容・方法についての自己分析記録表を60%、また指導実践におけるできばえを40%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツコーチング特別演習 | | | 担当者 | 柴田雅貴 | |
|---|------------------------------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Advanced Seminar in Sport Coaching | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 4 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 この授業は、スポーツコーチング演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの最終授業として、コーチング能力の実践的な知識や能力を拡大させることをねらいとして行われる。大学で開講されている実習を中心とした授業（スポーツ方法実習、スポーツ方法基礎演習、スポーツ方法応用演習、スポーツコーチング演習など）に参加し、授業担当教員の指導に基づいた指導計画に沿って、指導の現場に立ち会う。そこで行われた指導内容・指導方法の評価・検討・修正に携わることで、実践的なコーチングの学習を展開する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 コーチング特別演習の目的と内容 【到達目標】 (1)この授業の目的と内容を理解する。 (2)授業の具体的な計画を立案する。 【授業時間外学習】 第2回～第7回の各授業への参加と指導のための具体的な準備をする。 | | | 第9回 各授業への参加と指導方法の学習⑦ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | |
| 第2回 各授業への参加と指導方法の学習① 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | 第10回 各授業への参加と指導方法の学習⑧ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | |
| 第3回 各授業への参加と指導方法の学習② 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | 第11回 各授業への参加と指導方法の学習⑨ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | |
| 第4回 各授業への参加と指導方法の学習③ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | 第12回 各授業への参加と指導方法の学習⑩ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | |
| 第5回 各授業への参加と指導方法の学習④ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | 第13回 各授業への参加と指導方法の学習⑪ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | |
| 第6回 各授業への参加と指導方法の学習⑤ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | 第14回 各授業への参加と指導方法の学習⑫ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | |
| 第7回 各授業への参加と指導方法の学習⑥ 【到達目標】 (1)授業担当教員の指導内容・方法を理解する。 (2)行われた授業について、評価・検討を行う。 【授業時間外学習】 参加した授業に関するレポートをまとめる。 | | | 第15回 実習成果の報告と報告書の提出 【到達目標】 (1)参加した授業について報告をする。 (2)報告書の提出。 【授業時間外学習】 授業全体で得た知識、経験をもとに今後の指導に役立つ内容をまとめる。 | | | |
| 第8回 中間報告と次への課題 【到達目標】 (1)参加した授業について報告をする。 (2)これから参加する授業の具体的な計画を立案する。 【授業時間外学習】 中間報告をもとに第9回以降の授業への参加と指導の具体的な準備を進める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 スポーツコーチング演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで習得した指導内容や方法に関する知識が、実際の指導でどのように生かされるのかを常に考えながら参加すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に指定しない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習A、B、C、スポーツコーチング演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ | | | | | | |
| 【成績評価方法】 最終報告書によるコーチングの実施状況と達成度 100% | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 科目名 | スポーツコンディショニング演習A (体カトレーニングの生理学) | | 担当者 | 加茂美冬 | | |
| 英文名 | Seminar in Sport Conditioning A (Physiology of Fitness Training) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 競技者とコンディショニングの測定、評価法に関して実習を行うことにより、手法の習得とともに、コンディショニングを科学的に捉える視点を養成する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 コンディショニングとは 【 到達目標 】 コンディショニングの測定、評価について概説する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第9回 呼吸循環機能の測定(1) 【 到達目標 】 呼吸循環機能の測定方法を理解し、測定する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第2回 神経、筋機能の測定(1) 【 到達目標 】 等速性筋力の測定方法を理解し、測定を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第10回 呼吸循環機能の測定(2) 【 到達目標 】 一定負荷運動時の循環機能の測定方法を理解し、測定する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第3回 神経、筋機能の測定(2) 【 到達目標 】 生体電気信号の記録方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第11回 呼吸循環機能の測定(3) 【 到達目標 】 漸増負荷運動時の呼吸循環機能の測定方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第4回 神経、筋機能の測定(3) 【 到達目標 】 筋電図により運動中の筋活動を記録する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第12回 呼吸循環機能の測定(4) 【 到達目標 】 漸増負荷運動時の呼吸循環機能を測定する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第5回 測定結果の解析方法について 【 到達目標 】 測定結果の解析、評価方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第13回 測定結果の解析 【 到達目標 】 測定結果の解析を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第6回 測定結果の解析 【 到達目標 】 測定結果の解析を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第14回 測定結果のプレゼンテーションと検討(1) 【 到達目標 】 測定結果のプレゼンテーションおよび検討を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第7回 測定結果のプレゼンテーション 【 到達目標 】 測定結果のプレゼンテーションの方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | 第15回 測定結果のプレゼンテーションと検討(2) 【 到達目標 】 測定結果のプレゼンテーションおよび検討を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | |
| 第8回 測定結果のプレゼンテーションと検討 【 到達目標 】 測定結果のプレゼンテーションおよび検討を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を配布資料および自筆ノートを元に復習する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 グループ毎に測定、解析および発表を行うが、レポートは個人で作成する。測定に際して服装や持ち物を指示する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 資料を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツコンディショニング論、スポーツ生理学、スポーツ医学 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業中の測定に対する取り組み方(30%)、与えられた課題に関するレポート(40%)と発表(30%)を基に評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|--|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 科目名 | スポーツコンディショニング演習B (スポーツ選手の栄養学) | | 担当者 | 古泉佳代 | | |
| 英文名 | Seminar in Sport Conditioning B (Nutrition for Athlete) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 これまで学んだ知識を実践を通して身につけることが目的である。栄養状態の評価のために、身体組成を測定するとともに生活活動及び運動中の身体活動量を測定し、栄養素摂取状況を把握する。また、競技特性、目的に適した食事を計画し調理実習を実施することで、競技者及び指導者として、具体的な食事調整法及び実践的な食生活改善法を身につける。選手として日常生活での実践を目指すだけでなく、指導者としてもコンディショニングを維持するための栄養面からのアプローチ法を理解する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)授業の概要、実習に必要な心構えを知る。 【授業時間外学習】 栄養学入門、スポーツ栄養学の復習をする。 | | | 第9回 栄養素等摂取状況の評価③ 【 到達目標 】 (1)不足しがちな食品、栄養素を補える献立を考案できる。 (2)考案した献立を調理できる。 【授業時間外学習】 調理した献立の特徴をまとめる。 | | | |
| 第2回 身体計測① 【 到達目標 】 (1)様々な身体組成の測定方法を知り、実測できる。 (2)各種測定方法の特徴に気付く。 【授業時間外学習】 測定結果を計算する。 | | | 第10回 栄養素等摂取状況の評価④ 【 到達目標 】 (1)簡単に作れる補食を考案できる。 (2)実際に補食を調理、評価することができる。 【授業時間外学習】 調理した献立の特徴をまとめる。 | | | |
| 第3回 身体計測② 【 到達目標 】 (1)様々な身体組成の測定方法を知り、実測できる。 (2)各種測定方法の特徴に気付く。 【授業時間外学習】 測定結果を検討する。 | | | 第11回 栄養素等摂取状況の評価⑤ 【 到達目標 】 (1)各自の食事記録からエネルギー及び栄養素の摂取量を算出できる。 (2)食事摂取基準と比較し考察できる。 【授業時間外学習】 3日間の食事記録を作成する。 | | | |
| 第4回 体力測定 【 到達目標 】 (1)身体組成に関連する体力測定を実施することができる。 【授業時間外学習】 体力測定結果を計算する。 | | | 第12回 栄養素等摂取状況の評価⑥ 【 到達目標 】 (1)栄養素等摂取状況と身体組成の関連を分析することができる。 (2)栄養素等摂取状況と身体組成の関連について考察できる。 【授業時間外学習】 不足しがちな栄養素を補う献立を考える。 | | | |
| 第5回 身体組成と体力の関連① 【 到達目標 】 (1)身体組成及び体力測定のデータを分析することができる。 【授業時間外学習】 測定結果をグラフや表にまとめ、分析する。 | | | 第13回 身体活動量の評価① 【 到達目標 】 (1)安静時の活動量の測定方法を知り、実測及び算出できる。 (2)推定値と比較し、誤差の要因を考察できる。 【授業時間外学習】 日常生活での身体活動量を推定する。 | | | |
| 第6回 身体組成と体力の関連② 【 到達目標 】 (1)身体組成と体力の関連を考察することができる。 【授業時間外学習】 測定結果を統計的に分析し、まとめる。 | | | 第14回 身体活動量の評価② 【 到達目標 】 (1)運動時の活動量を測定し、身体活動強度との関連を考察できる。 (2)各種測定方法の特徴を理解し、測定できる。 【授業時間外学習】 日常生活でのスポーツや生活活動の身体活動量を推定する。 | | | |
| 第7回 栄養素等摂取状況の評価① 【 到達目標 】 (1)市販のお弁当の栄養素を評価できる。 (2)市販のお弁当の特徴に気づき、自分自身の食生活を考察する。 【授業時間外学習】 アスリートにとって最適な昼食を考える。 | | | 第15回 身体活動量の評価③ 【 到達目標 】 (1)安静時及び運動時の身体活動量について考察できる。 (2)食事、身体組成、体力、身体活動量の関連に気付く。 【授業時間外学習】 食事、身体組成、体力、身体活動量のバランスのとれた生活を実践する方法を考える。 | | | |
| 第8回 栄養素等摂取状況の評価② 【 到達目標 】 (1)市販のお弁当の特徴を発表することができる。 (2)不足している食品、栄養素に気づき補う方法を考案できる。 【授業時間外学習】 昼食の栄養分析結果を考察する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ・実習のできる服装、持ち物を用意する。 ・授業時間内に終わらない課題があった場合や、欠席した場合は資料を受け取り、次週までに課題をすすめる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 ・「ビジュアルワイド食品成分表 文部科学省科学技術・学術審議会 資源調査分科会 報告 五訂増補日本食品標準成分表」東京書籍 | | | | | | |
| 【関連科目】 栄養学入門、スポーツ栄養学 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業ごとの小レポート(60%)、期末レポート(40%)として評価する。 出席を重視するため、良好な出席状況は当然である。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|--|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 科目名 | スポーツコンディショニング演習C (スポーツ選手の心理学) | | 担当者 | 佐々木万丈 | | |
| 英文名 | Seminar in Sport Conditioning C (Psychology for Athletes) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の區別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 | | | | | | |
| より良いパフォーマンスを発揮するための心理的コンディショニングについて、その理論的背景や方法に関する基礎的知識を学び、体験や実習を通じて実践する力を身に付けることが本演習の目的である。1年次履修のスポーツ心理学で示された選手の心理的課題を、具体的に解決するための理論や方法を実地に学ぶことが本演習のねらいである。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 スポーツと心理的コンディショニング：概論 【 到達目標 】 (1)心理的コンディショニングに関わる内容や用語が説明できる。 (2)心理的コンディショニングの必要性を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 メンタルマネジメント、メンタルトレーニング、メンタルスキルの概念を整理する。 | | | 第9回 イメージトレーニング1、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習8 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)イメージトレーニング技法の留意事項を理解し、説明できる。 (2)自律訓練法第2公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。 【授業時間外学習】 一般的イメージ、漸進的筋弛緩法、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。 | | | |
| 第2回 心理検査概論、自律訓練法概論および実習1 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)心理検査の目的、利用上の留意点を理解し、説明できる。 (2)自律訓練法実施上の留意点を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 心理検査の目的、留意点、種類を整理する。呼吸法とATの練習及び練習結果をまとめる。 | | | 第10回 イメージトレーニング2、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習9 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)イメージトレーニング技法の留意事項に従い実践できる。 (2)自律訓練法第2公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。 【授業時間外学習】 最高パフォーマンスのイメージ練習、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。 | | | |
| 第3回 心理検査(1)：TSMI、自律訓練法実習2 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)TSMIの目的と実施法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。 (2)自律訓練法第1公式を留意事項に注意しながら実践できる。 【授業時間外学習】 TSMIの結果に基づき自己を分析・考察する。呼吸法とATの練習及び練習結果をまとめる。 | | | 第11回 イメージトレーニング3、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習10 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)イメージトレーニング技法の留意事項に従い実践できる。 (2)自律訓練法第2公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。 【授業時間外学習】 最高パフォーマンスのイメージ練習、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。 | | | |
| 第4回 心理検査(2)：DIPCAIII、自律訓練法実習3 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)DIPCAIIIの目的と実施法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。 (2)自律訓練法第1公式を留意事項に注意しながら実践できる。 【授業時間外学習】 DIPCAIIIの結果に基づき自己を分析・考察する。呼吸法とATの練習及び練習結果をまとめる。 | | | 第12回 イメージトレーニング4、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習11 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)イメージトレーニング技法の留意事項に従い実践できる。 (2)自律訓練法第2公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。 【授業時間外学習】 パフォーマンス課題のイメージ練習、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。 | | | |
| 第5回 心理検査(3)：POMS、自律訓練法実習4 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)POMSの目的と実施法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。 (2)自律訓練法第1公式を留意事項に注意しながら実践できる。 【授業時間外学習】 POMSの結果に基づき自己を分析・考察する。呼吸法とATの練習及び練習結果をまとめる。 | | | 第13回 イメージトレーニング5、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習12 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)IZOF理論を理解し、情動コントロール技法を実践できる。 (2)自律訓練法第1公式+第2公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。 【授業時間外学習】 パフォーマンス課題のイメージ練習、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。 | | | |
| 第6回 心理検査(4)：日本版STAI、自律訓練法実習5 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)STAIの目的と実施法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。 (2)自律訓練法第1公式を留意事項に注意しながら実践できる。 【授業時間外学習】 STAIの結果に基づき自己を分析・考察する。呼吸法とATの練習及び練習結果をまとめる。 | | | 第14回 目標設定技法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習13 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)IZOF理論を理解し、情動コントロール技法を実践できる。 (2)自律訓練法第1公式+第2公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。 【授業時間外学習】 目標設定に関するレポート課題を作成し、また呼吸法とATを練習しその結果をまとめる。 | | | |
| 第7回 心理検査(5)：TEG、自律訓練法実習6 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)TEGの目的と実施法を理解し、検査結果を適正に解釈できる。 (2)自律訓練法第1公式を留意事項に注意しながら実践できる。 【授業時間外学習】 TEGの結果に基づき自己を分析・考察する。呼吸法とATの練習及び練習結果をまとめる。 | | | 第15回 ベアハンドヒーリング、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習14 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)ベアハンドヒーリングの方法について理解し実践できる。 (2)自律訓練法第1公式+第2公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。 【授業時間外学習】 ベアハンドヒーリング、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。 | | | |
| 第8回 注意集中技法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法実習7 (含：呼吸法) 【 到達目標 】 (1)スインによる注意力コントロールスキルを理解し、実践できる。 (2)自律訓練法第2公式と漸進的筋弛緩法を実践できる。 【授業時間外学習】 漸進的筋弛緩法、呼吸法、及びATを練習しその結果をまとめる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 | | | | | | |
| 心理的コンディショニングに関わる各技法は、それぞれについての正しい知識と正しい実施方法を身につけることで効果が期待できる。しかし、効果は一朝一夕に得られるものではなく、継続的な実践が必須である。したがって、本演習では各事項の自習課題を毎回課し、次回の授業までに各自が行った各技法に関する練習状況の報告をレポートとして提出してもらおう。提出期限は次回授業の開始時とし期限を過ぎたものは評価の対象としない。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | |
| 教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。 参考書としては日本スポーツ心理学会・編「スポーツメンタルトレーニング教本」(大修館書店)などを使用する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 人間心理の理解、スポーツ心理学、精神発達、精神保健 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | |
| 毎時間のレポートを40%、期末のレポートを60%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | テーピング・マッサージ | | | 担当者 | 白木 仁・竹村 雅裕 福田 崇・森 慎太郎 | |
|---|--------------------|-------------------|---|-------|--------------------------|---------|
| 英文名 | Taping and Massage | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 スポーツ選手のコンディショニングの一方法としてのテーピング・スポーツマッサージの理論と実習を通してスポーツ障害の管理方法を習得する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 テーピングの理論 【 到達目標 】 テーピングに関する歴史的背景、運動学的根拠、効果などについて理解する。 【授業時間外学習】 授業内容をテキストを用いて復習する。 | | | 第9回 スポーツマッサージ実技（足底） 【 到達目標 】 スポーツマッサージの技術として足底部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法など）ができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | |
| 第2回 テーピング実技（足関節、アンダーラップ） 【 到達目標 】 テーピングの基礎的技術としての足関節のアンダーラップを緻無く巻ける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | 第10回 スポーツマッサージ実技（下腿） 【 到達目標 】 スポーツマッサージの技術として下腿部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法、振せん法など）ができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | |
| 第3回 テーピング実技（足関節、テーピング） 【 到達目標 】 テーピングの基礎的技術としての足関節内反捻挫予防用のテーピングを緻無く巻ける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | 第11回 スポーツマッサージ実技（膝・大腿前面） 【 到達目標 】 スポーツマッサージの技術として膝・大腿前面のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法など）ができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | |
| 第4回 テーピング実技（膝関節、アンダーラップ、テーピング） 【 到達目標 】 テーピングの技術として膝関節内反捻挫予防用のアンダーラップ及びテーピングが巻ける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | 第12回 スポーツマッサージ実技（大腿後面・臀部） 【 到達目標 】 スポーツマッサージの技術として大腿後面・臀部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法など）ができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | |
| 第5回 テーピング実技（肉離れ、テーピング） 【 到達目標 】 テーピングの技術として大腿部の肉離れ予防用のテーピングが巻ける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | 第13回 スポーツマッサージ実技（腰・背部） 【 到達目標 】 スポーツマッサージの技術として腰・背部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法、伸展法など）ができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | |
| 第6回 テーピング実技（足底、テーピング） 【 到達目標 】 テーピングの技術として足底のアーチ用のテーピングが巻ける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | 第14回 スポーツマッサージ実技（上肢・肩・頸部） 【 到達目標 】 スポーツマッサージの技術として上肢・肩・頸部のマッサージ（軽擦法、揉ねつ法、圧迫法など）ができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | |
| 第7回 テーピング実技（踵、テーピング） 【 到達目標 】 テーピングの技術として踵損傷予防用のテーピングが巻ける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | 第15回 テーピング・スポーツマッサージの実施上の諸注意 【 到達目標 】 スポーツ選手のコンディショニングの方法としてのテーピング・スポーツマッサージを包括的に理解する。 【授業時間外学習】 第1回～第14回までの授業内容を復習する。 | | | |
| 第8回 スポーツマッサージの理論 【 到達目標 】 スポーツマッサージに関する歴史的背景、生理学的根拠、手技、効果などについて理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 二人のペアを作り学習する。そのために、学生同士で、助言や指導を行いながら学習効果をあげるようにする。テーピング・スポーツマッサージは肌に直接触れることを基本とするので、清潔に心がけることと、授業に適切な服装（短パン、Tシャツなど）を着用すること、さらに、バスタオル、テーピング用のはさみを各自用意すること。 なお、授業は4日間の集中講義で行う。全て出席することが大前提である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 授業用のテキストを用いる。「すぐにできるスポーツマッサージ」白木仁著（成美堂出版） | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 テーピング実技試験結果を50%、スポーツマッサージ実技試験結果30%、スポーツマッサージに関する口頭試問結果20%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ指導演習（体づくり運動） | | | 担当者 | 笹本重子 | |
|---|--|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sports Teaching Method (Gymnastics) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3・4 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 学習指導要領に明記されている「体づくり運動」は、その内容が体ほぐしの運動と体力を高める運動である。しかし、学校教育現場における体ほぐし運動の展開は不十分である。その理由が他領域の指導に時間をかけたい、体操は準備運動で充分である、といった教師の指導力や指導法に課題がある。そこで準備運動の工夫を中心に指導案を作成し、その展開を通して体づくり運動の活用・構成と指導方法を学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 指導計画：進め方、評価の方法、グルーピング 【 到達目標 】 (1)授業のねらいや進め方について理解し、指導の方法をイメージする。 【授業時間外学習】 学習指導要領第7節保健体育の内容「体づくり運動」を読んで概要を把握する。 | | | 第9回 指導実習2 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。 【授業時間外学習】 自分の指導に役立つ内容をメモする。 | | | |
| 第2回 「体づくり運動」の内容の理解：体ほぐし運動と体力を高める運動 【 到達目標 】 (1)体ほぐし運動を理解し、運動遊びから教材を構成する。 【授業時間外学習】 体ほぐしの意味や意義を確認しながら、子ども時代の運動遊びを思い出す。 | | | 第10回 指導実習3 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。 【授業時間外学習】 自分が指導するときの留意点を把握する。 | | | |
| 第3回 体づくり運動の活用法：準備運動と整理運動 【 到達目標 】 (1)準備運動と整理運動の役割を理解し、運動を構成する。 【授業時間外学習】 中学校・高等学校時代の準備運動の内容と本時の学習内容を比較して考察する。 | | | 第11回 指導実習4 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。 【授業時間外学習】 自分の指導の手順をシミュレーションする。 | | | |
| 第4回 体づくり運動の活用法：スポーツ導入の体操と補強運動 【 到達目標 】 (1)各運動領域を把握し、導入に適した運動を構成する。 【授業時間外学習】 本時以外のスポーツ導入の運動について考える。 | | | 第12回 指導実習5 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。 【授業時間外学習】 自分の指導を振り返り、今後の修正点を明確にする。 | | | |
| 第5回 体づくり運動の活用法：表現系の体ほぐし運動と体力を高める運動 【 到達目標 】 (1)ダンスウォーミングアップに展開できる動き方を理解する。 【授業時間外学習】 本時の内容以外のリズム遊びを考える。 | | | 第13回 指導実習6 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。 【授業時間外学習】 他者の指導に助言できるように準備する。 | | | |
| 第6回 体づくり運動の指導の理論：対象別特性、運動の配列 【 到達目標 】 (1)対象別特性と運動の配列について考え、合理的な指導の方法を検討する。 【授業時間外学習】 中高時代の生徒の特徴など、実態を思い出してみる。 | | | 第14回 指導実習7 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。 【授業時間外学習】 他者に助言できるように準備する。 | | | |
| 第7回 学習指導案の作成 【 到達目標 】 (1)指導案の作成手順を理解し、作成する。 【授業時間外学習】 学習指導案作成について、必要資料を持参する。 | | | 第15回 体づくり運動の指導の確認 【 到達目標 】 (1)体づくり運動の展開とその指導法について確認する。 【授業時間外学習】 自身を振り返り、指導者としての課題点や修正点をまとめておく。 | | | |
| 第8回 指導実習1 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。 【授業時間外学習】 自分が指導するときの心構えをつくる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 これまで中学校・高等学校で経験してきた「体操」を振り返りながら、学習者の実態に応じた運動提案について研究・開発する心構えをもつ。また、常に指導者としての身だしなみや言動に関心を持ち、教師としての役割や自覚を高めるように努める。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 随時資料等プリント配布。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習A（体操・器械運動）、保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術含む）、保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 教材の研究と指導案作成50%、模擬授業30%、レポート20%で総合的に評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ指導演習（器械運動） | | | 担当者 | 小海 隆樹・佐藤麻衣子 | |
|---|---|-------------------|--|-------|-------------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sports Teaching Method (Apparatus Exercise) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3・4 | | 専門・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 器械運動の指導法を学習するために、学校体育で扱われる器械運動の基礎的な技を取り上げ、学習指導案の作成と実際の指導を通して指導方法論を学ぶ。そこから、器械運動に必要な「指導のコツ」と「コツの指導」を明らかにし、さらに、それぞれの技の望ましい指導段階の組み方や技の観察ポイント（評価ポイント）を明らかにしていく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 指導に必要な知識 【 到達目標 】 (1)指導のマネジメント能力の必要性を理解する。 (2)コツの指導の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 第1回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第9回 学生による模擬授業（とび箱運動）とその検討① 【 到達目標 】 (1)「開脚とび」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「開脚とび」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第9回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第2回 器械運動の練習場面の設定と補助法 【 到達目標 】 (1)技の指導に必要な場の設定の基本的考え方を理解する。 (2)技の指導に必要な基本的な補助法について理解する。 【授業時間外学習】 第2回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第10回 学生による模擬授業（とび箱運動）とその検討② 【 到達目標 】 (1)「閉脚とび」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「閉脚とび」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第10回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第3回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討① 【 到達目標 】 (1)「倒立」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「倒立」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第3回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第11回 学生による模擬授業（とび箱運動）とその検討③ 【 到達目標 】 (1)「はねとび」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「はねとび」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第11回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第4回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討② 【 到達目標 】 (1)「前転」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「前転」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第4回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第12回 学生による模擬授業（平均台運動）とその検討 【 到達目標 】 (1)「平均台の基礎技能」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「平均台の基礎技能」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第12回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第5回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討③ 【 到達目標 】 (1)「後転」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「後転」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第5回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第13回 学生による模擬授業（鉄棒運動）とその検討 【 到達目標 】 (1)「鉄棒の基礎技能」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「鉄棒の基礎技能」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第13回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第6回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討④ 【 到達目標 】 (1)「側方倒立回転」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「側方倒立回転」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第6回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第14回 とび箱、平均台、鉄棒運動の指導 【 到達目標 】 (1)とび箱、平均台、鉄棒運動の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)とび箱、平均台、鉄棒運動の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第14回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | |
| 第7回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討⑤ 【 到達目標 】 (1)「ハンドスプリング」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「ハンドスプリング」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第7回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | 第15回 器械運動の指導 【 到達目標 】 (1)器械運動で行われる技の動感について理解する。 (2)できない人の動感について理解する。 【授業時間外学習】 授業全体を通して得た知見を実際の指導に活かせるよう準備する。 | | | |
| 第8回 マット運動の指導 【 到達目標 】 (1)マット運動の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)マット運動の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第8回目の授業内容に関してノートにまとめる。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 この授業は、体育教員を目指す学生のためのものである。担当指導時間の学習指導案を具体的なシミュレーションをもとに作成する必要がある。担当授業（教師役）に関しては、授業マネジメントに関する知識と、技のコツに関する知識とそれを達成させる「道しるべ」の設定が不可欠であり、十分な準備が必要となる。また、生徒役の学生も、授業を受ける側の視点から、行われた授業について、いろいろな角度から問題点・課題を検討する必要がある。毎回の授業内容をノートにまとめながら、指導に活かせる自分なりの「指導ノート」を作成する。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 <参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習A（器械運動）、スポーツ方法応用演習（器械運動）、スポーツコーチング演習I（採点競技系・器械運動） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業内容の記録ノート 70% ・ 指導技術 30% | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ指導演習（陸上競技） | | | 担当者 | 渡部 誠 | |
|--|--|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sports Teaching Method (Track and Field) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3・4 | | 専門・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 ハードル走と走り幅跳びを中心に、その特性を理解するとともに指導の際に必要な指導の能力の向上を目指していくことが目的である。そして、学習者が自己の能力を把握でき、適切な目標を設定し、目標を達成するための練習方法や学習の進め方についての指導方法について、指導案を作成し実践していく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 陸上競技の指導のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)陸上競技の指導の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 陸上競技の指導の進め方について確認する。 | | | 第9回 走り幅跳びの指導とその改善① 【 到達目標 】 (1)安全な着地の仕方について、その指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 安全な着地の仕方についての指導方法について確認する。 | | | |
| 第2回 ハードル走の特性と指導の方法 【 到達目標 】 (1)ハードル走の指導方法の段階について理解する。 【授業時間外学習】 段階的なハードル走の指導方法について確認する。 | | | 第10回 走り幅跳びの指導とその改善② 【 到達目標 】 (1)短助走跳躍の指導方法について理解する。 【授業時間外学習】 段階的な短助走跳躍の指導方法について確認する。 | | | |
| 第3回 ハードル走の指導とその改善① 【 到達目標 】 (1)ハードル走の導入としての指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 導入としてのハードル走の指導方法について確認する。 | | | 第11回 走り幅跳びの指導とその改善③ 【 到達目標 】 (1)空中動作の指導方法について理解する。 【授業時間外学習】 空中動作の指導方法について確認する。 | | | |
| 第4回 ハードル走の指導とその改善② 【 到達目標 】 (1)ハードリングの指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 段階的なハードリングの指導方法について確認する。 | | | 第12回 走り幅跳びの指導とその改善④ 【 到達目標 】 (1)全助走跳躍の指導方法について理解する。 【授業時間外学習】 全助走跳躍の指導方法について確認する。 | | | |
| 第5回 ハードル走の指導とその改善③ 【 到達目標 】 (1)インターバルとその走り方についての指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 インターバルとその走り方における指導の段階について確認する。 | | | 第13回 走り幅跳びの指導とその改善⑤ 【 到達目標 】 (1)記録会の運営と評価について理解する。 【授業時間外学習】 記録会の運営について、その出来と評価の仕方を確認する。 | | | |
| 第6回 ハードル走の指導とその改善④ 【 到達目標 】 (1)スタートからのアプローチ走についての指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 スタートからのアプローチ走の指導の段階について確認する。 | | | 第14回 ハードル走と走り幅跳びの指導のまとめ 【 到達目標 】 (1)改善した指導案についてレポートとして提出する。 【授業時間外学習】 改善した指導案のレポートを作成する。 | | | |
| 第7回 ハードル走の指導とその改善⑤ 【 到達目標 】 (1)記録会の運営と評価について理解する。 【授業時間外学習】 記録会の運営について、その出来と評価の仕方を確認する。 | | | 第15回 陸上競技指導の応用 【 到達目標 】 (1)ルールや状況に応じた指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 ルールや状況に応じた指導方法について確認する。 | | | |
| 第8回 走り幅跳びの特性と指導の方法 【 到達目標 】 (1)走り幅跳びの指導方法の段階について理解する。 【授業時間外学習】 段階的な走り幅跳びの指導方法について確認する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実技を中心に行うので、ふさわしい服装とシューズ(スパイクシューズの場合あり)を使用すること。また、作成した指導案については、事前に確認を受け、安全に留意して指導できること。指導者役と生徒役に分かれて行うので、指導方法について指導者側と生徒側の立場から積極的に参加すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 指導案の作成と指導内容を70%、理解度を30%の割合として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ指導演習（水泳） | | | 担当者 | 北川 幸夫 | |
|--|--|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sports Teaching Method (Swimming) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3・4 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 水泳の初心者指導法や4種目泳法の指導法およびスタート、ターンの指導法について理論的な背景を理解し、指導実践の場で検証することを目的とする。また、安全管理の方法についても学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 水泳指導の原則 【 到達目標 】 水泳指導の原則や水泳の指導手段等について理解する。 【授業時間外学習】 水の特性に関する理解を深める。 | | | 第9回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | |
| 第2回 水泳の初心者指導 【 到達目標 】 水の特性を踏まえた初心者指導法について理解する。 【授業時間外学習】 初心者指導に関する理解を深める。 | | | 第10回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | |
| 第3回 各種泳法指導法（初級） 【 到達目標 】 各種泳法の初級者を対象とした指導法について理解する。 【授業時間外学習】 4泳法の技術に関する理解を深める。 | | | 第11回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | |
| 第4回 指導計画の作成と評価 【 到達目標 】 水泳指導の計画の立て方と評価法について理解する。 【授業時間外学習】 水泳指導の計画の立て方と評価の仕方に関する理解を深める。 | | | 第12回 指導実践の反省と検討 【 到達目標 】 これまで行ってきた指導実践についてディスカッションし、各々が改善すべき点を明確に理解する。 【授業時間外学習】 これまでに作成した水泳指導に必要な資料を、他者評価を基にさらに洗練させる。 | | | |
| 第5回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | 第13回 水泳事故 【 到達目標 】 水泳事故の発生原因について理解し、水泳事故を防ぐための方策について学習する。 【授業時間外学習】 水泳を含む水辺での事故に関する理解を深める。 | | | |
| 第6回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | 第14回 水泳に関する傷害・疾病 【 到達目標 】 水泳における傷害・疾病について理解し、その対処法を学習する。 【授業時間外学習】 水泳の医学 | | | |
| 第7回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | 第15回 プール施設・用具の管理 【 到達目標 】 プールにおける施設や水泳等で使われる用具の使い方や管理方法について理解する。 【授業時間外学習】 書籍等を活用して、水泳の医学に関する理解を深める。 | | | |
| 第8回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 本演習は、水泳の指導者としての第一歩を踏み出す内容であり、指導者としての心構えも含めた内容を修得する。そのため、指導者とはどうあるべきかを考えた受講態度が求められる。プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリ類の着用は不可とする。また、指導実践においては他の学生の指導内容にも関心を持ち、評価する視点を持つことが大切である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「水泳指導教本」 日本水泳連盟編、大修館書店 「水泳の医学（Ⅰ、Ⅱ）」 武藤芳照著、ブックハウスHD | | | | | | |
| 【関連科目】 健康スポーツ演習（アクアスポーツ）、スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系）、スポーツプログラミング演習 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 1. 指導実習の計画書（30%）、2. 指導実習の実践（40%）、3. 水泳指導に関する筆記試験（30%）。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ指導演習（バスケットボール） | | | 担当者 | 佐々木直基 | |
|--|--|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sports Teaching Method (Basketball) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 学校体育におけるバスケットボールについて、主な対象となる初心者が個人技術やグループ・チーム戦術の習得を目指す教科体育の指導法を学ぶことが目的である。さらには、単元計画の立案や学習指導案の作成方法についても学ぶ。作成した学習指導案にそって実際に指導を展開し、指導後に反省・検証を行って進めていく。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方を理解する。 【授業時間外学習】 バスケットボールの授業において求められる内容について調べる。 | | | 第9回 実際の指導展開と検証⑤ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | |
| 第2回 単元計画の立案 【 到達目標 】 (1)単元計画について理解し、単元計画を立案する。 【授業時間外学習】 体育授業における単元計画の立案方法について調べる。 | | | 第10回 実際の指導展開と検証⑥ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | |
| 第3回 学習指導案の作成① 【 到達目標 】 (1)単元計画をもとに、学習指導案を作成する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成方法について調べる。 | | | 第11回 実際の指導展開と検証⑦ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | |
| 第4回 学習指導案の作成② 【 到達目標 】 (1)単元計画をもとに、学習指導案を作成する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成方法について調べる。 | | | 第12回 実際の指導展開と検証⑧ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | |
| 第5回 実際の指導展開と検証① 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | 第13回 実際の指導展開と検証⑨ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | |
| 第6回 実際の指導展開と検証② 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | 第14回 実際の指導展開と検証⑩ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | |
| 第7回 実際の指導展開と検証③ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | 第15回 総合的検証 【 到達目標 】 (1)これまでの指導実践を通して行った指導法について分析し、今後の指導法について検証する。 【授業時間外学習】 教育実習に行くことを想定し、授業で得られた情報の整理を行う。 | | | |
| 第8回 実際の指導展開と検証④ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 実習も行う授業となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。本演習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、毎時間グループでディスカッションを行うので、積極的に発言し、論理的に話しができるよう努めることが求められる。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 特に教科書は指定しない。 参考書：「バスケットボールの指導教本」日本バスケットボール協会編（大修館書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習C（バスケットボール） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 平常授業での到達目標に対する到達度を70%、単元計画および学習指導案を30%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ指導演習（バレーボール） | | | 担当者 | 湯澤芳貴 | |
|--|--|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sports Teaching Method (Volleyball) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 学校体育における教材としてのバレーボールに焦点を当て、バレーボールの競技特性と生徒の特性を効果的に融合させた学習活動を展開するための基本的な単元計画を考慮した学習指導案を作成し、その指導展開について実践的に学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 バレーボールの競技特性と指導理論 【 到達目標 】 (1)バレーボールの競技特性を考慮した指導理論を理解する。 | | | 第9回 指導実践Ⅶ(ゲームの進め方・ルール・審判法) 【 到達目標 】 (1)ゲームの進め方・ルール・審判法等の指導を実践できる。 | | | |
| 【授業時間外学習】 バレーボールの競技特性を考慮した指導理論について理解しておく。 | | | 【授業時間外学習】 事前にバレーボールのルールや審判法等について理解しておく。 | | | |
| 第2回 学校体育におけるバレーボール指導の留意点と安全管理 【 到達目標 】 (1)学校体育の場における指導上の留意点を理解する。 (2)学校体育の場におけるバレーボールの安全管理を理解する。 | | | 第10回 指導実践Ⅷ(技能レベルに応じたゲーム) 【 到達目標 】 (1)技能レベルに応じたゲームに関する指導を実践できる。 | | | |
| 【授業時間外学習】 学校体育でおこなわれるバレーボールの意義・目的について理解しておく。 | | | 【授業時間外学習】 技能レベルに応じた様々なルールの工夫について適切に判断できるようにする。 | | | |
| 第3回 指導実践Ⅰ(オーバーハンドパス) 【 到達目標 】 (1)オーバーハンドパスに関する指導を実践できる。 | | | 第11回 指導実践Ⅸ(技能レベルに応じたゲーム) 【 到達目標 】 (1)技能レベルに応じたゲームに関する指導を実践できる。 | | | |
| 【授業時間外学習】 事前にオーバーハンドパスの技能構造を理解しておく。 | | | 【授業時間外学習】 技能レベルに応じた様々なルールの工夫について適切に判断できるようにする。 | | | |
| 第4回 指導実践Ⅱ(アンダーハンドパス) 【 到達目標 】 (1)アンダーハンドパスに関する指導を実践できる。 | | | 第12回 指導実践Ⅹ(オフィシャルルールでのゲーム) 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールでのゲームに関する指導を実践できる。 | | | |
| 【授業時間外学習】 事前にアンダーハンドパスの技能構造を理解しておく。 | | | 【授業時間外学習】 オフィシャルルールでゲームをおこなう際の指導上のポイントを理解しておく。 | | | |
| 第5回 指導実践Ⅲ(パス技術の応用) 【 到達目標 】 (1)パス技術の応用に関する指導を実践できる。 | | | 第13回 指導実践Ⅺ(オフィシャルルールでのゲーム) 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールでのゲームに関する指導を実践できる。 | | | |
| 【授業時間外学習】 事前にパス技術の応用にはどのようなものがあるかについて理解しておく。 | | | 【授業時間外学習】 オフィシャルルールでゲームをおこなう際の指導上のポイントを理解しておく。 | | | |
| 第6回 指導実践Ⅳ(サーブ) 【 到達目標 】 (1)サーブに関する指導を実践できる。 | | | 第14回 バレーボールの評価方法 【 到達目標 】 (1)学校体育の場におけるバレーボールの技能評価を理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 事前にサーブの技能構造を理解しておく。 | | | 【授業時間外学習】 事前に基本的な技能評価方法について理解しておく。 | | | |
| 第7回 指導実践Ⅴ(スパイク) 【 到達目標 】 (1)スパイクに関する指導を実践できる。 | | | 第15回 指導上の問題点の研究 【 到達目標 】 (1)指導実践で明らかになった問題点の解決法を理解する。 (2)学校体育の場での指導ポイントを明らかにすることができる。 | | | |
| 【授業時間外学習】 事前にスパイクの技能構造を理解しておく。 | | | 【授業時間外学習】 初心者指導でのつまづきとそれに対する適切な指導について理解しておく。 | | | |
| 第8回 指導実践Ⅵ(集団技能) 【 到達目標 】 (1)集団技能に関する指導を実践できる。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 事前にバレーボールの集団技能について理解しておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 学校体育の場におけるバレーボールの初心者を対象にした指導をおこなうために、基礎知識としてスポーツ方法実習Cのバレーボールで身につけた基礎知識をしっかりと理解しておく必要がある。不安なものもしっかりと復習しておくようにすること。 また基本的に2グループに分かれての演習形式で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は特になし。 | | | | | | |
| 【関連科目】 スポーツ方法実習C（バレーボール） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 指導理論の理解を20%、学習指導案作成を30%、指導実践を50%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ指導演習（柔道） | | | 担当者 | 木村昌彦 | |
|--|--|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Seminar in Sports Teaching Method (Judo) | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | 専門基礎・選択 | |
| 【目的とねらい】 初心者から初級者レベルを想定して、柔道の基本的な技能である投げ技、固め技、技の連絡変化を身につける方法について、トレーニング実践と指導実践を通して検証する。 技能の習熟度を理解し、その習熟課程を学習者および指導者の両方の立場で体験・実践することによってコーチング方法を身につける。さらに実際に授業を計画する能力を身につける。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション（授業展開について） 【到達目標】 授業の全体像を把握する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第9回 受身の指導法試験 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 受け身の適切な指導方法の確認をする。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第2回 柔道の基本動作、受身の指導法（後受身）、固め技の指導法（袈裟固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 受け身の原理を理解し、指導方法を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第10回 授業の組み立ての研究Ⅰ 【到達目標】 授業目的、ねらいを考慮した授業作りができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第3回 受身の指導法（横受身・前回受身）、固め技の指導法（横四方固、上四方固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 受け身の原理を理解し、指導方法を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第11回 授業の組み立ての研究Ⅱ 【到達目標】 授業目的、ねらいを考慮した授業作りができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第4回 受身の指導法（前回受身）、固め技の指導法（抑え技の返し方、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 受け身の原理を理解し、指導方法を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第12回 学生による模擬授業Ⅰ 【到達目標】 実際に自分で授業を実践する力を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第5回 投げ技の基本動作の指導法（姿勢、組み方、進退動作、崩しー作りー掛け）、投げ技（膝車） 【到達目標】 基本動作を理解し、正確な動作を習得する。 基本動作の何故を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第13回 学生による模擬授業Ⅱ 【到達目標】 実際に自分で授業を実践する力を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第6回 投げ技の指導法（主に刈系の技）、固め技（乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 刈り系の技の特徴と原理を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第14回 試験（投げ技、固め技） 【到達目標】 正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第7回 投げ技の指導法（主に回転系の技）、固め技の指導法（縦四方固、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 回転系の技の特徴と原理を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | 第15回 簡易な試合 【到達目標】 柔道全般を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | |
| 第8回 投げ技の指導法（主に払い系の技）、固め技の指導法（連絡技、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 払い系の技の特徴と原理を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「受け身から作る柔道授業（仮）」木村昌彦 著（ベースボールマガジン社） 「いちばんわかりやすい！柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） 「女子のための柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート（30%）と試験（70%）で評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | ダンス・メソッド | | | 担当者 | 宮本乙女 | |
|--|--------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Dance Method | | | | | |
| 単位数 | 1 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション、リズムのダンスによる導入・題材① 【 到達目標 】 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。 導入の単元より、現代的なリズムのダンスを学ぶ。 | | | 第9回 デッサンから作品作り・題材⑨ 【 到達目標 】 身近な生活や日常動作を手がかりにした題材の指導法と簡単なクラス作品作りの指導法を学ぶ。 | | | |
| 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。 | | | 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。 | | | |
| 第2回 創作ダンス・題材② 【 到達目標 】 ダンスとの出逢いの授業、ものを使ってひと流れの動きの指導法を学ぶ。 ひと流れを意識させる示範を検討する。 | | | 第10回 フォークダンス①、リズムウォームアップ 【 到達目標 】 取り組みやすい外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。 リズムウォームアップの指導法を学ぶ。 指導法実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。指導DVDを視聴する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。 | | | 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題を教科書により検討する。 | | | |
| 第3回 創作ダンス・題材③ 【 到達目標 】 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 極限を引き出す示範の方法を検討する。 | | | 第11回 フォークダンス②、日本の民謡の指導方法 【 到達目標 】 日本の民謡の踊り方と指導法を学ぶ。 示範と声かけの仕方を実習する。 指導法実習で取り組むべき内容について学ぶ。 | | | |
| 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。 | | | 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題について、自分の指導のシナリオを完成させる。 | | | |
| 第4回 創作ダンス・題材④ 【 到達目標 】 群の動きを手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 太鼓の使い方を実習する。 | | | 第12回 指導法実習に向けた準備活動 【 到達目標 】 運び方を学ぶ課題の体験と、太鼓のたたき方を復習する。 指導法実習のシミュレーションを行う。 | | | |
| 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。 | | | 【授業時間外学習】 指導法実習の指導案を練習し、掲示物を作成する。 | | | |
| 第5回 創作ダンス・題材⑤ 【 到達目標 】 身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材の指導法と、簡単な発表会の指導法を学ぶ。 | | | 第13回 指導法実習① 【 到達目標 】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 | | | |
| 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。 | | | 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。 | | | |
| 第6回 現代的なリズムのダンス・題材⑥ 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。 | | | 第14回 指導法実習② 【 到達目標 】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 | | | |
| 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。 | | | 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。 | | | |
| 第7回 現代的なリズムのダンス・題材⑦ 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。 | | | 第15回 ダンス学習の評価のポイント 【 到達目標 】 これまでの学習を振り返り、ダンス授業の指導方法と評価のポイントを確認し、理解する。 | | | |
| 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。 | | | 【授業時間外学習】 これまでのノート、資料を整理し、教科書も用いて全体を復習しておく。 | | | |
| 第8回 デッサンいろいろ・題材⑧ 【 到達目標 】 身近な生活や日常動作を手がかりにした題材の指導法を学ぶ。 グループに対する指導法を検討する。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 ダンスは中学校では全領域必修となっている。保健体育教員免許取得希望者・教員志望者はぜひ受講してほしい。中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や、小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなど、さまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。授業は実技が中心である。指導者としての心構えを持って受講すること。A4版のノートを使用するので持参すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書として「明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業中の発言内容、活動内容40%、課題達成度・指導法実習等40%、知識理解(学習カード・ミニレポートなど)20%の割合で評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|----------------------------------|-------------------|----------|-------|-------------|---------|
| 科目名 | スポーツ方法特別実習 | | | 担当者 | 北川 幸夫・佐藤麻衣子 | |
| 英文名 | Sport Methods in Club Activities | | | | | |
| 単位数 | 3 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 1～3 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 | | | | | | |
| <p>大学において、実技授業のみならず、入学後から継続して実施している部活動を通して更に深く専門的にスポーツ活動を続け、他の授業で修得した知識を活かしながら優れた実績を残す。</p> | | | | | | |
| 【授業内容】 | | | | | | |
| <p>1, 1年次4月：ガイダンスを受ける事によってスポーツ方法特別実習の内容を理解する。</p> <p>2, 1年次における「活動状況」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「戦績」として競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。</p> <p>3, 2年次における「活動状況」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「戦績」として競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。</p> <p>4, 3年次における「活動状況」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「戦績」として競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「4年次に向けての目標および計画」として、これまで3年間のスポーツ活動を踏まえて、またその目標を達成するための計画についてまとめる。</p> | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | |
| <p>1, 1年次における「戦績」をまとめる事によって、1年次の自分の実績を把握する。「活動状況」と併せてまとめる事によって、1年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とすることができる。</p> <p>2, 2年次における「戦績」をまとめる事によって、2年次の自分の実績を把握する。「活動状況」と併せてまとめる事によって、2年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とすることができる。</p> <p>3, 3年次における「戦績」をまとめる事によって、3年次の自分の実績を把握する。「活動状況」と併せてまとめる事によって、3年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とすることができる。</p> <p>4, 3年次における「4年次に向けての目標および計画」を立てる事によって、これまで3年間のスポーツ活動を踏まえて、卒業するまでの明確な目標を把握することができる。</p> | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 | | | | | | |
| <p>毎回の活動を練習ノート等に記録する事により、反省すべき点や今後活かせる点を明確にする。特に課題解決については関連する書籍等を積極的に活用し、より有効なスポーツ活動を実施できるようにする。</p> | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 | | | | | | |
| <p>大学でスポーツ活動を実施する学生が、さらにそのスポーツ活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、スポーツ活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は1年ごとに実施したスポーツ活動の内容について報告書を提出する。</p> | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | |
| <p>各競技種目に関する専門書や指導書など</p> | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| <p>体力トレーニング演習、専門体力トレーニング論、トレーニング計画論、スポーツコーチング演習Ⅱ・Ⅲ</p> | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | |
| <p>3年間を通した実績と活動報告書に基づき総合的に評価を行う。</p> | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|-------------------|-------------------|----------|-------|-----------|---------|
| 科目名 | 卒業研究 | | | 担当者 | | |
| 英文名 | Graduation Thesis | | | | | |
| 単位数 | 6 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3～4 | | 専門・選択 | | | |
| 【目的とねらい】 | | | | | | |
| <p>スポーツ科学専攻において展開されるカリキュラムの中から、一つの専門の領域や分野（研究室）を選択し、各自の興味や関心にふさわしいテーマについて卒業論文として完成させる。3年次からの2年間にわたる活動を通してスポーツ科学の理解をさらに深めるとともに、研究方法にふれながら、スポーツ科学を展開する専門的な能力を高める。また、具体的な研究手法の実践、自分の考えや研究結果のプレゼンテーション（発表）、研究室での仲間との相互学習などの機会を活用して専門性を高めていく。</p> | | | | | | |
| 【授業内容】 | | | | | | |
| <p>具体的な内容や方法は、各研究室の特色に応じて展開するが、以下のような内容・手順を基本とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解 2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定 3. 研究方法及び具体的な手法の確立 4. 研究活動の展開（実験、調査、資料収集、分析など） 5. 結果の考察のまとめ 6. 論文の作成 7. 研究成果の報告、発表 | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | |
| <p>具体的な到達目標は、各研究室の特色に応じて設定するが、以下のような目標設定を基本とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解 研究分野に則したそれぞれの項目を理解する。 2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定 それぞれの興味ある研究テーマを決め、その研究計画を立案する。 3. 研究方法及び具体的な手法の確立 研究テーマに合った研究方法を決定する。 4. 研究活動の展開（実験、調査、資料収集、分析など） 研究に必要な実験、調査等から研究資料を収集する。 5. 結果の考察のまとめ 研究結果を明確にし、それについての考察を行う。 6. 論文の作成 論文の書式に合った文章を作成する。 7. 研究成果の報告、発表 研究成果をパワーポイントなどを用いてわかり易く発表する。 | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 | | | | | | |
| 各担当教員の指示による。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 | | | | | | |
| 各担当教員の指示による。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 | | | | | | |
| 各担当教員の指示による。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | |
| 2年間の論文作成に至る過程での状況と論文の内容 100% | | | | | | |

| 科目名 | 教職論 | | | | 担当者 | 青木純一 | |
|--|------------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|--|
| 英文名 | Study of Teaching Profession | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 1 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | | |
| 【目的とねらい】 教職論は、教職課程履修者がその仕事・職業の特質について理解を深めることが第1の課題である。その上で、履修学生一人ひとりが、教員免許取得を目指すかどうかを判断する機会を提供することも、課題としている。教師の主たる仕事である、授業や生徒指導等の理解を深めるとともに、学校の仕組みや運営体制、教職の専門性の意義と養成および採用制度について理解を深める。教職に関わる近年の改革動向と課題を理解する。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 教師という仕事 【 到達目標 】 オリエンテーション。教師の仕事の特徴を理解し、本科履修の意思を確認する。 | | | 第9回 教師の研修—教職に就いてから 【 到達目標 】 教師は教職に就いた後も様々な研修を受ける機会が保障されており、専門性を高めることが期待されていることを理解する。 | | | | |
| 【授業時間外学習】 最近の教職がおかれている状況について学ぶ。 | | | 【授業時間外学習】 教員にとって重要な研修について、法的根拠や制度の背景について学ぶ。 | | | | |
| 第2回 「私が出会った教師」を思い出す 【 到達目標 】 履修学生自身がこれまでに出会った教師について振り返り、教職 免許取得にあたっての出発点とする。 | | | 第10回 教師の仕事とジェンダー 【 到達目標 】 学校は女性にとって働きやすい職場だといわれるが、その学校においても、性別役割分業が存在していることを理解する。 | | | | |
| 【授業時間外学習】 過去に出会った教師についてそれぞれの個性や特徴を振り返る。 | | | 【授業時間外学習】 とくに女性教員に焦点を当て、最近の教員の実態や問題点をジェンダーの視点から学ぶ。 | | | | |
| 第3回 授業をつくる 【 到達目標 】 教師が果たす仕事のうち、多くの比重を占めている授業実践について考察し、理解する。 | | | 第11回 教師の身分と服務 【 到達目標 】 教師が職務上有している種々の権利や責任について、およびそれらを適切に行使することが必要であることを理解する。 | | | | |
| 【授業時間外学習】 授業づくりをする際の留意点について学ぶ。 | | | 【授業時間外学習】 教員の身分や服務について、実態を法律と絡めて学ぶ。 | | | | |
| 第4回 特別活動と生徒指導 【 到達目標 】 授業実践だけでなく、特別活動や生徒指導も教師の仕事として重要であることを理解する。 | | | 第12回 教師像の探求 【 到達目標 】 時代とともに数多くの理想的教師像がつけられてきたことを、具体的な例とともに理解する。 | | | | |
| 【授業時間外学習】 特別活動や生徒指導における留意点について学ぶ。 | | | 【授業時間外学習】 明治以降の学校や社会がどのような「教師像」を求めていたかを学ぶ。 | | | | |
| 第5回 校務分掌 【 到達目標 】 教師の仕事には様々なものがあり、校内で分担することで学校が運営されていることを理解する。 | | | 第13回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（1） 【 到達目標 】 近年の教育改革・学校改革の動向についての理解を深め、新たに期待される教師の在り方について関心を持つ。 | | | | |
| 【授業時間外学習】 学校における校務分掌の在り方や運営する際の留意点について学ぶ。 | | | 【授業時間外学習】 戦後の教育改革について、とくに教員政策を中心に学ぶ。 | | | | |
| 第6回 同僚性と教師文化 【 到達目標 】 同じ職場で働く同僚との協力によって、学校運営が円滑となり、児童生徒のよりよい成長が促されることを理解する。 | | | 第14回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（2） 【 到達目標 】 前回の続き。 | | | | |
| 【授業時間外学習】 学校という組織において教師の同僚性がいかに大切か、事例をもとに学ぶ。 | | | 【授業時間外学習】 とくに21世紀に入ってから教育改革について、教員政策を中心に学ぶ。 | | | | |
| 第7回 教員養成制度—教職に就くまで 【 到達目標 】 「専門職」としての教師を養成する制度である教員養成制度、とりわけ大学における教員養成のシステムを理解する。 | | | 第15回 現代の教職をめぐる課題 【 到達目標 】 これまでの授業をもとに、各自現代の教職をめぐる課題を整理し、自らがめざす教師像をまとめる。 | | | | |
| 【授業時間外学習】 養成、採用、研修を一体化した教育養成制度の在り方について学ぶ。 | | | 【授業時間外学習】 今日の教員に求められている資質・能力とはなにかについて学ぶ。 | | | | |
| 第8回 教師の資格と任用、採用試験の動向—教職に就くとき 【 到達目標 】 免許制度と実際の学校に任用される採用試験制度を理解する。また、近年の採用試験の動向を理解する。 | | | | | | | |
| 【授業時間外学習】 最近の教育採用の実態と特徴について学ぶ。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 本科目を履修することは、学生諸君が「教わる側」から「教える側」へと、立場を移す作業を始めることを意味する。その意味の重さを自覚し、単に出席することとどまらず、積極的な授業参加を心がけること。また、この授業をきっかけにして、新聞やテレビなどから、教育に関する情報を手に入れる習慣を身につけてほしい。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 授業の初回に指示する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 教育社会学 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 小レポート（30%）および試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | | |

| 科目名 | 教育原論 | | | | 担当者 | 青木 純一・小堀 哲郎 | |
|---|---------------------|-------------------|----------|--|-----------|-------------|--|
| 英文名 | Theory of Education | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | | |
| 【目的とねらい】 教育について基本を理解し、教育に対する自らの見方、考え方を身につけることを目的とする。教育は人類の歴史とともに行われてきた大変に古くからある人間形成に関わる営みである。現代はこの教育という営みに対して、どのようなことを求めているのか。子どもから大人まで、どのような学習をしていくことがよいか。学校は何を目的として創られ、どのような活動をしている場なのか。生徒の希望や夢が育まれ、人間としての形成の課題を実現する教育とはどのようなものなのか、学校、地域社会の教育、家庭教育のあり方を通じて考えてみたい。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 教育と人間形成 【 到達目標 】 教育と人間形成の意味を正確に理解する。 【授業時間外学習】 教育の目的とはなにか、その基本的な意味を学ぶ。 | | | | 第9回 学校と生徒・保護者 【 到達目標 】 学校および学校の教員と生徒・保護者との信頼による学校・学級の運営についてよく考えながら、これからの学校と生徒・保護者の関係についてグループ研究により理解を深める。 【授業時間外学習】 地域と学校との連携・協力についてコミュニティ・スクールを具体例にその運営方法を学ぶ。 | | | |
| 第2回 教育の歴史 【 到達目標 】 教育の歴史について、古代から現代までの構造的な理解を進める。 【授業時間外学習】 古代から現代にいたる教育の歴史について学ぶ。 | | | | 第10回 学校のカリキュラム（教育課程） 【 到達目標 】 学校のカリキュラム（教育課程）に関する理解を深める。 【授業時間外学習】 教育課程とはなにか、作成にいたる手順や留意事項について学ぶ。 | | | |
| 第3回 教育の思想—ヨーロッパ 【 到達目標 】 教育の思想、特にヨーロッパの教育思想、代表的なロック、ルソー、ヘルバルトなどを学び、教育の思想が教育の実際と関わりがあることを理解する。 【授業時間外学習】 ヨーロッパを中心とする近代の教育思想を理解し、今日の教育に与える影響を学ぶ。 | | | | 第11回 教材と教具、教育方法・情報と教育 【 到達目標 】 具体的に教育活動を行う場合、教材と教具にはどのようなものがあるかを知り、教育方法の選択が必要であることを理解する。情報と教育、ICT活用など現代の課題も理解する。 【授業時間外学習】 とくに最近の学校について、特徴的な教材や教具、教育方法について学ぶ。 | | | |
| 第4回 教育の思想—日本古代から近世 【 到達目標 】 教育の思想、日本の古代から近世までを通して学ぶ。日本の教育の独自の歴史、思想文化的な背景を理解する。 【授業時間外学習】 古代から近世にいたる日本の教育について学ぶ。 | | | | 第12回 社会教育・生涯学習 【 到達目標 】 学校教育は社会での教育・生涯学習との関連で進められる現代教育の特徴を理解し、教員の生涯学習の必要をグループ研究により理解する。 【授業時間外学習】 学校外の教育について、公民館や博物館などの教育的役割を学ぶ。 | | | |
| 第5回 学校の形成 【 到達目標 】 学校がどのようにして出来るのか。古代から近世までを範囲として学校の歴史を理解する。外国と日本の両方を扱う。 【授業時間外学習】 学校の成立過程について日本と諸外国の違いについて学ぶ。 | | | | 第13回 学力問題 【 到達目標 】 学校教育と生涯学習ともに課題である学力の問題について、最新の状況を理解し、今後への課題を発見する。 【授業時間外学習】 とくにPISA調査以降の学力政策の変化を学ぶ。 | | | |
| 第6回 近代の学校 【 到達目標 】 現代の学校の始まりである近代の学校の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本における近代学校の始まりについてその特徴を学ぶ。 | | | | 第14回 教育の改革・改善 【 到達目標 】 教育の改革・改善について、国、地方自治体、学校のそれぞれの段階について事例を研究し、理解を深める。 【授業時間外学習】 地方分権化のもとに進められた自治体の教育改革について学ぶ。 | | | |
| 第7回 教員の誕生と発展 【 到達目標 】 教員の誕生と発展について、日本の場合を中心に扱う。その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本における教員の歴史について、その特徴を学ぶ。 | | | | 第15回 世界の教育と日本の教育 【 到達目標 】 世界の教育と日本の教育の今後のあり方を考えて、教育への理解を深める。教員を志望する学生としての課題を発見する。 【授業時間外学習】 諸外国の教育制度と日本を比較することでその違いを学ぶ。 | | | |
| 第8回 地域社会と学校 【 到達目標 】 地域社会と学校について、その理論を学び、実際について事例を知ること、地域と学校との関わりを理解する。 【授業時間外学習】 地域と学校との連携・協力の在り方について事例を通して学ぶ。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 本授業は、講義とともに、学生のグループ討論や発表会を取り入れて進めていく。特に第9回以降はしばしば行うので、遠慮せず積極的に調べたり、グループで討論したり、発表したりしよう。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 授業の初回に指示する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 教職論 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 グループ討論、発表など（30%）、試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | | |

| 科目名 | 教育心理学 | | | 担当者 | 酒井久実代 | |
|---|------------------------|---------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Educational Psychology | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | ／選択の区別 | | | 教職科目 | |
| 【目的とねらい】 本講義は、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）に関する心理学を学習することを目的とする。教育の現場では、授業を行うだけでなく、子どもたちが示す様々な問題に対処していくことが望まれる。しっかりとした体系をもつ理論を学ぶことで、それらの問題の背景を正しく理解し、心理学に基づいた適切な対処法を考えることができるようになる。そのための基盤作りが本講義のねらいである。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 人格発達の基礎 【 到達目標 】 (1)エリクソンの発達理論について理解する。 (2)青年期のアイデンティティの確立について理解する。 【授業時間外学習】 アイデンティティ概念の理解に関する課題を行う。 | | | 第9回 動機づけの基礎 【 到達目標 】 (1)達成動機、原因帰属について理解する。 (2)内発的動機づけを育む手段について理解する。 【授業時間外学習】 動機づけと原因帰属理論の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第2回 社会性・道徳性の発達 【 到達目標 】 (1)児童期の仲間関係の特徴について理解する。 (2)道徳性の発達と学校での育成について理解する。 【授業時間外学習】 道徳性の発達理論の理解に関する課題を行う。 | | | 第10回 動機づけの応用 【 到達目標 】 (1)学習動機の二要因モデルに基づく指導について理解する。 (2)自己効力感概念を教育に活かす方法について理解する。 【授業時間外学習】 学習動機と自己効力感の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第3回 社会性と認知の発達段階 【 到達目標 】 (1)役割取得能力の発達について理解する。 (2)認知の発達理論について理解する。 【授業時間外学習】 役割取得能力、認知の発達理論の理解に関する課題を行う。 | | | 第11回 教育評価 【 到達目標 】 (1)評価の目的・基準について理解する。 (2)学力・知能・性格を測定するための方法について理解する。 (3)性格検査の結果をもとに自己分析する。 【授業時間外学習】 教育評価の理解と性格検査による自己分析に関する課題を行う。 | | | |
| 第4回 発達と教育 【 到達目標 】 (1)ピアジェの発達理論の応用について理解する。 (2)発達の最近接領域について理解する。 【授業時間外学習】 発達理論の教育への応用の理解に関する課題を行う。 | | | 第12回 学校適応 【 到達目標 】 (1)学校ストレス・学校内不安について理解する。 (2)学校不適応の改善について理解する。 (3)ストレスマネジメント教育について理解する。 【授業時間外学習】 学校ストレス、学校不適応、ストレスマネジメント教育の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第5回 学習のメカニズム 【 到達目標 】 (1)古典的条件づけについて理解する。 (2)オペラント条件づけ・観察学習について理解する。 【授業時間外学習】 学習理論の理解に関する課題を行う。 | | | 第13回 学級雰囲気 【 到達目標 】 (1)リーダーシップ・学習目標との関わりについて理解する。 (2)教師期待効果、学級崩壊について理解する。 (3)ピアサポート活動について理解する。 【授業時間外学習】 学級雰囲気の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第6回 記憶の分類 【 到達目標 】 (1)短期記憶・作動記憶・長期記憶について理解する。 (2)手続き記憶と宣言記憶について理解する。 【授業時間外学習】 記憶理論の理解に関する課題を行う。 | | | 第14回 発達障害 【 到達目標 】 (1)発達障害の分類、認知の偏りについて理解する。 (2)障害特性の理解と支援について理解する。 【授業時間外学習】 発達障害の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第7回 記憶概念を教育に生かす 【 到達目標 】 (1)手続き記憶概念を教育に活かす方法について理解する。 (2)効果的な覚え方、記憶の種類に合った教え方について理解する。 【授業時間外学習】 記憶理論の教育への応用の理解に関する課題を行う。 | | | 第15回 特別支援教育 【 到達目標 】 (1)特別支援教育の対象・体制作りについて理解する。 (2)特別支援教育の課題について理解する。 【授業時間外学習】 特別支援教育の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第8回 学習方略 【 到達目標 】 (1)学習方略のタイプについて理解する。 (2)学習方略の熟達について理解する。 【授業時間外学習】 学習方略の理解に関する課題を行う。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。教育評価の回では性格テストを実施し、自己分析をする。授業の最後に講義についての質問、感想、意見などをミニツッパーパーに記入し、提出する。また、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 精神発達 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎回の課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|------------------------|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 科目名 | 教育心理学 | | | 担当者 | 中道直子 | |
| 英文名 | Educational Psychology | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 教職科目 | 教職科目 | | |
| 【目的とねらい】 教師の役割は、児童・生徒の学習を支えることと、適応を支えることにある。本講義では、これら2つの役割を果たす教師になるために必要な心理学的知識を習得することを目的とする。特に、青年期の発達の特徴を踏まえた上で、学習の意欲や学習の仕組み、教授技法や教育評価について理解することをねらいとする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 教育心理学の考え方 【 到達目標 】 (1) 学習や適応などの教育心理学の基礎的概念を獲得する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第9回 教授技法 【 到達目標 】 (1) 児童・生徒の主体的な学びを可能にする教授方法について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第2回 青年期の身体・認知 【 到達目標 】 (1) 性成熟とその心理的影響について説明できる。 (2) 認知の発達や学校生活について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第10回 個に応じた教授技法 【 到達目標 】 (1) 認知や人格における個人差を理解し、その個人差に応じた教授技法について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第3回 青年期の対人関係 【 到達目標 】 (1) 友人関係の特徴や変化について説明できる。 (2) 恋愛関係の現状や特徴について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第11回 教育評価 【 到達目標 】 (1) 教育評価の目的とその視点や方法を理解する。 (2) 評価のための情報を得る方法と各方法の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第4回 青年期におけるアイデンティティの確立 【 到達目標 】 (1) エリクソンの発達理論について理解する。 (2) アイデンティティの確立と進路選択について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第12回 学級集団 【 到達目標 】 (1) 学級集団とその構造について理解する。 (2) 教師と児童・生徒の人間関係について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第5回 学習理論 【 到達目標 】 (1) 学習に対する成熟論的アプローチ、行動主義的アプローチについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第13回 発達障害 【 到達目標 】 (1) 様々な発達障害の特徴について理解する。 (2) 発達障害児に対する指導法について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第6回 動機づけ 【 到達目標 】 (1) 動機づけと原因帰属について理解する。 (2) 無力感の学習と自己効力感について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第14回 適応の理解と支援 【 到達目標 】 (1) いじめ、不登校、非行の現状を把握し、これらの状態にある生徒を支援する方法を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第7回 記憶と知識(1) 【 到達目標 】 (1) 記憶のメカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | 第15回 教師の成長 【 到達目標 】 (1) 教師の役割や仕事を理解する。 (2) 教師としての成長の過程を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | |
| 第8回 記憶と知識(2) 【 到達目標 】 (1) 記憶や知識の種類やその性質について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、教科書を軸として展開する。パワーポイントそのものの資料は配布しないため、受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料（図表のみ）を配布する。また、事後学習として、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「よくわかる教育心理学」 中澤 潤（編） ミネルヴァ書房 | | | | | | |
| 【関連科目】 精神発達 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 授業時の提出物の内容を30%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。 | | | | | | |

| 科目名 | 教育社会学 | | | 担当者 | 小堀哲郎 | |
|--|------------------------|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Sociology of Education | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | |
| 【目的とねらい】 現代社会では〈教育〉をめぐる問題やトピックには事欠かない。また、今日の日本では、ほとんどの人が高校に進学し、さらに大学や短大などの高等教育を受ける人が7割に至る。このように、現代社会に生きる私たちは、〈教育〉と無縁であることはできないと言える。教育社会学は、現代社会と密接な関係にある〈教育〉というものに、社会学という学問的立場からアプローチをするものである。社会学の特長の1つである相対的な思考を身につけ、毎回の具体的なトピックを通じて〈教育〉の分野の「常識」を疑ってみることで、〈教育〉に対する理解を深めてほしい。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 はじめに—教育社会学とは何か 【 到達目標 】 教育社会学がどのような学問であるかについての概要ならびに、授業のスケジュール等を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | 第9回 高校多様化の可能性 【 到達目標 】 高校のありようが多様化している現状について捉え、今後の可能性について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | |
| 第2回 学校化社会 【 到達目標 】 学校制度の発達によって教育と社会の関係がどのように変化したかを「学校化社会」という観点から理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | 第10回 入試と選抜 【 到達目標 】 入試という選抜方式が社会的にどのような意味を持つのかについて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | |
| 第3回 ライフコース 【 到達目標 】 急速に変化をしている日本人のライフコースにおける教育の意味や役割について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | 第11回 資格社会と就職 【 到達目標 】 日本における学校卒業後の就職の状況について、歴史的経緯をふまえて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | |
| 第4回 少子社会の家族と子ども 【 到達目標 】 少子社会における家族と子どものありようについて、教育を軸に理解を深める。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | 第12回 インターネット社会と若者 【 到達目標 】 インターネットの普及による社会変動をどう捉えていくのかを若者を中心に理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | |
| 第5回 教育とジェンダー 【 到達目標 】 性別を社会的に規定されるもの(＝ジェンダー)として捉える視点から、男女の区別がどのような役割を果たしているかを理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | 第13回 少年犯罪 【 到達目標 】 現状における少年犯罪の減少傾向と、社会一般における認識のズレについて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | |
| 第6回 カリキュラムと知識 【 到達目標 】 教育のカリキュラムや学校で学ぶべき知識がどのように選ばれ、正統化されていくかを理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | 第14回 いじめ・不登校 【 到達目標 】 教育社会学の主要テーマである「いじめ」と「不登校」について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | |
| 第7回 メリトクラシーと学歴 【 到達目標 】 メリトクラシー(＝能力主義)と学歴主義が社会に及ぼしてきた影響について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | 第15回 教育社会学の課題 【 到達目標 】 本講義全体を振り返り、重要事項の復習と今後の課題を考察する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | |
| 第8回 学力と意欲の階層差 【 到達目標 】 格差社会との関連で、学力と意欲の階層差について提起されている問題点を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 授業は主として教員による講義形式とするが、毎回の授業終了時に500字程度の「授業内レポート」を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらふこともある。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。 参考書等については授業時に紹介する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 教職論、教育原論 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 試験は「試験期間中に別途実施する」。 授業内レポート(40%)、定期試験(60%) | | | | | | |

| 科目名 | 教育課程論 | | | | 担当者 | 瀬川大 | |
|--|----------------------|-------------------|----------|---|-----------|---------|--|
| 英文名 | Theory of Curriculum | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞蹈学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 2 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | | |
| 【目的とねらい】 学校における教育課程の全般的な知識の習得をねらいとする。すなわち教育課程とは何か、教育課程の歴史、教育課程の編成原理と学習指導要領の変遷、諸外国のカリキュラム改革の動向等について取り上げる。本科目では教育課程の基本的な理解を深めるとともに、急速に変化しつつある教育課程とその編成原理への影響についても取り上げていきたい。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 学校教育と教育課程 【 到達目標 】 学校教育の目標と教育課程の関係について理解し、カリキュラム・教育課程の意味について理解する。 【授業時間外学習】 学校教育の目標と教育課程の関係、カリキュラム・教育課程の意味に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | 第9回 教育課程改革の動向（2）外国の場合 【 到達目標 】 わが国の教育課程が諸外国の教育課程から様々な影響を受けていること、およびその改革動向を理解する。 【授業時間外学習】 諸外国の教育課程に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第2回 教育課程の歴史的展開（1）教科の成立と教育課程 【 到達目標 】 近代教科の成立と教育課程の関わりについて理解する。また体育科の教育課程への導入について関心を深める。 【授業時間外学習】 近代教科の成立と教育課程の関わり、体育科の教育課程への導入に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | 第10回 保健体育のカリキュラムを考える（1）保健体育で何を学ぶか 【 到達目標 】 中学校、高等学校における保健体育科が掲げる教科目標、および内容領域について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 中学校、高等学校における保健体育科が掲げる教科目標、および内容領域に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第3回 教育課程の歴史的展開（2）戦前の教科課程（日本の場合） 【 到達目標 】 日本では戦前「教育課程」ではなく「教科課程」であったこと、および両者の違いを理解し、戦前の教科課程の特徴を説明できる。 【授業時間外学習】 「教育課程」と「教科課程」の違いに関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | 第11回 保健体育のカリキュラムを考える（2）「楽しい体育」の授業 【 到達目標 】 1980年代以降、体育の授業で試みられた「楽しい授業」の特徴について、事例をもとに考察できる。 【授業時間外学習】 楽しい体育の授業に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第4回 教育課程の歴史的展開（3）戦後教育改革と教育課程 【 到達目標 】 戦後教育改革の中で教育課程はどのような理念のもとで編成されたか、その経緯と教科・科目の変遷を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 戦後教育改革における教科課程の編成の経緯に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | 第12回 保健体育のカリキュラムを考える（3）保健 【 到達目標 】 近年、保健分野において取り上げられている、様々な健康課題や実践の取り組みについて理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 保健分野に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第5回 教育課程の編成原理 【 到達目標 】 教育課程の編成原理としての「児童中心主義」と「学問中心主義」について理解する。 【授業時間外学習】 「児童中心主義」、「学問中心主義」に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | 第13回 学校文化と教育課程／隠れたカリキュラム 【 到達目標 】 教育課程を見る場合に教師が意図しない、隠れたカリキュラムへ関心を持つ必要性と意味を理解し、具体例を挙げられる。 【授業時間外学習】 隠れたカリキュラムに関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第6回 教育課程編成と学習指導要領 【 到達目標 】 学校教育の教育課程における学習指導要領の役割を理解し、その構造を説明できる。 【授業時間外学習】 学校教育の教育課程における学習指導要領の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | 第14回 カリキュラムをどう評価するか 【 到達目標 】 教育課程を実践するに際しては評価が伴うこと、およびそのレベルや方法に様々な種類があることを理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 教育評価に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第7回 学力問題 【 到達目標 】 近年の教育課程改革をもたらした「学力問題」について、その概要と本質を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 「学力問題」に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | 第15回 教育課程改革と学校体育の位置 【 到達目標 】 近年の教育課程改革の中で、保健体育科の意味が変化していることを理解し、改革論議における論点について説明できる。 【授業時間外学習】 保健体育の意味の変化に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第8回 教育課程改革の動向（1）日本の場合 【 到達目標 】 近年の学習指導要領の特徴、とりわけ「生きる力」や「確かな学力」などの概念を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 「生きる力」、「確かな学力」に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 本科目によって、学校教育における教育課程の全体像を把握することが、教員として教育実践に携わるためには不可欠である。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。また、講義に加え、グループワーク、ディスカッション、授業内における小レポートなどの方法を用いる予定である。学生諸君には、授業への積極的な参加を求めたい。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 文部科学省『高等学校学習指導要領』 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 小レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | | |

| 科目名 | 保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術含む） | | | 担当者 | 助友 裕子・沢井 史穂 | |
|---|--|-------------------|---|-------|-------------|---------|
| 英文名 | Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅰ | | | | | |
| 単位数 | 4 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | |
| 【目的とねらい】 保健科教育について、その特質を理解するとともに、意欲的に取り組むことのできる姿勢を身につけることが目的である。前期では、学習指導要領の位置づけや内容、具体的な指導方法、授業づくり、評価のあり方についての基礎的な知識を身につけることをねらいとする。後期は、前期内容と既修の健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健などによる知識を応用した模擬授業を実施し、保健科の授業を担当できる技術の習得をめざす。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分 | | | | | | |
| 第1回 保健科教育とは（概論） 【 到達目標 】 保健科教育、健康教育の意義と方向性について理解を深める。 【授業時間外学習】 科目保健を教える上で不安な点を整理しておく。 | | | 第9回 教材研究Ⅱ 【 到達目標 】 保健の指導計画に応じた教材研究の工夫について理解を深める。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。 | | | |
| 第2回 現代社会における健康問題および他教科等との関連 【 到達目標 】 現代の健康問題の動向と保健科教育におけるそれらの位置について理解する。 【授業時間外学習】 中央教育審議会答申を読んでおく。 | | | 第10回 保健科教育のための研究方法 【 到達目標 】 現場ニーズに応じた保健科教育の工夫について理解を深める。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。 | | | |
| 第3回 保健の目標と内容 【 到達目標 】 小学校、中学校、高等学校における保健の目標や内容の違いを理解する。 【授業時間外学習】 中・高の学習指導要領解説の保健体育科（保健分野）と科目保健の項を読んでおく。 | | | 第11回 小学校の保健の授業 【 到達目標 】 中学校と高等学校の保健の基礎となる小学校の内容について理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。 | | | |
| 第4回 保健の指導計画 【 到達目標 】 指導計画作成の意義、種類、作成上の基本について理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案で取り上げる単元の選定、教材研究を行う。 | | | 第12回 中学校の保健の授業 【 到達目標 】 個人生活における健康・安全に関する内容について説明できる。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。 | | | |
| 第5回 保健科教育の実際Ⅰ 【 到達目標 】 知識を活用する学習活動について理解を深める。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。 | | | 第13回 高等学校の保健の授業 【 到達目標 】 個人及び社会生活における健康・安全に関する内容について説明できる。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。 | | | |
| 第6回 保健科教育の実際Ⅱ 【 到達目標 】 ブレインストーミングなど具体的な指導方法を習得する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。 | | | 第14回 学習指導案の作成 【 到達目標 】 1時間の学習指導案を作成できるようにする。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。 | | | |
| 第7回 保健の学習評価 【 到達目標 】 評価の意義、局面、観点、規準などについて理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。 | | | 第15回 模擬授業の実施と授業運営のまとめ 【 到達目標 】 作成した学習指導案の有用性を高めるための授業運営について理解を深める。 【授業時間外学習】 作成した学習指導案を用いて実際に模擬授業を行い、必要に応じて修正する。 | | | |
| 第8回 教材研究Ⅰ 【 到達目標 】 教材研究の目的、過程、方法について理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。 | | | | | | |

次ページに続く

| 科目名 | 保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術含む） | | | 担当者 | 助友 裕子・沢井 史穂 | |
|---|---|---------|---|-------|-------------|---------|
| 英文名 | Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅰ | | | | | |
| 単位数 | 4 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | |
| 【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分 | | | | | | |
| 第16回 オリエンテーション（模擬授業の手順、授業への心構えなど） 【到達目標】 模擬授業の準備をする。 【授業時間外学習】 「受講者用評価票」を熟読し、自分の模擬授業のイメージ形成を図っておく。 | | | 第24回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | |
| 第17回 保健の授業研究 【到達目標】 模擬授業の様子を観察し、授業技術のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 授業で記入した「保健の授業研究」を復習し、模擬授業のイメージ形成を図る。 | | | 第25回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | |
| 第18回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | 第26回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | |
| 第19回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | 第27回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | |
| 第20回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | 第28回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | |
| 第21回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | 第29回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | |
| 第22回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | 第30回 保健の授業運営のまとめ 【到達目標】 自他の模擬授業を振り返り、生徒の学習意欲を向上させる。 教師の役割について説明できる。 【授業時間外学習】 模擬授業で得たフィードバックをもとに、教育実習に向けた保健の指導計画を立てる。 | | | |
| 第23回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 前期はおもにパワーポイントや配布資料で要点を示し、詳細は口頭にて説明する。後期は模擬授業を通して保健の授業に必要な技術を習得する。前後期とも高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 杉山重利、園山和夫、高橋健夫編. 保健体育科教育法―教師を目指す学生必携. 大修館書店. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省. 中学校学習指導要領解説 保健体育編 中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健、保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 原則として前期は授業中の課題達成度50%と定期試験の結果50%（試験は試験期間中に別途実施）、後期は授業中の課題達成度50%、模擬授業と反省レポート50%として評価し、前後期合わせて本講義の評価とする。なお、前期の評価状況によっては後期受講を認めないことがある。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|---|-------------------|--|-------|-----------|---------|
| 科目名 | 保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む） | | | 担当者 | 須 甲 理 生 | |
| 英文名 | Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 4 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | |
| 【目的とねらい】 本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分 | | | | | | |
| 第1回 本講義の目的、学校体育の現状、被教育体験期の体育授業イメージとの照合 【 到達目標 】 (1)本講義の目的を理解し、学習の見通しを立てることができる。 (2)被教育体験の体育授業イメージを想起することができる。 【授業時間外学習】 保健体育科教育法Ⅱにおける1年間の授業時間外学習の計画を立てる。 | | | 第9回 体育授業の学習指導方法論(2)（アクティブラーニングの視点を含む） 【 到達目標 】 (1)体育授業における学習指導のポイントを理解し、具体的に説明できる。 (2)アクティブラーニングを取り入れた体育授業の学習指導方法について具体的に説明できる。 (3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法の具体例を挙げることができる。 【授業時間外学習】 学習指導のポイント及び、アクティブラーニングを理解し、具体例を挙げておく。 | | | |
| 第2回 保健体育科の目標論 【 到達目標 】 (1)体育目標の歴史の変遷、目標構造を理解する。 【授業時間外学習】 体育目標の歴史の変遷、目標構造について学習する。 | | | 第10回 体育授業の観察、分析、評価 【 到達目標 】 (1)期間記録、相互作用行動を記録する意義を理解する。 (2)テスト映像で適切に記録することができる。 【授業時間外学習】 体育授業を観察・分析することの意義や視点について予習・復習する。 | | | |
| 第3回 保健体育科の教育課程論(1)：学習指導要領の内容(1) 【 到達目標 】 (1)学習指導要領の性格を理解する。 (2)学習指導要領における運動部活動と体育授業の関連性や位置付けについて理解する。 (3)次期学習指導要領の要点を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導要領の性格について予習・復習する。 | | | 第11回 マイクロティーチング(1) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。 | | | |
| 第4回 保健体育科の教育課程論(2)：学習指導要領の内容(2) 【 到達目標 】 (1)中学校学習指導要領の内容構成を理解する。 【授業時間外学習】 中学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。 | | | 第12回 マイクロティーチング(2) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。 | | | |
| 第5回 保健体育科の教育課程論(3)：学習指導要領の内容(3) 【 到達目標 】 (1)高等学校学習指導要領の内容構成を理解する。 【授業時間外学習】 高等学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。 | | | 第13回 マイクロティーチング(3) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。 | | | |
| 第6回 体育授業の教材・教具論(1)（ICTの活用を含む） 【 到達目標 】 (1)体育授業における教材・教具の果たす役割を具体的に説明できる。 (2)体育授業におけるICTの活用について具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 素材－目標－学習内容－教材－教具の関係性及び、ICTの役割について予習・復習する。 | | | 第14回 マイクロティーチング(4) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。 | | | |
| 第7回 体育授業の教材・教具論(2)（ICTの活用を含む） 【 到達目標 】 (1)体育授業における効果的な教材や教具について具体例を用いて説明できる。 (2)体育授業におけるICTの活用について、具体例を挙げながら説明できる。 【授業時間外学習】 効果的な教材・教具及び、ICT活用の具体例を挙げておく。 | | | 第15回 マイクロティーチングまとめ 【 到達目標 】 (1)効果的な指導、教材・教具について効果的に反省できる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの経験を踏まえ、改めて良い体育授業の特徴について考察する。 | | | |
| 第8回 体育授業の学習指導方法論(1)（アクティブラーニングの視点を含む） 【 到達目標 】 (1)体育教師の4大教師行動について理解できる。 (2)アクティブラーニングの利点と学習指導方法への応用の仕方について説明できる。 (3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法について理解できる。 【授業時間外学習】 体育教師の4大教師行動、アクティブラーニングについて予習・復習する。 | | | | | | |

次ページに続く

| 科目名 | 保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む） | | | 担当者 | 須 甲 理 生 | |
|--|---|---------|--|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 4 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | |
| 【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分 | | | | | | |
| 第16回 体育の授業づくり論(1)：単元計画、指導案の作成手順(1) 【 到達目標 】 (1)単元計画及び指導案作成の原理、原則を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。 | | | 第24回 模擬授業の反省会(3) 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。 | | | |
| 第17回 体育の授業づくり論(2)：単元計画、指導案の作成手順(2) 【 到達目標 】 (1)単元計画及び指導案作成の手続きを理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。 | | | 第25回 模擬授業の反省会(4) 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。 | | | |
| 第18回 体育の授業づくり論(3)：教材づくりの視点 【 到達目標 】 (1)教材づくりの視点を理解し、具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 学習指導案における授業の明確な目標を設定し、その目標達成のための教材を計画する。 | | | 第26回 模擬授業の反省会(5) 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。 | | | |
| 第19回 体育の授業づくり論(4)：指導と評価の一体化 【 到達目標 】 (1)指導計画への評価の組み込み方を理解する。 【授業時間外学習】 具体的な指導と評価の計画を立てる。 | | | 第27回 優れた実践に学ぶ(1)：体育授業VTRの視聴と解説(1) 【 到達目標 】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な指導のポイントをあげることができる。 【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。 | | | |
| 第20回 体育の授業づくり論(5)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(1) 【 到達目標 】 (1)適切な計画を立てるためにグループ内で積極的に討論できる。 【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。 | | | 第28回 優れた実践に学ぶ(2)：体育授業VTRの視聴と解説(2) 【 到達目標 】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な教材・教具について説明できる。 【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。 | | | |
| 第21回 体育の授業づくり論(6)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(2) 【 到達目標 】 (1)グループ内で適切な計画を立てることができる。 【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。 | | | 第29回 体育授業の存在意義 【 到達目標 】 (1)体育授業の存在意義について説明できる。 【授業時間外学習】 体育授業の存在意義について考察する。 | | | |
| 第22回 模擬授業の反省会(1) 【 到達目標 】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。 | | | 第30回 スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略からみた体育授業 【 到達目標 】 (1)我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。 【授業時間外学習】 我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。 | | | |
| 第23回 模擬授業の反省会(2) 【 到達目標 】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 将来の教職に対する希望の有無に関わらず、教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているため、講義内容について集中してノートを取り、予習・復習を行っていくことが必要になる。グループでの指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「体育科教育学入門」、高橋健夫編著、大修館書店、2010年 中学校学習指導要領解説－保健体育編－ 高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－ | | | | | | |
| 【関連科目】 教職科目全般。特に、「教育実習（教育実践研究を含む）」においては、模擬授業の計画、実践、反省を通して、本講義との関連させながら進めていく。 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20%、テスト2回80%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | |

| 科目名 | 道徳教育の研究 | | | 担当者 | 瀬川 大 | |
|--|-----------------|-------------------|---|-------|-----------|---------|
| 英文名 | Moral Education | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 2 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | |
| 【目的とねらい】 学校での道徳教育について概説し、その指導について基本を習得することを目的とする。その際、保健体育科教育との関連をも押さえておきたい。道徳とは人間社会が成立する根本である他者との共存の原理を中心に、人間のより良いあり方を毎日の生活のなかに実践することである。こうした行いをなし得る人間の性質を道徳性という。生徒が毎日の学校での学習を通じて、道徳性を身につけられるようにすることが道徳教育の目的である。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 はじめに—教育と道徳 【 到達目標 】 教育が人間形成に関わる営みとする立場から、教育において道徳教育が持つ意味について考え、自分なりに説明できる。 【授業時間外学習】 教育において道徳教育が持つ意味に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第9回 道徳教育の領域3—自分を大切にすること、生命・人間の尊厳 【 到達目標 】 自尊感情の形成（自分を大切にすること）、生命・人間の尊重について理解する。 【授業時間外学習】 自尊感情の形成（自分を大切にすること）、生命・人間の尊重に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第2回 道徳教育とは何か—重要な教育課題の登場 【 到達目標 】 学校教育における道徳教育の役割、目的、カリキュラム、教育の実践例を理解する。 【授業時間外学習】 学校教育における道徳教育の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第10回 道徳教育の領域4—薬物乱用の防止、性的非行のとりえ方 【 到達目標 】 薬物の乱用防止、性的その他の非行について理解する。 【授業時間外学習】 薬物の乱用防止、性的その他の非行に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第3回 現代の青年期—発達課題とは何か 【 到達目標 】 中学校、高等学校の生徒は青年期を生きている。人間のなかの青年、特有の成長課題、発達課題を考える。 【授業時間外学習】 青年期と発達課題に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第11回 道徳教育の領域5—国際理解と道徳性 【 到達目標 】 諸外国における道徳教育について理解する。あわせて国際理解について考え、自分の考えを説明できる。 【授業時間外学習】 諸外国における道徳教育、国際理解に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第4回 現代の青年期—その現状と課題 【 到達目標 】 現代の青年に特有の発達課題を理解する。また抱える問題の特徴をとらえる。 【授業時間外学習】 現代の青年期における問題に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第12回 道徳教育と参加型学習・ファシリテーション 【 到達目標 】 道徳教育の実践例を学びながら、具体的な方法を理解する。参加型あるいはファシリテーション型の例をここでは学ぶ。 【授業時間外学習】 ファシリテーション型の授業に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第5回 道徳性の発達と学校カリキュラム 【 到達目標 】 学校のカリキュラムにおいて、道徳教育は道徳性の発達を目的としている。その目的を具体的に理解する。「道徳の時間」（中学校）の目的を理解する。 【授業時間外学習】 道徳性の発達、「道徳の時間」に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第13回 教育実習における道徳の指導—指導の内容・方法 【 到達目標 】 体育専門学生であるが、教育実習では道徳の指導も行う。ここでは教育実習の際の道徳の指導について特に理解する。 【授業時間外学習】 教育実習における道徳指導に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第6回 道徳教育の歴史 【 到達目標 】 道徳教育の目的と内容の歴史的な変化をたどり、現代の道徳教育の目的と課題を総合的に理解する。 【授業時間外学習】 道徳教育の歴史に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第14回 学習指導案の作成 【 到達目標 】 以上の学習を踏まえ、「道徳の時間」の学習指導案を作成することができる。高等学校教育をより深く学ぶ学生は、高等学校における道徳教育を構想することができる。 【授業時間外学習】 「道徳の時間」の学習指導案作成に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第7回 道徳教育の領域1—人間理解、生徒間関係・人間関係 【 到達目標 】 道徳教育の領域について、5区分にして理解する。まず人間の理解、生徒間関係、人間関係について理解する。 【授業時間外学習】 人間の理解、生徒間関係、人間関係に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | 第15回 学習指導案の改善 【 到達目標 】 第14回において作成した学習指導案について検討を加え、より良い指導案に向けた改善ができる。 【授業時間外学習】 「道徳の時間」の学習指導案改善に関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | |
| 第8回 道徳教育の領域2—社会規範・伝統、社会と自分の関係 【 到達目標 】 社会規範、伝統と自国の文化、社会と人間・自分との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 社会規範、伝統と自国の文化、社会と人間・自分との関わりに関連する文献を図書館等で探して読む。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 各回のテーマに沿いながら学習を深め、同時に講義全体で学校における道徳教育のあり方を理解することを目標とする。授業時間内だけでなく、日頃から新聞、テレビのニュースなどから社会、学校のなかの道徳や道徳教育の様子、中高校生の生き方など、幅広くとらえるようにしたい。単なるタメエではない道徳教育のあり方を考えてほしい。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 授業の初回に指示する。 | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 小レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 | | | | | | |

| 科目名 | 特別活動指導法 | | | | 担当者 | 笹本 重子・宮本 乙女 | |
|--|--------------------|---------|----------|--|-----------|-------------|--|
| 英文名 | Special Activities | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | | |
| 【目的とねらい】 特別活動は各教科、道徳（中学校）と並ぶ教育課程の一領域として、全人的形成を図る上で重要な教育活動である。そこで、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領に位置づけられている特別活動について理解し、中学校・高等学校の学級担任として、この指導ができる知識と能力を培い、望ましい指導のあり方を研究する。また、学校行事の中の体育的行事の代表格である体育祭を企画し、特別活動の存在意義について考える。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 オリエンテーション、特別活動とは 【 到達目標 】 特別活動について学習するに当たり、構想的に学級を作る。学習指導要領解説により、特別活動がどんな活動か理解する。 【授業時間外学習】 学習指導要領解説にざっと目を通し、全体の構成を把握する。 | | | | 第9回 体育と特別活動 【 到達目標 】 保健体育科の教員としてどのように特別活動と関わるのか具体的な場面を想定して理解する。 【授業時間外学習】 体育祭の企画作成について、必要な内容を調べておく。 | | | |
| 第2回 「生きる力」をはぐくむ 【 到達目標 】 現代社会の特長と、現代の子どもの抱える問題に気づき、学校の教育活動に求められていることを考察する。 【授業時間外学習】 自分で考える、現代の子どもの抱える課題について発言できるようにしておく。 | | | | 第10回 体育祭企画書の作成 【 到達目標 】 体育の教員として、職員会議に提案する体育祭の企画書を作成する。 【授業時間外学習】 企画書を仕上げてくる。 | | | |
| 第3回 特別活動改善の方針と目標の理解 【 到達目標 】 学習指導要領の改訂に伴って、特別活動にどのような改善が求められているのかと、掲げられている目標を理解する。 【授業時間外学習】 授業内で確認した社会的スキルについて、他の事例を探しておく。 | | | | 第11回 体育祭企画書の修正と交流 【 到達目標 】 企画書について、検討すべき内容を理解し、修正をする。企画書を交換し体育的行事の視点について理解を深める。 【授業時間外学習】 交流した企画書の修正を行う。 | | | |
| 第4回 「学級活動」の目標と内容 【 到達目標 】 学級活動の目標と、掲げられた項目それぞれについて具体的な活動内容を理解する。 【授業時間外学習】 作成する学級通信のタイトルと内容を考え、資料を用意する。 | | | | 第12回 体育祭に向けた学級指導案の作成 【 到達目標 】 体育祭に向けて学級をどのように導くかを考えながら、学級指導案を作成する。 【授業時間外学習】 学級担任として作成する指導案を完成させる。 | | | |
| 第5回 学級通信の作成 【 到達目標 】 学級通信の作成を通じて、学級担任の役割や、どのような姿勢で生徒に向き合っていくかについて考察する。 【授業時間外学習】 学級通信の仕上げをする。 | | | | 第13回 学級指導案の交流、学級経営 【 到達目標 】 作成した指導案を交流する。学級経営、という考え方を理解し、改めて自分の指導案を見直す。 【授業時間外学習】 交流して検討した仲間の指導案も参考にして、修正すべき点を検討する。 | | | |
| 第6回 学級通信の発表と学級活動指導の実際 【 到達目標 】 お互いの学級通信の発表から、学級活動の指導に対して考えを深める。また、学級担任の実務について理解する。 【授業時間外学習】 担任の実務について、検討してくる。 | | | | 第14回 特別活動の内容の取り扱い、道徳・総合的な学習との関わり 【 到達目標 】 学校教育の中で、特別活動がどのような役割を担うのか、道徳や総合的な学習との関わりを検討しながら理解する。 【授業時間外学習】 道徳と、総合的な学習の時間の内容、目標について確認する。 | | | |
| 第7回 「生徒会活動」の目標と内容 【 到達目標 】 生徒会活動の目標と、掲げられた項目それぞれについて具体的な活動内容を理解する。 【授業時間外学習】 自分の出身校の生徒会規則を確認してくる。 | | | | 第15回 特別活動指導で押さえておきたいことと今後の課題 【 到達目標 】 特別活動の意義を確認し、実施する上で押さえるべきことと、自分自身の課題を明らかにする。 【授業時間外学習】 授業内容の整理をして、学習指導要領解説を読み、自分の理解を確認する。 | | | |
| 第8回 「学校行事」の目標と内容 【 到達目標 】 学校行事の目標と、掲げられた項目それぞれについて具体的な活動内容を理解する。 【授業時間外学習】 授業内で発表した自分の出身校の学校行事の意義を検討してくる。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 これまで出会った中学校・高等学校時代の先生やクラスメートとのやり取りを振り返りながら、「学校の先生」になるためのイメージを膨らませ、受け身の授業にならないように努める。指導要領の解説書をよく読み込むことと、具体的な教員の業務などのシミュレーションや、学生同士のディスカッションに積極的に参加することで、理解を深め、指導力を身につけていってもらいたい。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」文部科学省 毎時間持参する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 毎時間のミニレポート・各種提出課題40%、定期試験60%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。 | | | | | | | |

| 科目名 | 生徒指導法 | | | | 担当者 | 酒井久実代 | |
|---|-----------------------------|---------|----------|--|-----------|---------|--|
| 英文名 | Guidance Services in School | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 | スポーツ科学専攻 | 舞踏学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 | |
| 履修年次 | 3 | ／選択の区別 | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | | |
| 【目的とねらい】 生徒指導は学習指導とともに教育の二大支柱の一つであり、学習指導に劣らず重要なものである。特に、いじめ、不登校、非行などの問題の改善・克服は生徒指導上の重要な課題である。本講義は、生徒指導の目的や方法、意義などの基本的な内容を理解した上で、今日的課題の特徴やそれに対する対応についての理解を深めることを目的とする。生徒指導は幅が広くかつ高い専門性を必要とするため、教職についてからも継続的に自己研鑽を積むことが必要である。そのための基盤作りをすることが本講義のねらいである。 | | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | | |
| 第1回 生徒指導の概念、目的と必要性 【 到達目標 】 (1) 生徒指導の概念について理解する。 (2) 生徒指導の目的とその必要性について理解する。 【授業時間外学習】 生徒指導の概念の理解に関する課題を行う。 | | | | 第9回 カウンセリング技法と新しい手法 【 到達目標 】 (1) カウンセリング技法について理解する。 (2) 生徒指導の新しい手法について理解する。 【授業時間外学習】 カウンセリング技法、新しい手法の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第2回 生徒指導の領域と今日的課題 【 到達目標 】 (1) 生徒指導の6つの領域について理解する。 (2) 今日的課題を4つの側面から理解する。 【授業時間外学習】 生徒指導の領域の理解に関する課題を行う。 | | | | 第10回 進路指導 【 到達目標 】 (1) 進路指導の課題について理解する。 (2) 進路指導の基礎となる理論について理解する。 【授業時間外学習】 進路指導の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第3回 生徒指導と教育課程との関連 【 到達目標 】 (1) 生徒指導と教科との関連を理解する。 (2) 生徒指導と道德、特別活動との関連を理解する。 【授業時間外学習】 生徒指導と教育課程との関連の理解に関する課題を行う。 | | | | 第11回 非行 【 到達目標 】 (1) 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導について理解する。 (2) 非行の背景について理解する。 (3) 非行への対応の基本について理解する。 【授業時間外学習】 非行の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第4回 生徒指導の組織 【 到達目標 】 (1) 生徒指導の組織体制について理解する。 (2) 生徒指導における外部機関との連携について理解する。 【授業時間外学習】 生徒指導の組織体制の理解に関する課題を行う。 | | | | 第12回 不登校1 【 到達目標 】 (1) 不登校の実態について理解する。 (2) 不登校の形成要因について理解する。 (3) 不登校への早期対応について理解する。 【授業時間外学習】 不登校の実態と早期対応についての理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第5回 児童・生徒理解 【 到達目標 】 (1) 児童・生徒理解の意味と機能について理解する。 (2) 児童・生徒理解のための情報収集の方法について理解する。 【授業時間外学習】 児童・生徒理解に関する課題を行う。 | | | | 第13回 不登校2 【 到達目標 】 (1) 不登校になる様々な要因と不登校の生徒の内面について理解する。 (2) 不登校の経過について理解する。 (3) 不登校への対応について理解する。 【授業時間外学習】 不登校の背景と対応の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第6回 生徒指導における集団指導1 【 到達目標 】 (1) 集団指導の意義について理解する。 (2) 集団指導の形態について理解する。 【授業時間外学習】 集団指導の意義・形態の理解に関する課題を行う。 | | | | 第14回 いじめ1 【 到達目標 】 (1) いじめの実態について理解する。 (2) いじめの発生要因について理解する。 (3) いじめ防止対策推進法について理解する。 【授業時間外学習】 いじめの実態と防止対策の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第7回 生徒指導における集団指導2 【 到達目標 】 (1) 集団活動の種類について理解する。 (2) 望ましい学級集団づくりについて理解する。 【授業時間外学習】 学級集団づくりの理解に関する課題を行う。 | | | | 第15回 いじめ2 【 到達目標 】 (1) いじめへの対応について理解する。 (2) 取り組みにおける難しさと目指す方向について理解する。 (3) いじめへのサポートグループアプローチについて理解する。 【授業時間外学習】 いじめへの対応の理解に関する課題を行う。 | | | |
| 第8回 生徒指導における個別指導 【 到達目標 】 (1) 教師のカウンセリング・マインドについて理解する。 (2) 個別指導の種類・ポイントについて理解する。 【授業時間外学習】 個別指導の理解に関する課題を行う。 | | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながら、メモを取り、自分なりのノートを作成する。授業の最後に、講義についての質問、感想、意見などをミニッツ・ペーパーに記入し、提出する。毎回の授業で感じたこと、考えたことを言語化し、生徒指導に関する様々な問題について自分の考えをまとめていくことが必要である。また、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題の内容は期末テストと対応しているため、しっかり復習すること。 | | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 | | | | | | | |
| 【関連科目】 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 レポート15%、毎回提出する課題15%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。 | | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|-------------------|--|-------|--|---------|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高） | | | 担当者 | 亀井 良和・小堀 哲郎 宮本 乙女・瀬川 大 湯澤 芳貴・須甲 理生 他 | |
| 英文名 | Practical Seminar for the Teaching Profession | | | | | |
| 単位数 | 2 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 4 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | |
| 【目的とねらい】 この科目は、教職課程の総仕上げとして、教育実習経験を踏まえて、学生による発表やグループ討論によって、学生ひとり一人が自己の学修課題を見つけ、課題解決のための学修を積極的に進めていく。そのため教育実習を踏まえた課題の発表は、中学校・高等学校の体育実技の授業を分けて検討する。また、保健分野及び学級活動を含む特別活動との関わりで、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるように演習を構成する。演習全体として、保健体育の教科の指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 教職課程学修の振り返りと自己の課題確認 【 到達目標 】 授業開始までの夏季休業期間中に、教育実習を振り返り、課題レポートを提出する。 【授業時間外学習】 教育実習を振り返り、課題レポートを作成する。 | | | 第9回 特別活動・部活動から学んだこと 【 到達目標 】 事例に基づきグループ討論を行う。 【授業時間外学習】 グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。 | | | |
| 第2回 保健体育科教員の使命と責任（講義） 【 到達目標 】 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について、再確認する。 【授業時間外学習】 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。 | | | 第10回 体育イベントの運営について 【 到達目標 】 事例に基づきグループ討論を行う。 【授業時間外学習】 グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。 | | | |
| 第3回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）① 【 到達目標 】 中学校保健体育科（体育分野）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション） 【授業時間外学習】 中学校保健体育科（体育分野）の授業研究から得られたことを整理する。 | | | 第11回 自己の学修課題の確認と研究活動 【 到達目標 】 第3回～10回の発表・討論を踏まえ、とりわけ不足している知識と実技能力の課題の補完に向けて各自研究活動を進める。 【授業時間外学習】 これまでに学んできたことを生かして、新たな指導案を作成する。 | | | |
| 第4回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）② 【 到達目標 】 高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション） 【授業時間外学習】 高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究から得られたことを整理する。 | | | 第12回 教員として求められる社会性・対人関係能力は何か 【 到達目標 】 現職教員を招き、現場の実情について講話を聞くことにより、教職現場で求められている教員としての能力を把握し、これから何をすべきかを明確にする。 【授業時間外学習】 教員として求められる社会性・対人関係能力について理解を深める。 | | | |
| 第5回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）③ 【 到達目標 】 中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション） 【授業時間外学習】 中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究から得られたことを整理する。 | | | 第13回 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題 【 到達目標 】 現職教員を招き、教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深め、教育現場で果たすべき義務と責任を果たすための心構えを養い、さらにはライフサイクルに応じた課題の変化についてどのように対応していくべきかについての準備をする。 【授業時間外学習】 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深める。 | | | |
| 第6回 保健体育科教員に求められる教科の指導力① 【 到達目標 】 第3～4回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。 【授業時間外学習】 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。 | | | 第14回 各自の研究活動の成果発表と学生の相互評価 【 到達目標 】 第11回における研究活動およびその後の授業時間外学習の成果を発表相互に発表しあい、討論を行う。 【授業時間外学習】 各自の研究活動の成果発表から学んだことを整理する。 | | | |
| 第7回 保健体育科教員に求められる教科の指導力② 【 到達目標 】 第5回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。 【授業時間外学習】 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。 | | | 第15回 魅力ある教員をめざして—まとめレポートの作成と意見交換— 【 到達目標 】 教員としての資質能力の確認：実技・知識・教職の適性。 【授業時間外学習】 教員としての資質能力（実技・知識・教職の適性）について理解を深める。 | | | |
| 第8回 学級指導から学んだこと・生徒理解について 【 到達目標 】 事例に基づきグループ討論を行う。 【授業時間外学習】 グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。 | | | | | | |
| 【学習上の留意点】 夏季休業期間中に、6月に行った教育実習を振り返り、各自の実習中の課題等についてレポートを提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 テキスト：「教職実践演習テキスト」（学内作成予定）、学習指導要領、「体育教育学入門」（大修館）、「体育実技書」 参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実践研究」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習時に作成する教科指導案、「教育実習の手引き」「教育実習ノート」等 | | | | | | |
| 【関連科目】 教育実習（教育実践研究を含む） | | | | | | |
| 【成績評価方法】 各種レポート等の提出状況と完成度等を総合的に評価する。（履修カルテ：10%、第2回から第10回までの授業内提出物：40%、自己の学修課題の確認と研究活動により作成した指導案：30%、「魅力ある教員をめざして」に関するまとめレポート：20%） なお、良好な出席状況は、当然の前提である。 | | | | | | |

| 科目名 | 教育実習（教育実践研究を含む） | | | 担当者 | 須甲 理生・小堀 哲郎 笹本 重子・宮本 乙女 瀬川 大・高野美和子 湯澤 芳貴・亀井 良和 | |
|--|-------------------|-------------------|---|-------|---|---------|
| 英文名 | Teaching Practice | | | | | |
| 単位数 | 5 | 科目区分・必修 ／選択の区別 | スポーツ科学専攻 | 舞踊学専攻 | 健康スポーツ学専攻 | 幼児発達学専攻 |
| 履修年次 | 4 | | 教職科目 | 教職科目 | 教職科目 | |
| 【目的とねらい】 「教育実習」は、大学内で行う「教育実践研究」（1単位）と実習校で行う「実習校実習」（4単位）からなる。「教育実践研究」は2年次後期11月から始まり、講義、外部講師による講話、上級生からの報告とディスカッション、模擬授業等の他、教育実習に関する諸事項と、介護等体験に関する事前指導も含めて展開する。これらのことを通して、教員として必要な実践的力量を向上させていくことを目的とする。 | | | | | | |
| 【授業内容・到達目標など】 | | | | | | |
| 第1回 教員養成と免許法について、授業日程、介護等体験について（2年次） 【 到達目標 】 (1)説明を聞いて理解し、4年次の自分の姿をイメージする。 (2)学び続ける教員像について理解できる。 【授業時間外学習】 自身の目指すべき教員像について考察する。 | | | 第9回 授業研究5（模擬授業の実践3） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第2回 本学の教員養成の特色、口頭内諾の進め方（2年次） 【 到達目標 】 (1)本学の教員養成の特色と口頭内諾の進め方を理解する。 【授業時間外学習】 本学の教員養成の特色について復習する。 | | | 第10回 授業研究6（模擬授業の実践4） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第3回 保健体育教師の使命、内諾手続きについて 【 到達目標 】 (1)保健体育教師の使命について理解する。 (2)正式な内諾手続きについて理解する。 【授業時間外学習】 学び続ける教員像や授業で勝負できる教員像の視点から改めて理想の教師像について考察する。 | | | 第11回 授業研究7（模擬授業の実践5） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第4回 4年生の教育実習体験報告 【 到達目標 】 (1)4年生の報告から、自己の課題を明確にする。 【授業時間外学習】 自己の課題を明確にし、教育実習のイメージを深める。 | | | 第12回 外部講師による講話（中学校教員） 【 到達目標 】 (1)中学校での教育実習の進め方や中学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)中学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)中学校における道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第5回 授業研究1（模擬授業の意義と進め方について） 【 到達目標 】 (1)模擬授業の意義と進め方について理解する。 (2)アクティブラーニングやICTを取り入れた授業計画や実践について理解する。 (3)特別の支援を必要とする生徒の理解を踏まえた授業計画や実践について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | 第13回 外部講師による講話（高等学校教員） 【 到達目標 】 (1)高等学校での教育実習の進め方や高等学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)高等学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)高等学校における総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第6回 授業研究2（体育授業におけるマネジメント技術の習得） 【 到達目標 】 (1)体育授業の基礎的条件となるマネジメント技術について、実技を通して理解する。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | 第14回 教育実習直前の諸注意 【 到達目標 】 (1)教育実習期間中（3週間）の過ごし方、事務処理、報告方法等を理解する。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | |
| 第7回 授業研究3（模擬授業の実践1） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | 《教育実習校実習 3週間》 | | | |
| 第8回 授業研究4（模擬授業の実践2） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。 | | | 第16回 教育実習の報告会 【 到達目標 】 (1)教育実習で学んだことをレポートにまとめ、報告する。 【授業時間外学習】 教育実習を省察し、改めて、自身の目指すべき保健体育教師像について考察する。 | | | |
| 【学習上の留意点】 教育実習校実習は4年次であるが、この授業は2年次の11月から始まり、教育実習事後指導までの長期間に亘る。この間の欠席は一切許されない。教職に就くことを目指す者として、真剣な態度で望んで欲しい。 | | | | | | |
| 【教科書・参考書など】 「教育実習の手引き」 | | | | | | |
| 【関連科目】 教職科目全般。特に、「保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）」は、第5回から第11回の授業研究において、本授業と関連させながら進めていく。 | | | | | | |
| 【成績評価方法】 「教育実践研究」の成績と教育実習校からの評価を総合して単位を認定する。 | | | | | | |